

TOGETHER WITH IWATE AND ITS PEOPLE



平成30年度岩手大学三陸復興・地域創生推進機構 活動報告書

国立大学法人 岩手大学

発行日/2019年9月25日
発行/国立大学法人 岩手大学
企画・編集/岩手大学地域連携推進部地域創生推進課
〒020-8551 岩手県盛岡市上田四丁目 3-5
TEL.019-621-6629 (代表)
<http://www.iwate-u.ac.jp/>

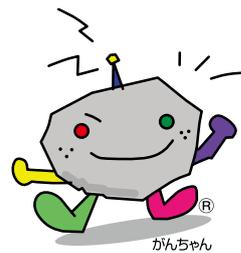
TOGETHER WITH IWATE AND ITS PEOPLE



岩手の“大地”と
“人と共に”



平成30年度 岩手大学三陸復興・地域創生推進機構 活動報告書



国立大学法人
岩手大学

岩手の“大地”と“ひと”と共に

Contents 目次

第1部 はじめに 04

「地方創生」と「地域創生」の在り方 岩手大学学長 岩淵 明	04
復興活動から学び、地域創生に活かす機構の取り組み — 3年目の歩み — 岩手大学三陸復興・地域創生推進機構長 菅原 悦子	06

第2部 岩手大学三陸復興・地域創生推進機構 08

01. 岩手大学三陸復興・地域創生推進機構について	08
02. 岩手大学三陸復興・地域創生推進機構の取組	10
(1) 三陸復興部門	10
① 学習支援班	10
② いわて高等教育コンソーシアム連携班	12
③ 心のケア班	16
④ 被災動物支援班	18
⑤ 地域コミュニティ再建支援班	20
⑥ ものづくり産業復興推進班	24
⑦ 農地復興班	26
⑧ 園芸振興班	28
⑨ 農林畜産産業復興総合計画班	30
(2) 地域創生部門	32
(3) 生涯学習部門	42
(4) 三陸水産教育研究部門	46
(5) 平泉文化教育研究部門	54
(6) 地域防災教育研究部門	58
(7) ものづくり技術教育研究部門	64

03. 釜石サテライト・各エクステンションセンター 67

(1) 釜石サテライト・各エクステンションセンターの設置	67
(2) 釜石サテライト・各エクステンションセンターの活動	68
① 釜石サテライト	68
② 久慈エクステンションセンター	73
③ 宮古・大船渡エクステンションセンター	75

04. 相互友好協定協力締結自治体・共同研究員 77

(1) 相互友好協定協力締結自治体・共同研究員について	77
(2) 相互友好協定協力締結自治体・共同研究員の活動	77

第3部 その他の取組について 84

01. NEXT STEP 工房	84
02. 地域連携フォーラム	86
03. 平成30年度 首都圏向け報告会	88
04. 沿岸部コンサート	90

第4部 活動報告 92

01. 学協会誌（論文）	92
02. 著書	95
03. 研究報告・活動報告	95
04. 学会発表・各種講演・報告等	97
05. 委員会等	115
06. プロジェクト・外部資金	118
07. その他	120

参考（資料集） 122

岩手大学の復興支援に関する主な出来事	122
岩手大学三陸復興・地域創生推進機構規則等	127

ご挨拶



「地方創生」と「地域創生」の在り方

岩手大学学長 岩渕 明

従来の三陸復興推進機構と地域連携推進機構を統合した「三陸復興・地域創生推進機構」がスタートして3年になりますが、それぞれの部門がそのミッションに従って精力的に活動を展開してきたことに、学長として敬意を表します。

さて、第2次安倍改造内閣発足時から、政府は声高々に地方創生を唱えています。それまでの大学行政の中で、地方という言葉はあまり使われておりませんでしたので、従来から、「岩手の“大地”と“ひと”と共に」を校是として地域に根差した大学運営を行ってきた本学にとって、これは追い風ともいえます。地域の高等教育機関の中核として役割を果たすことが本学のミッションの一つであり、平成23年3月に発生した東日本大震災以降、構成員が「岩手の復興と再生にオール岩大パワーを」をスローガンに、全学を挙げて地域の復興活動に取り組んできました。復興活動を始めてからすでに8年が経過しましたが、この経験を、今後の教育・研究に大いに活用していくことが求められています。また、平成31年は新制国立大学創立70周年の記念すべき年であり、岩手大学にとって復興活動は過去10年で最も注力した活動であるため、記念事業の一つとして復興活動の記録誌を発行します。

前述のように、岩手大学は、地域との連携により地域活性化に取り組んでいる一方、政府はまち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」、「総合戦略」、「基本方針」を策定し、これを推し進めるための様々な政策を展開しているところです。ここで用いられている「地方」という言葉について考えてみましょう。一極集中の進む東京以外のすべての地域を、十把一からげに「地方」と括っているように感じますが、それぞれ違った個性を持つ地域のことを、画一的に考えることはできません。東京以外の地域という観点では、岩手は地方全体の一部でしかありませんが、地方創生においては、固有の歴史、文化、資源、自然環境をもつ「地域」ごとに、その特徴を活かし、地域が自律して持続する社会を作っていくことが必要です。岩手の特徴や風土を活かし、また岩手に最適な仕組みを導入して、個性を発揮して世界に発信していくことが、今後大学における地域連携の戦略において重要であり、また大学の大きな役割であると考えています。

大学が地域を先導するためには、チャレンジ精神を持って、大学が地域にイノベーションを起こしていかなければなりません。研究活動においては、新たな真理の発見を目指す学術的研究も重要ですが、成果が地域で着実に活用されるよう、実践的研究を進めることも重要です。また、地域をリードし、グローバルな視点を持ち、地域で活躍することに価値観を見出す人材の育成も大切です。このような人材を育成するためには、大学内だけではなく、地域の様々な方々と接することで、様々なものの見方を学ぶことが必要となります。地域に必要な人材を、地域全体で育成する「共創」の仕組みづくりが、本機構の大きな役割です。

平成30年度において、学長として特に印象深かった取り組みをいくつかご紹介いたします。一つ目は、7月に開催した「国際防災・危機管理研究岩手会議」です。地域防災研究センターを中心としてこの国際会議を開催し、16か国から約150人の専門家を迎え、成功裏に終えることができました。東日本大震災からの復興は、震災被災地における地域課題ですが、グローバルに共有できる課題であることも再認識しました。まさにグローバルです。二つ目は、12月、釜石市で管弦楽団が、陸前高田市で吹奏楽部が、それぞれ演奏会を開催したことです。どちらも市民の皆さんには大変喜んでいただきました。大学生による文化・芸術活動は、地域の皆さんを励まし勇気づけるポテンシャルを持っていること、また、これらも大学の大きな財産であり、積極的に地域に提供することが地域貢献の一つであることを確信しました。三つ目は、5月に「銀河オープンラボ」を開所したことです。本学はこれまでも、地域共同研究センター、盛岡市産学官連携研究センター（コラボMIU）、ものづくり研究棟と、地域企業との産学共同研究の場を整備し提供してきましたが、銀河オープンラボは、研究成果を確実に社会実装するための拠点となります。現在、銀河オープンラボでは、ロボティクス関係、接着技術関係、そして視力再生の技術開発の3つのプロジェクト研究を進めていますが、地域企業との共同研究を通して、学内外の様々な研究者や技術者の交流が進み、オープン・イノベーションを行う場としての意義を果たしていくことを期待しています。

このように、地域と岩手大学が連携し、様々な地域資源を活用した教育・研究が「地域創生」であり、地域イノベーションにつながります。これを仕掛けていくのが岩手大学、特に三陸復興・地域創生推進機構の任務だと考えています。理事任期満了により平成30年度をもって退任した菅原悦子前機構長には改めて感謝の意を表し、また、後任として就任した藤代博之新機構長には、研究推進機構長も兼務していることから、二つの機構の連携から生まれる相乗効果により、それぞれの機構の活動を発展させることで、「地域連携の岩手大学」のブランド強化に貢献していただきたいと考えております。学内はもとより、学外の皆様におかれましても、今後ご支援をお願いします。一緒に頑張りましょう。

説明



復興活動から学び、地域創生に活かす 機構の取り組み

— 3年目の歩み —

三陸復興・地域創生推進機構 前機構長 菅原 悦子

I はじめに：3年目の三陸復興・地域創生推進機構

復興と地域創生に、全学をあげて取り組む組織として三陸復興・地域創生推進機構を開設して、3年目を迎えました。本学は東日本大震災以降、被災県にある地域の拠点大学として、地域の復興推進や支援に重要な役割を果たしてきました。この復興活動は本学に託された使命であり、地域創生は岩手県にとどまらず、世界に共通する課題でもあるとの認識から、今後も継続していく必要があると考えています。本報告書では、2018年度の本機構の主な取り組みや学生の活躍についてご紹介しますので、本機構のご理解とご支援をよろしく願います。

2 「国際防災・危機管理研究 岩手会議」の開催

本機構の教育研究領域を構成している「地域防災教育研究部門」は地域防災研究センターが担当しています。本会議は7月17日～19日の3日間、地域防災研究センターがHarvard Kennedy School(米国)、Tsinghua University(中国)の協力を得て主催しました。「大規模災害」「緊急対応」「地域復興」をテーマに、16ヵ国から約600名の参加があり、東日本大震災に関してこれまで取り組んだ調査、研究の発表の機会にもなりました。国際会議終了後2日間にわたりエクスカージョンが行われ、本センター関係者等が解説役をつとめました。国内外からの参加者には、被災地の歩みと現状に関して知る良い機会になったと考えています。また、本国際会議では学術発表に加え、岩手県「いわて復興未来塾」と連動したセッションや東日本大震災における政府機関(復興庁、国土交通省、経済産業省)、大学(本学、東北大学、福島大学)の役割なども紹介されましたので、一般参加者も多数ありました。東日本大震災発生後、岩手県内で開催する初めての国際的な防災・復興に関する会議であり、市民の関心の高さがうかがわれ、国内外の知見を共有できる機会となりました。

3 復興大臣より感謝状授与

7月26日、岩手大学は復興大臣より、これまで本機構が中心となった震災復興の活動に対して感謝状を授与されました。授与式では、学長から「国際防災・危機管理研究 岩手会議」の開催や陸前高田グローバルキャンパスの設置についても報告しました。今後も本機構が中心となり、三陸復興や地域の持続的発展に貢献する活動を継続していく意義を改めて確認する機会となりました。

4 地域コミュニティ再建支援班での研究員の活躍

三陸復興部門の同班は、ご近所同士とのつながりを築き、自立した地域コミュニティづくりのために活動しており、復興から地域創生に向かいつつある三陸地域から大きな期待が寄せられています。震災後、三陸地域に生活する人達は仮設住宅から災害公営住宅へと移動し、地域につながるを再構築することが大きな課題となっています。同班の船戸特任助教は、これまで約30か所の団地で自治会設立などを支援してきましたが、2018年度には災害公営住宅5団地の入居者を対象にアンケート調査を実施し、実態や課題を明らかにするとともに、今後の対応策を提案しました。ご近所とのつながりは毎日の生活のストレスや問題を少なくし、暮らしやすい環境を整える重要な役割を果たすといわれています。同班の活動が住みやすい三陸の地域づくりに大きく貢献しています。

5 学生による釜石市と陸前高田市でのコンサートの開催

本学管弦楽団の第58回定期演奏会が釜石市民ホールTEETOで、本学吹奏楽部のウィンターコンサートが陸前高田市コミュニティホールで、それぞれ開催されました。本学学生のコンサートで両市民の心が少しでも穏やかで豊かなることを願う本学学長の提案により計画されましたが、学生にとっても沿岸地域で演奏を披露するよい機会となりました。釜石市では約200名、陸前高田市では約140名の市民の皆様にご参加いただき、どちらのコンサートも来場者と演奏者がともに音楽を楽しむ素晴らしい時間となりました。来年度の継続についてもたくさんの期待が寄せられました。

6 首都圏報告会と「NEXT STEP 工房」の設立

三陸地域の現状と課題を報告し、首都圏の市民とともに今後の本学の活動や支援の在り方について考える機会にするために首都圏報告会を開催して3回目となりました。今年度は、三陸復興部門被災動物支援班から、VMAT(動物版DMAT)の設立やペット同行避難への理解を深めるためのシンポジウム開催などについて報告があり、これまでの支援活動をもとに、新たなステージに発展していることが示されました。さらに、三陸復興部門の教員が中心となり、今年度初めに設立した学生の地域活動や研究を支援するプラットフォーム「NEXT STEP 工房」について報告があり、実際に活動した学生からは課題等が提起されました。地域で活動する学生の増加が地域の活性化や創生につながると考えています。2019年度は地域創生部門に位置づいて活動を本格化する「NEXT STEP 工房」の今後の活躍を大いに期待したいと思います。

7 終わりに：岩手大学人文社会科学部 宮澤賢治いわて学センターの発足など、新たな活動に向けて

これまで本機構の地域創生部門として活動していた「宮澤賢治センター」は、2019年4月1日に「岩手大学人文社会科学部 宮澤賢治いわて学センター」として設置されることになりました。2018年度は学部の附属センターとして生まれ変わるため、他大学の同様の研究センター等の視察調査を実施し、センター設置案が作成され、学内の会議で承認されました。この間、隔月の定例研究会の開催、宮澤賢治生誕120周年記念行事の地域創生フォーラムとしての企画・開催、「賢治学」の第5輯まで出版など、関係者の努力により着実に活動を継続発展させてきました。新たなセンターの今後の発展に期待したいと思います。

2019年度も新機構長のもと、本機構は地域創生を先導する人材育成に寄与し、持続可能な地域社会の創生に着実に貢献するため、復興活動での学びを活かし、新たな挑戦も行われることを期待しています。



01 岩手大学三陸復興推進機構・地域創生推進機構について

岩手大学では東日本大震災後、「岩手の復興と再生に」をスローガンに掲げ、全学組織として「岩手大学三陸復興推進機構」を立ち上げた。三陸復興推進機構は、被災した三陸沿岸地域の復旧・復興支援活動に全学体制で取り組んできましたが、復興はまだ、道半ばである。一方、震災から7年が経過し、三陸沿岸地域のみならず、県内の自治体は、急速な人口減少やグローバル競争の中で産業衰退など、多くの問題を抱えているのが現状である。

本学では、これからの課題に対処すべく、平成28年4月に新たに「三陸復興・地域創生推進機構」を設置した。これまでの地（知）の拠点として本学の教育研究成果や知的資産の地域への普及・還元に取り組んできた「地域連携推進機構」と三陸の復旧・復興支援に取り組んできた「三陸復興推進機構」を一体化し、総力をあげて取り組みを強化していく。「三陸復興・地域創生推進機構」は、地域創生、人材育成及びなりわい再生に取り組む「実践領域」と地域特性を生かした教育・研究の推進を図る「教育研究領域」の2つの領域から構成される。

それぞれの領域は、地域ニーズに応じていくとともに、その教育研究成果を大学院総合科学研究科地域創生専攻等における学生の教育・研究に反映させていき、地域創生を先導する人材の育成や持続可能な地域社会のまち・ひと・しごと創生の実現を目指し、教育研究及び社会貢献の推進に取り組んでいく。

実践領域とは

実践領域は、東日本大震災の復興・復旧支援活動に様々な分野から継続的に取り組む「三陸復興部門」、民間企業や自治体等と岩手大学を結ぶ窓口として、金融機関を含む産学官民金ネットワークの構築、学内研究シーズと地域とのマッチングなどを行う「地域創生部門」、地域における生涯学習の推進、社会人への学習機会の創出に取り組む「生涯学習部門」の3つの部門から構成され、①被災地のニーズに沿った復興支援活動、②地（知）の拠点としての教育研究成果や知的資産の地域への普及・還元、③岩手大学が有する知的資産を用いた地域における生涯学習振興を図っていく。

教育研究領域とは

教育研究領域は、「ものづくり技術教育研究部門」、「三陸水産教育研究部門」、「地域防災教育研究部門」、「平泉文化教育研究部門」の4つの分野によって構成されている。各部門は全学の教育研究施設であるそれぞれの研究センターがその業務を担い、岩手県における地域特性を生かした専門領域の教育・研究の推進を図っていく。

三陸復興・地域創生推進機構は、このように実践領域と教育研究領域の取り組みを推進することにより、教育研究領域の成果を基礎とし、実践領域での取り組みや課題解決で導かれた知見を地域創生専攻等の教育研究に還元していく。

三陸復興・地域創生推進機構組織図

副機構長

機構長

副機構長

三陸復興部門

- 学習支援班
- いわて高等教育コンソーシアム連携班
- 心のケア班
- 被災動物支援班
- 地域コミュニティ再建支援班
- ものづくり産業復興推進班
- 農地復興班
- 園芸振興班
- 農林畜産業復興総合計画班

釜石サテライト
久慈エクステンションセンター
宮古エクステンションセンター
大船渡エクステンションセンター
釜石ものづくりサテライト

地域創生部門

- 地域との連携
県内自治体との共同研究の推進
岩手三陸会議（13市町村）との連携や
共同研究員5名（5市）の受入
- 産学連携
県内企業との共同研究促進
産学官金連携（リエゾン-1）
優れたベンチャーの創出
- 社会連携
地域課題解決プログラムの実施

盛岡市産学官連携研究(指定管理)
スポーツユニオン
アートフォーラム
宮澤賢治センター

生涯学習部門

- 生涯学習プログラムの開発
がんちゃんの学び、社会人学び直しプログラム等
- 社会教育専門職員育成
社会教育主事養成
社会教育関係職員などへの助言
- 公開講座
岩手大学の特色を生かしたプログラムの提供

教育研究領域

- 三陸水産教育研究部門 ← 三陸水産研究センター
- 平泉文化教育研究部門 ← 平泉文化研究センター
- 地域防災教育研究部門 ← 地域防災研究センター
- ものづくり技術教育研究部門 ← ものづくり技術研究センター

02 岩手大学三陸復興推進機構・地域創生推進機構の取組

(1) 三陸復興部門

部門長 後藤 尚人 (人文社会科学部 教授)



旧三陸復興推進機構から引き継いだ「学習支援班」「いわて高等教育コンソーシアム連携班」「心のケア班」「被災動物支援班」「地域コミュニティ再建支援班」「ものづくり産業復興推進班」「農地復興班」「園芸振興班」「農林畜産業復興総合計画班」の9班から構成されている。

釜石サテライト及び久慈、宮古、大船渡エクステンションセンターと連携して、三陸地域をフィールドとした各種復興推進活動に取り組んでいる。

① 学習支援班

学習支援班は、教育委員会、NPO 団体など連携しながら、被災地の小中学生を対象とした学習支援や居場所づくりへの支援などを実施している。

活動テーマ
と
概要

・被災地の児童・生徒を対象とした放課後の居場所づくりや学習支援

代表者 教育学部： 菱倉 哲

担当者 教育学部： 遠藤 孝夫、佐々木 全、岩木 信喜
教育学研究科： 高橋 和夫

- 長期休業中の児童への学校施設開放支援：体育館を利用した遊びなどを通じた学校開放。
- 小中学校の交流事業：少年リーダーを育成することが目的。
- 高齢者を対象とした生涯学習支援：高齢者への生涯学習の場の提供が目的である。
- 長期休業中の生徒への学習支援：中学校への学習支援活動。

実践領域			教育研究領域			
三陸復興部門	地域創生部門	生涯学習部門	三陸水産教育研究部門	平泉文化教育研究部門	地域防災教育研究部門	ものづくり技術教育研究部門

活動内容

● 長期休業中の児童への学校施設開放支援

釜石市立唐丹小学校は、東日本大震災で校舎が津波の被害に遭い、場所を移し、プレハブの校舎で学んでいた。校庭の面積も少なく体育館は隣接する中学校と共用しているため、児童が活動や時間はかなりの制約がかかっていた。このような状況を踏まえ、釜石市教育委員会からの依頼を受け、解放された体育館を使用して子供たちが伸び伸びと遊ぶことができるように学校開放に取り組んだ。子どもたちの安全に配慮しながら、子どもたちが遊びたいことを優先させ、ドッジボールやバドミントンなど様々な遊びを行った。

実施期間：平成 30 年 8 月 8 日 (水)
参加児童：延べ 23 名
ボランティア学生：延べ 12 名



体育館でドッジボールをする様子 (唐丹小学校)

● 長期休業中の生徒への学習支援

本機構に共同研究員として受け入れている釜石市職員の仲介により、釜石市大平中学校から生徒への学習支援要請があり、平成 28 年度から活動している。大学生が中学生に教えることで生徒の学力及び学習意欲の向上を図るとともに交流を通じて高等教育機関へ興味関心を持ち将来の選択肢を広げてほしいという狙いがあった。勉強を教えるだけでなく、一緒にお昼ご飯を食べ、最後の授業時にはスポーツなどをして交流を深めた。今回は、教員を志望する教育学部の学生以外からも参加が多数あった。活動後のボランティア学生のアンケートでは、「頭で考えていることを教えるのは難しかったけれどいい経験になった」「毎回参加すればさらに将来のためになると思った」など、貴重な体験になっていることが窺えた。

実施期間：平成 30 年 8 月 7 日 (火)～8 日 (水)
参加生徒：延べ 52 名
ボランティア学生：延べ 24 名



学習支援の様子 (大平中学校)

【平成 31 年度の活動予定】

引き続き、児童への学校施設開放支援と、生徒への学習支援を続ける。また、被災経験のある生徒や児童が高等教育機関へと進むという選択肢を切り開くとともに、復興を担い、被災を語り継ぐ担い手となることを支援し、被災地の学習支援と学校安全の人材養成ならびに学術研究を連動させた支援事業を展開する予定である。

② いわて高等教育コンソーシアム連携班

いわて高等教育コンソーシアム連携班は、いわて高等教育コンソーシアム連携校（岩手大学の他、岩手県立大学、岩手県立短期大学部、岩手県立大学宮古短期大学部、岩手医科大学、富士大学、盛岡大学、盛岡大学短期大学部、放送大学岩手学習センター、一関工業高等専門学校）と連携し、被災地の復興を担う中核的人材の育成を推進している。

活動テーマ と 概要

「地域リーダー育成プログラム」の充実と発展

代表者 人文社会科学部：後藤 尚人
担当者 人文社会科学部：藤本 幸二
 教育推進機構：脇野 博、江本 理恵
 総務部総務広報課：佐藤 美樹、工藤 朗、武藤 涼子

いわて高等教育コンソーシアムで平成27年度から実施している「地域リーダー育成プログラム」は、多様な局面で地域の中核を担う人材の育成を目指している。当該プログラムは、コア科目の開講と、地域課題解決プロジェクトから成り、コア科目の必要単位数を満たし、かつ地域課題解決プロジェクトを遂行した学生には「地域を担う中核的人材認定証」が授与される。当該プログラムの充実と発展に向け、コア科目及び地域課題解決プロジェクトの見直しや拡充に取り組み、よりよい「地域リーダー育成プログラム」の展開を目指す。

活動内容

● 地域リーダー育成プログラム「地域を担う中核的人材」の認定

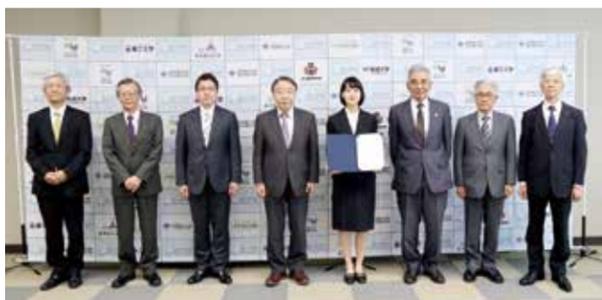
地域を担う中核的人材認定申請要件（コア科目4科目8単位以上修得、地域課題解決プロジェクトの遂行）を満たした学生から認定についての申請があり、審査に合格した以下の学生1名を「地域を担う中核的人材」として認定し、認定証を授与した。「地域リーダー育成プログラム」開始以降3人目の「地域を担う中核的人材認定者」である。

<認定証授与者>

岩手大学農学部生物産業科学コース4年
大宮 美緒



3人目の認定者となった
大宮美緒さん



認定証授与式の様子



● コア科目の実施

地域リーダー育成プログラムにおけるコア科目として以下科目を開講した。

- ・ 地場産業・企業論/企業研究（5月9日～7月18日）
履修登録者17名（岩大8名、県立大9名）
- ・ いわて学Ⅰ（6月2日～6月10日）
履修登録者46名（岩大23名、県立大18名、盛大5名）
- ・ グローカル基礎研修（地域課題演習E）（8月16日～8月19日）
履修登録者21名（岩大16名、県立大1名、盛大4名：うち留学生2名）
- ・ ボランティアとリーダーシップ（9月13日～9月17日）
履修登録者25名（岩大25名）
- ・ いわて学Ⅱ（9月16日～9月29日）
履修登録者18名（岩大11名、県立大5名、富士大1名、盛大1名）
- ・ 危機管理と復興（11月3日～1月12日）
履修登録者18名（岩大17名、盛大1名）
- ・ グローカル基礎研修（地域課題演習F）（2月14日～2月22日）
履修登録者32名（岩大31名、盛大1名、うち留学生5名）



【いわて学Ⅰ】講義の様子



【いわて学Ⅱ】「もりおか歴史文化館」見学



【いわて学Ⅱ】「遺跡の学び館」見学



【いわて学Ⅱ】グループワークの様子



【グローバル基礎研修 地域課題演習E】
柳之御所史跡公園にて



【グローバル基礎研修 地域課題演習F】
グループ発表



【ボランティアとリーダーシップ】
【山田八幡宮神幸祭】における十二支巡行



【ボランティアとリーダーシップ】
コミュニケーショントレーニング



【ボランティアとリーダーシップ】講義最終日 集合写真



【危機管理と復興】講義の様子



【地場産業・企業論/企業研究】企業訪問の様子

● 地域課題解決プロジェクトの実施

【継続プロジェクト】

○地域課題解決プロジェクト：さんてつ活用推進チーム (平成30年度の実施状況)

- ・さんてつ魅力再発見マップ（北リアス線 島越駅-宮古駅編）の制作
- ・三陸鉄道利用促進に関するアンケート宮古駅前街頭調査及び現地調査（平成30年9月27日（木））
- ・三陸鉄道北リアス線企画列車運行（平成31年3月2日（土））



三陸鉄道北リアス線企画列車参加者集合写真



三陸鉄道利用促進に関する街頭調査（宮古駅前）実施に伴い三陸鉄道本社を訪問

○地域課題解決プロジェクト：西和賀地区における活動 (平成30年度の実施状況)

- ・西和賀地域周辺（深澤辰雄資料館、雪冷房併設土間付体育館（志賀来ドーム））の視察及び、西和賀の魅力アンケート聞き取り調査（スーパーおせん敷地内）（平成30年7月21日（土）、22日（日））
- ・西和賀地域周辺（秀衡街道、湯田貯砂ダム）の視察及び動画撮影（平成30年8月25日（土））
- ・フキデチョウ文庫館内見学及び図書活動の聞き取り調査（平成30年9月17日（月））
- ・西和賀地域周辺（結ハウス、鷲之巢金山麓、湯夢プラザ、志賀来ドーム、わらび餅かふえ団平）の動画撮影及びさわや書店図書プロジェクト対象施設見学（平成30年12月16日（日））



西和賀地区PR動画撮影の様子



西和賀地区さわや書店プロジェクト打ち合わせの様子

【新規プロジェクト】

○地域課題解決プロジェクト：陸前高田市の子ども達との交流会 ～夢、未来、将来、新たな発見～

- ・陸前高田市教員委員会と連携し、新たな地域課題解決プロジェクトを発足させた。連携校の大学生が地元の小学生と交流する中で、子供達が将来について主体的に考え、新たな気づきの機会とすることを目的として盛岡大学生21名、岩手県立大学生1名の計22名が平成30年10月から活動を開始した。（平成30年度の実施状況）
- ・陸前高田市教育委員会との打ち合わせ（平成30年11月19日（月）、12月7日（金））
- ・陸前高田市総合交流センター夢アリーナを会場に、陸前高田市の小学生を対象とした交流会「DREAM 戦隊ゆめレンジャー」を開催（平成31年2月23日（土））



陸前高田市の小学生を対象とした交流会「DREAM 戦隊ゆめレンジャー」の様子（チャレンジ！英語で福笑い）

● これまでの活動についての総括、評価を踏まえた検討

いわて高等教育コンソーシアム設立後10年間の総括結果を踏まえ、地域リーダー育成プログラムコア科目における教育内容の充実を図るため、新たなコア科目（選択科目）としてCOC+事業に伴い岩手大学及び岩手県立大学で作られた以下の地域関連科目を取り入れることを決定した。

新たなコア科目（選択科目）とした科目

- 岩手大学開講科目
- 地域課題演習 B（地域課題解決能力）
- 地域課題演習 C（災害）
- 地域課題演習 D（世界文化遺産 平泉・橋野高炉跡）
- 地域課題演習 H（東日本大震災 陸前高田市）
- 地域課題演習 H（市民活動）

岩手県立大学開講科目

- 地域社会と健康
- 子どもと環境
- 人間と職業
- 地域と情報
- 岩手の成り立ちと自然災害
- 地域コミュニティとまちづくり
- いわて創造学習 I

【平成31年度の活動予定】

地域リーダー育成プログラムについては、コア科目の履修方法を整理し、必修科目（いわて学、ボランティアとリーダーシップ）と選択科目（地場産業企業論/企業研究、危機管理と復興、グローバル基礎研修）に区分して、選択科目に読替え可能（1科目のみ）な地域関連科目を加えるなど、従来より履修しやすい方法で実施する。また、地域課題解決プロジェクトは、「さんてつ活用推進チーム」の活動と「西和賀地区における活動」を継続すると共に、新たな活動として、学生発案のプロジェクトを募集する他、COC+事業で行われている学生主体の活動を加えるための検討を行う。

実践領域			教育研究領域			
三陸復興部門	地域創生部門	生涯学習部門	三陸水産教育研究部門	平泉文化教育研究部門	地域防災教育研究部門	ものづくり技術教育研究部門

③ 心のケア班

心のケア班は被災者が心の安定と健康を増進し、復興段階における様々なストレスを乗り越えていけるようにリラクゼーションセミナーや市民講座の開催、三陸沿岸の県立高校へのスクールカウンセラーの派遣、支援者への支援などを行っている。また、釜石サテライトに「こころの相談ルーム」を設置し、カウンセリング相談を行っている。

活動テーマと概要

被災者および支援者への長期的なこころのサポート

代表者 人文社会科学部：山口 浩
担当者 人文社会科学部：織田 信男、松岡 和生、奥野 雅子、藤原 孝至、廣瀬 直美
 教育学部：山本 奨、岩木 信喜
 三陸復興・地域創生推進機構：佐々木 誠
 保健管理センター：立原 聖子、早坂 浩志
 三陸復興支援課：木村 隆行

上記の活動テーマを推進するために

1. 岩手大学三陸復興・地域創生推進機構に特任准教授（臨床心理士）を再雇用し、被災者や支援者への支援計画立案・実施・調整に当たる。
2. 同機構・釜石サテライトに「こころの相談ルーム」を継続設置し運営する。
3. 支援者・地域住民を対象とした研修および市民講座を実施する。
4. 三陸沿岸県立高校へのスクールカウンセリング支援を継続する。
5. 心のケアに係わる心理学的基礎研究を遂行する。
6. 長期的に被災地支援に関わることのできる臨床心理士を養成するために、臨床心理士を目指す大学院生に、被災地支援について講義および現場体験を通して学ばせる、といったことに取り組んだ。

当該プログラムの充実と発展に向け、コア科目及び地域課題解決プロジェクトの見直しや拡充に取り組み、よりよい「地域リーダー育成プログラム」の展開を目指す。

活動内容

● 1. 被災地の心のケアに関わる計画立案・実施・調整

佐々木誠・特任准教授（臨床心理士）が釜石サテライトに常駐し、被災地における心理支援のための会議への参加や諸機関との意見交換、それを元にした心理支援活動の計画と準備・実施を行った（なお、H30年度は雇用期間の関係で後期のみの活動）。

● 2. 釜石サテライト「こころの相談ルーム」におけるカウンセリング

特任准教授（臨床心理士）が「こころの相談ルーム」を運営し、被災者へのカウンセリング、支援者へのコンサルテーション等を行った。雇用形態の関係で前期は人文社会科学部附属こころの相談センターにて9件を担当し、後期は釜石サテライト・こころの相談ルームにて35件を担当した（年間で44件）。内容は、昨年度より継続した相談（震災による喪失、トラウマの治療、家族の問題等）および、再来談（以前に相談していた方が相談するケース）、他であった。また地域の支援活動に関する意見を求められるなどコンサルテーションの依頼もあった。

● 3. 支援者・地域住民を対象とした心理教育的研修の開催

支援者支援を目的とした依頼による研修は11回実施され、のべ約250人の参加があった（市民講座の4回を含む）。このうち5回は、支援者のメンタルヘルス・プログラムでの依頼研修（傾聴・支援のリスクと対応、喪失）である。住民相互の心理支援拡充を目的として行う被災地での市民講座は4回実施（H31/2/21～2/28、三陸沿岸地区の4箇所、合計66名）した。なお、参加者による10点満点の評価では、講義が7.8（SD=2.1）、運営が8.3（SD=2.1）と好評を得た。また、年度末に講座の内容（資料が欲しい等の申し出がある）を「こころのじかん（資料編）」の小冊子としてまとめ、配布できる態勢を整えた。

● 4. 三陸沿岸県立高校へのスクールカウンセリング支援

岩手県教育委員会からの要請を受けての事業であり、現地で、生徒や保護者向けに相談カウンセリング、教職員へのコンサルテーション、生徒への講話、会議での助言等を行った。具体的には、岩手県立釜石高校（定時制）へ班員（教員）1名が概ね月に1回4時間、年間10回の支援を行った。また、岩手県立大槌高校へ班員（教員）4名が概ね週1回4時間、年間合計32回の支援を行った。

● 5. 心のケアに係わる心理学的基礎研究の遂行

- 災害トラウマ及びPTSD発症に関わる基礎研究として、心的イメージの測定法について松岡（2018）が「実験心理学ハンドブック」（朝倉書店）にまとめた。
- イメージネーションに関わる認知機構と脳内基板に関わって、松岡（2018）等が日本心理学会第82回大会公募シンポジウムで発表した。
- 災害トラウマに関わって悪夢に苦しめられることがあるが、関連研究として、夢と発達障がいに関わっての調査結果を、松田英子・松岡和生・岡田斉（2018）が日本イメージ心理学会第19回大会で口頭発表した。
- 災害トラウマ緩和のためのストレス対処とリラクゼーションの実践技法について、脳波を用いたニューロフィードバックによる抑うつ緩和に関する基礎研究を、山口が科学研究費の支援を得て継続中。



沿岸支援研修



市民講座

● 6. 長期的支援の基盤を担う臨床心理士の養成

復興の継続的心理支援の基盤づくりを目的とする臨床心理学系大学院生を対象とした沿岸支援研修は、特任准教授（臨床心理士）のもとH31/3/26に実施された。今年度はスタッフの雇用の関係で中止予定であったが、企画の趣旨と重要性を鑑み日程を短縮して実施した。内容は、陸前高田市社会福祉協議会が行なっているサロン内の企画としてゲスト参加し、住民の方々と交流研修を行った。研修は漸進的筋弛緩法を住民の方々と一緒に行い、その後院生が考えたゲームや茶飲み話で大いに交流した。院生の感想からも、被災地で経験して初めて理解される学びが行われたと考えられる。この活動は地域住民と大学の互恵的な意義ある活動として重要である。

【平成31年度の活動予定】

被災者および支援者への長期的なこころのサポートにむけて、①引き続き、三陸復興・地域創生推進機構に特任准教授（臨床心理士）を雇用し、被災地の心のケアに係わる支援計画立案・実施・調整にあたる、②同機構・釜石サテライト「こころの相談ルーム」を継続運営する、③被災地において心のケアに係わる市民講座を実施する、④三陸沿岸県立高校へのスクールカウンセリング支援を継続する、⑤心のケアに係わる心理学的基礎研究を遂行する、⑥支援者に対するメンタルケアプログラムを開発・実施する、⑦長期的支援の基盤づくりのため、臨床心理士を目指す大学院生に、被災地支援について講義および現場体験を通して学ばせる、が活動予定である。

実践領域			教育研究領域			
三陸復興部門	地域創生部門	生涯学習部門	三陸水産教育研究部門	平泉文化教育研究部門	地域防災教育研究部門	ものづくり技術教育研究部門

④ 被災動物支援班

被災動物支援班は、移動診療車「ワンにゃん号」を出動させ、被災動物に関する「なんでも相談会」、沿岸地域での臨床獣医師を対象とした「高度獣医療セミナー」、「ペット同行避難についての勉強会」などを行っている。また、被災地での畜産業に対する支援として、被災地の産業動物に対する放射性物質の影響調査や高度獣医療を実施するとともに獣医学科課程の学生の臨床教育にも活かしている。

活動テーマ
と
概要

動物と共に生きる

代表者 農学部：佐藤 れえ子
担当者 農学部：岡田 啓次、山崎 真大、福井 大祐、内田 直宏、小林 沙織
三陸復興・地域創生推進機構：山崎 弥生

<小動物グループ>

- ①小動物用移動診療車「ワンにゃん号」における被災動物の診療、処方食の提供およびペット防災に関する啓発活動
- ②県内の野生動物の保護・管理および調査協力
- ③岩手小動物臨床研究会および岩手県獣医師会との共催による被災地の臨床獣医師向け「高度獣医療セミナー」の開催

<大動物グループ>

福島第一原子力発電所事故旧警戒区域内の牛に対する高度獣医療を用いた繁殖検診と管理

▼ホームページ



一般社団法人 原発事故被災動物と環境研究会

▼Face book



活動内容

<小動物グループ>

● 動物移動診療車「ワンにゃん号」における被災動物の診療、処方食の提供およびペット防災に関する啓発活動

1. 動物愛護フェスティバルにおける「動物なんでも相談会」の開催（9月23日、滝沢市）。
2. 岩手県合同防災訓練におけるペット同行避難訓練（11月9日、宮古市）に参加し、「ワンにゃん号」の展示とペット同行避難の啓発活動を実施。ペットフード会社 MARS リミテッドの協力を得、ペットフードやペットシートなどの入ったペット防災袋を避難訓練参加者に配布した。
3. 岩手県動物取扱責任者研修会にて「災害時の動物救護と犬猫の遺伝病」について講演（11月28日、奥州市）。
4. 東北みらい創りサマースクールにて「動物と共に生きる ～人と動物の共生を目指した支援活動～」と題し、東日本大震災や熊本地震から得た災害時動物救護についてのこれからの動向などについて講演（9月29日、遠野市）。
5. 三陸復興・地域創生機構首都圏報告会において、「動物と共に生きる～人と動物の共生を目指した支援活動～」と題し講演（12月2日、東京都千代田区）。



ペット同行避難訓練（宮古市）

● 行政より依頼を受けた県内の野生動物の保護・管理および調査協力

2月17日、3月10日、23日、28日、岩手県より野生動物の調査依頼を受け、移動診療車ワンにゃん号を出動し、保護されたオオハクチョウやキツネの健康診断・治療協力を行った。

● 臨床獣医師向け「高度獣医療セミナー」の開催

1. 臨床獣医学の卒業・生涯教育の一環として、県内開業臨床獣医師向けの高度獣医療セミナー「岩手県小動物臨床研究会（IVC）」を本学動物病院にて4回開催し、獣医師のべ40名、学生20名を動員した。
2. 開業獣医師向け技術指導として、超音波検査セミナーを2回（盛岡市、郡山市）開催し、獣医師合計32名を動員した。

● 「災害時の動物救護活動を語り合おう（情報・意見交換会）～災害動物救護の地域連携とVMATの役割～」を開催

「災害時の動物救護活動を語り合おう（情報・意見交換会）～災害動物救護の地域連携とVMATの役割～」と題し、近隣県の行政及び開業獣医師、VMAT主宰の羽山伸一先生（日本獣医生命科学大）をお呼びし情報・意見交換会（盛岡市）を開催した。また、日本におけるシェルターメディスンの第一人者である田中亜紀先生（日本獣医生命科学大）による講演を行った（参加人数：40名）。（7月7日、岩手大学北桐ホール）



「災害時の動物救護活動を語り合おう（情報・意見交換会）～災害動物救護の地域連携とVMATの役割～」



災害時の動物救護活動ポスター

<大動物グループ>

● 定期総合調査の実施と疾病牛の検査・診療

第16回（5月12日、13日）、第17回（8月18日、19日）、第18回（12月15日、16日）、帰還困難区域にある3牧場で定期総合調査を実施し、随時血液検査や診療および解剖を実施した。

● 国際学術誌への論文発表

Sato, I., Sasaki, J., Satoh, H., Deguchi, Y., Chida, H., Natsuhori, M., Otani, K. and Okada, K. 2019 Decreased blood cell counts were not observed in cattle living in the "difficult-to-return zone" of the Fukushima nuclear accident. Animal Science Journal 90, 128-134

▼Face book



● シンポジウムの開催

2019年3月21日、一般社団法人原発事故被災動物と環境研究会が主催するシンポジウム「生物学者がみる帰還困難区域の現状とそこに生きる牛・東日本大震災・福島原発事故から7年—長期低レベル放射線の影響を考える」（福島市コラッセふくしま）を開催。本年度は本機構も共催した。



シンポジウム「生物学者がみる帰還困難区域の現状とそこに生きる牛・東日本大震災・福島原発事故から7年長期低レベル放射線の影響を考える」



▼ホームページ



▼Face book



【平成31年度の活動予定】

小動物グループ

- ①動物移動診療車「ワンにゃん号」における被災動物の診療、処方食の提供。
- ②岩手小動物臨床研究会および岩手県獣医師会との共催による被災地の臨床獣医師向け「高度獣医療セミナー」の開催。
- ③岩手県内で保護された野生動物の治療管理などの協力
- ④一般市民向けペット防災セミナーの開催 他。

大動物グループ

継続調査と牛の健康管理および農家支援の実施。

⑤ 地域コミュニティ再建支援班

地域コミュニティ再建支援班は、被災地の地域コミュニティの再建を総合的に支援している。被災地のニーズ調査、仮設住宅調査、災害公営住宅並びに集合移転地におけるコミュニティ調査などの各種調査のほか、被災地の復興後のまち・むらづくり計画や、復興祈念公園等の計画等について、住民主体の計画案の作成や計画策定後の管理運営を行っている。

活動テーマ
と
概要

地域コミュニティの再建および復興まちづくりの支援

代表者 農学部：広田 純一
担当者 人文社会科学部：五味 壮平、杭田 俊之
 教育学部：麥倉 哲
 理工学部：南 正昭
 農学部：三宅 諭
 三陸復興・地域創生推進機構：船戸 義和

被災地の地域コミュニティの再建および復興まちづくりに関して、地域コミュニティの実態調査、地域コミュニティ再建への計画・活動支援、拡大コミュニティの形成支援、地域産業創生への活動支援、情報発信ならびに政策提言等、多面的な支援を行ってきた。とくに今年度は、昨年度に続き、被災地における目下の最大の課題の一つである災害公営住宅における新たなコミュニティ形成（自治会づくり）に重点的に取り組むとともに、被災地に積極的に学生を同行させ、学生が被災地に関わるきっかけづくりを進めたほか、被災地と外部人材をつなぐ拡大コミュニティづくりにも取り組んだ。

活動内容

● 災害公営住宅におけるコミュニティ形成支援

引き続き災害公営住宅における新たなコミュニティ形成支援を行っている。具体的には、地域コミュニティ再建支援班のアドバイスを基に、市町村、社協、NPO、岩手県等による支援チームを立ち上げ、入居者の顔合わせ会から始まり、入居者による自治会設立準備会の立ち上げ、当該準備会による自治会設立に向けた協議を経て、新たに自治会を設立、さらに当該自治会の運営が軌道に乗るところまでを支援している。支援を行った災害公営住宅は、大槌町、山田町、大船渡市、

陸前高田市の4市町で、合わせて12団地に上り、うち自治会設立が2団地、自治会運営支援等が10団地となっている。また、住民同士の会合等への参加回数は全部で203回、延参加者数は3,511名に達する。また、2019年2月には、災害公営住宅の自治会同志の連携を図るために、昨年度に引き続き大規模災害公営住宅自治会交流会を主催し、各自治会の役員や地域住民を中心に92名の参加を得た。



大規模災害公営住宅自治会交流会（2019年2月11日）

● 大槌町の「元気なご近所づくりプロジェクト」

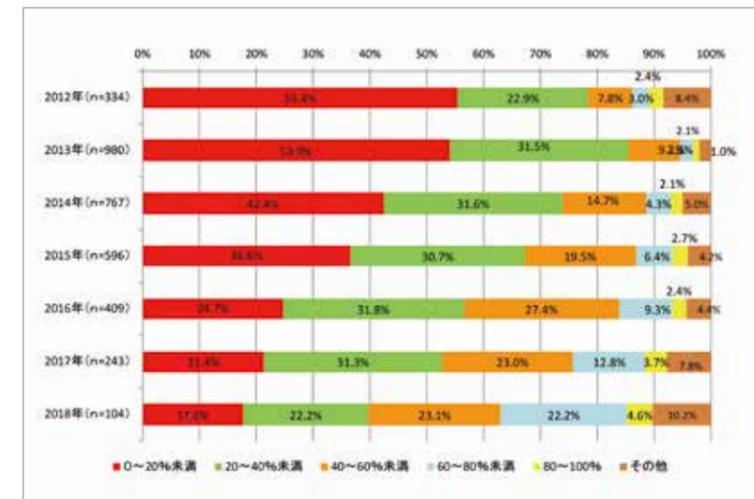
大槌町では、土地の高上げや土地区画整理事業、防災集団移転事業等のハード事業がほぼ完了し、住宅や商店等の建設が徐々に進んで、少しずつではあるが町の賑わいが戻りつつある。そうした中、新しくなった市街地や集落において、新たなコミュニティの形成や、従前からの地域コミュニティの再建を支援するために、大槌町のコミュニティ総合支援室と協働して、2016年度より「元気なご近所づくりプロジェクト」を実施している。これは、町全域を5つのエリアに分け、各エリアに地域コーディネーターとアドバイザーを配置して、住民同士のつながりを作りながら、住民自治の再建に取り組むプロジェクトである。地域コミュニティ再建支援班では、当該プロジェクト全体の統括アドバイザー（広田）と災害公営住宅のアドバイザー（船戸）を務めている。



「ご近所プロジェクト」の成果を大槌町コミュニティ協議会での発表（2019年3月17日：大槌町中央公民館にて）

● 大槌町仮設住宅調査

地域コミュニティ再建支援班では、震災後、大槌町にて毎年仮設住宅入居者調査を実施してきた。2018年が8回目で、仮設住宅8年目となる被災者の方がたのお宅を訪問しお話をうかがいながら、復興の現状についてお答えいただいた。特定延長（復興事業の遅れという特例）を除いて退去という状況の中で、仮設住民の現状はまだまだ復興の途上にあり、空き家が目立つ長屋集落は閑散としている。2012年から取り入れた「自分自身の復興状況」について、「0～20%未満」の比率は減少の一途をたどるものの、これと「20%～40%未満」を足し合わせた合計は、約4割となり、復興の道の険しさを物語るものである。引き続き孤立した方がたへの訪問を続けていきたい。



大槌町仮設住宅調査「自分自身の復興度」

● 学生を交えた漁村・漁業コミュニティの活動支援

被災地の漁村・漁業コミュニティの活動に、学生とともに参画し、運営も含めた多面的な支援を行った。具体的には、久慈市侍浜地域振興協議会事業「町民文化祭」への参加と運営支援、宮古市こども食堂「しおかぜキッチン」への運営参加とボランティア活動、釜石市釜石湾漁協白浜浦女性部の魚食普及活動への参加ならびに運営支援、釜石まつりの祭り団体「マツリズム」と連携した祭りへの参加と運営支援、釜石市根浜地区の住民団体「根浜MIND」と連携した「根浜・鶴住居みどころマップ」の作成等である。いずれの活動にも学生が主体的に関わっており、教育的な効果も大きい。



釜石尾崎白浜漁船に同乗 (2018年9月19日)

● 拡大コミュニティ形成の一環としての「春呼び祭」の開催

拡大コミュニティとは、地域コミュニティ再建支援班が東日本大震災を契機に提唱している新たなコミュニティ概念で、定住コミュニティに関わりを持つ出身者・交流者・関心者等との恒常的な連携・交流の仕組みを持つコミュニティのことである。拡大コミュニティは、集落・町内レベルから小学校区レベル、旧町村レベル、さらには市町村レベルまで様々な階層で構築可能だが、地域コミュニティ再建支援班では、震災後一貫して陸前高田市における拡大コミュニティ形成に努めてきた(学生団体「岩大E_code」による各種ガイドブックの制作等)。今年度は、陸前高田グローバルキャンパスを舞台に、年間を通じて全国の大学と地元との交流を進めてきたほか、年度末の3月16日(土)～17日(日)には二日間にわたって「春呼び祭」を開催し、市外の多様な主体と地元との連携・交流のいっそうの拡大を図った。



★拡大コミュニティ形成の一環としての「春呼び祭」の開催

● 地域産業創生への活動支援 (大槌町干物 PR パンフレットの制作)

地域の産業創成は現在の被災地の大きな課題の一つである。地域コミュニティ再建支援班では、被災地の生産者や団体、住民に協力しながら、特産品のPRや開発の支援を行っている。今年度は、大槌町の観光交流協会および盛岡のデザイン事務所と協力して、大槌町の特産品である干物のPRパンフレットの制作を行った。

パンフレット制作の主体は岩手大学の学生である。本学の初年次自由ゼミナールの一環として、学生による干物支援チームを結成し、大槌町の干物生産者への現地取材と記事の執筆を行った。また、年度末の3月には、東京有楽町の大槌フェアに同行し、PRパンフレットを用いて干物の販売を行った。完成したパンフレットは町内の直売所等に置かれているほか、町外での販促イベントで活用されている。



地域産業創生への活動支援 (大槌町干物 PR パンフレットの制作)

【平成31年度の活動予定】

国の復興創生期間が残り2年となる中、平成31年度も平成30年度の活動を継続して実施していく予定である。災害公営住宅のコミュニティ形成支援については、引き続き山田町、大船渡市、大槌町、陸前高田市、釜石市で実施し、一般被災地におけるコミュニティ形成支援は、大槌町をはじめとして、大船渡市や山田町等の取り組みを幅広く支援していく。また復興まちづくりでは、県北の宮古市、田野畑村、野田村、久慈市でも活動支援・計画支援を行っていく。また、地域コミュニティ再建支援班主催のシンポジウムを年度末に開催するほか、国や自治体・NPO等が主催する研修会・シンポジウム・フォーラム等にも、講師・コーディネーター・パネリストとして積極的に参画する。さらに、国や自治体・シンクタンク等の委員会・研究会等を通じた政策提言、ならびに大規模災害が想定される西日本各地への震災の教訓の伝承にも力を注いでいく。

⑥ ものづくり産業復興推進班

ものづくり産業復興推進班は、(公財)釜石・大槌地域産業育成センター内に活動拠点(釜石ものづくりサテライト)を構えて、難削材の加工技術やCAD/CAM技術などを地域企業に定着させるための講習会や技術相談などの取り組みを進めている。

「地域に根付くものづくり産業支援を！」

活動テーマと概要

代表者 理工学部：水野 雅裕
担当者 理工学部：廣瀬 宏一
 三陸復興・地域創生推進機構：今井 潤、熊谷 和彦、真野 孝幸

ものづくり産業復興推進班は、(公財)釜石・大槌地域産業育成センター内に活動拠点(釜石ものづくりサテライト)を構えて、難削材の加工技術やCAD/CAM技術などを地域企業に定着させるための講習会や技術相談などの取り組みを進めている。

平成30年度、ものづくり産業復興推進班では特任研究員2名を、活動の拠点である「岩手大学釜石ものづくりサテライト」に配置して活動した。

平成28年度から釜石・大槌地域産業育成センターからの受託事業「岩手大学釜石ものづくりサテライト」を実施し、これまでの施設運営や試作対応、講習会の実施だけでなく、定期技術相談会の実施など、地域の企業調査、地域企業との連携などにも力を入れて取り組んだ。

活動内容

加工技術の支援

試作品等の加工図面の作成、樹脂モデルの作製、加工条件の設定および加工作業に関する技術相談に応じることや、釜石ものづくりサテライトの設備を活用して直接的な技術指導を行うことが求められている。

平成30年度は、釜石市内企業等11社24件、大槌町内企業4社7件、その他10社15件の技術相談、指導を実施した。(合計25社46件)

地域の企業のニーズ調査

地域のものづくり企業を訪問し、加工している素材、加工分野について聞き取り調査を実施した。調査回数は、釜石市内5社9回、大槌町内6社9回、その他地域企業20社30回、合計31社48回であった。

その結果様々なニーズが明らかとなり、地域企業の要望のあった「接合技術セミナー」「金属加工技術講習会」開催を岩手県工業技術センターに依頼し、釜石開催していただいた他、3件の外部資金獲得支援等を実施することができ、さらに県内内陸企業とのビジネスマッチングにも繋がって、売上にも貢献ができた。

地域企業の新製品創出を支援

釜石市で試合が開催される「ラグビーワールドカップ2019」に向けた「お土産品作りプロジェクト」として、ピンバッチ試作開発支援を行い、釜石市(コバリオン)と友好都市の富山県朝日町(ヒスイ)とのコラボ製品である、「ラグビーボール型ピンバッチ」の製作に寄与した。またラグビーボール型木製食器の開発に向けた助成金確保の支援も行い、さらにコバリオン製靴ペラ試作支援を行い、「agudo」の製品製作に寄与した。

平成29年度に引き続き、セルロースナノファイバー(CNF)の地産地消モデルの開発に向け、釜石・大槌地域産業育成センターや森林総合研究所、三井物産とともに検討を進めている。

● 地域ものづくり人材育成支援

各種の技術講習会の自主開催や、講習会・体験会等の催しの開催支援を通して、幅広く地域のものづくり人材の育成支援を行っている。

具体的には地域企業を対象に、CAD/CAMの講習会を2回(計12名参加)、3次元計測器講習1回(1社2名参加)、金属加工技術セミナーを1回(43名参加)、高精度な機械加工と題した講習会を1回(9名参加)、汎用旋盤指導1回(1社1名)、岩手大学シーズ発表会・加工技術セミナーを1回(30名参加)、合計7回(累計参加人数97名)開催し、加工技術研究会を立ち上げることにした。

また、釜石・大槌地域産業育成センターが主催する「釜石・大槌地域産業フェア」では、毎年地域の高校生に釜石ものづくりサテライトの紹介を行っているが、今年は5軸マシニングと3Dプリンターを用いて身近なキャラクターを例に実演加工を行い、「ものづくり」に興味を持っていただける内容の学習機会を提供した。



金属加工技術セミナー1



金属加工技術セミナー2



岩手大学シーズ発表会・加工技術セミナー



岩手大学シーズ発表会・加工技術セミナー2



3D CADセミナー



技術相談・技術指導



高精度な機械加工セミナー

【平成31年度の活動予定】

(公財)釜石・大槌地域産業育成センターからの受託事業4年目となる平成31年度は、引き続き「釜石ものづくりサテライト」の施設運営を2名で行うが、今まで以上に地域企業と大学との共同研究の締結が重要になってくる。試作対応、講習会の実施にあわせて、「切削加工研究会」を通して地域企業の加工技術向上に向けた取り組みや産学連携・新製品開発支援の取り組みを加速していきたい。

更に岩手県沿岸における製造業の支援の方向性についても、沿岸の様々な企業や自治体と議論を活発化して、今後のより良い運営方法を提案していく予定である。

⑦ 農地復興班

農地復興班は、津波により土壌肥沃土が低下した農地と周辺環境において、土壌調査、水質調査、気象水文観測、堤防の沈下量調査及び植生調査を行っている。また、草地の地用再開に資するために急傾斜、石礫や草地更新などの除染対応がとれない牧草地を対象に低減対策や利用可能時期の推定を行う。

活動テーマ
と
概要

- ① 牧草地の放射性物質動態調査と低減方策の策定
- ② リサイクル技術を用いた被災農用地基盤の復興
- ③ 水田排水による湾内への栄養塩負荷量の推定
- ④ 水田の土壌の定期観測および土壌環境のリモートセンシング

代表者 農学部：山本 清仁

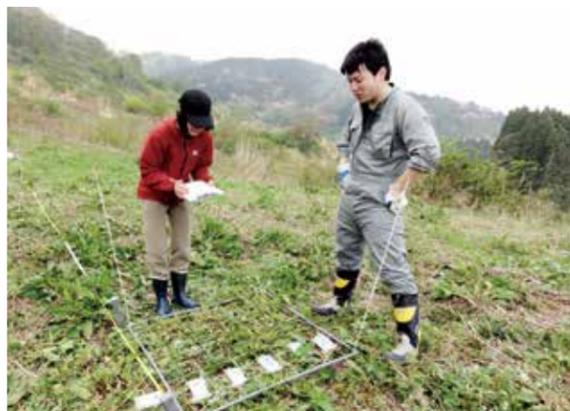
担当者 農学部：倉島 栄一、颯田 尚哉、築城 幹典、金山 素平、濱上 邦彦、原科 幸爾、武藤 由子、立石 貴浩

- ① 急傾斜、石礫などのため草地更新などの除染対策がとれない牧草地を対象に、放射性物質の動態調査を行う。また、それらの結果をもとに、効果的な低減対策や利用可能時期の推定を行い、草地の利用再開に資する。
- ② カキ殻の主成分である炭酸カルシウムに着目し、リン酸を用いた土の固化処理技術を検討した。固化性能の評価と被災農用地への応用を検討するため基礎的な室内実験を行う。
- ③ 広田湾における栄養塩類の動態の把握のために、気仙川および小友水田排水の影響を考慮し、栄養塩負荷量の推定を定期水質観測の結果をもとに行った。
- ④ 盛土復旧した水田の稲の生育状況を面的に把握するために、ドローンに搭載したマルチスペクトルカメラによるリモートセンシングを行った。

活動内容

● 牧草地の放射性物質動態調査と低減方策の策定

除染対策がとれない牧草地を対象に、放射性物質の動態調査を行うとともに、効果的な低減対策や利用可能時期の推定を行った。今までの成果について、4月に日本草地学会誌において草地における放射性物質動態のモデル化に関する総説を発表するとともに、11月にシステム農学会秋季大会で放射性セシウムと除染のためのカリウムの草地における循環モデルについて2報の発表を行った。



空間放射線量率の調査

● リサイクル技術を用いた被災農用地基盤の復興

陸前高田市小友町両替漁港の廃棄カキ殻の提供を受け、カキ殻を利用した土の固化処理について実験を行った。養生中に発生するガスの処理を考慮した固化処理法を適用し、その効果を検討した。今までの成果について、国際シンポジウム発表3件、国内学会発表6件を行った。また、JICA 青年研修員（インドネシア、フィリピン）に研究成果を講義し、漁港、防潮堤および高台盛土建設現場の視察を行った。岩手大学の授業科目「三陸の研究」において活動内容に関する授業を行った。



陸前高田市のカキ小屋の廃棄カキ殻



陸前高田市で開催された JICA 青年研修員（フィリピン）の被災地視察

● 水田排水による湾内への栄養塩負荷量の推定

流量推定における精度向上を図ることを目的に流量の大きいデータの取得を行った結果、予測精度が向上した。しかし、堆砂の影響の大きい河川においてはその精度の向上が見られず、堆砂量を考慮した流量推定を行う必要性が示された。また、高流量時における物質負荷量が年間の総負荷量中を占める割合が大きく、高流量時のより正確な推定が重要であることを示した。



陸前高田市の用排水路における水質調査

● 水田の土壌の定期観測および土壌環境のリモートセンシング

震災津波被害を受けた後に復旧した水田において、陸前高田市はオリジナル品種「たかたのゆめ」の生産振興を進めており、ここではドローン空撮により竹駒町と米崎町においてイネの生育調査を行った。マルチスペクトル空撮画像より得られた NDVI 分布と RGB 画像は随時、岩手県大船渡農業改良普及センターと共有し、2018年7月12日に行われた現地指導会において資料として活用された。さらに、竹駒町の水田においては、電磁探査、電気探査および採取土壌のイオン濃度測定を行った。また、今までの成果について、論文掲載1件、国際会議発表2件を行った。

▼ Face book



陸前高田市で開催された現地指導会における空撮データ検討

陸前高田市竹駒町水田の NDVI 分布 (2018年8月14日撮影)



【平成31年度の活動予定】

- ① 除染対策がとれない牧草地を対象に、放射性物質の動態調査を行うとともに、効果的な低減対策や利用可能時期の推定を行い、草地の利用再開に資する。
- ② リン酸カルシウム化合物を析出した土の基礎的な固化性能の把握、試料の構造骨格の観察を行い、カキ殻を使用した土の固化処理について実験的に検討する。
- ③ 広田湾に流出する陸前高田市小友地区の農業排水の流量と栄養塩負荷量の推定を目的とし、推定式の作成とその精度検討を行う。また、堆砂量のデータも同時に現地観測において取得することとし、より精度の高い予測手法の確立を目指す。
- ④ ドローン搭載のマルチスペクトルセンサを用いたイネの生育状況モニタリングを実施する。

⑧ 園芸振興班

園芸振興班は、夏期冷涼、冬期温暖な三陸の気候を活かし、ブランド化が期待できる園芸作物として、レストランや洋菓子店、デパートなどからの需要があるクッキングトマト、夏秋どりイチゴ、早どりカリフラワーの栽培技術や販売方法を被災地の農家や生産グループに提案している。

▼Web ページ



活動テーマと概要

三陸ブランド野菜品目の栽培技術の開発と経営評価による生産支援、加工技術の開発・普及と6次産業化の支援、販路開拓と販売支援システムの開発。

代表者 農学部：松嶋 卯月
担当者 農学部：佐藤 和憲、折笠 貴寛
 農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター：由比 進
 三陸復興・地域創生推進機構：岡田 益己

園芸グループでは三陸沿岸の気候・風土を活かした園芸産地作りを目指して、経験の浅い者でも取り組める園芸作物の導入やその栽培・加工技術の提供、ICT技術を取り入れた安価な栽培支援システムの開発に取り組んでいる。ブランド化と収益性が期待される野菜品目としてクッキングトマトや夏秋どりイチゴ、ミニカリフラワーに着目し、現地での栽培普及活動、および販売促進活動を展開している。また、地域の活性化に欠かせない人材養成を目的に、若手農家らのグループ形成やイチゴ農家らの栽培技術開発・習得や販路・物流開拓の支援を行っている。

活動内容

● 三陸ブランド野菜品目の作型・栽培技術の導入

三陸沿岸の気温変動特性を解析したところ、山田町以北で凍害リスクが大きく、以南で小さいことが明らかになり、早どりカリフラワー「姫かりふ®」の晩秋どり普及時の留意事項とした。また、カリフラワー栽培では積算気温生育モデルによる作付け歴利用およびペーパーポット苗による定植が収穫予測に有効であることが示され、引き続き普及指導を行っている。経費の面でハウス栽培が難しい生産者向けに、大型トンネルを用いた簡易な被覆栽培を試みた。その結果、クッキングトマトでは疫病の発生が抑制され果実品質も向上した。大型トンネルは姫かりふの雨よけ栽培にも利用できるため、その普及を支援農家らに提案している。夏秋どりイチゴでは2018年の作柄検討会を開催し、栽培上の課題を整理・検討した。



飲食店にどのように用いられるかについてアンケート調査を行うため、試食用として栽培中の早どりカリフラワー。飲食店での調理方法等に関するアンケート調査を行う。

● 三陸を始めとする地域における人材養成

陸前高田市の若手農家が新たな営農者グループの創立を望んでいることを知り、6月よりグループ形成支援を行った結果、陸前高田市農林水産部や岩手県大船渡農業改良普及センターに認知された若手営農者グループ「陸前高田 食と農の森」の創立が実現した。その設立総会において、東京農業大学名誉教授の門間敏幸博士を招聘した講演会「三陸型園芸産地をどう創るか～知恵と行動戦略を皆で考えよう～」を企画・後援したところ、40人以上の参加者を得た。また、農家がどのようにICT農業（スマート農業）を取り入れるのかを明らかにするために、岩手県農林水産部とも共同でアンケート調査を行った。



18年6月よりグループ形成支援を行った結果、翌19年1月に若手営農者グループ「陸前高田 食と農の森」の創立が実現した。

● 地域特産園芸作物の乾燥・加工技術の開発・普及と6次産業化の支援

三陸に普及するシイタケ乾燥用の熱風乾燥機をクッキングトマト乾燥に有効利用するために、クッキングトマトをミキサーですり潰し、冷凍保存後に液を乾燥機に広げ、乾燥したフレークを粉砕してパウダーとする方法について検討した。含水率が低く、かつメイラード反応で暗褐色化しない製品を得るためには60℃が仕上げ乾燥温度として適切であった。さらに旨味を増すための予熱処理方法を検討した。その結果、60℃乾燥前に短時間200℃で乾燥するか煮詰めることで、トマトの旨味成分であるグルタミン酸が増えることが分かった。粉末トマトをサンプル提供したそば店から、風味や食味で好評を得た。家庭向け商品としても有望なことが明らかになった。



クッキングトマトを仕上げ乾燥温度する温度は、含水率が低くかつメイラード反応で暗褐色化しない製品を得るために60℃が適切であった。



粉末トマトをサンプル提供したそば店から、風味や食味で好評を得た。

● 三陸ブランド野菜・加工品の販路開拓と販売支援システムの開発

宮古市、田野畑村、岩泉町のイチゴ農家と盛岡市の洋菓子店との直接取引において、岩手県北自動車（株）の路線バスおよび農産物の定期配送便に同乗した出荷を行うために、三者を取り次ぎ配送体制を整えた。三陸産夏イチゴを用いて洋菓子店ではプレミアムイチゴショートケーキを販売し、消費者に好評を博した。この取引関係者を集めて1月に反省会を開き、今後の生産・販売・出荷調整の方法などを検討した。沿岸地域の課題である物流について、小口物流の特徴と可能性を検討する研究会を2月に開催した。その他、早どりカリフラワーが飲食店にどのように用いられるかについて、飲食店を対象にアンケート調査を行った。



沿岸地域の課題である物流について、小口物流の特徴と可能性を検討する研究会を19年2月に開催した。



【平成31年度の活動予定】

これまで支援を行ってきた営農者らから、定期的なセミナー開催を求められているため、園芸振興班で行った研究開発結果を含めた市民向け営農講座を開催する。講座は農業の基礎的な事項から、これまで園芸振興班で明らかにしてきた夏秋イチゴ、カリフラワー、クッキングトマト等の栽培法、乾燥法等についても紹介する。またイチゴやショウガ、トマトなどの加工を希望する生産者向けに加工技術の利用を支援する。2018年度の研究から三陸沿岸北部では、冬場の寒暖差が内陸より大きいことが明らかになった。そのため同地域で栽培が多い葉菜類を対象に、寒暖差に伴う凍害を軽減するための対処法を示し、沿岸地域向けの葉菜類栽培指針を提案する。

⑨ 農林畜産業復興総合計画班

農林畜産業復興総合計画班は、岩手県の観光の復興状況および課題を明らかにし、グリーンツーリズムなど、農林畜産業や水産業を基盤とする観光振興のあり方を提言している。また、自然災害が発生する地域における保護地域の役割や課題について検討し、今後の整備や管理のあり方について提言している。さらに、漁業文化の保全や人材育成支援について継続的に取り組んでいる。



みちのく潮風トレイル：普代村区間のハイカーむけ情報サイト▲

活動テーマと概要

- 事業1：自然資源を活用した産業振興と地域の活性化
- 事業2：自然保護を基盤とした災害リスクの削減とグリーン復興
- 事業3：東北地方の観光復興

代表者 農学部：佐藤 和憲
担当者 農学部：伊藤 幸男、木下 幸雄、山本 信次、松木 佐和子
 三陸復興・地域創生推進機構：山本 清龍

事業1では、農林漁業を基盤として産業振興を図ろうとする集落、自治体を単位とした復興支援活動および研究活動を展開した。また、事業2では、地域の利害関係者、来訪者を対象として防災・減災に関する意識調査を実施し、防災・減災に関わるワークショップ、勉強会を開催した。さらに、事業3では、旅行者の意識と行動に関する実態調査を通して、歴史遺産の活用も含めた若者目線による新しい観光形態への取り組み、来訪者と地域住民との交流によるリピーター層の形成、インバウンド観光との連携などを観光復興にむけて提案した。

活動内容

● 事業1：自然資源を活用した産業振興と地域の活性化

一年を通じた現地におけるヒアリング調査から収集した自然資源を活用した観光産業の課題を概括すると、まず、釜石市では、DMCの設立により自治体（釜石市）、観光物産協会、宿泊施設（旅館、ホテル）、食事提供サービス業の連携が図られてきたものの、来訪者においてどのような動きがあるのか不明であること、首都圏在住者の誘致方法について検討すべきこと、点的に分散する観光資源を連携させる必要があること、より住民参加型で観光振興を図る必要があること、岩手大学との連携が重要であるが現時点では連携がそれほど強くないこと、などが指摘された。一方、八幡平市ではDMOが設立され、旅行者の受入体制の整備が進みつつあるが、観光地としての八幡平市のプロモーションを図る前に、観光業の経営問題が山積し、2次交通などの問題解決が重要との指摘があった。将来的には、バックカントリースキーなどアウトドアスポーツによる振興が地域の活性化に役立つと期待された。なお、当初企画した簡易な地域産業連関表の作成については、年度予算の範囲内で精緻な連関表を作成することが難しいと考えられたことから、上述のヒアリング調査など質的な調査にとどめ、課題の抽出作業につとめた。

▼岩手大学山本清龍 Face book



▼山本清龍個人 Face book



● 事業2：自然保護を基盤とした災害リスクの削減とグリーン復興

戦争、テロ、自然災害、人為災害などの被災地の負の遺産は学術上、歴史上、防災教育上の価値を有するため、常に観光資源として活用される特質をもつ（植村、2009）。このような悲劇的出来事にかかわる場所における観光をダークツーリズム（Foley & John, 1996）と呼ぶ。ダークツーリズムが来訪者に及ぼす意識変化を把握し、震災遺構と語り部ガイドによる効果を実証しようとする調査を2018年、釜石市において実施した。調査では、釜石市来訪者2,356人に郵送回収式アンケートを配布し、478人（回収率：27.7%）から回答を得た。その結果、94%（447人）が震災は後世に伝承し、世界で共有する価値があると回答した。また、効果的な災害の伝承方法としては、釜石の奇跡の地であることも関係してか、学校教育において防災教育を実施する方法が65%で最も多く支持された。そのほか、映像保存、災害と観光の組み合わせも過半数以上と高い割合で支持されていたことから、伝承に関わる各方法論の有効性が認知されていた。とくに、語り部ガイドツアー参加者では、非見学者、非参加者に比べて、津波の脅威、被災地の臨場感、迫力が喚起され、学びの場・機会のある場所としての釜石像が認識されていた。しかし、語り部ガイドツアー参加者において地元との交流が有意に低かった（ $P<.05$ ）。釜石市では、震災遺構の保存が位置づけられていないことを考慮すれば、災害の伝承、ダークツーリズムの目的地として役割発揮にむけては、語り部を中心としてツアープログラムの内容を検討する必要があると考えられた。現地におけるヒアリング調査からも、将来的には、ダークツーリズムの目的地としての市の性格は薄れ、震災前と同様に平時の釜石の魅力や個性が旅行者を引きつけることになると予想され、鉄の町としての釜石市の歴史的経緯などと組み合わせる観光振興を図る必要がある。

▼岩手大学山本清龍 Face book



▼山本清龍個人 Face book



● 事業3：東北地方の観光復興

平成30年度は、釜石市を対象地域として、「東日本大震災後の釜石市におけるダークツーリズムが与える消費者意識の変化」をテーマとする調査活動を実施した。東日本大震災を契機として社会貢献活動の重要性が再認識されたが、なかでも日常の倫理的消費を通じた持続的、長期的な被災地復興へ貢献しようとする機運が高まっている。そこで復興過程にある釜石市におけるダークツーリズムの現状および被災地貢献、倫理的消費に対する意識調査を行うことにより、ダークツーリズムが来訪者の消費者意識にどのような影響を与えているか検討した。釜石への旅行評価については、7割近くの来訪者がダークツーリズムとして釜石を訪れることを勧めていた。また、被災地貢献、倫理的消費への意識について、ボランティア活動、寄付つき商品の購入、被災地で生産加工された商品の購入はやや増加傾向が認められたが、被災地に対する募金や寄付、被災地を支援する物資の送付については減少傾向を示した。旅行評価と被災地貢献への意識変化の関係については、被災地でのボランティア活動への参加、被災地への寄付が含まれる商品の購入、被災地での生産加工された商品の購入、環境に配慮した商品の購入の項目では統計的に有意差があった。生活意識と被災地貢献への意識変化の関係については、全ての生活意識において、被災地に対する募金や寄付の項目で統計的に有意差があった。旅行評価と寄付つき商品に含まれる寄付額の関係については、復興進捗度、訪問満足度、再訪意向の項目において統計的に有意差があった。以上のように、釜石市のように相対的に震災遺構の少ない被災地での観光であっても、旅行評価の高さは訪問後の被災地で生産加工された商品や寄付つき商品の購入に対して正の影響を与えることが分かった。

▼岩手大学山本清龍 Face book



▼山本清龍個人 Face book



【平成31年度の活動予定】

平成31年度の活動予定はなく、班の活動は平成30年度で終了。

(2) 地域創生部門

部門長 今井 潤 (三陸復興・地域創生推進機構 教授)

▼地域創生部門 HP



地域創生部門は、民間企業や自治体等と岩手大学を結ぶ窓口として、金融機関を含む産学官金ネットワークの構築、学内研究シーズと地域のニーズとのマッチングなどを行っている。また、相互友好協力協定締結自治体との実践的な活動として、県内3市から市職員を共同研究員として受け入れ、機構全体の活動と連携し、震災復興から産学官連携による様々な地域創生の取組を進めている。

活動テーマと概要

- 地域創生モデルの構築
- 組織的な産学官連携の推進
- 地域志向研究の促進

代表者 三陸復興・地域創生推進機構：今井 潤
 担当者 三陸復興・地域創生推進機構：山下 晋、小川 薫、伊藤 ひろみ、
 小山 康文、貫洞 義一

1. 岩手県における新たな地域創生モデルを構築し、さらにその知見を大学院総合科学研究科に還元することにより、地域創生人材の育成を推進する。
2. 産学官連携のワンストップ窓口として、地域企業等への研究シーズの紹介と地域が抱える課題やニーズの収集を行い、研究者とのマッチング機会を数多く設けることにより、地域企業等との共同・受託研究を推進する。また、「銀河オープンラボ」を中心にオープンイノベーションを進めることにより、社会的インパクトを有する産学官連携プロジェクトを創出する。
3. 県内自治体との相互友好協力協定の締結を進め、協定に基づいた連携の取組や自治体等への提言を行うことにより、地域の持続的発展に貢献する。

活動内容

● 地域創生人材育成の推進

1. 大船渡市との共同研究として、高校生と社会人を対象に、同市の地域課題からビジネスプランを作成する地域創生人材育成プログラムを実施した。
2. 「ふるさと発見! 大交流会 in Iwate 2018」併催イベントとして、学生にとって魅力ある生き方や働き先を考える機会を提供することを目的に「市職員の仕事っていろいろある～約10年の経験から伝えられること～」を共同研究員が中心に企画・開催した。



ビジネスプラン作成講座

3. 地域企業等が各研究室をツアー形式で訪問し、教職員と気軽に話すことで大学の研究に触れ研究室の今を知っていただくことを目的として、不來方祭当日に実施されるオープンキャンパスの研究室公開に併せて産学連携研究室ツアーを実施した。



大交流会併催イベント

● 産学官連携プロジェクトの創出

1. 岩手県の強みである産学官が連携したオール岩手体制により、「地域イノベーション・エコシステム形成プログラム」等の大型研究プロジェクトに申請した。また、農林水産省「[知]の集積と活用場⑧」の研究開発プラットフォームを新たに立ち上げた。
2. 事業化可能性の高い研究シーズを軸に参画企業と研究開発から実証までを行う拠点「銀河オープンラボ」を開所した。また、学内外の関係者向けに「銀河オープンラボフォーラム～岩手大学発・革新的技術による地域からのイノベーション拠点～」を開催し、入居する3グループの研究シーズ紹介を行った。
3. 岩手大学とトヨタ紡織㈱は、将来のモノづくり革新に向けた生産技術力の強化を中心に連携するため、「生産技術開発を中心とした連携と協力に関する包括協定」を締結した。



銀河オープンラボ



トヨタ紡織㈱との包括協定締結



● 外部資金獲得支援

1. 外部資金公募情報を収集し、学内教員(理工学部、農学部を中心に)にメールにて情報発信し学内周知を図り、申請を促した。
2. 各教員が作成した外部資金申請書類の添削を行った。
 JST A-STEP 機能検証フェーズ:試験研究タイプ(12件申請、2件採択)、戦略的基盤技術高度化支援事業(1件採択)、いわて戦略的研究開発推進事業(2件申請)、岩手県地域イノベーション創出研究開発支援事業(8件申請、2件採択)、さんりく基金調査研究事業(7件申請、3件採択)
3. 国関係機関による個別相談会を開催し、教員等から研究内容の説明をした上で該当する公募事業の紹介や申請書作成のポイント等について助言を受け、活発な意見交換を行った。



イノベーションジャパン出展

実践領域			教育研究領域			
三陸復興部門	地域創生部門	生涯学習部門	三陸水産教育研究部門	平泉文化教育研究部門	地域防災教育研究部門	ものづくり技術教育研究部門

● 地域企業等との共同研究・受託研究の推進

1. 研究シーズについて研究者が自らの言葉でわかりやすく説明し、視聴する地域企業等がその活用方法や適用分野をより具体的にイメージできる形の動画を製作した。
2. 研究成果が使用されるシーンを想定したイメージ図を記載することなどにより、地域企業等が抱える技術課題から最適な研究者を容易に探し出せる形のシーズ集を製作した。
3. コーディネーターを中心に企業訪問を実施し、ニーズ収集と同時にシーズ紹介を行った。また、本学や自治体等が開催する地域企業向けイベントにおいてシーズ集を配布するとともに、イベントの趣旨に合致するシーズや参加企業等に関連するシーズの紹介を行った。
4. 三陸復興・地域創生推進機構と日本政策金融公庫盛岡支店及び一関支店は、本学の知見や研究成果等と中小企業等のニーズのマッチングを推進するため、「産学連携の協力推進に関する覚書」を締結した。

岩手大学公式Youtubeチャンネルにて研究シーズ公開中

URL: <https://www.youtube.com/channel/UC8ua2BprbPk5vGSMYwK1aOA>

QRコード: 岩大チャンネル



シーズ動画

▼シーズ動画



▼技術課題 HP





産学連携シーズ集

● 産学官連携ネットワーク事業の企画・運営

1. 「いわて産学連携推進協議会（リエゾン-1）」の参画研究機関等によるパネル展示やリエゾン-1 事業化育成資金贈呈企業による産学連携の取組事例など、幅広い情報を提供する機会を通じて東北地域の産学官連携を促進するため、マッチングフェア（フォーラム）を開催した。
2. 「いわて未来づくり機構」のラウンドテーブル及び企画委員会に事務局として参加した。
3. 北東北3大学3銀行提携による地域版 TLO「ネットビックスプラス」の本学における窓口として、銀行からの問い合わせへの対応、本学教員への提案（技術指導、共同研究の対応可否確認）と支援、北東北3県の産学官金連携イベント等での事業紹介を行った。



● 盛岡市産学官連携研究センター（コラボ MIU）の指定管理業務

1. コラボ MIU は、岩手大学の研究成果の企業への技術移転、新規創業支援及び研究開発型企業の誘致を推進するため、盛岡市が本学理工学部構内に設置したものであり、本学が指定管理者として、本機構の専門スタッフや試験・研究機器等のリソースを提供しながら、人的・物的に連携・機能分担して一体的に運営した。

2. 自主事業として、MIU Cafe、地域イノベーションセミナー、イノベーションセミナー、地域連携フォーラム in 盛岡を実施した。
3. 岩手大学発ベンチャーでありコラボ MIU 入居企業の㈱エイシングが、平成 30 年度大学発ベンチャー表彰において経済産業大臣賞を受賞した。



● 自治体との連携協定に基づく取組や提言の実施

1. 各地域における産学官連携の可能性について理解を深め、また、地域の様々な課題に対する具体的な取組事例を紹介する中から、地域・企業と本学との新たな連携につながる機会を模索するため、相互友好協力協定締結自治体のうち3市（盛岡市・釜石市・久慈市）において「地域連携フォーラム」を開催した。
2. 地域連携を中心とした本学のビジョンや第3期中期目標・中期計画期間における取組についての説明や意見交換を通じて相互理解を深めるとともに、地域と本学とのより広範で強い連携が図られることを目的に相互友好協力協定締結自治体との意見交換会を開催した。



● 地域課題解決プログラムの実施

1. 学生の積極的な地域社会への参画を促すため、地域社会（自治体や民間企業等）の抱える様々な課題を学生の研究テーマとして募集し、斬新な学生の視点から研究を行う「地域課題解決プログラム」を実施した。
2. 自治体等を中心に 52 件の地域課題の応募があり、本学教員からの 38 件の申請を審査した結果、29 件を採択し研究を実施した。また、年度末には、岩手県千葉副知事、保副知事参加の下、研究成果発表会を実施した。



【平成 31 年度の活動予定】

1. 地域創生モデル構築については、地域創生モデルとなり得る各部門の取組を検討会においてとりまとめ、それらの取組の見える化と普遍化を行う。
2. 組織的な産学官連携の推進については、銀河オープンラボの研究支援体制を整備し、学内外に向けて研究成果発表会やセミナーを開催する。また、重点支援研究プロジェクトを選定し、集中的に外部資金獲得の支援を行う。
3. 地域志向研究の促進については、機構の横断的プロジェクトである NEXT STEP 工房（学生による地域に関わる研究/活動プロジェクトを活性化することを目指す、地域活動/研究支援のプラットフォーム）を部門の活動に取り込み、導入のためのワークショップや成果報告会を開催する。

スポーツユニオン

スポーツユニオンは、スポーツにかかわる地域のニーズや課題に対して大学のスポーツ資源をワンストップサービスとして対応するための組織である。部活の学生やスポーツ系の教員等がイベントや研修会に学生アシスタントや講師として活動している。また、スポーツを通じた地域づくりや総合型地域スポーツクラブの育成など多岐にわたっている。特に、国や東京都などの支援を受けて、地域の体育協会や教育委員会、日本のトップアスリートのネットワークなどと連携してスポーツを通じた震災復興を進め、まさに大学におけるスポーツを通じた地域貢献活動を担っている。

活動テーマ
と
概要

- ・住民が生涯にわたりスポーツに親しむことができる環境づくり
- ・地域の団体と連携した生涯スポーツの推進及び総合型地域スポーツクラブへの支援

代表者 教育学部：鎌田 安久

担当者 人文社会科学部：浅沼 道成、栗林 徹

教育学部：上濱 龍也、清水 茂幸、澤村 省逸、清水 将

スポーツ科学等の知見を基に競技スポーツへの技術的支援や地域住民の生涯スポーツの振興に向けた取り組みを進め、岩手県全体のスポーツ環境の整備に努める。併せて、子ども達にトップアスリートと触れ合う機会を提供し、スポーツを通じて夢を与える活動を充実させる。

活動内容

● 住民が生涯にわたりスポーツに親しむことができる環境づくり

岩手県内の関係機関との協議を重ね、下記を構成メンバーとするスポーツの情報収集・発信や関係団体とのネットワーク推進、生涯スポーツ推進のコーディネーションを行うことを目的とする「いわて生涯スポーツ推進ネットワーク」を平成31年2月16日に発足させた。

○構成メンバー

【行政】岩手県、盛岡市 【スポーツ統括機関】(公財)岩手県体育協会、(一社)岩手県障がい者スポーツ協会、(特非)岩手県レクリエーション協会 【スポーツ関係団体】岩手県スポーツ推進委員協議会、岩手県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会、岩手県スポーツ指導者協議会 【スポーツコミッション】いわてスポーツコミッション、盛岡広域スポーツコミッション、スポーツリンク北上、はなまきスポーツコンベンションビューロー

【高等教育機関】いわて高等教育コンソーシアム 【産業界】(株)岩手ホテル&リゾート

【外部協力機関】(一社)アスリートネットワーク、(一社)日本アスリート会議 事務局：岩手大学スポーツユニオン

● 地域の団体と連携した生涯スポーツの推進及び総合型地域スポーツクラブへの支援

総合型地域スポーツクラブへの支援として、岩手県と共同主催で「平成30年度岩手県生涯スポーツシンポジウム」を平成30年11月17日に開催するとともに総合型地域スポーツクラブの効率的な運営を探ることを目的とした「平成30年度総合型地域スポーツクラブ支援セミナー」を平成31年2月16日に共に大学構内を会場に開催した。

● 東京2020公認プログラム Power up Japan from Tokyo2018の実施

東京2020公認プログラム Power up Japan from Tokyo2018(主催：東京都、(一社)日本アスリート会議)をスポーツユニオンが主管し、陸前高田市と岩泉町において実施し、中学生がトップアスリートと触れ合える機会と場を提供した。



活動の様子



集合写真

【平成31年度の活動予定】

前年度発足させた「いわて生涯スポーツ推進ネットワーク」を通じて、持続的なスポーツ支援体制や支援策の検討を進めて行く。併せて、先導的な取り組みを進めている総合型地域スポーツクラブの事業モデル化を進める。また、従来実施してきた東京2020公認プログラム Power up Japan from Tokyoについては、引き続き主管として事業を進めるとともに東京2020終了後に向け、東京都や(一社)日本アスリート会議との協議を進める。

アートフォーラム

岩手大学アートフォーラムは、より地域に密着し、かつ国際的な視点を持ち、北東北固有の土壌を守り、深化した芸術文化の拠点としての役割を担うため、さまざまな活動を支援する目的で立ち上げたものである。具体的には、大学と地域を密接につなぐ5つのアクションとして「交わる・学ぶ・究める・創る・広める」という活動を通し、学内外の枠を越えて、共に学ぶことにより、新たな時代を読み解き、積極的に活動提案を進めていく。

▼Face book



活動テーマと概要

- 1 いわての芸術文化活動を底上げし、牽引する人材の育成
- 2 地域住民・指導者・生徒のニーズに沿った活動を実施し、市民の芸術活動を促進
- 3 美術指導者の学び直しの場を提供

代表者 教育学部：藁谷 収

担当者 人文社会科学部：阿部 裕之、田中 隆充、玉澤 友基、木村 直弘、
本村 健太

教育学部：牛渡 克之、金澤 文緒、溝口 昭彦、平野 英史

岩手大学アートフォーラムは、アートスクール窯芸コース、版画コース、指導者研修会（塑像彫刻）、いわて美術茶話を開催した。岩手大学内にある美術施設を活用した本格的なアート活動を展開し、地域に開かれた芸術文化の学びの場としての機能拡充を目指してきた。今後も岩手大学が保有する豊富な講師陣、恵まれた施設を利用し、地域で行われる芸術活動のサポートを進める。

活動内容

● いわての芸術文化活動を底上げし、牽引する人材の育成

「いわて美術茶話」の実施。いわての美術資源を活用して美術で人と人のつながりを広げることを目的とする対話型事業。平成28年度は岩手で活躍する美術に関する人々を招いて対話を進める双方方向性のあるイベントを実施。平成29～30年度は、参加者を広げ、中高校生が参加可能な実技体験を含んだ美術茶話も開催。

▼Face book



いわて美術茶話

● 地域住民・指導者・生徒のニーズに沿った活動を実施し、市民の芸術活動を促進

「岩手大学アートスクール」の実施。地域に開かれた芸術文化の学びの場として「アートスクール」を開校。学校教育の芸術環境の補完や向上、芸術に関心を持つ社会人、加えて芸術分野専門職等の継続的な学びの機会提供など、学習・創作・交流の場を提供し、岩手の芸術文化活動を底上げ、牽引する人材を育成することを目的に実施。



アートスクール版画 2018

▼Face book



● 美術指導者の学び直しの場を提供

「美術研修会」の実施。美術の指導者を育成する場。特殊なものについては、技術の講習を受けたくても受ける機会がないことから、美術指導者の学び直しの場として美術研修会を開催し、美術指導者のさらなる技術向上を図る。特に高校の美術教員を対象に実施。

▼Face book



【平成31年度の活動予定】

地域に開かれた芸術文化の学びの場の提供として継続して「いわて美術茶話」を実施する。また、岩手の芸術文化活動を底上げし、牽引する人材の育成のため「岩手大学アートスクール」を、染織、木版画、彫刻の各分野で実施するとともに、美術指導者研究会（彫刻）を実施して事業を拡充する。今年度は、実施した事業については、参加者の満足度調査および分析を行い、今後の取り組みに反映させる。平成31年度は、生涯学習部門として活動する。

宮澤賢治センター

平成18年に発足した岩手大学宮澤賢治センターは、定例の研究会、宮澤賢治記念月例短歌会、賢治と音楽を楽しむ会などの恒常的な活動を積み重ねつつ、岩手大学と連携して「アザリアの花咲くとき 宮澤賢治と学友たち」展（2009年）、「関豊太郎と宮澤賢治 賢治が学んだ72の石たち」展（2011年）、大学出版部協会と共催して「賢治と語り合う21世紀の地域創生」（2016年）、そして賢治の盛岡高等農林卒業百周年には岩手大学農学部附属農業資料館と共催して「賢治卒業100年記念・地域創生フォーラム イーハトーブの学び舎から」（2018年）等の行事を開催してきた。

▼宮澤賢治センターHP



活動テーマ
と
概要

①宮澤賢治文学が一般市民の方々に一層親しまれるための広場づくり

②宮澤賢治文学に関する国内外の研究拠点形成

代表者 教育学部：大野 眞男

担当者 人文社会科学部：池田 成一、木村 直弘、山本 昭彦、小島 聡子
教育学部：田中 成行、佐藤 龍一

広く岩手大学における宮澤賢治への関心を集約し、賢治と岩手大学との関わりを周知し、深め、発展させることを目的として発足した「岩手大学宮澤賢治センター」は、①宮澤賢治文学が一般市民の方々に一層親しまれるための広場づくり、②宮澤賢治文学に関する国内外の研究拠点形成を目指して活動している。今年度は宮澤賢治センターへの全学からの予算が打ち切られたため、宮澤賢治センターを岩手大学人文社会科学部附属のセンターとして位置づけるための調査を新たに行った外、『賢治学』発行、定例研究会の開催、そして教養科目「宮澤賢治の世界」開講等の活動を行った。センターについては、結果的に、令和元年度4月より、「岩手大学人文社会科学部宮澤賢治いわて学センター」として発足することになった。

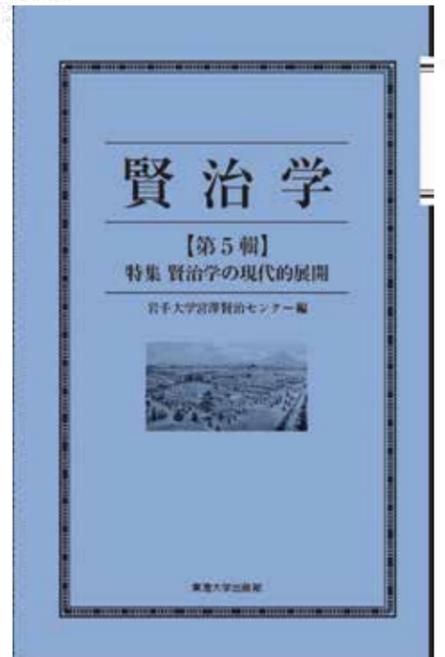
活動内容

● 定例研究会の開催

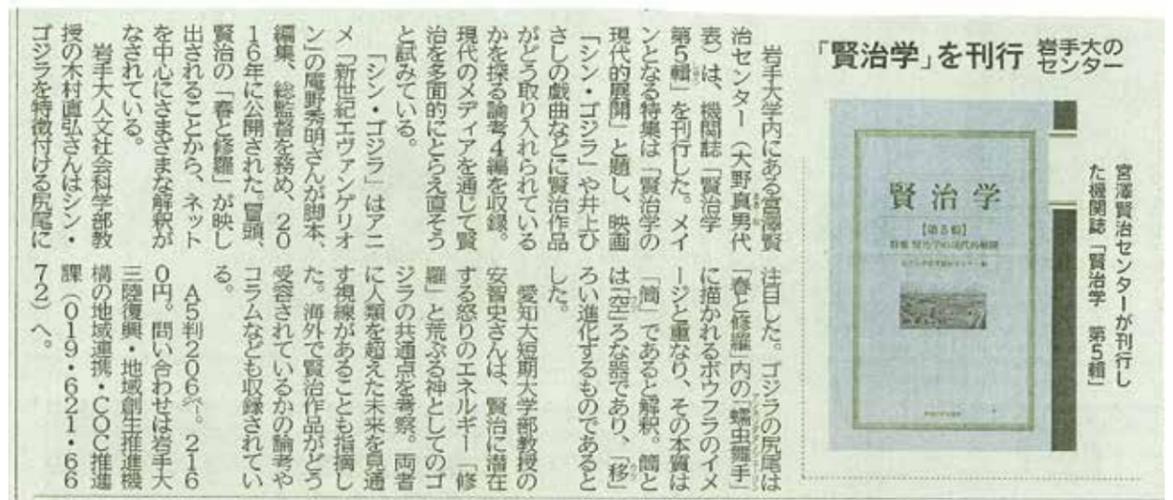
- ・平成30年度の定例研究会は、第99回（5月25日）第100回（7月20日）第101回（9月18日）第102回（11月22日）第103回（2019年1月30日）第104回（2019年3月20日）に開催され、平均で34名の参加者を集めた。
- ・平成30～32年度科研費の交付を受け、そのテーマ「宮澤賢治文学の国際的な普遍性と受容可能性に関する包括的研究」推進のため、第101回はインド・ジャワハルラル・ネルー大学から、第103回は中国・清華大学から、そして第104回はドイツ・ボン大学から、それぞれ外国人研究者を招聘した。
- ・ちなみに、第103回は教養科目「宮澤賢治の世界」と重ねることができ、結果的に、国際交流面からも、多くの受講生に大きな刺激を与えることができた。

● 『賢治学』の編集・刊行

- ・昨年度に編集を終了した『賢治学』第5輯を東海大学出版部より2018年7月31日に刊行した。内容は、第5輯に寄せて、特集「賢治学の現代的展開」（地域創生フォーラム講演1本+論考3本）、コラム「それぞれの賢治」（エッセイ1本）、宮澤賢治センター研究例会より（論考3本）、フォーラム「賢治学」（論文4本）、編集後記で、総214頁、ISBN：978-4-486-02177-3。
- ・この第5輯については、岩手日報が2018年8月31日付11面「文化欄」にて写真入りで紹介された。
- ・続いて年度内に『賢治学』第6輯を編集し終え、翌年度令和元年7月中に杜陵高速印刷出版部から刊行予定。特集は「賢治得業論文100年」。



アートスクール版画 2018



岩手日報 2018年8月31日（金） 11面 文化欄に掲載

▼賢治学 HP



【平成31年度の活動予定】

平成31年度より、岩手大学人文社会科学部の附属センターとして「岩手大学人文社会科学部宮澤賢治いわて学センター」が設置され、現在の「宮澤賢治センター」の活動等は、新センターに引き継がれます。

(3) 生涯学習部門

部門長 朴賢淑(三陸復興・地域創生推進機構 准教授)

▼生涯学習部門 HP



生涯学習部門では岩手大学の「地域社会に開かれた大学」の理念の基、公開講座、社会教育主事講習、社会人学び直しプログラムなどを開講し、地域住民を対象に様々な学びの機会を提供することで大学の教育研究の成果を社会に還元している。近年、経済のグローバル化や社会変化に伴い人々の価値観も変化しており、成人学習者の関心も身近な課題から社会的課題へと移行しつつある。こうした状況を鑑み生涯学習部門では、多様な成人学習者が「学びをほどこき、編みなおす力」、「地域で生かす力」、「学び続ける力」などを身に付け、地域活動や職業生活で役立てることによって地域の生涯学習の振興を目指している。

活動テーマ
と
概要

- 生涯学習基盤づくり
- 社会人学び直しプログラムの開発
- 地域課題セミナー（がんちゃんの学び）
- 社会教育主事養成
- 公開講座

部門長 三陸復興・地域創生推進機構：朴賢淑

部門員 人文社会科学部：浅沼道成、竹村祥子

教育学部：田代高章

理工学部：廣瀬宏一

農学部：佐藤和憲

三陸復興・地域創生推進機構：朴仙子

生涯学習部門では学内外との連携による生涯学習プログラムの開発に重点を置きながら、地域住民のニーズを反映した社会人学び直しプログラムの開発を中心に行った。また、岩手大学が進めるべき社会人学び直しプログラムのあり方を検討するために、シンポジウムの開催をととして岩手大学の取り組みを全国に発信することができた。

活動内容

● 生涯学習基盤づくり

学内で開講している全ての社会人向けに講座（公開講座含む）をまとめてリーフレットを発行した。また、1年の事業の成果を報告書にまとめることで、岩手大学における生涯学習支援体制を整備し、生涯学習における岩手大学の成果をより広く周知することができた。

また、北東北三県の教育委員会、秋田大学、弘前大学の生涯学習担当者と協議を重ねることで北東北三県における生涯学習支援のネットワークを構築することができた。



平成30年度 生涯学習部門 成果報告書



公開講座リーフレット

● いわてアグリフロンティアスクールとの連携事業

昨年度に引き続き、アグリフロンティアスクールの受講者を対象にコンピューター講座を実施した。当講座は、ハード面やソフト面に関する基礎知識を身に付けさせることを目的に行ったものである。具体的には、マウス・キーボードなどの基本的な操作、Word、Excelを使った文章の作り方を身に付けさせることで、まず受講者にコンピューターに慣れてもらうことに重点を置いた。今年度は5名が受講しており、いわてアグリフロンティアスクールのコース授業が始まる前に基礎知識を身に付ける補足講義を設けることができた。

なお、「いわてアグリフロンティアスクール」の受講生全員を対象に例年行われている授業評価のアンケートに加え、生涯学習ニーズのアンケート調査を行った。

● 社会人学び直しプログラムの開発

毎月部門会議を開催し、4学部からの部門員と共に地域ニーズにあった新たな社会人学び直しプログラムの開発のために調査・研究を行った。

また、平成28年度から始めた社会人学び直しシリーズの「がんちゃんの学び」を実施した。今年度は「地域」、「グローバル」、「アート」、「高齢者」、「子ども」をキーワードに開講することで、地域住民の学習ニーズを確認すると共に、受講者に地域課題を再考し、解決策を共に考える機会を提供することができた。

さらに、従来の公開講座の広報の仕方を検討するとともに、公開講座担当教員にインセンティブ経費を配分する際の評価指標を再検討することで、社会人学び直し講座への支援体制を構築した。

● 社会人学び直しシンポジウムの開催

部門事業の主な柱の一つとして社会人学び直しプログラムの開発を掲げており、平成30年度は共通の課題を抱えている東アジアを対象に調査研究を進めた。そこで、国際シンポジウム「東アジアの大学における社会人学び直し」を開催し、文部科学省による政策の動向を踏まえ、大変革の時代のなかでの東アジアの各大学における社会人受け入れの政策的取り組みと現状についてご報告いただき、国際的視点から大学における社会人教育の可能性について議論し、岩手大学の社会人の受け入れについて検討した。

シンポジウムでは、全国から参加した大学関係者と大学における社会人学び直しの政策の動向及び現状と課題を共有するとともに、ネットワークづくりができた。



社会人学び直しシンポジウムの様子



社会人学び直しシンポジウムポスター

● 地域課題セミナー「がんちゃんの学び」の開催

生涯学習部門では、地域の課題を地域住民と共有し、共に解決策を見出すために毎年企画講座「がんちゃんの学び」(シリーズセミナー)を開講している。今年度は「地域」、「グローバル」、「アート」、「高齢者」、「子ども」をキーワードに5つのシリーズ、16講座を開講している。各シリーズでは、国の政策を踏まえた上で、さらに、受講者との意見交換を通して地域課題について再確認することができた。また、当講座を通して成人教育の視点から大人が学んだものを実践に結び付けていくための条件とは何かについて検討を行った。

セミナーは平成30年9月から平成31年2月にかけて実施しており、合計140名受講した。



講義の様子

● 社会教育主事養成

生涯学習部門では、地域の社会教育の担い手となる専門的職員—社会教育主事の養成を行っている。文部科学省の委託事業である社会教育主事講習は、北東北の岩手県・青森県・秋田県の学習者を対象に岩手大学、弘前大学、秋田大学が持ち回りで開講している。

平成30年度は岩手大学が主催校となり、各大学、各県の教育委員会と連携を取り、学内外の教員の協力のもとで実施した。なお、講習は4週間の集中講義の形式で、4科目(9単位)開講した。

・実施期間：2018年7月17日～8月9日

・開講科目：生涯学習概論、社会教育計画、社会教育演習、社会教育特講

・参加者数：49名(青森7名、秋田12名、岩手30名)



演習の様子

● 公開講座の実施

生涯学習部門では地域に密着した社会貢献を目指しており、大学の研究成果を広く社会に還元するため全学で開講する公開講座を取りまとめ、実施経費の支援、受講者募集、成果報告を行っている。平成30年度も学内公募を通して、「自然観察・牧場体験」、「獣医学」、「農学」、「スポーツ」、「地域」、「理工学」など幅広い分野の19講座を開講することができた。また講義の質向上のため講習終了後受講者にアンケート調査を行うと共に授業担当者には活動報告書を提出してもらった。アンケート調査の結果及び活動報告は、平成30年度生涯学習部門成果報告書を参照されたい。なお、平成30年度開講したの公開講座一覧は下記の表の通りである。



講義の様子



▼公開講座HP

講座名	開催日時	対象者	開催人数	受講料	講義概要
フィールドセミナー 春の植物観察会	2018年6月3日(日) 10:00~12:30	市民一般	15人	無料	海浜自然公園内での自然観察会。開講者から送った春の植物の観察と森林管理についての講話を通して、理解を深めていただきます。
哲学系 内山 龍 氏を招いての 第13回「哲学の森」	2018年6月18日(土)~19日(日) 18日/13:30~17:00 19日/8:30~12:00	市民一般 (高校生以上)	30人	無料	海浜自然公園に哲学系内山龍氏をお招きし、森の中でこれからの社会や地域づくりのあり方などについて講話いただくことに、森林観察・意見交換の機会を設け、様々な考えを深めていただきます。
牧場体験「牛の誕生?トラクタに乗ろう」	2018年9月22日(土)~23日(日) 22日/13:00~23日/13:30	小学生以上の親子	25人	1,100円	岩手大学畜産部牧場で、牛の分娩を観察、畜産体験を体験し、畜産への理解、関心を持っていただきます。
フィールドセミナー ウォッチングペンギンしながら親子で楽しむ秋の森	2018年11月18日(日) 9:30~12:30	市民一般	20人	無料	海浜自然公園でウォッチングペンギンしながら秋の森の観察、生き物、虫、鳥などを観察するセミナーを開催し、秋の森の様子、生き物の様子について理解を深めていただきます。
かんじきをはいて冬の森を歩こう	2018年12月17日(日) 13:00~15:30	市民一般	20人	無料	かんじきをはいて冬の海浜自然公園を散策し、自然観察・アニマルウォッチングなどを行います。冬の森林と新しい心を通じ、森林保全に努める理解の深化を図ります。
フィールドセミナー 春をむかえる森をみる	2019年3月24日(日) 9:30~12:00	市民一般	20人	無料	海浜自然公園で春をむかえる森の生きものを観察し、春をさえる森の様子、生き物の様子について理解を深めていただきます。
半日獣医学生体験 ~獣医学科はどんな勉強をするところ?~	2018年6月7~8日の土曜日 または日曜日予定 13:00~16:00	中・高校生、市民一般	100人	無料	基礎系、臨床系、応用系の科目の概観を説明し、中高校生にもわかりやすく説明します。また、実験の現場を見ていただけるように、事前に行うことの出発点(基礎系)や肉質検査(臨床系)などのフィールドツアーを実施します。
農学部5学科(植物生命科学科・応用生物化学科・森林科学科・食料生産環境科学科・動物科学科)の実験講座	2018年6月30日(土) 13:00~17:00	高校生および高校教員	80人	無料	本講座を通して、教員層では得られない知識・実験の面白さや、学生への興味と関心をもってもらうと同時に、それぞれの進路の参考になることを期待します。
岩大スポーツアカデミー 2018 コーチのためのサッカーC	2018年7月~9月 9:00~18:00	18歳以上 (高校生未満)	30人	12,000円 (別途 教材費あり)	サッカーの指導者として小学生の指導者を目指す方に対して、サッカーの指導・指導者としてのサッカーに関する幅広い知識を習得し、指導者としての指導力向上を図ります。また、本講座を終了し、資格検定試験に合格し指定の指導者として活躍したい方は、岩大サッカー協会より、岩大サッカー協会に所属し、指導者としての指導力向上を図ります。
岩大スポーツアカデミー 2018 コーチのためのサッカーD	2018年2月を予定 9:00~18:00	18歳以上 (高校生未満)	30人	7,000円 (別途 教材費あり)	サッカーの指導者として小学生の指導者を目指す方に対して、サッカーの指導・指導者としてのサッカーに関する幅広い知識を習得し、指導者としての指導力向上を図ります。また、本講座を終了し、資格検定試験に合格し指定の指導者として活躍したい方は、岩大サッカー協会より、岩大サッカー協会に所属し、指導者としての指導力向上を図ります。
岩大スポーツアカデミー 2018 少年少女のためのバスケボール	2018年1月8~9日 18:17:00~18:00 2、3日 16:00~18:00	小学生~6年生	30人	無料	バスケットボールを習い、学びたい少年少女に対して、レベル・目的に合わせたプログラムを提供し、習得の向上を図ります。
岩大スポーツアカデミー 2018 少年少女のための陸上競技	2018年1月~2月を予定 9:30~12:00	小学生~6年生	100人	無料	陸上競技を習い、学びたい少年少女に対して、基本技術の習得と指導者としての指導力向上を図ります。
地域政策入門 一生活と経済・環境	2018年7月28日(土) 13:30~16:30	高校生、市民一般	50人	無料	最新の地域政策に関する各方面の最新情報を紹介し、広く本講座を聞いていただくことを目的として開催します。本講座も地域政策に関するテーマを設定し、法学・経済学・環境学の3分野から知識を提供します。
あなたは下戸(げ)?それとも寝坊(うぼけ)? ~DNA鑑定を用いた実験教室~	2018年度秋の週末(1日)を予定 10:00~17:00	市民一般 (高校生以上)	8人	無料	ヒトのDNA(遺伝子)に関する部分は遺伝子によって決まっており、PCR(ポリメラーゼ連鎖反応)法を用いてDNAを複製し、分析するというDNA鑑定法により、アルコールを飲まなくても、強い匂い(かき)を知ることが出来ます。本プログラムでは、参加者の個人DNAのPCRで分析し、分析結果を通じて、生命科学の基礎知識がどのように応用されているかを体験していただきます。PCR(遺伝子)を用いた科学的な実験を通して、主に基礎的な分野に焦点を当てつつ、最新の研究成果をわかりやすく説明します。また、講演に引き続き、二つトリプルDNA鑑定も行います。本講座は大館市カメリアホールを会場に、子供から大人まで幅広い世代を対象に開催します。
ニトリ匠を用いた研究は、ライフサイエンスに、どのような貢献をしてきたか(ニトリ初期話の観察会)	2018年8月25日(土) 予定 11:00~12:30 予定	市民一般	30人	無料	

公開講座一覧

● 共同研究員懇談会

盛岡市、久慈市、塩釜市では地元企業と岩手大学の共同研究を促進するため、岩手大学三陸復興・地域創生推進機構に共同研究員を派遣している。生涯学習部門では、派遣された共同研究員と連携体制を構築し、各市町村における社会教育・生涯学習支援体制を図るため、共同研究員と懇談会を開催した。懇談会をとおして各市町村の社会教育行政および施設に関する情報を共有し、地域との連携を試みた。

【平成31年度の活動予定】

1. 市町村との連携の下で、地域のニーズに合った新たな社会人学び直しプログラムを開講する。
2. 事業の成果をセミナーの開催、学会での発表、報告書にまとめるなどで情報発信する。
3. 北東北三県の大学・社会教育担当者との連携を取りながら、遠隔教育システムの導入を視野に入れた生涯学習プログラムの開発研究を行う。
4. 企業・NPO・行政などとの連携を通じた地域人材の育成の可能性を検討する。
5. 社会教育施設職員の質向上のため、岩手県教育委員会、岩手県立生涯学習推進センターとの連携を通して、社会教育・生涯学習関係者を対象にフォローアッププログラムの開発に着手する。

会場	期日	8:30~10:20	10:30~12:00	12:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50	
岩手大学 一合会館 2階 大会議室	7月17日(火)	開講式					社会教育と生涯学習 岩手大学 林 智哉 准教授 (生涯学習概論)
	7月18日(水)	社会調査の倫理と方法 岩手大学 丸山 和昭 准教授 (社会教育特講)	社会教育演習 新妻・浅沼・朴				
	7月19日(木)	生涯学習と学校教育 岩手大学 新妻 二喜 名譽教授 (生涯学習概論)	生涯学習と学校教育 岩手大学 新妻 二喜 名譽教授 (生涯学習概論)	生涯学習の意義 山形大学 安藤 謙己 准教授 (生涯学習概論)	生涯学習の意義 山形大学 安藤 謙己 准教授 (生涯学習概論)	社会教育演習 新妻・浅沼・朴	
	7月20日(金)	社会教育における評価 山形大学 安藤 謙己 准教授 (社会教育特講)	社会教育における評価 山形大学 安藤 謙己 准教授 (社会教育特講)	社会教育演習 新妻・浅沼・朴	社会教育演習 新妻・浅沼・朴	社会教育演習 新妻・浅沼・朴	
	7月23日(月)	生涯学習と地域スポーツ 岩手大学 海沼 清成 教授 (社会教育特講)	生涯学習と地域スポーツ 岩手大学 海沼 清成 教授 (社会教育特講)	手取文化と古代中国 岩手大学 新妻 二喜 名譽教授 (社会教育特講)	社会教育事業計画 東北大学 高橋 謙 教授 (社会教育特講)	社会教育事業計画 東北大学 高橋 謙 教授 (社会教育特講)	
	7月24日(火)	社会教育事業計画 東北大学 高橋 謙 教授 (社会教育特講)	社会教育事業計画 東北大学 高橋 謙 教授 (社会教育特講)	社会教育演習 新妻・浅沼・朴	社会教育演習 新妻・浅沼・朴	社会教育演習 新妻・浅沼・朴	
	7月25日(水)	職業復興と行政の役割 岩手大学 玉城 壮平 教授 (社会教育特講)	社会教育演習 新妻・浅沼・朴	学校外教育論 弘前大学 深作 祐樹 講師 (生涯学習概論)	学校外教育論 弘前大学 深作 祐樹 講師 (生涯学習概論)	学校外教育論 弘前大学 深作 祐樹 講師 (生涯学習概論)	
	7月26日(木)	生涯学習とスポーツにおける運動学習 岩手大学 藤田 明子 准教授 (社会教育特講)	社会教育施設としての「遊園地」 岩手大学 藤田 明子 准教授 (社会教育特講)	地域社会と社会教育 弘前大学 松本 大 准教授 (社会教育特講)	地域社会と社会教育 弘前大学 松本 大 准教授 (社会教育特講)	地域社会と社会教育 弘前大学 松本 大 准教授 (社会教育特講)	
	7月27日(金)	社会福祉と社会教育 岩手県立大学 櫻 幸典 准教授 (社会教育特講)	社会福祉と社会教育 岩手県立大学 櫻 幸典 准教授 (社会教育特講)	生涯学習推進事業の動向 文科省 新妻・浅沼・朴	社会教育演習 新妻・浅沼・朴	社会教育演習 新妻・浅沼・朴	
	7月30日(月)	国際理解教育と生涯学習 岩手大学 早中 夏希 教授 (社会教育特講)	国際理解教育と生涯学習 岩手大学 早中 夏希 教授 (社会教育特講)	ジェンダーと社会教育 立教大学 前田 穂子 教授 (社会教育特講)	ジェンダーと社会教育 立教大学 前田 穂子 教授 (社会教育特講)	社会教育演習 新妻・浅沼・朴	
	7月31日(火)	ジェンダーと社会教育 立教大学 前田 穂子 教授 (社会教育特講)	ジェンダーと社会教育 立教大学 前田 穂子 教授 (社会教育特講)	生涯学習と社会教育施設 秋田大学 原 海彦 教授 (生涯学習概論)	生涯学習と社会教育施設 秋田大学 原 海彦 教授 (生涯学習概論)	生涯学習と社会教育施設 秋田大学 原 海彦 教授 (生涯学習概論)	
	8月1日(水)	社会教育と市民社会 岩手大学 林 智哉 准教授 (社会教育特講)	生涯学習と市民社会 岩手大学 林 智哉 准教授 (社会教育特講)	社会教育施設の経営 岩手県教育委員会 (社会教育特講)	社会教育施設の経営 岩手県教育委員会 (社会教育特講)	社会教育演習 新妻・浅沼・朴	
	8月2日(木)	岩手県子ども支援センター 山形 理恵 理事長 (社会教育特講)	岩手県子ども支援センター 山形 理恵 理事長 (社会教育特講)	社会教育演習 新妻・浅沼・朴	社会教育演習 新妻・浅沼・朴	社会教育演習 新妻・浅沼・朴	
	8月3日(金)	青少年国際社会教育 岩手県南上市教育委員会 上原 裕介 スカウトリーダー (社会教育特講)	社会教育演習 新妻・浅沼・朴				
	8月6日(月)	生涯学習と社会教育職員 岩手大学 林 智哉 准教授 (社会教育特講)	社会教育演習 新妻・浅沼・朴	生涯学習と教育制度 東北大学 青森 武博 准教授 (社会教育特講)	生涯学習と教育制度 東北大学 青森 武博 准教授 (社会教育特講)	社会教育演習 浅沼・朴	
	8月7日(火)	社会教育演習 浅沼・朴	社会教育演習 浅沼・朴	社会教育演習 浅沼・朴	社会教育演習 浅沼・朴	社会教育演習 浅沼・朴	
8月8日(水)	社会教育演習 新妻・浅沼・朴	社会教育演習 新妻・浅沼・朴	社会教育演習 新妻・浅沼・朴	社会教育演習 新妻・浅沼・朴	社会教育演習 新妻・浅沼・朴		
8月9日(木)	社会教育演習 新妻・浅沼・朴	社会教育演習 新妻・浅沼・朴	閉講式				

平成30年度 社会教育主事講習日程表

実践領域			教育研究領域			
三陸復興部門	地域創生部門	生涯学習部門	三陸水産教育研究部門	平泉文化教育研究部門	地域防災教育研究部門	ものづくり技術教育研究部門

(4) 三陸水産教育研究部門

部門長 田中 教幸（農学部教授）



三陸水産教育研究部門は、三陸水産研究センターが担当する研究開発と大学教育による人材育成を主なミッションとする。平成28年度に開講された農学部食料生産学科水産システム学コースの学生教育を行うとともに、生産から加工、流通、販売システムモデルの構築を目指し、そのノウハウの普及と継続的なインベーションの基盤設備に取り組む。

① 増殖分野

活動テーマと概要

岩手県沿岸における水産資源の持続的利用と新たな漁業生産体制構築を目指した東日本大震災からの復興支援

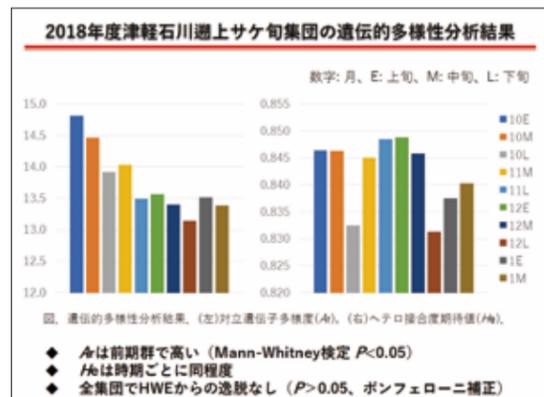
代表者 農学部：後藤 友明
担当者 人文社会科学部：竹原 明秀、寺崎 正紀
 教育学部：梶原 昌五
 理工学部：伊藤 歩、石川 奈緒、松林 由里子
 農学部：平井 俊朗、石村 学志、伊藤 幸男、後藤 友明、濱上 邦彦、塚越 英晴
 三陸水産研究センター：北村 志乃
 三陸復興支援課：田村 直司

学術・地域貢献・人材育成を通じた三陸における持続的な水産産業の達成に増殖分野から貢献することを目的として、資源の持続的利用と新たな漁業生産体制の構築を主要なテーマとして活動を行っている。資源の持続的利用では、サケ・マスを代表する主要な三陸の漁業資源を対象として、資源学、生態学、集団遺伝学的なアプローチに基づき三陸における資源特性や東日本大震災以降の動向を把握している。新たな漁業生産体制の構築では、三陸で営まれている漁業や養殖業を対象として、持続的な漁業生産構造の達成に必要な資源管理技術や増殖技術について現状の分析に基づいて現状評価と問題解決に向けた研究を行っている。

活動内容

● 岩手県沿岸河川に遡上するサケの遡上全期にわたる遺伝特性分析

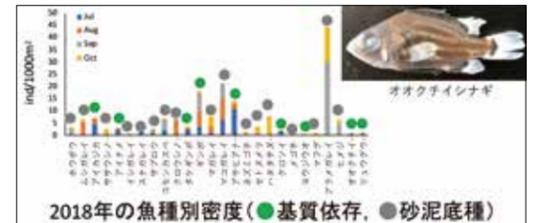
サケ（シロザケ、*Oncorhynchus keta*）は三陸における重要な水産資源であるが、原因不明の回帰資源の減少が続いており、喫緊の課題となっている。岩手県のサケに関する遺伝学的分析はほとんど行われておらず、遺伝的要因の資源変動への影響を把握する必要がある。そこで、県下の遡上尾数を誇る津軽石川（11月以降の後期群主体）と安家川（10月までの前期群主体）をモデル河川として遡上時期を網羅した遺伝特性分析を行っている。平成30年度の津軽石川の結果においても10月下旬と11月上旬



の間に遺伝的分化がみられ、多様性は前期群で高かった（平成27-29年度までの結果と同様）。一方で安家川に関しては、多様性は前期群が後期群より高かったほか、旬ごとに分化している可能性があった。遺伝特性分析の結果は過去の卵移植の影響を受けていると考えられることから、卵移植の歴史を考慮しながら分析を続けていく。

● 東日本大震災後の三陸沿岸域における魚類相と主要魚種の加入動態把握

東北マリンサイエンス拠点形成事業を活用し、岩手県水産技術センターとの共同により野田湾と大槌湾で湾奥砂浜域での魚類採集調査を行い、震災以前を含む過去のデータとの比較から魚類相の特徴を明らかにし、その動向を調べた。大槌湾では、これまで東北地方太平洋沖地震津波に起因する魚類相の変化が認められてきたが、2018年調査ではアマモ場に依存する魚種の回復がみられ、津波攪乱の影響は小さくなっていった。2018年の主要魚種の加入水準は、ヒラメ当歳魚では野田湾で少なめであったのに対して大槌湾では多めであった。これに対して大槌湾におけるマコガレイ当歳魚は少なめであった。



● クロマグロ小型魚漁獲抑制試験

定置網揚網プロセスを活用したクロマグロ小型魚漁獲抑制試験を行い、平成29年度に日東製網株式会社、有限会社泉澤水産、岩手県水産技術センター、水産研究教育機構、東京海洋大学からなる研究チームでクロマグロと他の魚種を分離可能な分離落網を開発してその効果を把握した。その結果、本漁具改良により比較的高いクロマグロの分離効果が期待できることが示された。また、定置網揚網中の魚群行動観察から、クロマグロは他魚種よりも浅い層で単独の魚群を構成していることが示され、揚網過程終盤での網沈下が効果的であることが示唆された。平成31年度は再び水産庁による補助事業が採択され、さらに効果の高い放流技術の確立と成果の一般化に向けた試験を実施することとしている。



● 外来種ヨーロッパザラボヤに関する基礎生物学的研究

三陸における貝類養殖に深刻な影響を及ぼす外来種ヨーロッパザラボヤを対象として、フィールド調査と飼育試験に基づいて成長、成熟、産卵特性の評価を行った。フィールド試験から、本種は初期成長後、2ヶ月程度で最初の産卵期を迎えた後水温低下に伴い卵密度が低下するが、水温上昇に伴い再び成熟を開始した。産卵行動は成熟卵密度に依存して変化し、卵密度が一定の範囲内では水温刺激に誘発されるが、それを上回ると刺激を要せず行われると考えられた。また、複数個体間で連鎖的に産卵することにより繁殖の成功率を高めていることが示唆された。これらの成長、成熟および産卵特性は、本種が移入先で侵略的外来種として旺盛な再生産を行う特性を裏付けていると考えられる。



【平成31年度の活動予定】

- 1 資源の持続的利用
 - (1) サケ類資源の持続的利用のための三陸岩手サケの生物特性の研究
 - (2) 沿岸漁業資源生態学的研究
 - (3) その他研究、湾内磯根資源の持続的利用など
- 2 水産資源増殖の高度化による新たな漁業生産体制の構築
 1. クロマグロ小型魚漁獲抑制試験
 2. マボヤ人工種苗生産に関する研究
 3. 外来種ヨーロッパザラボヤの生態に関する研究
 4. アカモクの持続的利用と種苗生産技術開発
 5. 東日本大震災後の漁業復興に関する研究

② 養殖分野

活動テーマ
と
概要

- ① 三陸沿岸域に適合しうる陸上養殖システムの開発
- ② 三陸沿岸域に適合しうる新規養殖対象種の開拓
- ③ ①、②を通じた、岩手大学学部生・大学院生の実地型教育と地元産業界への啓発活動

代表者 農学部：平井 俊朗
担当者 教育学部：梶原 昌五
 理工学部：伊藤 歩、石川 奈緒、松林 由里子
 農学部：伊藤 幸男、後藤 友明、濱上 邦彦、塚越 英晴
 三陸水産研究センター：佐藤 琢哉
 三陸復興支援課：田村 直司

海面漁業生産を補完しうる市場競争力を持った陸上養殖技術確立のための研究の端緒として、生食可能な海産サーモンとして希少性の高いサクラマス（サクラマス）の陸上養殖試験を実施した。また、地域企業との連携のために設立された「次世代陸上養殖システムによるフィッシュファクトリー創造プラットフォーム」（釜石プラットフォーム）に参画し、研究開発事業設立に向けた活動を行った。特にその一環として、岩手と同様にサーモン養殖による地域創生を目指す複数の地域と連携して「ご当地サーモン」をテーマとした全国規模のシンポジウムを開催した。さらに、かつて釜石地域を中心に展開されていたチョウザメ（キャビア）養殖復活に向けて、その基盤となる種苗安定生産に関して地元有志企業と共同研究を本格化させた。以上の様に魚類養殖による地域イノベーションに向けた基盤形成を着実に進展させている。

活動内容

● サクラマス海水養殖試験

前年度海水飼育した岩手系サクラマスの中で成長の良い個体を県内水面水産技術センターに移送し、これを親魚として次世代を作出し、優良系統作出に向けた育種研究を開始した。新たに岩手系ならびに近畿大学富山系サクラマスを移入し、海水飼育試験を継続中であり、富山系については次年度初頭に地元外食事業者（ヒカリ食堂）との連携により、試食メニュー開発による市場性評価を実施予定である。加工・マーケティング分野との共同で肉質評価研究のための予備試験を実施し、学会発表2件を行った。

● ニジマス（トラウトサーモン）海水養殖試験

国内におけるサーモン養殖に関する機運の高まりの中で、ギンザケに替わる養殖対象種として期待されているニジマスについて、開発が待望されている海水養殖高適合性種苗の開発に向けて、北海道大学、岩手県内水面水産技術センターとの共同研究により、降海型ニジマス（スチールヘッド）と関連系統の海水飼育試験を開始した。これをもとに来年度、岩手県事業としてニジマス優良系統作出に関する共同研究の開始が内定した。宮崎大学、宮崎県水産試験場との共同で、宮崎県保有の高温耐性系ニジマスの海水飼育試験を開始した。

● 高濃度酸素溶解装置による養殖生産性向上に関する基礎研究

株式会社巴商会との共同研究の下、平成30年度さんりく基金調査研究事業助成金に応募・採択され、当該研究を実施した。サクラマスならびにニジマスを用いて、密度ほかの飼育条件が水質ならびに魚体の生理状態に及ぼす影響について調査し、高濃度酸素溶解装置による高密度飼育（生産性向上）の可能性を検証した。当初期待していた成長促進効果は確認できなかったが、陸上養殖高度化に向けて今後研究すべき問題点を明らかにすることが出来た。これを受けて次年度に後継課題によるさんりく基金基金調査研究事業助成金応募を目指す。これらの成果により、学会発表1件を行った。

● 新規養殖対象魚の開発（サケマス類）

岩手県内水面水産技術センターとの共同研究により、成熟による養殖魚の肉質低下防止策としてサクラマス不妊化処理（3倍体化）魚の作出を試みたが、十分な成績を残せなかった。今後、さらに処理条件等の検討を継続する。また、ニジマス等でも3倍体魚の海水飼育特性の検証を行う予定である。北海道大学水産学部との共同研究により、新たな養殖魚としてのサケ科雑種魚の可能性を検証した。今年度はサクラマス×シロザケの雑種について海水飼育試験を実施し、雑種魚はシロザケ（母方）と同様に孵化後数ヶ月の時点で完全に海水適応できることが明らかとなった。またシロザケ2倍体と比較して有意に高い成長性が確認された。現在、飼育試験を継続中で今後、学会発表、論文投稿を目指す。

● 新規養殖対象魚の開発（チョウザメ）

近年、国内各地でチョウザメ（キャビア）生産とそれを基にした地域振興に注目が集まっていることから、清水川養鱒場（八幡平市）、岩手県内水面水産技術センター、北海道大学との共同で、チョウザメ種苗生産に向けた共同研究を開始した。清水川養鱒場所有のアムールチョウザメ雌魚から震災後初めてチョウザメ稚魚の生産に成功した。ただ、雌親魚から得られた卵の卵質が不良であったため、孵化率、正常発生率ともに十分とは言えず、次年度の種苗生産に向けて雌親魚の養成条件の再検討を行うこととした。また、熟練技能者の経験に負うところが大きい卵質評価の自動化に向けて、情報科学分野の研究者との連携を進め、外部資金獲得を目指すこととした。

現在までの
取り組み状況①

親魚候補選定作業
（清水川養鱒場）



チョウザメ親魚候補（アムールチョウザメ）

成熟確認のため針を刺して卵採取（2018.4.26）

チョウザメは数年に一度しか産卵しないため、卵巣組織の一部を取り出してその年に産卵可能な雌を選別する。

現在までの
取り組み状況②

人口排卵誘導・
採卵・人工授精
（清水川養鱒場）



採卵作業（2018.5.22）

飼育中の稚魚（全長約5cm）（2018.8.10）

国内の養殖環境では自然産卵はほぼ起こらないため、**ホルモン投与**による排卵誘起が重要となる。また、孵化後数ヶ月は稚魚の死亡率が高いためこの時期の**育成技術の確立**（初期餌料など）も重要である。

実践領域			教育研究領域			
三陸復興部門	地域創生部門	生涯学習部門	三陸水産教育研究部門	平泉文化教育研究部門	地域防災教育研究部門	ものづくり技術教育研究部門

● 複合養殖システムに向けた研究

近年各地で注目されている、農業廃棄物を利用した磯焼け対策駆除ウニの畜養の岩手県における可能性を探るべく、(社)岩手県栽培漁業協会 種市事業所より放流規格外ウニ種苗の提供を受け、野菜くず給餌による予備試験を行った。約1年間の飼育試験の結果、野菜くずなどの家庭残菜のみでウニは成長し、可食部である生殖巣も発達することが確認された、また同じ水槽に同事業所より分与を受けた放流規格外稚ナマコを混養したところ、ウニの排泄物を摂餌して、成長することが確認された。

● 地域固有の立地条件を活かしたシーズ開拓

地域固有の立地条件を活かしたシーズ開拓研究として、岩手大学演習林(滝沢、御明神)におけるサケマス類繁殖(育種)関連教育・研究施設整備、三陸沿岸域における海面養殖実習施設設置、の可能性について、岩手大学農学部寒冷フィールドサイエンス教育研究センターならびに新おつち漁協との折衝を行った。残念ながら、両所とも現状ではクリアできない問題点があるため、実習施設設置には至らなかった。今後、釜石プラットフォームの参加団体とも協議をしながら、他の候補地について調査、折衝を継続することとなった。

● 地域振興型水産関連教育研究施設の全国連携に向けた取り組み

地域企業との連携のために設立された、「次世代陸上養殖システムによるフィッシュファクトリー創造プラットフォーム」(釜石プラットフォーム)に参画し、研究開発事業設立に向けた活動を行った。サケマス類海水養殖による地域の新たな水産業態創生に取り組んでいる研究機関(近畿大学、宮崎大学、北海道大学、金沢大学ほか)との産地間連携に向けた共同研究へと結びつけるべく、意見交換を行った。前年度の近畿大学に続いて、宮崎大学、北海道大学、愛媛大学、九州大学の養殖関連研究者を釜石プラットフォーム勉強会に招聘した。さらにご当地サーモンシンポジウム(下述)を主催し、サーモン養殖に係わる幅広い分野の交流を推進した。

● サーモン養殖に関する全国シンポジウム主催

農研機構・生研支援センター「革新的技術開発・緊急展開事業(うち技術開発・成果普及等推進事業)」に採択され、岩手大学復興祈念銀河ホールほか(4会場中継;参加者総数約200名)において、シンポジウム「国内サーモン養殖による地域振興に向けた課題と展望～地域発サーモン養殖を支える研究開発の方向性～」を開催した。地域振興の観点からご当地サーモンに注目し、生産事業者(成魚育成、種苗供給)のみならず、関連する加工・流通事業者、さらにはサーモン養殖による地域振興を検討している団体などが一堂に会し、生産現場の抱える問題点とその解決に向けた展望と、今後、大学や試験研究機関が担うべき研究開発の方向性を議論した。事業報告書を作成し、特集記事を業界誌、月刊養殖ビジネスに掲載した。



盛岡メイン会場
(復興祈念銀河ホール)

NTTドコモ協力(ネット会議システム)活用により
3サテライト会場(盛岡、函館、延岡)に相互配信



基調講演
国内サーモン養殖による地域振興に向けた課題と展望
～地域発サーモン養殖を支える研究開発の方向性～
全国養殖振興協議会・小堀会長



ポスターセッション
(銀河ホール2Fホール)

26演題(連携支援関連2件、養殖生物関連6件、養殖施設関連6件、養殖事業関連5件、食品関連6件、経営関連2件)
広範な分野の関係者が一堂に会して新たな連携の契機に!



NTTドコモ
一次産業支援技術展示ブース

● 岩手大学学部生・大学院生の実地型教育と地元産業界への啓発活動

本年度9月の水産システム学コース一期生釜石移行に際して、増殖分野との協同の下、卒業研究の一環として三陸沿岸域の増養殖関連事業者への見学・実習を行った。養殖分野としては、平井研究室配属学生4名が宮崎大学との共同研究の一環として、唐丹漁協片川ふ化場にてシロザケ採卵・人工授精作業に従事した。将来的な釜石独自開講カリキュラムの候補とすべく、漁協との交渉を開始した。また、釜石プラットフォームの養殖事業勉強会に関連分野の学外講師4名を幹旋し(上記)、平井研究室配属学生4名に聴講させた。さらに生研センター革新的技術開発・緊急展開事業(うち技術開発・成果普及等推進事業)によるご当地サーモンシンポジウム(上述)を主催し、平井研究室配属学生4名にもその運営に参画させ、関係者との意見交換を行わせた。

【平成31年度の活動予定】

- ① 三陸沿岸域に適合しうる陸上養殖システムの開発
- ② 三陸沿岸域に適合しうる新規養殖対象種の開拓
これまでの研究活動を継続するとともに、新規研究シーズの探索を行う。
- ③ 岩手大学学部生・大学院生の実地型教育と地元産業界への啓発活動
釜石キャンパスにおける農学部水産システム学コースの専門教育(卒業研究ほか)本格化し、釜石キャンパス開講科目の実現に向けて注力する。
研究成果の事業化による地域創生に向けて、釜石プラットフォーム会員団体との連携を加速させ、外部資金獲得を目指す。

③ 加工・マーケティング分野

活動テーマ
と
概要

- ①水産物をベースにした高付加価値化・機能性食品の開発
- ②特定の三陸漁業者を対象としたワークフロー・バリューチェーン最適化実証実験と汎用性ある水産業6次産業化モデルの構築
- ③三陸ブランドの海外展開と次世代養殖を基軸とした6次産業化
- ④研究活動を通じた岩手大学学部生・大学院生の実地型教育と地元産業界への啓発活動

代表者 農学部：田中 教幸
担当者 人文社会科学部：田中 隆充、横山 英信
 理工学部：高木 浩一、萩原 義裕、廣瀬 宏一、船崎 健一、
 小野寺 英輝、三好 扶、吉野 泰弘、
 農学部：上村 松生、塚本 知玄、平井 俊朗、三浦 靖、山下 哲郎、
 石村 学志、伊藤 芳明、袁 春紅、山田 美和
 三陸水産研究センター：于 克鋒、紺野 充弘
 三陸復興支援課：田村 直司

地域の水産資源の価値向上と新たな価値を科学的根拠に基づいて創造して市場拡大を図り、地域経済の好循環創造に貢献して、復興と地域創生に資することを旨とする。

新しい加工技術開発による高付加価値化・機能性食品の開発や省力化、ワークフロー適正化やバリューチェーン最適化による生産性向上や収益率の向上を通して専門職業人の雇用機会創出を確立することとし、海外との連携も水産業先進地の北ヨーロッパ、有望な水産物消費地の東南アジアを主な対象に学術・技術交流と教育・人材育成交流を推進する。

活動内容

● 水産物をベースにした高付加価値化・機能性食品の開発

釜石湾漁協、有限会社泉澤水産の協力を得て、漁獲した活サバを当センターの水槽で蓄養後、レアしめ鯖の試作を行った。官能評価、筋原繊維タンパク質のATPase活性と塩溶解度また筋肉のATP関連化合物の組成変化の分析により得られた最適な条件で、さんりく基金商品開発事業の一環として「鯖サミット2018」に釜石ヒカリフーズ株式会社から商品化した「ほぼシメサバ」を出品し、高い評価が得られた。また高齢者向けの栄養強化食品においてホタテ入りライスまたアイスクリームの開発を行い、栄養成分を分析した。通常のライスよりタンパク質は約2倍増加したが、炭水化物含量は約1/3に低下した。また三陸特産品のイサダの原料特性の解明と、pH、ATP関連化合物濃度の時間変化を分析した。



センターの水槽で蓄養中のサバ

● ホタテ流通における最適化実証実験と6次産業化モデルの構築

市販のホタテは海水蓄養または殻なしの無海水冷蔵状態で流通される。冷蔵中の鮮度に対する漁獲後処理の効果を比較し、ホタテの鮮度と品質を保つための科学的証拠を得ることを目的に分析した。活ホタテを入手し、4時間以内に研究室に運び、冷蔵(4℃)保存における海水での保管(湿式貯蔵)、海水なしの保管(乾式貯蔵)および貝柱のみの各保存法の鮮度変化について調べた。活ホタテ貝柱肉のATP含有量は最初に増加し、2-4日目まで一定の量(5 mM前後)を維持した。また貯蔵中にAEC(アデニルエネルギー価)値は0.7-0.9の範囲であった。Ca²⁺-ATPase活性および塩溶解度の変化は各グループの間に顕著の違いが見られなかった。研究結果から総合的な鮮度評価の必要性、また新たな鮮度評価方法を構築する必要性が示唆された。今後得られた知見に基づき、最適なホタテ流通方法の構築を目指す。



ホタテレオロジー特性測定

● 陸上養殖サクラマスの肉質分析およびイサダの有効利用に関する研究

岩手大学三陸水産研究センターの陸上飼育施設による生産魚の高付加価値化のために養殖環境と品質との関連に着目して、従来の官能評価に加えて品質特性を機器分析等による客観的な品質評価を行った。異なる飼育条件下での生産魚の肉質について、肉の旨み成分、硬さ、色、脂の乗り具合などを数値化した官能評価および遊離アミノ酸分析に供した。飼育試験魚に加えて、比較対象として市販のチリ産トラウトサーモンなど4種類を使用して分析を行った。またイサダを材料としたの高品質食材の開発を目的としている研究を行っている。凍結解凍実験、酸素遮断実験、ATP含有量を指標としてイサダの鮮度変化の分析を行った。そのほか、釜石魚市場サバの調査、しめ鯖の試作、真空マイクロ波によるアニサキスの死滅実験を行った。



サクラマス肉質評価

【平成31年度の活動予定】

イサダとホタテを用いた高品質食材の開発に向けてイサダまたはホタテの保存条件による鮮度変化を調べる。異なる冷凍、解凍方法における鮮度変化を調べるため、指標としてATP含有量などを分析する。また引き続き、異なる条件下での陸上養殖サクラマスの肉質を評価するため肉の組成成分を調べる予定である。さらに、新規課題として地域の水産企業の課題に取り組む予定である。流通における冷凍牡蠣の品質低下が著しいため、異なる保存条件下での牡蠣の成分変化を調べる必要がある。品質劣化の評価における冷凍または解凍方法による遊離アミノ酸などの成分変化を調べる。また寄生虫アニサキスを死滅させる有効な方法を調べる予定である。

(5) 平泉文化教育研究部門

部門長 宇佐美 公生 (教育学部 教授)

平泉文化教育研究部門は、平泉文化研究センターが担当している。センターの目的は、仏国土(浄土)の理想郷として造営されたという平泉庭園文化を中心に平泉文化の意義を総合的に解明することにある。具体的には岩手県教育委員会や海外の諸大学等と連携を図り、これまでの研究成果を踏まえながら平泉文化を学術的・国際的な観点から研究し、平泉文化の国際的意義を明らかにし、「平泉学」として総合化を目指していく。

平泉文化教育研究部門 HP



平泉文化の普遍性に関する国際理解の一層の進展と地域に遺る文化遺産を活かした地域振興への貢献

活動テーマと概要

代表者 教育学部：宇佐美 公生
担当者 人文社会科学部：玉澤 友基、久保田 陽子
 教育学部：佐藤 由紀男、菅野 文夫、藪 敏裕、今野 日出晴、境野 直樹、田中 成行
 理工学部：平原 英俊、會澤 純雄、小野寺 英輝
 農学部：伊藤 菊一
 平泉文化研究センター：劉 海宇、藤崎 聡美、藤原 歩

考古研究部門・文献学的研究部門・教育地域貢献部門の三部門を中心に活動を行った。内容は以下の通り。

1. 「岩手県における世界遺産についての調査・研究の継続と支援」では考古部門を中心に東アジアにおける古代庭園比較研究を、文献部門を中心にシンポジウム「中尊寺供養願文の謎を解く」及び東アジアにおける仏塔信仰と経典埋納研究等の平泉文化総合研究を行った。
2. 「平泉世界遺産教育の展開」では平泉世界遺産登録7周年記念講演会や「平泉学講演会」への協力等を行った。
3. 「地域創生関係」では平泉文化セミナー8回・公開講演会3回、シンポジウム2回・陸前高田市「産金の始まり」等の連携を行った。
4. 「世界遺産活用のあり方(モデル化)の確立」では釜石市「鉄の歴史講座」の開催(2回)等を行った。

活動内容

● 考古研究部門：「東アジアの平泉を考える」国際会議

10月13日に平成30年度UURR事業の一環として、洛陽市文物考古研究院の研究者2名を招へいし、岩手大学平泉文化研究センター・岩手県・平泉町教育委員会・中国洛陽市文物考古研究院の共催で岩手大学において「東アジアの平泉を考える」国際会議を開催した。張如意氏は「洛陽における隋唐期の園林遺跡」、屈昆傑氏は「洛陽の平泉遺跡調査報告」、千葉信胤氏は「歴史資料としての平泉地名研究」、伊藤博幸氏は「日本国内の平泉寺について」をテーマにそれぞれ発表した。



「東アジアの平泉を考える」国際会議



● 考古研究部門：「東アジアにおける古代都城と庭園」講演会

12月14日に中国社会科学院考古研究所の趙海濤氏を招へいし、「二里頭都邑における近年の考古新発見及び新認識—中国初期王朝都城遺跡—」をテーマに、「東アジアにおける古代都城と庭園」講演会を開催した。今から約3800年前の中国初期王朝都城の二里頭遺跡における集落形態の形成及びその変遷について分析し、また宮殿区の東北部に祭祀機能を持つ巨大な土坑の新発見等も紹介することで、二里頭遺跡1期から4期後半まで二里頭文化は継続したが、その後遺跡は破壊され、同時に一部地域では大型建築が改めて造営されており、外族の侵攻と王朝交代によるものだと推測されるとの結論を示した。



「東アジアにおける古代都城と庭園」講演会



● 文献学的研究部門：「平泉文化研究会および第2回経塚研究会」

平泉・柳之御所遺跡の発掘調査を契機とし、急速に進展した平泉文化研究の一つとして仏教史研究があるが、今回は主に平泉の「寺院と法会」をテーマとした研究報告会を催すこととなり、また2014年に東北大学で開催された東アジア的視点での経塚研究会以降、3年におよぶ中国・韓国調査が実施され、併せてその研究報告会も催すことで、7月22日に東北大学で「平泉文化研究会および第2回経塚研究会」を開催した。上島享「平泉の寺院と法会」・菅野成寛「東アジアの経筒と仏塔信仰の転生」・劉海宇「中国・唐宋期の法舍利埋納について」・石黒ひさ子「広東省南華寺出土遺物について—「広州綱首」をめぐって—」・八重樫忠郎「東北地方経塚の特性をめぐって」の報告が行われた。



「平泉文化研究会および第2回経塚研究会」



● 文献学的研究部門：シンポジウム「中尊寺供養願文の謎を解く」

中尊寺供養願文は、平泉藤原氏を研究する上で貴重な史料としてよく知られ、ただし近年では鎌倉末期の偽作とする説も登場するなど、願文をめぐってはさまざまな研究課題が残されている。供養願文調査の成果と最新の知見をもとに、願文の謎を解きその価値を再発見する場として、3月23日にシンポジウム「中尊寺供養願文の謎を解く」を平泉町平泉文化遺産センターで開催し、柳原敏昭「供養願文の原本調査—成果と課題—」・菅田慶信「中尊寺供養願文の作法」・劉海宇「中尊寺供養願文と藤原朝隆—書の視点から—」・菅野文夫「供養願文が模写された時代—信濃阿闍梨行円の思い—」・菅野成寛「中尊寺供養願文と藤原敦光—願文は二セモノ、ホンモノ?—」の報告が行われた。



シンポジウム「中尊寺供養願文の謎を解く」



● 考古研究部門：第二回中国考古学大会等での研究発表

平成30年度教員の海外渡航支援経費を利用して、劉海宇教授は、10月18日～20日に中国維坊で行われた、北京大学と山東省文物考古研究院主催の青銅器・金文與齊魯文化學術研討会で「西周金文『執駒』及び詩経相關内容考述」をテーマに、10月22日～23日に中国成都で行われた、中国社会科学院考古研究所主催の第二回中国考古学大会で「西周金文『王在周』所及及建築考述」をテーマに、それぞれ口頭発表した。



第2回中国考古学大会等での研究発表



● 考古研究部門：『貿易陶磁と東アジアの物流』刊行に係る記念講演会の開催

2019年2月9日に、平泉文化研究センターが監修した『貿易陶磁と東アジアの物流—平泉・博多・中国』の出版を記念し、編者の一人である徳留大輔氏を招へいして「平泉から出土した中国陶磁の産地推定に関する国際共同研究成果報告」を題とした講演会を開催した。本講演会では、福岡市の博多遺跡群で出土した資料の分析結果も含めてご報告し、平泉で出土する中国産陶磁がどこで作られたものであったのかを明らかにするとともに、新しく分かった課題についても紹介した。



『貿易陶磁と東アジアの物流』刊行に係る記念講演会



● 考古研究部門：平泉世界遺産登録7周年記念講演会の開催

6月23日に、平泉世界遺産登録7周年を記念して、岩手県との共催で盛岡市遺跡の学び館研修室で元奈良文化財研究所長田辺征夫氏を招へいして「考古学から見た「京」の成立・変遷と平泉」を演題に、平泉記念講演会を開催した。2011年6月に世界文化遺産に登録された平泉は、仏国土（浄土）を表す建物・庭園や遺跡群の高い価値が認められ、古代から中世への転換期、京の都からはるか遠く離れた平泉の地に花開いた都市文化は、明らかに異彩を放つものであった。本講演は、平城京で完成したとされる古代都城の特質を中心に、その後の平安京における変貌を見据えて、平泉の魅力を探るものである。



平泉世界遺産登録7周年記念講演会会場の様子



● 教育・地域貢献部門：第19回平泉文化フォーラムの開催

第19回平泉文化フォーラムが平成31年2月2日（土）・3日（日）に奥州市江刺体育文化会館に於いて岩手大学平泉文化研究センター等の四機関の共同主催で開催され、延べ350名が参加した。初日は、講演に先立ち、主催者側として岩淵明学長があいさつを行い、「平泉は我々にとって大なる遺産であり、後世にどう伝えていくかが大切」と保存活用的重要性を強調した。本センターの劉海宇教授が「中尊寺金銀字一切経のルーツについて」をテーマに、共同研究発表を行った。基調講演・最新の発掘報告及び共同研究成果などを通じて平泉文化に理解を深めることができ、充実した2日間のフォーラムとなった。



第19回平泉文化フォーラム



● 教育・地域貢献部門：第40回平泉文化セミナー例会の開催

4月27日に、センター客員教授の八木光則氏による「本州における擦文土器出土の意味について—平泉出土の擦文土器に寄せて—」例会を開催した。本報告では、平泉町出土の擦文土器に関連して、擦文土器研究の現状を概観した。北海道における編年の到達点と東北北部の擦文土器の分布を確認し、古代北方交易のルートの変化、平泉期における奥大道の成立と蝦夷地との交易の痕跡を探り、平泉町出土の擦文土器の課題についても触れた。



第40回平泉文化セミナー例会



● 教育・地域貢献部門：第41回平泉文化セミナー例会の開催

5月30日に、盛岡大学文学部教授・当センター客員教授大石泰夫氏によって、「蘇民祭のコマ木と剛卯と」をテーマに、例会を開催した。岩手県南地方には、旧暦の年頭行事として蘇民祭が伝えられる。平泉においても、「延年の舞」で有名な「毛越寺二十日夜祭」にも、蘇民祭の要素が伝えられ、寺院としての「修正会の結願行事」に蘇民祭が集合したものと見ることができよう。この蘇民祭という祭礼だが、その実態がよくわかっていない。この「卯槌」とあわせて「卯杖」というものが伝わり、その元になるものが中国の「剛卯」とされている。本発表では、蘇民将来の伝説は、中国伝来の伝説とされるが、どうもその呪物である「コマ木」も中国の「剛卯」と脈絡がありそう、そうした諸相を報告しつつ、蘇民祭に伝わる「コマ木」の信仰を明らかにする。



第41回平泉文化セミナー例会



● 教育・地域貢献部門：「産金のはじまり—気仙と黄金文化平泉」講演会の開催

11月18日（日）、当センターが主催する2018陸前高田グローバルキャンパス事業として、「産金のはじまり—気仙と黄金文化平泉」講演会が陸前高田グローバルキャンパスにて開催された。講演会では、宇佐美公生センター長があいさつしたのち、八木光則氏（岩手大学平泉文化研究センター客員教授）による「気仙の古代」、曳地隆元氏（陸前高田市教育委員会学芸員）による「気仙地方の産金遺跡と平泉」、伊藤博幸氏（岩手大学平泉文化研究センター客員教授）による「平泉の黄金文化」という講演が行われた。講演会には、地元の歴史愛好家を中心に、県内の関係者30名近くが参加し、陸前高田市における古代の産金と平泉の黄金文化について興味深く受講した。



「産金のはじまり—気仙と黄金文化平泉」講演会



● 教育・地域貢献部門：釜石市立図書館市民教養講座「鉄の歴史講座」の開催

11月25日、岩手大学平泉文化研究センター、岩手大学三陸復興・地域創生推進機構、釜石市立図書館の共催で釜石市立図書館市民教養講座「鉄の歴史講座Ⅰ」が同市図書館2階視聴覚室にて開催された。講座では、はじめに釜石市立図書館の高橋悦子館長が挨拶したのち、同市世界遺産課係長の森一欽氏の進行で、劉海宇氏（平泉文化研究センター教授）による「東アジアの鉄の歴史の話」、八木光則氏（平泉文化研究センター客員教授）による「古代・中世の岩手県の鉄生産の歴史—沿岸部を中心に」という講義が行われた。講座には、地元釜石市はもとより、山田町などからも歴史愛好家を中心に、約40名が参加し、沿岸部における鉄の歴史の講義に興味深く耳を傾けていた。講座の後の質疑応答も活発に行なわれた。また、二回目の「鉄の歴史講座Ⅱ」は12月9日同市立図書館で開催された。



釜石市立図書館市民教養講座「鉄の歴史講座」



【平成31年度の活動予定】

- 考古研究部門・文献学的研究部門・教育地域貢献部門の三部門を中心に活動を展開する。活動予定は以下の通り。
1. 考古部門を中心に平泉出土中国産陶磁器の流通ルート等を明らかにし、さらに岩手県内の世界遺産及び追加登録等に対して、地域創生という広い視点からセンターが継続的に支援を行っていく。
 2. 平泉世界遺産教育の展開では平泉世界遺産教育の実施、さらに釜石市等で実施してきた生涯学習講座の支援を他の沿岸部市町村に拡大する。
 3. 三陸復興と観光振興への展開では復興は「人づくり」をコンセプトにソフト面からこれに関わっていく。
 4. 地域創生関係では平泉文化の発展の歴史を、今後の地域への持続的発展へ結びつける「平泉学の地域創生」という観点とリンクさせていく。
 5. 世界遺産活用のあり方（モデル化）の確立ではこれまでの「平泉学」の確立における各研究活動の実績を踏まえ、その研究成果を国内外に発信する。

(6) 地域防災教育研究部門

部門長 越谷 信 (理工学部 教授)



地域防災教育研究部門を担う地域防災研究センターは、自然災害解析、防災まちづくり、災害文化の3つの分野の教育研究に取り組む。具体的には被災地域に入り、被災状況調査、地震・津波などの解析、復旧・復興まちづくりの支援、教育活動支援や伝承・記録の支援等を地域の人々とともに実践している。さらに、阪神淡路大震災、中越地震などの震災・復興の体験を国内外の大学、または南海トラフ等の今後の震災が危惧されている地域の大学との連携を深め、過去・現在・未来を貫く相互の学びの場の創出へとつなげることを当面の課題とする。

地域防災教育研究部門 HP



活動テーマと概要

・安全なまちづくりと災害文化を育む 地域防災拠点の形成

代表者 理工学部：越谷 信

担当者 人文社会科学部：後藤 尚人、五味 壮平、田中 隆充、松岡 勝実、杭田 俊之

教育学部：田代 高章、麥倉 哲、大野 真男、田中 成行、森本 晋也

理工学部：小林 宏一郎、今野 晃市、南 正昭、本間 尚樹、大河原 正文、

大西 弘志、小笠原 敏記、小山田 哲也、山本 英知、

鴨志田 直人、松林 由里子、谷本 真佑

農学部：井良沢 道也、広田 純一、三宅 諭

連合農学研究科：比屋根 哲

男女共同参画推進室：堀 久美

国際連携室：石松 弘幸

地域防災研究センター：福留 邦洋、熊谷 誠

三陸復興・地域創生推進機構：今井 潤

- ・これまで岩手大学が実施してきた地域密着型の活動（防災体制構築への支援、防災教育）をさらに拡充し、東日本大震災による被災地の復興に向け、「施設づくり」「まちづくり」「ひとづくり」に貢献
- ・地域特性に応じた防災対策と、津波常襲地帯に暮らすための知恵である災害文化からなるボトムアップ型防災システム（三陸モデル）を構築
- ・三陸モデルを、今後巨大地震の発生が危惧される東南海地域などへ展開
- ・他大学、他研究機関と連携し、相互補完的な事業実施により効果的な成果を創出

活動内容

● 地域を支える防災リーダー育成プログラム

■日時：平成 30 年 5 月 26 日～ 12 月 15 日 隔週土曜日

■場所：岩手大学共用教育研究棟内リーダー育成プログラム講義室 他

■概要：防災リーダー育成プログラムは地域防災活動の重要性を地域、学校、職場などへ伝え、そこでの活動を牽引するリーダーを育成することを目的に平成 19 年度からスタートし、今年度で 11 回目の開講となった。約半年にわたる育成プログラムは、地学及び気象等の基礎となる理科を学習する「基礎講習」、地震・火山/地盤・洪水・津波防災・斜面災害・防災まちづくり・危機管理講座などのテーマごとに専門知識の習得を目的とした「テーマ別講習」、習得した専門知識を地域に伝えるプレゼンテーション能力を向上させる「演習」から構成され、最後に、受講者により「演習」で作成したプレゼンテーションの発表会が修了試験として行われた。今年度は、22 名の受講があり、そのうち 16 名が修了認定、12 名がリーダー認定を受けた。



防災リーダー育成プログラム 1



防災リーダー育成プログラム 2

● 国際防災・危機管理研究 岩手会議

■日時：平成 30 年 7 月 17 日～ 7 月 20 日

■場所：アイーナ（いわて県民情報交流センター）7 階
小田島組☆ほーる 他

■概要：Harvard Kennedy School, USA、Tsinghua University, China とともに本センターが主催として「大規模災害」、「緊急対応」、「地域復興」をテーマに学術発表の場として開催したもので、16 カ国から合計 587 人の参加があった。また、学術発表のほか、岩手県（「いわて復興未来塾」）と連動したセッション、東日本大震災における政府機関（復興庁、国土交通省、経済産業省）、大学（岩手大学、東北大学、福島大学）の役割などが紹介された。予想を上回る一般参加者数は、東日本大震災発生後、岩手県内で開催する初めての防災・復興に関する国際会議への関心の高さがうかがわれるとともに、国内外の知見を市民が共有できる機会になった。



国際防災会議 写真 1- 会場の様子



国際防災会議写真 2
メインホールでのフォトセッション

● 災害危機管理フォローアップセミナー

■日時：平成 30 年 7 月 27 日

■場所：岩手大学地域防災研究センター会議室（理工学部共用教育研究棟 1 階）

■概要：平成 26 年度から開催されている防災・危機管理エキスパート育成講座修了者に対して、講座内容を拡充した内容を学ぶフォローアップ企画として実施した。2 回目の開催となる本年度は、図上訓練のファシリテーターとしてのスキルアップを目指して、図上訓練の実施要領の復習と、防災クロスロードや DIG、HUG などの各種防災ワークショップツールを実際に用いた実習が行われた。



● がんちゃん Jr. 防災リーダー養成講座 2018

■日時：平成30年9月3日、4日、14日
 ■場所：岩手大学北桐ホール ほか
 ■概要：平成29年度から、盛岡市立上田中学校から当センターと本学教育学部・教職大学院への協力依頼により始まった「がんちゃん Jr. 防災リーダー養成講座」を本年度も行った。この取り組みは、全校生徒を対象とした中学生向け防災リーダー養成講座で、学年ごとに異なるテーマが設定され、それぞれ座学の「防災の授業」とグループに分かれて取り組む「防災の演習」の2部構成となっている。今年度の演習内容では1年生が地震発生時の対応を考えるワークショップに、2年生が大雨洪水時の対応について考えるワークショップに、3年生が地域で想定される災害リスクや防災に役立つ施設・場所などを地図上に書き込みながら災害時の対応を検討する「DIG (Disaster Imagination Game)」に取り組んだ。



がんちゃん Jr. リーダー 講義の様子



● 災害危機管理エキスパート育成講座

■日時：平成30年9月12日～15日、10月9日～10日、11月12日～13日
 ■場所：岩手大学復興祈念銀河ホール ほか
 ■概要：東日本大震災の教訓をもとに、大災害では行政職員だけではなく、医療関係者や学校関係者など、あらゆる機関での防災・危機管理のエキスパートの存在が必要との考えから、災害時の危機対応とその効果的な推進のために必要な知識やスキルを持った防災・危機管理のエキスパートを育成することを目的に、地方自治体や事業所の職員、医療関係者、学校関係者、防災に関心のある一般市民を対象として開催されたもの。本年度で開講は6回目。講座全体は、座学である「基礎コース」と災害対応のイメージ力を養うワークショップを行う「実習コース」、実際の行政機関における災害対策本部を再現し、ロールプレイング方式で災害対応の模擬訓練を行う「総合実習コース」の3部構成となっており、今年度は「基礎コース」、「実習コース」それぞれで18名、「総合実習コース」で28名の参加があった。



危機管理エキスパート 演習の様子



危機管理エキスパート講義の様子



● 災害における避難行動・生活について

■日時：平成30年9月9日
 ■場所：久慈市文化会館（アンバーホール）
 ■概要：防災の日（9月1日）や台風、秋雨前線など防災強化月間において防災体制の強化や地域住民の防災意識向上をめざして久慈市が主催した防災講演会における講演。特に風水害対策の啓発を要望されたため、過去の水害における事例紹介などから事前の避難計画の重要性、地域で開設、運営する避難所などについて指摘を行った。

● 釜石市立釜石中学校避難所運営研修

■日時：平成30年10月17日
 ■場所：釜石市立釜石中学校 視聴覚室および多目的室
 ■概要：釜石市立釜石中学校からの依頼により、3学年全体（113名）を対象に、中学校が避難所となった場合の運営について検討するワークショップを行ったもの。当日は、3学年全体を午前、午後の2グループに分け、1グループ8班集体で避難所運営に関する課題について検討し、グループごとに検討した内容の発表、全体での共有を行った。また、ワークショップの実施に先立ち、3学年の担当教員が各テーブルにおいてファシリテーション行えるよう、事前に内容の説明と事前講習を行った。



釜石中学校避難所運営研修

● 矢巾町高田地区「災害の勉強会」

■日時：平成30年11月17日
 ■場所：高田コミュニティセンター
 ■概要：岩手県からの受託業務である「岩手県自主防災組織設立・活動活性化支援事業」の取組みの一環として矢巾町高田地区を対象に「災害の勉強会」を開催したもの。会では、矢巾町役場の防災担当者から地区の中で過去に生じた災害、特に水害の発生事例の紹介があり、地域防災研究センターからは水工学の兼務教員から、近年、甚大化・頻発している水害の傾向と水害発生メカニズム、発生時の留意点等についての講演が行われた。事業対象地は高田3区の一地区であったが、3区区長、矢巾町との協議で、隣接地区である高田1、2区にも呼びかけて勉強会を開催することとなり、全体で28名の参加があった。



災害勉強会の様子

● 岩泉町自主防災協議会視察研修

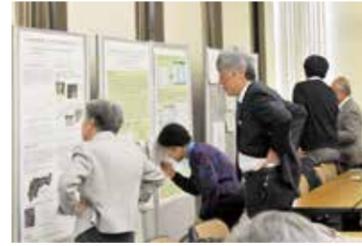
■日時：平成31年1月24日
 ■場所：岩手大学理工学部7号館2階教室
 ■概要：岩泉町自主防災協議会からの視察研修依頼により、避難所運営ワークショップを行ったもの。参加者が岩泉町内各地の代表者であったため、町内4か所の避難所の地区ごとに、4つのグループに分かれてもらい、1避難所1グループの割り当てで施設に併せたそれぞれの避難所の使い方を検討した。また、併せて過去の避難所運営で実際に生じた課題を提示し、それぞれのグループで対応を検討した後、各グループからの発表を行い、検討結果を共有した。



岩泉町自主防災協議会視察研修

● 第四回災害文化研究会

■日時：平成31年2月14、15日
 ■場所：岩手大学一祐会館 会議室
 ■概要：「忘れない～生活が作るレジリエンスと災害文化」をテーマに、1日目に「宮古市における災害／文化の伝承を見る」巡検を、2日目に岩手大学一祐会館において全体会・ポスターセッションが実施された。巡検では、東日本大震災後の宮古市における新しい街づくりとともに、被災体験を語り継ぐ被災地の中学校の資料室・国指定文化財となった蔵を活用した地域創生プロジェクト、南北朝時代から続く黒森神楽を見学した。2日目の全体会では、津田喜章氏（NHK 仙台放送局アナウンサー）による、東日本大震災直後から担当されている番組をもとにした「市井の声に見る被災地の真実～震災8年継続取材から分かったこと」と題した講演があり、報告・ディスカッションでは、資料のアーカイブ化・地域復興に果たす学校の役割や心の深いところでの復興の必要性の指摘があった。



災害文化研究会



実践領域			教育研究領域			
三陸復興部門	地域創生部門	生涯学習部門	三陸水産教育研究部門	平泉文化教育研究部門	地域防災教育研究部門	ものづくり技術教育研究部門

● 矢巾町婦人防火クラブ 第2回防災研修会

■日時：平成31年2月17日

■場所：盛岡消防矢巾分署研修室

■概要：矢巾町婦人防火クラブが主催する第2回防災研修会において、町内の施設利用を想定した避難所運営ワークショップを行ったもの。ワークショップでは参加者が6グループに分かれて、町内の拠点避難所となる施設の図面を用いて避難所運営における具体的な施設の使い方などの検討を行った。併せて、過去の避難所運営で実際に生じた課題を提示し、それぞれのグループでの解決方法を検討した後、グループごとに発表を行い、検討結果を共有した。



矢巾町婦人防火クラブ

● 第21回地域防災フォーラム 「多発する自然災害と大学の役割」

■日時：平成31年3月15日

■場所：岩手大学復興祈念銀河ホール

■概要：21回目となる今回のフォーラムは、2部構成となっており、学外、学内より合計37名の参加があった。第1部ではセンターの3部門（自然災害解析、防災まちづくり、災害文化）から部門長による活動報告があり、近年の風水害における現地調査や九州北部豪雨被災地における復興状況調査などの研究活動について紹介された。第2部では、30年度のセンター活動として「国際防災・危機管理研究岩手会議」、「岩泉町台風災害と学校タイムライン作成」、「岩手県自主防災組織設立・活性化支援事業の取組み」について報告が行われ、最後の質疑応答では地域コミュニティにおける「防災」の位置づけや、センターの研究活動の今後の展開などについて、質問や意見などが寄せられた。



第21回地域防災フォーラム 会場の様子



第21回地域防災フォーラム部門長からの報告



● 春呼び祭「災害後、決断しなければならないこと ～体験者の声に学ぶ～」

■日時：平成31年3月17日

■場所：陸前高田グローバルキャンパス

■概要：春呼び祭において、来訪者を対象に、当時の避難所運営の経験者を交えた避難所運営ワークショップを開催した。市内外から一般市民、学生、あわせて25名の参加があった。ワークショップでは、東日本大震災時に、陸前高田市内に開設された避難所において実際に課題となった出来事について対応の検討に取り組んだ。市内の特徴的な3箇所の避難所を想定して課題を設定したほか、各テーブルに、ファシリテーターとして陸前高田市防災マイスター認定者を、アドバイザーとして各避難所で運営の中心的な役割を果たした市民3名を配置するなど、ワークショップを通して参加者と陸前高田市民がやり取りをしながら課題検討に取り組める場づくりをしており、参加者と陸前高田市民の間で活発な情報交換や議論が交わされていた。



春呼び祭「ワークショップの様子」

● 岩手県教育委員会・岩泉町教育委員会との 学校防災に関する協定

平成28年の台風第10号災害の教訓を学校防災の充実に生かしていくため、地域防災研究センターは平成29年6月14日に、岩手県教育委員会及び岩泉町教育委員会と学校防災に関する協定を締結した。この協定に基づき平成29年度は防災教育教材の開発等を行った。

平成30年度は、防災教育教材や「学校版タイムライン」の普及・啓発を図るため、岩手県防災教育研修会で「学校版タイムライン」作成の講義や演習を行ったり、岩手県内の小学校で防災教育教材を活用した授業を実践した。また、台風第10号災害の教訓や岩泉町立門小学校の復興教育・防災教育の実践等を紹介した「学校防災啓発リーフレットNo.3」の発行等を行った。



協定に基づく取組①「久慈市立山形小学校でのワークショップ」



協定に基づく取組②「岩手県防災教育研修会」

● 釜石市鶴住居地区における防災学習プログラムの開発

東日本大震災の教訓を後世に伝えるため、釜石市の津波伝承施設「いのちをつなぐ未来館」の展示に関する協力を行うとともに、施設を活用した防災学習プログラムづくりの協力を行った。具体的には、発災時の釜石東中学校の生徒の避難行動の追体験の学習プログラムの開発である。釜石市をはじめ地域の方々、震災を体験した元釜石東中学校生徒の方々と共に、効果的な学習内容を検討し、高知県の小学生、東京都の高校生、岩手大学教育学部の学生、海外の研究者等を対象に実施した。実施にあたってはアンケート等を実施し、効果的な学習方法の検討を行った。



鶴住居での開発プログラム②「東京都の高校生の体験学習」



鶴住居でのプログラム開発①「国際防災・危機管理研究岩手会議—釜石エクスカッション」

【平成31年度の活動予定】

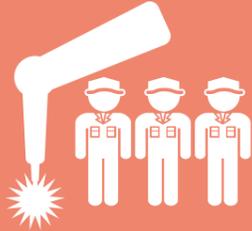
今年度は、地域防災に関する調査研究を進める中で、それら研究活動の紹介や地域への成果還元を目的として「地域防災フォーラム」（第22回を7月に予定）や「第5回災害文化研究会」を開催する予定である。研究成果や活動の海外発信として国連防災会議（ジュネーブ、仙台）など国際的な発表の場への参加やセッションの開催、研究発表も行う予定である。

地域防災に関する普及・啓発については昨年度、岩手県の依頼により取り組んだ「自主防災組織活性化モデル事業」について、今年度も新たな地区を対象に取り組む予定である。また、昨年度のモデル対象地区であった矢巾町については、今年度は町からの依頼により継続した事業を進める予定である。これらの他に社会貢献活動として、これまで地域における防災人材の育成を目的に継続して行われてきた「地域を支える防災リーダー育成プログラム」、「防災・危機管理エキスパート育成講座」および「フォローアップ講座」、「がんちゃん Jr. 防災リーダー養成講座2019」などを予定している。

その他、センターメンバー教員による研究紹介、情報交換、交流を目的とした「センター・ランチオン」や、岩手県内の災害対応人材の育成や、防災対応機関の相互連携強化を目的とした「岩手地域防災ネットワーク協議会」の運営、国内外防災関連機関・大学等との交流、研究・活動成果を取りまとめたセンター年報の発刊などに取り組んでいく予定である。

(7) ものづくり技術教育研究部門

部門長 長田 洋 (理工学部 教授)



ものづくり技術教育研究部門は、地域ニーズに対応した金型、鋳造、複合デバイス分野における先端的水準の研究成果を基に、地域ニーズに対応した金型、鋳造、複合デバイス分野における高度専門技術者の育成のためのものづくり講演会、講習会、セミナーなどの取り組みを進めている。

・ものづくり技術の人材育成セミナーと講演会の開催

活動テーマ
と
概要

代表者 理工学部:長田 洋

担当者 理工学部:西村 文仁、廣瀬 宏一、平塚 貞人、水野 雅裕、八代 仁、平原 英俊、脇 裕之、水本 将之、鎌田 康寛、恒川 佳隆、藤代 博之、吉本 則之、西館 数芽、小林 宏一郎、本間 尚樹、清水 友治、吉原 信人、吉野 泰弘、内館 道正、土岐 規仁、芝崎 祐二、叶 榮彬、関本 英弘、村岡 宏樹、阿部 貴美、

農学部:伊藤 菊一、武田 純一

研究推進機構:木村 毅

岩手のものづくり教育研究において、地域のニーズに対応した金型技術分野、鋳造技術分野、生産技術分野における高度専門技術者の育成のためのものづくりセミナーと講演会を開催した。

活動内容

● 鋳造技術研究センター講演会の開催

6月27日に、水沢サンパレスホテルにおいて、クニミネ工業株式会社の阿部清隆氏より「当地方における適切な砂管理方法と鋳造業界の進むべき方向」と題して、最適な鋳物砂の製造について講演会が開催された。

● 金型技術研究センター高度人材育成特別講座の開催

7月23日に、北上市産業支援センター研修会議室において、アルプス電気株式会社技術顧問の谷本勲氏により、「効率を忘れた技術マネジメント ～昨今のデータ改ざん事件に思う～」と題して、技術マネジメントについての講演会が開催された。

● 鋳造技術研究センター特別講演会の開催

9月12日に、奥州市水沢地区センターにおいて、株式会社アイメタルテクノロジーの宮西義明氏により、「鋳物工場における設備管理と設備更新事例」と題して、実例に基づいた企業における鋳造設備の管理の大切さについて講演会が開催された。

● 金型技術研究センター・鋳造技術研究センター特別講演会の開催

12月20日に、岩手大学において、千田精密工業 代表取締役 千田伏二夫氏による「技術を身に付け、職場を創る人材へ～どこまでも夢を追って～」と、大阪府立大学 准教授 柴原正和氏による「ものづくりにおけるシミュレーション技術の活用例」と題する2件の講演会が開催された。



講演する柴原正和氏



講演会の様子

● ASIA JOINT SYMPOSIUM 2018 の開催

10月24日～25日にハンバット大学、大連理工大学と共催で ASIA JOINT SYMPOSIUM 2018 が開催された。金型技術に関するセッションでは、材料科学、加工技術、成形技術に関する研究報告がなされた。

● 生産技術研究センター花巻サテライトセミナーの開催

5月から12月にかけて、有機半導体デバイスに関する学生向けセミナー（有機エレクトロニクス基礎セミナーⅠ、Ⅱ、ディスプレイ進化論と有機ELへの期待、太陽エネルギーの活用と有機太陽電池のいろは）を開催した。



第4回花巻サテライトセミナーの様子

● 生産技術研究センターシンポジウムの開催

2月13日にホテルグランシェール花巻にて、「ハイテク技術の農業応用」をテーマに、岩手大学 高橋克幸氏、芝崎祐二氏、梅木新太郎氏、和同産業株式会社 鎌田征丞氏、株式会社エリオニクス 清野悠太氏より、それぞれの専門分野からご講演いただき、情報交換および討論が行われた。



芝崎祐二氏による講演

● 三陸復興プロジェクト高度ものづくり人材育成講座の開催

被災した三陸沿岸地域の復興推進の取組の一つとして、三陸地域でのものづくり人材の高度化を図るため、3月25日に大船渡市「シーパル大船渡」にて、「人材育成事業と金型、鋳造、生産技術研究センター事業紹介」と題したセミナーを開催した。



廣瀬宏一教授による講演

● いわて半導体アカデミーの実施

本県における半導体関連産業の集積加速を受けて、県内大学生や社会人等を対象とした「いわて半導体アカデミー」を設置し講義や実習を行った。大学生コースは講義15回、実習2日間、インターンシップ3回、社会人コースは講義7回、実習2日間、出前講座は講義を5回実施した。



大学生コース講義の様子



大学生コースインターンシップにて



出前講義の様子



社会人コース実習の様子

【平成31年度の活動予定】

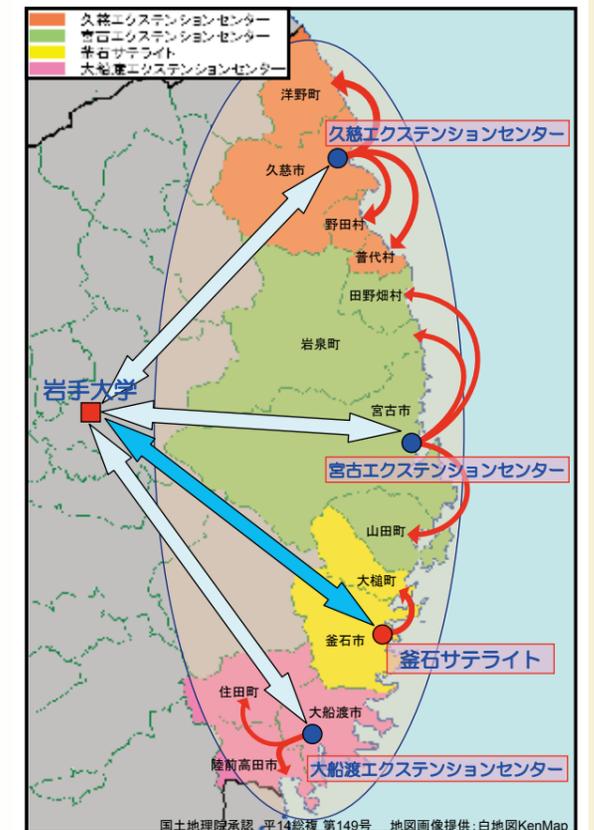
岩手のものづくり教育研究において、地域のニーズに対応した金型技術分野、鋳造技術分野、生産技術分野における高度専門技術者の育成のためのものづくりセミナーと講演会を開催する。

03 釜石サテライト・各エクステンションセンター

(1) 釜石サテライト・各エクステンションセンターの設置

平成23年10月1日、旧推進本部の設置と同時に、三陸沿岸部の復興の活動拠点として釜石市教育センター内に「釜石サテライト」を設置し、産学官連携専門職員を中心として被災地のニーズ収集に努めてきた。その後、約半年が経過した平成24年3月には、震災により心にストレスを抱えている方や、被災者を支援している支援者の方を対象とした心のケアが必要不可欠である状況を踏まえ、特任准教授(臨床心理士)1名を釜石サテライトに設置した。これにより、釜石サテライトでは、三陸地域における産学官連携の推進に加え、被災者に対する心のケアを行うとともに、自治体職員、地域の福祉関係者等を対象に、被災者との接し方、対応などのセミナーや講習も実施している。

平成25年3月には、三陸沿岸の更なる復興支援を行うことを目的として、従来の機能に加え、三陸産業の高度化・三陸水産品のブランド化を目指す「岩手大学三陸水産研究センター」や臨床心理士による心のケアを行う「こころの相談ルーム」も入居する新釜石サテライトを釜石市平田地区に開設し、さらに積極的な活動を行ってきた。



- 被災者からの支援ニーズの収集
- 被災地からの支援ニーズに応える岩手大学のシーズに関する情報提供及びマッチング
- 沿岸自治体、企業・事業者、団体・グループなどとの連絡調整
- 本学が行う各種支援活動の企画立案や復興プロジェクトの推進

主な活動テーマ

- 【主な担当地域】
- 釜石サテライト …… 釜石市、大槌町及び三陸全体
 - 久慈エクステンションセンター …… 久慈市、洋野町、野田村、普代村
 - 宮古エクステンションセンター …… 宮古市、田野畑村、岩泉町、山田町
 - 大船渡エクステンションセンター …… 大船渡市、陸前高田市、住田町

(2) 釜石サテライト・各エクステンションセンターの活動

① 釜石サテライト

平成23年10月1日、旧推進本部の設置と同時に、三陸沿岸部の復興の活動拠点として釜石市教育センター内に「釜石サテライト」を設置し、産学官連携専門職員を中心として被災地のニーズ収集に努めてきた。その後、約半年が経過した平成24年3月には、震災により心にストレスを抱えている方や、被災者を支援している支援者の方を対象とした心のケアが必要不可欠である状況を踏まえ、特任准教授（臨床心理士）1名を釜石サテライトに配置した。これにより、釜石サテライトでは、三陸地域における産学官連携の推進に加え、被災者に対する心のケアを行うとともに、自治体職員、地域の福祉関係者等を対象に、被災者との接し方、対応などのセミナーや講習も実施している。

▼釜石サテライト Blog



平成25年3月には、三陸沿岸の更なる復興支援を行うことを目的として、従来の機能に加え、三陸産業の高度化・三陸水産品のブランド化を目指す「岩手大学三陸水産研究センター」や臨床心理士による心のケアを行う「こころの相談ルーム」も入居する新釜石サテライトを釜石市平田地区に開設し、さらに積極的な活動を行ってきた。



【釜石サテライト】 所在地：〒026-0001 岩手県釜石市平田第三地割 75-1
電話：0193-55-5691 FAX：0193-36-1610 E-mail：kamaishi@iwate-u.ac.jp

● サテライトに常駐しているスタッフ（ほか4名の事務職員が常駐）

産学官連携専門職員

田村 直司

主に水産業に関する三陸沿岸地域のニーズを収集するとともに、ニーズに対応出来る本学の教員や各行政機関等と連携し、新たな「なりわいの創出」に取り組んでいる。



特任准教授／臨床心理士

佐々木 誠

サテライト内に設置されている「心の相談ルーム」でのカウンセリングをはじめ、沿岸各地で心のケアに関するセミナーや講習会に取り組んでいる。



● 釜石サテライトに入居

三陸水産研究センター

従来の水産業に科学的根拠に基づく付加価値を加え、水産業の高度化・三陸水産品のブランド化を目指すとともに、水産関連技術者の高度化教育や人材育成を行い、三陸地域の活性化を推進。

心の相談ルーム

三陸復興・地域創生推進機構三陸復興部門心のケア班に所属している臨床心理士による被災者・支援者のカウンセリングやコンサルテーションを実施。

主な
活動内容

企業訪問・面談数・意見交換会 約100件



● 新規研究課題の発掘と共同研究のマッチング

→各種会議等に出席して、三陸地域の企業や漁業関係者から研究ニーズを把握すると共に、共同研究に繋げて研究開発資金の獲得を図る取り組みを行った。

● 地元住民や学生・生徒に対する水産研究の紹介

→水産・海洋プロジェクトの研究成果の普及や水産研究者の人材育成等を図るため、活動中の研究プロジェクトを学生・生徒など広く県民に紹介するセミナー等を通じて水産業に対する関心を高めた。

● 次世代陸上養殖システムによるフィッシュファクトリー構想の取り組み

→地元などの企業13機関とプラットフォームを設立し、農林水産省研究開発プラットフォーム運営等委託事業を導入して、産学官民金連携による次世代陸上養殖システムの確立とフィッシュファクトリー構想の実現に向けた調査などの取り組み支援を行った。

● 3大学（岩手大、東京海洋大、北里大）連携協定の取り組み

→「三陸水産業の復興と地域の持続的発展に向けた3大学連携推進に関する基本合意書」に基づき、大学院教育の相互充実を図るため単位互換に関する協定を締結し、単位互換の実施に向けた具体的な取り決めである実施要項についても策定した。

● 地元住民や学生・生徒に対する水産研究の紹介

1 開催名：さんりく水産・海洋研究セミナー in 大船渡 “水産業の復興を成し遂げるための課題解決に向けた調査研究の紹介”

日 時：平成30年12月5日（水）午後2時～4時30分
場 所：大船渡市魚市場3階多目的ホール
参加者：130名

2 開催名：三陸の海の学びセミナー

日 時：平成30年7月16日（月・祝・海の日）午後1時30分～3時40分
場 所：陸前高田市米崎町 陸前高田グローバルキャンパス
参加者：40名

3 開催名：三陸地域をフィールドとする研究成果報告会

日 時：平成30年8月2日（木）午後1時30分～4時20分
場 所：宮古市シートピアなあと 研修ホール（岩手県宮古市臨港通1-20）
参加者：60名

4 開催名：第4回宮古地域水産シンポジウム

日 時：平成30年10月12日（金）午後1時30分～5時
場 所：宮古シートピアなあと 研修ホール（岩手県宮古市臨港通1-20）
参加者：80名

5 開催名：三陸の海を知ろうセミナー

日 時：平成31年1月18日（金）午後1時30分～3時30分
場 所：釜石市立図書館 視聴覚室（釜石市小佐野町3-8-8）
参加者：40名



さんりく水産・海洋研究セミナー in 大船渡



三陸の海の学びセミナー

● 次世代陸上養殖システムによるフィッシュファクトリー構想の取り組み

1 プラットフォーム活動の実施

- (1) プロデューサー会議の開催
6月22日、8月1日、8月27日、31年1月7日、2月19日、3月4日
計6回釜石サテライトで開催
- (2) 全体会議の開催
6月29日、9月28日、12月11日、31年3月7日の計4回
釜石サテライトで開催。



宮崎県でのサクラマス養殖施設視察

2 先進地視察調査の実施

- (1) 11月29～30日 山形県遊佐町サクラマス陸上養殖実証施設、山形県水産試験場 9名参加
- (2) 1月29～30日 愛知県田原市株式会社林養魚場陸上養殖施設、三重県四日市市株式会社交洋 5名参加
- (3) 2月7～9日 宮崎県宮崎銀行、五ヶ瀬ヤマメの里、延岡市サクラマス養殖施設、宮崎大学農学部フィールドセンター 5名参加



陸上養殖フィッシュファクトリー全体会議

3 勉強会の開催

- (1) 平成30年8月1日 第1回勉強会
「中国水産物の伝統加工技術とその市場現状」講師 上海海洋大学 食品学院 陳舜勝教授
- (2) 平成30年12月17日 第2回勉強会
「養殖現場からのサイエンス ―飼料の問題―」
講師 愛媛大学大学院 農学研究科 水族繁殖生理学研究室 三浦猛 教授
「佐賀県唐津地域でのマサバの完全養殖の取組みについて」
講師 九州大学大学院農学研究院資源生物科学部門 海洋生物学分野 松山倫也 教授



● サバの高付加価値化の取り組み

平成24年度から平成29年度まで食料生産地域再生のための先端技術展開事業（先端プロ）で実施してきた蓄養技術を用いた三陸沿岸漁獲物の高付加価値化技術の開発及び実証についての成果普及活動を行った。当該事業の成果として、蓄養した高鮮度なサバを使用して開発した生タイプのメサバである「ほぼシメサバ」を岩手大学の指導により釜石ヒカリフーズ株式会社が商品化し、長崎県で開催された全国サバサミットで試食販売したところ、生サバを食べる文化のある長崎県民から「とても美味しい」と評価が高く、短期間で売り切れとなった。



長崎県の全国サバサミットでの「ほぼシメサバ」の試食



販売中のほぼシメサバ

主な活動内容 企業訪問・面談数・意見交換会 56件

※平成30年10月～平成31年3月



● 被災地の心のケアに関わる計画立案・実施・調整

→被災地における心理支援のための会議への参加や諸機関との意見交換、それを元にした心理支援活動の計画と準備・実施を被災地に臨床心理士のスタッフを常駐し行っている。（雇用期間の関係で本年度は後期のみ活動）

● 釜石サテライト相談ルームにおけるカウンセリング

→被災された方とその支援者を対象としたカウンセリング、コンサルテーション、スーパーバイズの実施と、被災地域の心理支援リソースの充実を目的とした他機関との連携を行っている。（雇用期間の関係で本年度は後期のみ活動）

● 支援者・地域住民を対象とした心理教育的研修の開催

→支援者支援のためのメンタルヘルス研修、スキルアップ講座の訪問開催と、一般の方々を対象とした市民講座「こころのじかん」を心のケア班主催で実施している。（雇用期間の関係で本年度は後期のみ活動）

● ★長期的支援の基盤を担う臨床心理士の養成

→長期的支援の基盤を目的として、岩手大学大学院の臨床心理コースの学生を対象に、学生が主体的に計画立案し被災地の視察および避難生活を送る方々との交流を行う支援研修を実施している。

● 釜石サテライト相談ルームでのカウンセリング活動

平成30年度の相談回数は44回であった。相談は、釜石キャンパスこころの相談ルームと、岩手大学人文社会科学部附属心理相談センターで行われた。今年度はスタッフの雇用止めにより、4月～9月の釜石での面談が無く昨年の77回より少なくなっている。内容は、昨年度より継続した相談（震災による喪失、トラウマの治療、家族の問題等）であり、本年度も再来談（以前に相談していた方が相談するケース）があった。また、地域の支援活動に関する意見を求められるなどコンサルテーションの依頼もあった。本相談ルームは大学というアカデミーベースの専門機関であるため、病院のような症状をとるというメディカル・ベースではない存在意義がある。喪失等の問題ではそのことが顕著に現れる。震災より7年が経過したが、喪失経験の支援においてはこれからが本番とも言える。それに加え、PTSD症状の遅発に対応したPTSDに特化した心理療法（EMDR）の施術要望、継続したカウンセリングおよび支援者のためのコンサルテーション、スーパーバイズの継続は、ハイリスク対応等の地域の支援を厚くする点で最重要である。

● 支援者・地域住民を対象とした研修および講座の実施

支援者支援を目的とした依頼による研修は11回実施され、のべ約250人の参加があった（市民講座における本学の教員講師による3回を含む）。このうち5回は、支援者のメンタルヘルス・プログラムでの依頼研修（傾聴・支援のリスクと対応、喪失）である。住民相互の心理支援拡充を目的として行うケア班主催の市民講座は4回実施され、詳細を次に示す。（実施日・開催地・内容・参加者数）① H31/2/21・陸前高田市・リラクゼーション・14名、② H31/2/22・釜石・子どもの可能性・20名、H31/2/25・大船渡市・喪失・20名、H31/2/28・宮古・精神性と美・12名。参加者による10点満点の評価では、講義が7.8（SD=2.1）、運営が8.3（SD=2.1）と好評を得た。本年度は、資料編を作成し「資料だけでも欲しい」「内陸でも開催して欲しい」というニーズに応えることもできた。これらに加え本年度の特徴としては、学会での活動発表が評価され、佐賀県の高校より特別講義をして欲しいというニーズがあり、高校生70名を対象に、自己効力感を高める目的の講演を行った。研修・講演活動へのニーズは高まっており、大学としてのアカデミックな側面が発揮できた。

● 大学院生による沿岸支援研修

復興の継続的心理支援の基盤づくりを目的とする臨床心理領域の大学院生を対象とした沿岸支援研修は、平成31年3月26日に実施された。今年度は、スタッフの雇用期間の関係で中止の計画であったが、企画の趣旨と重要性を鑑み日程を短縮して実施した。内容は、陸前高田市社会福祉協議会が行なっているサロン内の企画としてゲスト参加し、住民の方への研修と交流を行うものであった。移動と受け入れは担当教員が行い、他は院生が企画準備・実施するもので、実施に関わる話し合いや準備から学びの機会となっている。研修は漸進的筋弛緩法を住民の方々と一緒に行い、その後の交流では自分たちで考えたゲームや茶飲み話で大いに盛り上がった。事後のまとめにおいて、院生の感想に「私たちが提供して参加者が受け取るというような直線的なものではなく、皆さんの反応や様子が合わさって段々と出ていく、お互いに影響し合うものなんだということを改めて実感しました。」とあるように、経験して初めて理解される学びが行われたと考える。この活動は地域の方と大学の互恵的な意義ある活動として重要である。



沿岸支援研修

② 久慈エクステンションセンター



特任専門職員
(プロジェクトマネージャー)
川尻 博

【久慈エクステンションセンター】
所在地：〒028-8030 岩手県久慈市川崎町1番1号
久慈市役所 総合政策部政策推進課内
電話：090-2953-2519
E-mail：kujixext@iwate-u.ac.jp



主な活動内容 **企業訪問・面談数・意見交換会 約50件** (述べ数) ※平成30年10月～平成31年3月

● 個人事業者・企業・団体への協力と学外機関との連携

→地域の事業者や企業、農林水産物の生産者・団体からの生産技術研究、商品開発、マーケティング等の相談対応や補助金申請での申請書づくりへの協力を中心に行う。

● 外部機関との連携

→本学で対応が難しい相談については、適切な外部機関へ速やかにマッチングをする。

● 共同研究の実施と研究成果の現場移転

→外部資金や行政・民間団体の事業を活用し、ニーズに応じた共同研究を実施する。

● 行政機関の施策立案や事業展開に関わる会議への参加や情報提供

→特に地域振興・地方創生事業検討と実施に際し、提案や大学が持つ情報を提供する。

● 水産現場への科学知見導入の取り組み

平成24年～27年に、前身の三陸復興推進機構・水産研究プロジェクトで得られた研究成果を還元するため、普代村漁業協同組合と特産品の「すき昆布」乾燥工程の省エネルギー化実現に向け、流体力学と熱工学の知見を導入した共同研究を平成28年5月から実施した(担当：理工学部 船崎健一教授)。

1年目は乾燥室構造や乾燥設定温度等、条件が異なる漁家加工場を調査し、乾燥進行に寄与する条件や発生現象の把握に努めた。続く2年目は、乾燥室内外での風流のコントロールに関する現地調査と学内での乾燥実験からすき昆布の乾燥進行諸元を獲得することができた。これによってシミュレーション解析の精度向上を実現し、現場から得られる実測データや改善案等の情報にも十分に対応しうる状況が整った。そして、3年目の平成30年度研究で、温度設定を従来設定から20℃下げた乾燥実験を行った結果、乾燥1回当たりで時間は約30分長くなったものの、灯油使用量は約10%の削減を実現



現地調査開始時。右から3人目がリーダーの学生

し、一定の成果を獲得することができた。また、漁業者が懸念する低温での乾燥によるコンブの褐変は生じず、製品の品質を確保できることを確認した。

漁業現場での各種作業は、長年同じ方法で行われている場合が多く、普代村のすき昆布づくりでも同様であった。本研究では漁業者との意見交換を積極的に行い、約40年前のすき昆布づくり開始当時に導入された製法見直しへの意識変化をもたらすことができたと考えられる。ただし、本研究はあくまでもすき昆布づくりの工程の改善にすぎず、コンブ養殖全体で見ると解決すべきより重要な課題がある。この解決に向けて、今後でもできる限りの協力をし、大学でこそできる提案や地域への支援をしていく。

また、本研究は3年間で延べ17人の学生の協力を得て行われ、学生の教育にも大きな効果をもたらした。地域課題に向き合い、大学内では出会えない漁業者との交流によって研究姿勢が明確に変化した。3年間研究に参加した学生は、自身が学んでいることが地域の課題解決に役立てられることに気づいてからは研究担当としての責任を自覚した。継続参加することで自信を得て、リーダーとして新たに参加する学生チームをまとめる努力をする等、地域課題をテーマとした研究の意義を見出せたと考える。



研究報告会では学生が分析結果を説明した

● 乾燥食品包装工程の課題解決

乾燥食品包装工程での課題対応を紹介する。本学と共同研究を行っている食品加工企業では、数種類の乾燥野菜を具材とした加工食品を製造販売している。この具材を深絞り包装容器に充填する際に、強い静電気によって具材の充填箇所以外への飛び出しと張り付きが発生し、非常に時間を要するという課題があった。この課題は、上蓋を閉じる際にシール部分に具材が挟まって封印される不良品の発生にも繋がっていた。この相談に対して、電気工学が専門の本学理工学部・高橋克幸助教と同社を訪問して解決策を提示した。

初めに、静電気は容器フィルムを深絞り形状に成型する梱包工程の初めの段階で生じていることを把握した。そこで、成型された直後に除電装置を配置したところ、具材が静電気によって容器内壁に張り付くことはなく、一度の具材投入で充填することが可能となった。同様に、上蓋フィルムを閉じる際の具材の挙動も生じなくなり、不良品発生課題も併せて解決した。当日の訪問では、除電装置の設置位置と仕様を決定し、速やかに装置メーカーに発注することができ、企業の課題は一気に解消された。

食品加工の現場では多種多様な製造機器が導入されているが、取扱い材料によっては機器導入時に予見できないレベルの課題が生じることがある。このように大学で課題に対応できる場合があるので、直接に研究テーマ以外のことについても容易に話ができる関係の構築に務めている。



除電処理後は容器外に具材は拡散せず、作業効率が大きく改善した



静電気で拡散した具材 (○囲みのもの)

● 関係各機関との連携窓口として

研究課題、人材育成、地域経済の活性化をはじめとして、本学に寄せられるニーズは非常に様々なものがある。各方面との連携窓口として第一にすべきことは、寄せられたニーズにシーズをマッチングできるように、学内に限らずに研究者や情報をつなげることである。

全てが最善のマッチングとなるわけではないが、これまでになかった活動が生じるきっかけになり得ると認識している。そのためにも、今後も岩手大学が持つネットワークを最大限機能させ、連携支援窓口として貢献していく。

③宮古・大船渡エクステンションセンター



特任専門職員
(プロジェクトマネージャー)
梅谷 庄二

【宮古エクステンションセンター】
所在地：〒027-8501
岩手県宮古市宮町一丁目1番30号
宮古市役所産業支援センター内
電話：090-2886-8887
E-mail：umeya@iwate-u.ac.jp



【大船渡エクステンションセンター】
所在地：〒022-8501
岩手県大船渡市盛町宇津野沢15
大船渡市商工港湾部内
電話：090-2886-8887
E-mail：umeya@iwate-u.ac.jp



主な活動内容

企業訪問・面談数・意見交換会 64件 (述べ数) ※平成30年8月～平成31年3月

● 企業訪問 (ニーズ調査、課題抽出)

→訪問による情報収集活動を行うことで企業の抱える課題を抽出し、それを解決に繋げるよう大学の知見やネットワークを活用したコーディネート活動を行う。

● 共同研究プロジェクトの推進

→宮古・大船渡エクステンションセンターが関わる共同研究案件の進捗状況の確認、企業と大学との連絡調整など、プロジェクトを円滑に進めるための活動を行う。

● 先進技術調査、情報提供

→学内外の先進技術を幅広く調査し、企業に情報提供することで新技術導入などにつなげる活動を行う。

● 自立制御を目的とした船体制御に関する研究開発

岩手県のアワビ・ウニは、県内各地で水揚げされ収穫量は全国でもトップクラスを誇る。主な漁法はサツパ船と呼ばれる小型の船の上から口に咥えた箱メガネで海底を目視し、片方の手で操船を行いながらもう片方の手の竿カギ・タモで漁獲するが、水深に合わせ柄を接ぎ足すなど熟練を要する漁法であり身体的な負担も多く、高齢化に伴う後継者問題が深刻となっている。

この問題の解決には漁を行う際に船が定位置に留まる船体制御が有効と考えられ、大船渡市の企業と理工学部の金研究室で共同研究がスタートした。

本件は大船渡市産学官連携研究開発事業に採択され、平成29年度には漁中に他の漁船との衝突を避けるための自動衝突回避機能について可動式距離センサを開発し、平成30年度には、開発したセンサを用いて他の漁船と見立てた障害物から一定距離を保つよう船体を制御し、素早く収束することが確認できた。

船体の定点制御には、Deep Binary Tree (DBT)「運動に関する学習を得意とする小脳のようなアルゴリズム」のAI技術が使われる予定で、船体の動きをモーションキャプチャシステムで計測し、速度ベクトルと加速度ベクトルの対応関係を学習する仕組みとなっており、海洋実験に向けた実装の準備が現在進んでいる。



自立制御

★地域自治体事業への本学教員の参加支援

大船渡市は、太平洋沿岸のヤブツバキ実取りの北限として知られ、市内のいたる所に自生のヤブツバキが見られる。大船渡市では市民の誰もがツバキのことをよく知り、大切に守り育てるとともに地域を代表する資源として増やし、有効に使いながらツバキのある暮らしを楽しむ人々が集うところを目指しており、産業化への取り組みとしてツバキの種を買い取りツバキ油を作る「椿狩り」（大船渡市椿利活用推進事業）が行われている。

野生のツバキは収穫の難しい丘陵の斜面に自生することも多く、また自生地区により実の収穫時期にバラつきが見られることから、安定した収穫量を確保することが課題となり「育苗に関する取り組み」が始まった。エクステンションセンターでは農学部の教員と大船渡の生産地を訪問し、生産者を交えた意見交換や技術的な助言を行った。

今後は農学部の農園でも大船渡から持ち帰ったツバキの種を栽培し、大船渡市との生育の比較を行うとともに、収穫期には再び大船渡を訪問し、採取した種を地区毎に分け発芽率や生育を調査することなどが検討されており、引き続き大船渡市及び、生産者と連携した活動に取り組んでいる。



参加支援

04 共同研究員について

相互友好協力協定締結自治体／共同研究

岩手大学では、県内自治体※と文化・学術の分野で支援及び協力するために相互友好協力協定を締結している。また、実践的な取り組みとして、平成30年度は相互友好協力協定締結自治体3市（釜石市、盛岡市、久慈市）と共同研究を行い、地域創生部門に市職員を共同研究員として受け入れている。
※旧水沢市と旧江刺市を含む。



平成30年度 共同研究員



- 相互友好協力協定締結自治体
- 相互友好協力協定締結自治体・共同研究

釜石市

活動内容

■ 地元企業・団体のニーズ（課題）と大学のシーズ（技術・知見）をマッチング

地元企業・団体・公的機関等を訪問、又は市役所各課との情報共有を図りながら、課題や前進の芽を拾い集めて、岩手大学の持つシーズや大学生の柔軟な発想をもって解決できないか検討して、マッチングとサポートする。

■ 地域課題解決に関する事業のサポート

- ・地域課題解決プログラム採択案件（2件）のサポート
申請者と担当教員の連絡調整や現地調査同行等
- ・地域における課題の情報収集
挙げられた案件を大学のシーズで解決・協力できるか検討

■ 地域創生に向けた、地域・大学・大学生の活動のサポート

大学と地域、大学生と地域の多様な協働活動が円滑に推進できるようにサポートやコーディネートを行う。

■ 釜石市と岩手大学との連携推進

- ・東日本大震災からの復興及び特色ある地域創生に向けた活動における市役所各課と岩手大学の関係構築や連携強化のためのサポートを行う。
- ・岩手大学と釜石市の連携について、広い世代、企業や地域に知ってもらうため地域連携フォーラムを開催する。

活動事例

● 釜石はまゆり酵母を利用した日本酒開発の研究【地域課題解決プログラム】

H28年度～H30年度までの3年間、学内制度「地域課題解決プログラム」の採択を受け、酵母の専門家である岩手大学農学部下飯仁教授により「日本酒酵母としての可能性」探索を行っていただいたもの。前任の共同研究員から引継ぎ、研究に関するサポートを行った。

■ H28年度の結果：清酒用酵母としての可能性あり

- ・一般的清酒酵母には及ばないものの「高い発酵力」
- ・官能試験にて「香りがよく」「酸味があり」「甘味がある」
- ・現在使用されている酒母とは違う酵母である事が証明された

■ H29年度の結果：事業用や商品開発へのステップアップ

- ・中規模な試験醸造による製品用醸造に適性を研究
(公設試や民間企業との協力が必要な研究、その推進)
- ・製品化に適したより発酵力の強いはまゆり酵母の選抜と育種
(多様な事業用可能性を拓くための、基礎研究)

■ H30年度の結果：さらに発酵力の強いはまゆり酵母の育種に成功！

- ・清酒としての評価も上がった
- ・焼酎やどぶろくとしての商品化も検討中

■ H31年度以降：下飯先生の研究は終了のため、新たな可能性を探る

- ・発酵力が上がったはまゆり酵母改良株を活用した新商品や新展開に向けての取組み
(例) ドライイースト化(コスト削減)、クラフトビール etc.
- ・市内県内に限らず、全国にPRを検討していく



はまゆり酵母試験酒



はまゆり酵母試験酒 試飲評価



試験醸造現場視察

● FRP 勉強会による新製品開発の検討

市内を中心としたFRP(繊維強化プラスチック：腐食、劣化に強く、軽量な特性をもつ)事業者の勉強会に、構造・橋梁工学を専門とする岩手大学大西弘志准教授を講師としてお招きすることで生まれた動き。平成28年度から年に数回勉強会を開催し、H28、様々な競争的資金に応募。結果、H28いわて産業振興センター「コンソーシアム型事業創出支援助成金」採択。「高台避難のための階段避難路用GFRP製」試作品を開発し、H30、「ふるさとものづくり支援事業」採択、引き続き課題解決を図りながら市場投入を目指している。

さらに地域連携フォーラムをきっかけに、FRPを活用した新しい商品開発の検討のため、平成31年2月より人文社会科学部芸術文化専修プログラムの田中先生をお招きし、デザインに関する勉強会を実施した。多様な専門家からの指導を受けながら新たな新商品の開発に向け、競争的資金への応募を検討している。

共同研究員は勉強会への参加・連絡調整・申請関係等のサポートを行っている。



「FRPを活かした商品企画」勉強会



GFRP製階段の試作品

● 地域連携フォーラム in 釜石の開催

平成30年12月16日、釜石市民ホールTETTOにて、「地域連携フォーラム in 釜石」を行った。当日は140名以上の市民の方々や、高校生・大学生・企業・行政関係者にご参加頂いた。発表第1部では、菅原悦子理事・副学長からの「釜石キャンパスの概要説明」に続き、釜石キャンパス駐在の農学部後藤友明准教授「水産システム学コースの説明」、キャンパスで学ぶ大場由紀さん(大学院生)「釜石での研究と学生生活」、釜石高等学校 辰巳教諭「SSHの概要説明」、高校生の研究グループ(2グループ)「甲子柿由来のタンニン濃度」・「釜石の活性化のために～釜石の人口減少率を抑えよう～」と題して発表が行われた。第2部より、農学部 下飯仁教授「釜石はまゆり酵母の高機能化～更なる利活用のための育種～」、農学部 三浦靖教授「科学的根拠に基づいた加工食品の開発～甲子柿粉体、柿の葉寿司など～」、人文社会科学部 田中隆充教授「デザインの力で釜石は一番になれる！～“水産品・子業製品・スマホのアプリ等”のデザイン事例を通して～」、三陸復興・地域創生推進 貫洞義一コーディネーター「岩手大学の産学官連携の取組とシーズ紹介」と多様な成果報告が行われた。

本フォーラムでは、これら岩手大学とかがわりのある釜石市内の研究事例を、具体的ケースを提示しながら分かりやすく市民の皆様にお伝えすることができた。また、水産システム学コースの学生が平成30年10月より釜石に転居し釜石キャンパスで学んでいることを伝えたことや、高校生や大学生の発表もあったことで、若い世代と行政・岩手大学・企業が交流することができ、地域全体として「地域創生」「産学官連携」「地域連携」活動が行われていることを意識するきっかけにもなった。



地域連携フォーラム in 釜石 (パネル展示)

盛岡市

活動内容

市内企業・団体との連携推進

持続的な産業振興・地域振興に向けて、特に地域経済活性化及び地域志向型人材育成を意識しながら、市内企業団体との連携を推進した。

盛岡市産学官連携研究センター入居企業の支援

盛岡市産学官連携研究センター入居企業の地域展開支援を行うとともに、同センターの事業である「MIUカフェ」の企画立案も一部担当し、新たな出会い・連携の場を提供した。

盛岡市との連携推進

盛岡市・岩手大学連携推進協議会において、地域連携フォーラムほか各種事業を行うことにより、地域振興に向けた学官連携の推進を図った。

活動事例

地域材の利活用に係る連携

森林・林業及び木材産業において、木材価格の低迷や、木材の安定供給が課題となっており、これらの解決に向けて、大学・研究機関及び行政機関が、それぞれ研究・事業を行っていることから、「地域材の需要拡大と流通体制整備」は産学官共通の地域課題といえる。

この課題に対して、盛岡市においては、株式会社坂東木材がハブとなり、産学官がそれぞれに利益を得ながら、持続的に連携することで、解決策を講じられる可能性がある。

株式会社坂東木材は、その代表が盛岡市木材流通推進会議（会長＝山本信次教授（農））の委員であり、平成29年度からは、共同研究員のコーディネートにより、学内カンパニー Morito の学外アドバイザーを務めている。

これに端を発して、平成30年度は次のとおり連携が波及し、共同研究員はその支援を行った。

①「市民に親しまれる市産材ベンチのデザイン開発」について、盛岡市の意向を受けて、田中隆充教授（人社）をコーディネートし、株式会社坂東木材の技術協力のもと、産学官連携により取り組んだ。

②株式会社坂東木材の取引先であるKITENE（株式会社ホームセンターの運営するDIYスペース）及び肴町商店街振興組合青年部が、①の連携に興味を示したことから、田中教授を迎えて、KITENE で出張 MIU カフェを開催し、新たな連携のきっかけを提供した。

なお、①及び②ともに、発展した形で、令和元年度も継続して取り組むこととしている。

このように、ものづくり振興・商店街活性化も見据えて、連携を波及させることにより、盛岡市における森林・林業及び木材産業の振興を図っていく。



地域材をテーマに議論（出張 MIU カフェ）



多文化コミュニティの構築手法の検討

盛岡生活文化研究室（市民団体）は、平成29年度に五味壮平教授（人社）との連携により、多世代コミュニティの構築に取り組み、「もりおか家族のおいしいカレンダー」を制作した（さわや書店及び岩手大学生協で販売中）。

この取組みを受けて、平成30年度は、「多文化」をテーマに取り組む意向が、盛岡生活文化研究室から示されたことから、松岡洋子教授（教育推進機構）をコーディネートした。この背景として、岩手県では、今後、県人口が減少する中で、外国人県民等の割合がさらに高まるものと予想されており、インバウンドや、災害時の外国人の対応についても、議論の余地がある。

具体的な取組みについては、外国人（学生・市民）と日本人（学生・市民）と一緒に街歩きを行ったうえで、多文化社会で配慮すべきポイントを議論し、その過程を通じて、コミュニティを構築するとともに、その成果を「みんなにやさしい盛岡 MAP」としてまとめた（岩手大学等で配布中）。

また、この取組みを令和元年度以降も継続させるために、ゆるやかなコミュニティ「りんがふらんか」（任意団体）を構築した。



みんなにやさしい盛岡 MAP



MIUカフェの開催

MIU カフェは、盛岡市産学官連携研究センター（コラボ MIU）のロビーで開催するサイエンスカフェである。参加者間の新たな連携のきっかけづくりを目的として、教職員・学生のほか、研究者、民間事業者及び一般市民等を対象に、主に平日夕方に不定期（年間6回程度）に開催している。具体的には、話題提供者を学内外から迎えて、研究・事業を紹介のうえ、軽食を取りながら、ざっくばらんに参加者間で意見・情報交換を行うもの。

また、平成28年度からは、コラボ MIU 及び岩手大学の門戸を、市民にさらに開放し、地域密着型シンクタンクとして認識されることを目的に、「出張 MIU カフェ」を開催している。



MIU カフェの様子



地域連携フォーラム in 盛岡の開催

「地域連携フォーラム in 盛岡」については、盛岡市・岩手大学連携推進協議会の事業として、平成20年度から開催している。

平成30年度は、10月29日に教育学部北桐ホールで、「AI × IoT 時代の産業振興を推進する産学官連携」をテーマに開催し、企業、大学・研究機関及び行政機関等から106名が参加した。

はじめに、共同研究員の活動報告として、「市職員による産学官連携活動—交流・連携拠点としてのコラボ MIU—」と題し、地域材の利活用に係る連携を事例として挙げながら発表した。

次に、基調講演として、理工学部システム創成工学科知能・メディア情報コース教員であり、株式会社エイシング創業者兼取締役 CTO でもある金天海准教授が、「ロボット・AI 研究の実用化を通じた産学官連携」と題して、発表した。

続いて、次の発表者が AI・IoT 及び産学官連携に係る研究・事例紹介を行った。

- ①株式会社イーアールアイ技術部 三浦淳プロジェクトマネージャ
- ②アルプス電気株式会社（現アルプスアルパイン株式会社）技術本部M8技術部 寺尾博年部長
- ③岩手県農林水産部農業普及技術課 菊池政洋総括課長
- ④三陸復興・地域創生推進機構地域創生部門 今井潤教授

このフォーラムを通じて、産学官それぞれの先進的な取組みと、新たな連携のきっかけを、参加者に提供した。



理工学部 金准教授



久慈市

活動内容

■ 産学連携の取組創出及び支援

産学連携による研究開発を推進するため、次の事項に関する取組を行った。

- ・企業が抱える課題（ニーズ収集）、大学が保有する研究成果等（シーズ）の提供
- ・リエゾン業務の実施及び共同研究の推進等
- ・各種産学連携研究等への参加。

■ 岩手大学を核とする久慈志向コミュニティの形成及び活動支援

研究及び教育活動を通じた地域課題解決に向けた活動を推進するため、次の事項に関する取組を行った。

- ・地域課題解決プログラム
- ・NEXT STEP 工房
- ・enPiT2 成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成
- ・ものづくり EF (学内カンパニー)
- ・いわてキボウスター開拓塾
- ・ふるさと発見! 大交流会 in IWATE 2019

■ 地域連携システムの構築に向けた活動

久慈市と岩手大学の産学官連携を推進し、相互の持続的な発展に資するため、地域連携フォーラムや産学官連携担当者会議を実施した。

活動事例

● 地域連携フォーラム in 久慈の開催

本フォーラムは、地域と大学の連携機会の創出による地域志向研究を促進することを趣旨とし、平成31年1月28日、久慈グランドホテルを会場に開催した。

第一部では、三陸復興・地域創生推進機構地域創生部門長から「岩手大学における地域創生への取組」について紹介するとともに、久慈エクステンションセンターと久慈市共同研究員の活動報告を行った。また、産学官連携コーディネーターから、岩手大学のシーズ集や技術支援について紹介した。

第二部では、産学連携の取組として理工学部教員と地域企業の連携事例について紹介したほか、久慈市の地域資源や課題をテーマとした取組として、学部生等の研究・活動についてそれぞれ事例発表を行った。

参加企業からは「産学官連携は企業活動にとって極めて重要であり、また久慈で活動したいという人のためにも、久慈市と岩手大学との連携を継続すべきである」との意見が寄せられ、学長からは「岩手大学と久慈市の連携により、研究活動等で地域に関わる教員や学生の増加につながっている」ことについて言及し、参加した高校生に対し「次回のフォーラム開催時には、高校生の取組についても発表してもらおう場面を設け、議論を深めたい」と地元高校生に対しメッセージが送られた。



地域連携フォーラム in 久慈

● もちよこい久慈（仮）現地調査

地域をフィールドとする研究室や学生の活動に関わる中で、学生から久慈に関わる活動の実践について共同研究員が相談を受けたことから、久慈での活動フィールド探索を行うため、学生と共同研究員による現地調査を実施し、久慈市内各地の散策や各種活動団体等との意見交換を行った。

1日目は、市街地散策を行うとともに、久慈市と岩手県北広域振興局が主催する「協働のまちづくりセミナー～ふるさと未来づくり講演会～」等に参加するとともに、地元高校生で構成する地域づくり団体メンバーやボランティア団体メンバーとの意見交換を行った。

2日目は、久慈市山根地区の散策を行うとともに、当該地区を拠点に活動している久慈市地域おこし協力隊との意見交換を行った。

今後は再度、山根地区に訪問し、「観光」や「農業」をキーワードとした取組について模索し、地域との関係性を築きながら、学生ならではの取組を模索していくこととしている。



もちよこい久慈（仮）現地調査

01 NEXT STEP 工房

Topics

本機構では、学生が県内各地域をフィールドに、地域がかかえる課題や学生自身が課題と考えている事象について、その解決を図り、地域と共に成長することを目的に、地域活動・研究支援のプラットフォーム「NEXT STEP 工房」を設置（平成30年4月～）した。

5月14日（月）、15日（火）には地域に関わる研究や活動を行っている、あるいはそのような活動に興味がある学生・教職員対象に説明会を開催した。運営チームリーダーの人文社会科学部五味教授から、本工房の構成や活動の内容、エントリー方法の説明があり、2日間で延べ70人以上が出席した。参加者から質問や意見が多数あり、本工房に対する期待や関心の高さが感じられた。

6月3日（日）には盛岡市産学官連携研究センター（コラボMIU）を会場に、地域活動を行っているグループによる活動紹介、参加者同士の交流、新しい地域プロジェクトが立ち上がるきっかけ作りなどを目的にワークショップを行った。ワールド・カフェ形式※で『大学生が地域でできることは？大学生が地域でやりたい（やりたくなる）ことは？大学生が地域ですべきことは？』をテーマに話し合い、「地元に残りたくなるようなまちづくりのために企業と連携していきたい」、「自分たちがやりたいことをやるべきではないか」、「卒業後



説明を行う人文社会科学部五味教授（5月14日、15日）



ワークショップ

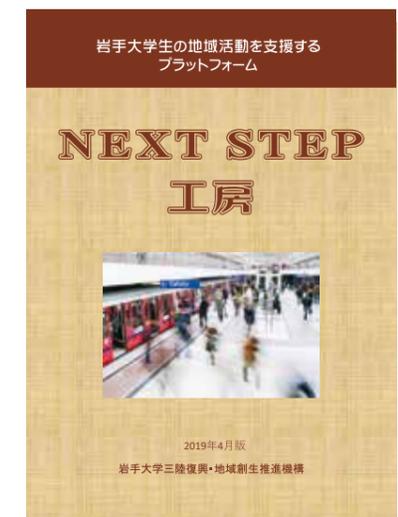
も関わりを続けられるという視点も大事」など、地域に対する活動に関する多様な意見を共有する場となった。その後、既存グループからのPRやフリートークが行われた。

NEXT STEP 工房には、平成30年度の1年間で、約125名のほか、地域に関わる団体・プロジェクト等25チームがエントリーしている。今後もエントリーの呼びかけを行いながら、ワークショップや地域活動に関する情報提供などを通じて、学生が主体となる活動を支援し、地域に根ざした取組をサポートしていく。

※『カフェ』のようなリラックスした雰囲気の中で、少人数に分かれたテーブルで自由な対話を行い、他のテーブルとメンバーをシャッフルして対話を続けることにより、参加した全員の意見や知識を集めることができる対話手法の一つ。（出典：「ワールド・カフェの手引き」SPODフォーラム2012編）



興味のある団体とのフリートーク



NEXT STEP 工房 Leaflet



最後に記念撮影

02 地域連携フォーラム

Topics

○ 釜石

釜石市民ホール TETTO にて、「地域連携フォーラム in 釜石」を行い、当日は 140 名以上の市民の方々や、高校生・大学生・企業・行政関係者に参加いただいた。発表第 1 部では、菅原悦子理事・副学長からの「釜石キャンパスの概要説明」に続き、釜石キャンパス駐在の農学部後藤友明准教授「水産システム学コースの説明」、キャンパスで学ぶ大場由紀さん（大学院生）「釜石での研究と学生生活」、釜石高等学校 辰巳教諭「SSH の概要説明」、高校生の研究グループ（2 グループ）「甲子柿由来のタンニン濃度」・「釜石の活性化のために～釜石の人口減少率を抑えよう～」と題した発表が行われた。

第 2 部では、農学部下飯仁教授「釜石はまゆり酵母の高機能化～更なる利活用のための育種～」、農学部三浦靖教授「科学的根拠に基づいた加工食品の開発～甲子柿粉体、柿の葉寿司など～」、人文社会科学部 田中隆充教授「デザイン力で釜石は一番になれる！～“水産品・工業製品・スマホのアプリ等”のデザイン事例を通して～」、本機構貫洞義一特任専門職員（産学官連携コーディネーター）「岩手大学の産学官連携の取組とシーズ紹介」と多種多様な成果報告が行われた。

本フォーラムでは、これら岩手大学とかがわりのある釜石市内の研究事例を、具体的ケースを提示しながら分かりやすく市民の皆様にお伝えすることができた。また、水産システム学コースの学生が平成 30 年 10 月より釜石に転居し釜石キャンパスで学んでいることを伝えたことや、高校生や大学生の発表もあったことで、若い世代と行政・岩手大学・企業が交流することができ、地域全体として「地域創生」「産学官連携」「地域連携」活動が行われていることを意識するきっかけにもなった。



菅原前機構長



○ 盛岡

盛岡市は、岩手大学との間で、盛岡市・岩手大学連携推進協議会を組織しており、この協議会の事業として、「岩手大学地域連携フォーラム in 盛岡」を平成 20 年度から開催している。フォーラム in 盛岡の特徴は、対象とする業種を変えながら、毎年開催していることである。

今回は、「AI × IoT 時代の産業振興を推進する産学官連携」と題して、教育学部北桐ホールを会場に開催し、企業、大学・研究機関及び行政機関等から 106 名が参加した。

このフォーラムでは、はじめに盛岡市派遣の金澤研究員が、「市職員による産学官連携活動—交流・連携拠点としてのコラボ MIU—」と題して、地域材の利活用に係る連携を事例として挙げながら、日頃の活動報告を行った。次に基調講演として、理工学部システム創成工学科知能・メディア情報コー



金澤共同研究員 (盛岡市派遣)



理工学部 金准教授

ス教員であり、株式会社エイシング創業者兼取締役 CTO でもある金准教授が、「ロボット・AI 研究の実用化を通じた産学官連携」と題して、発表した。

その後、次の発表者が AI・IoT 及び産学官連携に係る研究・事例紹介を行った。

- ① 株式会社イーアールアイ技術部 三浦プロジェクトマネージャ
 - ② アルプス電気株式会社 (現アルプスアルパイン株式会社) 技術本部 M8 技術部 寺尾部長
 - ③ 岩手県農林水産部農業普及技術課 菊池総括課長
 - ④ 三陸復興・地域創生推進機構地域創生部門 今井教授
- このフォーラムを通じて、産学官それぞれの先進的な取組みと、新たな連携のきっかけを、参加者に提供した。

○ 久慈

岩手大学と久慈市は、平成 17 年度に相互友好協力協定を締結し、平成 18 年度からは久慈市役所職員が岩手大学に共同研究員として常駐派遣されている。共同研究員は現在、三陸復興・地域創生推進機構地域創生部門に所属し、産学官連携による地域活性化に取り組んでいる。

「岩手大学地域連携フォーラム in 久慈」は、久慈グランドホテルを会場に、地域と大学の連携機会の創出による地域志向研究を促進することを趣旨として開催された。

第一部では、本機構地域創生部門長の今井潤教授から「岩手大学における地域創生への取組」について紹介するとともに、久慈エクステンションセンター川尻博特任専門職員と大内田泰之共同研究員（久慈市から派遣）が活動報告を行った。また、貫洞義一産学官連携コーディネーターが岩手大学の技術支援やシーズについて紹介した。

第二部では、産学連携の取組として、理工学部清水友治准教授と久慈琥珀株式会社との連携により開発された久慈琥珀粉末の成形技術について事例発表を行ったほか、久慈市の地域資源や課題をテーマとした取組として、農学部食肉科学研究室 4 年の金谷圭太さんから短角牛の研究について、理工学部三上昌也特任准教授、理工学部ものづくり EF 学内カンパニー MGP、八戸工業高等専門学校専攻科の学生から enPiT2 (成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成) を通じた PBL の取組について、大学院地域創生専攻修士 2 年の森田詩緒里さんから久慈港の認知度向上に向けた市民へのアプローチ手法の検討について、それぞれ事例発表を行った。

参加企業からは「産学官連携は企業活動にとって極めて重要であり、また久慈で活動したいという人のためにも、久慈市と岩手大学との連携を継続すべきである」との意見が寄せられた。

最後に、岩淵学長は「岩手大学と久慈市の連携により、研究活動などで地域に関わる教員や学生の増加につながっている」ことについて言及し、参加した高校生に対し「次回のフォーラム開催時には、高校生の取組についても発表してもらおう場面を設け、議論を深めたい」とメッセージを送った。



今井教授 (地域創生部門長)



農学部 4 年 金谷圭太さん



03 平成30年度 首都圏報告会

Topics

東日本大震災から7年以上経過し、復興支援の取組は課題に直接アプローチするものから、これまでの経験を踏まえた新たな取組に変化している。岩手大学は、本学から見た被災地の現状をお伝えすると共に、首都圏の市民の方に身近な地域が抱える課題とどう向き合うかを考える機会となるよう報告会を開催している。3回目となる今年度は100名以上来場いただいた。

はじめに、地域防災研究センターの福留邦洋教授が、地域防災教育研究部門（地域防災研究センター）の設立経緯や地域の自主防災組織への支援、自治体・医療関係者への実践的な危機管理講座、市民、中学生などへの防災に関する講習、ハーバード大学・精華大学と共同で開催した「国際防災・危機管理研究 岩手会議」などについて報告した。続いて、地域防災教育研究部門兼務教員で教育学研究科の森本晋也准教授が、2016年の台風10号被害を教訓に、岩泉町教育委員会や国土交通省岩手河川国道事務所、盛岡地方気象台の協力を得て作成した防災教育教材（学校版タイムライン）の紹介やそれを使った教員研修、中高生への講習の実施などについて報告した。

次に、これまでの被災動物支援の取組やその教訓を踏まえた被災動物支援のための組織作り等について、三陸復興部門被災動物支援班長の佐藤れえ子農学部附属動物病院長・教授、同班の山崎弥生特任研究員が報告した。佐藤院長からは、沿岸各地の避難所でのペットレスキュー活動や2016年の熊本地震の際にマースジャパンリミテッドより寄贈された「ワンにゃんレスキュー号」の貸し出しについてなど、山崎特任研究員からは、これまでの支援活動で得た教訓を踏まえたVMAT（動物版DMAT）設立に向けたシンポジウム開催、ペット同行避難への理解を深めるためのシンポジウム開催などについて報告した。



防災教育研究部門の活動を報告する福留教授



教育学研究科の森本准教授



農学部附属動物病院長の佐藤教授



本機構の山崎特任研究員

最後に、人文社会科学部五味壮平教授と理工学部2年及川雅貴さん、人文社会科学部2年佐藤倫さんが、学生の地域活動・研究を支援するプラットフォーム「NEXT STEP 工房」について報告した。五味教授は、NEXT STEP 工房設立の経緯の説明した後、学生達が地域での活動を通じて「地域に根差す（定着する）」ことを選択肢として考えるようになれば、地域創生の原動力になるだろうと期待を述べた。次に、学生チームから「まちづくり研究会」の取組について、雫石町での温泉街活性化を目指した住民主催の会議への参加や温泉街の昔の写真を頼りに街歩きを楽しむイベント「思ひ出さんぽ」の実施、陸前高田市の災害復興公営住宅での食事会やゲーム大会の実施、公営住宅共用部分の清掃活動への参加などを報告した。また、雫石町では学生が主体となり地域を巻き込んだ活動の企画・実施、陸前高田市では公営住宅からの退去者増加やイベントへの否定的な考えを持っている住民もいるなどの課題があり、内容や工法の工夫が必要と感じていること、支援活動の必要性自体を考える時期にきているかもしれないと感じていると、今後のプランについて説明も行われた。

最後の質疑応答では、NEXT STEP 工房の活動について温泉街の宿泊施設との関係についての質問や活動の持続性の方策として起業を考えてはどうかという意見を頂き、また、雫石町出身の卒業生からはとても有難い活動でますます頑張りたいとの激励があった。



NEXTSTEP 工房について報告する「まちづくり研究会」の学生（左・中央）と五味教授（右）

平成30年度 岩手大学三陸復興・地域創生推進機構 首都圏報告会

復興支援の取組を 新たな地域社会モデルへ

各地で様々な自然災害が発生している昨今、本学の東日本大震災からの復興・復興支援の経験は、あらゆる災害への対応を考える際に役立ち、それを皆さまにお伝えすることは本学の使命だと考えています。また、東日本大震災の発生から7年が経ち、本学の復興支援の取組も課題に直接アプローチするものから、これまでの経験を踏まえた新たな取組に変化しています。

今回は、本学から見た被災地の今をお伝えすると共に、皆さまが身近な地域の抱える課題とどう向き合うかを考える機会となるよう報告会を行います。お問い合わせの上、ご参加ください。

日時 12月2日（日）13:10-16:10

場所 日比谷図書文化館（千代田区日比谷公園）
日比谷コンベンションホール

入場無料
要申込

締切：11月16日（金）

開会挨拶 岩手大学長 岩淵 明
地域防災教育研究部門（地域防災研究センター）の取組
地域防災研究センター教授 福留 邦洋

災害の教訓を踏まえた防災教育教材の開発と学校版タイムラインづくり
地域防災教育研究部門兼務教員 森本 晋也（教育学研究科准教授）

動物と共に生きる ～人と動物の共生を目指した支援活動～
三陸復興部門被災動物支援班長 佐藤 れえ子（農学部附属動物病院長・教授）
三陸復興部門被災動物支援班特任研究員 山崎 弥生

「NEXT STEP 工房」創設の経緯
～地域に関わる学生の活動・研究を支援するプラットフォームとして～
NEXT STEP 工房運営チームリーダー 五味 壮平（人文社会科学部教授）
NEXT STEP 工房参加の学生グループ

閉会挨拶 三陸復興・地域創生推進機構長 菅原悦子

申込・問合せ先：岩手大学地域創生推進課
TEL:019-621-6629 FAX:019-621-6556 samiku@iwate-u.ac.jp

主催：岩手大学
主管：岩手大学三陸復興・地域創生推進機構
後援：国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所、東京都教育委員会、マースジャパンリミテッド、復興庁、岩手県

首都圏報告会チラシ

04 沿岸部コンサート

Topics

♪ 01 管弦楽団釜石公演実施報告

12月1日(土)14時から、釜石市民ホール TETTO ホールAにて、本学管弦楽団による演奏会を開催した(主催:岩手大学、主管:岩手大学管弦楽団、岩手大学三陸復興・地域創生推進機構)。

当日は、約200名の市民が参加し、遠くは宮城県からもご来場いただいた。初めに岩淵明学長から、本演奏会の開催経緯や管弦楽団の演奏が客席の皆さまの心の癒しになればとの挨拶があった。続いて、野田武則釜石市長から、沿岸部では初めて行う管弦楽団の定期演奏会ということで謝辞をいただいた。

久志本涼氏の指揮で、R.ワーグナーの楽劇「ニュールンベルクのマイスタージンガー」より第一幕の前奏曲、A.ポンキエッリの歌劇「ラ・ジョコンダ」より「ジョコンダのテーマ」と「時の踊り」、J.オッフェンバックの「天国と地獄」序曲、J.ブラームスの交響曲第2番二長調作品73が演奏された。途中、ハーブ奏者の森真由美氏がゲストとして演奏に加わり、オーケストラの迫力あるサウンドが会場に響き渡った。アンコールでは、「G線上のアリア」など3曲が披露され、大きな拍手の中、終演した。

来場者からは「大変良い演奏会で楽しかった」、「また演奏会を行って欲しい」という声が多数寄せられ、管弦楽団の学生からも「真新しいホールで気持ちよく演奏できた」、「沿岸出身の学生も多く所属しているので、これからも沿岸部で演奏会を行いたい」との声があり、会場が一体となつてともに音楽を楽しむ、素晴らしい時間となった。



久志本 涼 氏 (中央)



♪ 02 吹奏楽コンサート実施報告案

12月23日(日)14時から、陸前高田市コミュニティホール シンガポールホールにて、本学吹奏楽部によるコンサートを開催した(主催:岩手大学、主管:岩手大学吹奏楽部、岩手大学三陸復興・地域創生推進機構、共催:陸前高田グローバルキャンパスほか、後援:陸前高田市、陸前高田市教育委員会)。

当日は、陸前高田市をはじめとする気仙地域から約140名の市民の皆さまに参加いただいた。初めに岩淵明学長から挨拶があり、本コンサートの開催経費の一部が2016年6月にこのホールでフリーライブを行ったスターダスト☆レビューとファンの皆さまからの寄附金であることや皆さんと共に今日のコンサートを楽しみたいという言葉があった。続いて、金賢治陸前高田市教育委員会教育長から、陸前高田市では初めて開催する本学吹奏楽部のコンサートという事で謝辞をいただいた。

本学教育学部教授の牛渡克之氏の指揮で、第1部は川辺公一の「高度な技術の指標」、高晶師の「吹奏楽のためのワルツ」など4曲が披露され、ジョージ・ガーシュウインの「ラプソディ・イン・ブルー」では、本学教育学部特命准教授でピアニストの佐藤彦大氏がゲストとして演奏に加わった。繊細かつ迫力のあるピアノと吹奏楽の演奏が会場に響き渡り、演奏後は拍手が鳴りやまず、その拍手に応え、佐藤氏は「ポロネーズ第6番変イ長調(フレデリック・ショパン作曲)」も演奏していただいた。休憩時間にはトロンボーン4重奏、木管5重奏によるロビーコンサートも行われた。

第2部はポップスステージと題し、「Welcome(真島俊夫作曲)」、「すべてをあなたに(マイケル・マッサー作曲)」など5曲が演奏された。「ど演歌えきすぶれず(杉浦邦弘編曲)」では部員3名がこぶしのきいた歌も披露した。アンコールでは、東日本大震災からの復興チャリティーソング「花は咲く」など2曲が演奏され、客席では目頭を押さえる姿もあった。

アンコールの最後の方でクリスマスツリーの着ぐるみやユニコーンのお面をかぶった学生が登場すると、客席からサンタクロースが飛び入りするサプライズもあり、笑顔溢れるコンサートとなった。

来場者からは「初めて吹奏楽の演奏を聴いたが、とても素晴らしかった」、「(演奏が)最高だった」という声が寄せられ、吹奏楽部の学生からも「普段と異なる楽器配置で大変な部分もあったが、楽しく演奏できた」、「沿岸でもっとコンサートを行いたい」との声があり、会場全体が音楽を楽しむ素晴らしい時間となった。



佐藤 彦大 氏 (右奥)



01 学協会誌 (論文)

著者名	論文題目	学協会誌の名称	巻号、ページ	掲載年月日	発行機関
三陸復興部門▼					
被災動物支援班					
Sato, I., Sasaki, J., Satoh, H., Deguchi, Y., Chida, H., Natsuhori, M., Otani, K. and Okada, K.	Decreased blood cell counts were not observed in cattle living in the difficult-to-return zone of the Fukushima nuclear accident.	Animal Science Journal	90(1) 128-134	2019/1/1	日本畜産学会
地域コミュニティ再建支援班					
杭田 俊之	岩手県における新規就業のケーススタディ ―現状と定着のための課題―	北日本漁業	46号, 48-56	2018/8/31	北日本漁業経済学会
妻倉 哲, 浅川 達人, 野坂 真	岩手県大槌町災害復興公営住宅入居者の精神的健康状態: WHO-5 調査による分析	日本都市学会年報	51 375-383	2018/5/1	日本都市学会
野坂 真, 妻倉 哲, 浅川 達人	災害復興公営住宅入居者における「生活」再建上の諸課題: 岩手県大槌町での質問紙調査の結果より	日本都市学会年報	51 241-249	2018/5/1	日本都市学会
妻倉 哲	紙面批評, 日報を読んで「災害教訓を示し続けて	岩手日報		2018/10/17	岩手日報
妻倉 哲	災害検証の含意 ―何を排除し何を含めるかの論議 東日本大震災被災自治体による検証をめぐって	日本都市学会年報	52 未定	2019 未定	日本都市学会
農地復興班					
築城 幹典	草地における放射性物質動態のモデル化	日本草地学会誌	64, 1, 39-42	2018/4/1	日本草地学会
原科 幸爾, 山本 清仁, 牧 雅康, 武藤 由子, 倉島 栄一	ドローン搭載のマルチスペクトルセンサを用いた津波被災水田の直播栽培におけるイネの生育モニタリング	農業農村工学会誌	87, 2, 121-126	2019/2/1	農業農村工学会
園芸振興班					
Takahiro Orikasa, Shoji Koide, Hana Sugawara, Manami Yoshida, Kazuhisa Kato, Uzuki Matsushima, Masumi Okada, Takashi Watanabe, Yasumasa Ando, Takeo Shiina, Akio Tagawa	Applicability of vacuum-microwave drying for tomato fruit based on evaluations of energy cost, color, functional components, and sensory qualities	Journal of Food Processing and Preservation	42, 6, e13625(doi: 10.1111/jfpp.13625)	2018/4/14	Wiley
岡田 益己, 松嶋 卯月	【特集】東日本大震災から7年: 岩手大学の取り組み	ハイドロポニクス	32, 1, 6-7	2018/9/15	日本養液栽培研究会
農林畜産復興総合計画班					
佐々木 薫子, 山本 清龍, 山本 信次	東日本大震災後の石巻市の来訪者意識にみるダークツーリズムの課題と可能性	環境情報科学術研究論文集	32 巻, 161-166	2018/12/5	環境情報科学センター
地本 真菜, 山本 清龍, 木下 勇	ガイドの有無によるまち歩き体験と地域の生活への眼差しの差異	環境情報科学	47(2), 70-75	2018/6/29	環境情報科学センター
地域創生部門▼					
宮澤賢治センター					
木村 直弘	〈蠅虫舞手 (アンネリダタンツエーリン)〉あるいは「tube」としてのシン、ゴジラ: 『シン、ゴジラ』における『春と修羅』の含意をめぐって試論	『賢治学』	5, 36-82	2018/7/31	岩手大学宮澤賢治センター
生涯学習部門▼					
朴 仙子, 朴 賢淑	大学における地域融合型『生涯教育講座』の意義	岩手大学人文社会科学部紀要	「アルテス リベラレス」第103号, p173~190.	2018/12/1	岩手大学人文社会科学部
朴 賢淑	The Issue of Child Poverty in Japan and the Need for Inclusive Support Examples of Children's Restaurants	ISIRIS (Research for Social Justice)			
三陸水産教育研究部門▼					
Hayashi, A., T. Goto, M. Takahashi and Y. Watanabe	How Japanese anchovy spawn in northern waters: start with surface warming and end with day length shortening.	Ichthyological Research	66・1・79-87	2019/1/25	
Goto, T., A. Takanashi and S. Watanabe	A record of the largest specimen of a rare roughy species, Hoplostethus crassispinus (Teleostei: Trachichthyidae), from off Sanriku, Pacific coast of northern Japan.	Biogeography	20・45-50	2018/9/20	
小川 智史, 飯島 啓, 佐藤 将, 兵藤 則行, 柴田 安司, 中村 将, 平井 俊朗	コイ各臓器のヘマトキシリン・エオシン染色像に対するブアン固定液のpHの影響	帝京科学大学紀要	15・143-151	2019/3/31	帝京科学大学
Shao, Y., Wu, C., Wu, T., Li, Y., Chen, S., Yuan, C., Hu, Y.	Eugenol-chitosan nanoemulsions by ultrasound-mediated emulsification: Formulation, characterization and antimicrobial activity	Carbohydrate Polymers	193・1・144-152	2018/8/	Elsevier
Shao, Y., Wu, C., Wu, T., Yuan, C., Chen, S., Ding, T., Ye, X., Hu, Y.	Green synthesis of sodium alginate-silver nanoparticles and their antibacterial activity	International Journal of Biological Macromolecules	111・1281-1292	2018/05/	Elsevier
Li, Y., Wu, C., Wu, T., Yuan, C., Hu, Y.	Antioxidant and antibacterial properties of coating with chitosan-citrus essential oil and effect on the quality of Pacific mackerel during chilled storage	Food Science & Nutrition	7・1131-1143	2019/2/21	WILEY
平泉文化教育研究部門▼					
劉 海宇	中尊寺金銀字一切経のルーツについて	平泉文化研究年報	19:13-18	2019/3/31	岩手県教育委員会
劉 海宇	隋唐时期的法舍利埋藏問題研究	岩手大学平泉文化研究センター年報	7:69-77	2019/3/31	岩手大学平泉文化研究センター

著者名	論文題目	学協会誌の名称	巻号、ページ	掲載年月日	発行機関
劉 海宇	平泉の世界遺産及びその考古学の現状	岩手大学平泉文化研究センター年報	7:55-68	2019/3/31	岩手大学平泉文化研究センター
劉 海宇	齊国鮑氏金文研究	鐵陶與齊文化—第22屆國際歷史科學大會瀋陽衛星會議論文集	200-211	2019/1/31	文物出版社
劉 海宇	漢代出土文獻所見『孝経』考述	保護与伝承視野下的魯文化學術研討會論文集	416-429	2018/12/31	上海古籍出版社
劉 海宇	清代碑學影響下日本學者對山東漢代碑刻的調查與研究	康有為國際書法研討會論文集	193-199	2018/10/25	西冷印社出版社
劉 海宇	『夢庵藏印』所收古璽的整理與研究	中国出土資料研究	22:45-78	2018/7/6	中国出土資料学会
伊藤 博幸	平泉研究、これから	月刊考古学ジャーナル	719・1-1	2018/11/30	
伊藤 博幸	藤原清衡と「平泉思想」	岩手大学平泉文化研究センター年報	7・123-133	2019/3/29	
相原 康二	文学に表れた平泉文化の基礎的研究(その6)―常陸坊海尊・清悦・残夢の物語―	岩手大学平泉文化研究センター年報	7・150-174	2019/3/31	岩手大学平泉文化研究センター
徳留 大輔	宋磁―神祕のやきもの	宋磁―神祕のやきもの(展覧会図録)		2018-04-21	出光美術館
徳留 大輔	「宋磁: 神祕のやきもの」展	陶説	782・7-15	2018-05	日本陶磁協会
徳留 大輔	平泉出土中国産陶磁器について: その組成とポータブル型蛍光X線分析器を用いた産地推定研究の成果(特集 平泉の考古学(2))	月刊考古学ジャーナル	719・20-24	2018-11	ニューサイエンス社
徳留 大輔	日本に出土・伝世する青白磁梅瓶に関する一考察	出光美術館研究紀要	24・6,17-53	2019-01-31	出光美術館
徳留 大輔, 平原 英俊, 森 静, 田上勇一郎, 栗建安, 羊澤林, 沈岳明, 林信 太郎, 齋藤 徳美	ポータル複合X線分析による中世前半期の中国産陶磁器の産地推定に関する研究―福建・浙江産陶磁器の研究を事例に	東洋陶磁		2019-03-31	東洋陶磁学会
地域防災教育研究部門▼					
和知 剛, 千葉 達朗, 土井 宣夫, 岡田 智幸, 吉田 桂治, 越谷 信, 林信 太郎, 齋藤 徳美	八幡平火山群、航空レーザー測量で検出された火口群と完新世火山灰	岩手の地学	48,13-45	2018/6/1	岩手県地学教育研究会
杭田 俊之	岩手県における新規就業のケーススタディ ―現状と定着のための課題―	北日本漁業	46, 48-55	2018/8/31	北日本漁業経済学会
妻倉 哲, 浅川 達人, 野坂 真	岩手県大槌町災害復興公営住宅入居者の精神的健康状態: WHO-5 調査による分析	日本都市学会年報	51 375-383	2018/5/1	日本都市学会
野坂 真, 妻倉 哲, 浅川 達人	災害復興公営住宅入居者における「生活」再建上の諸課題: 岩手県大槌町での質問紙調査の結果より	日本都市学会年報	51 241-249	2018/5/1	日本都市学会
妻倉 哲	紙面批評, 日報を読んで「災害教訓を示し続けて	岩手日報		2018/10/17	岩手日報
妻倉 哲	災害検証の含意 ―何を排除し何を含めるかの論議 東日本大震災被災自治体による検証をめぐって	日本都市学会年報	52 未定	2019 未定	日本都市学会
山崎 慶大, 菅 重夫, 高橋 直, 栗原 浩平, 小林 宏一郎	ファン付き作業服が建設作業員の生理、心理反応に及ぼす影響と他の要因に関する研究 建設現場における実態調査 その1	日本建築学会環境系論文集	83, 747, 453-463	2018/5/1	日本建築学会
山崎 慶大, 菅 重夫, 高橋 直, 栗原 浩平, 小林 宏一郎	人工気候室での模擬作業がファン付き作業服を着用した建設作業員の生理、心理反応に及ぼす影響	日本建築学会環境系論文集	83, 748, 543-553	2018/6/1	日本建築学会
K. Kobayashi and M. Iwai	Quantitative Independent Component Selection Using Attractor Analysis for Noise Reduction in Magnetocardiogram Signals	IEEE Trans. Magnetics	54, 11, 1-4	2018/11/1	IEEE
栗原 浩平, 山崎 慶大, 菅 重夫, 小林 宏一郎, 濱田 靖弘, 高橋 直	ファン付き作業服と作業時間帯が建設作業員の生理、心理反応に及ぼす影響 建設現場における実態調査 その2	日本建築学会環境系論文集	84, 756, 151-159	2019/2/1	日本建築学会
高尾 敬幸, 下澤 治, 村上 和男, 阿部 都男, 岡田 知也, 小笠原 敏記, 柴本 秀之, 中村 由行	簡易な浮遊系、底生系カップリングモデルの構築と23年間の水質の再現	土木学会論文集 B1 (水工学)	74, 4, 1,511-1,516	2018年11月	土木学会
板宮 朋基, 村上 智一, 小笠原 敏記, 川崎 浩司, 下川 信也	スマートフォン用ヘッドマウントディスプレイを用いた高潮想定没入体験システムの開発	土木学会論文集 B3 (海洋開発)	74, 2, 1,773-1,778	2018年11月	土木学会
奥小森, 小山田 哲也, 羽原 俊祐	スケールリング劣化に及ぼす気泡径分布の影響とその原因	コンクリート工学年次論文集	40, 1, 777-782	2018.7.15	公益社団法人日本コンクリート工学会
起田 賢規, 山本 英和, 齊藤 剛	福島県の広帯域リアレイで観測された常時微動の地震波干渉法解析―南北測線における解析―	東北災害科学	55	2019/03	自然災害研究協議会東北支部
佐々木 恵太, 山本 英和, 齊藤 剛	岩手大学で観測された短周期微動の地震波干渉法解析による群速度の推定	東北災害科学	55	2019/3/1	自然災害研究協議会東北支部
多田 光希, 山本 英和, 大場 星也, 齊藤 剛	微動アレイ探査による盛岡市域におけるS波速度構造の推定―稠密極小アレイ観測と大規模アレイ観測―	東北災害科学	55	2019/3/1	自然災害研究協議会東北支部
OHORI Michihiro, ASAKA Yuta, AZUMA Hiroki, ADACHI Shigeaki, ITO Masaki, IWANAMI Yoshinobu, UENO Taishi, URATANI Yuki, OISHI Yusuke, OHBA Masaaki, OKAMOTO Takuo, KANEKO Shohei, KITAMURA Nobuaki, KITAMURA Haruki, KURITA Satoshi, KOJIMA Keisuke, SATO Fumika, TATSUTA Koki, NAITO Shohei, NAKAI Sho, NAKAI Toshiki, NOGUCHI Tatsuya, HADA Koji, HAYASHIDA Takumi, HIGUCHI Shigeo, FURUYA Gen, MAEDA Naoki, MIZUNO Tomohiro, MIYAZAKI Masashi, MORI Shinichiro, MORITA Masahiro, YAMADA Koji, YAMADA Masayuki, YAMAMOTO Hidekazu, YOSHIDA Shohei, YOSHIDA Masaho and FUJIWARA Hiroyuki	OBSERVATION OF MICROTREMOR IN KATSUYAMA BASIN, FUKUI PREFECTURE CARRIED OUT THROUGH THE MICROTREMOR RESEARCH CAMP	Journal of Japan Association for Earthquake Engineering	18, 3, 3119-3_130		日本地震工学会
井良沢 道也, 小原 孝一, 平岡 由佳子	地区防災計画制度の普及による地域防災力の向上を目指して	東北地域災害科学研究	55, 237-242	2019/3/1	東北地区自然災害資料センター
堀 久美	災害に関する女性センターの情報機能についての一考察	現代行動科学会誌	34, 1-11	2018年9月	現代行動科学会
熊谷 誠	東日本大震災被災地における唐丹村文書保存の取組み	災害と復興資料	11,	2019年3月	新潟大学災害、復興科学研究所
佐藤 史弥, 谷本 真佑, 南 正昭	避難場所の累積収容人数を考慮した津波避難計画に関する研究	土木学会論文集 D3(土木計画学)	74, 5, 1_315-1_325	2018年12月	土木学会

著者名	論文題目	学協会誌の名称	巻, 号, ページ	掲載年月日	発行機関
ものづくり技術教育研究部門					
長谷川直哉, 藤田工, 内館道正, 阿保政義	転がり接触によるピーリングの発生メカニズムとピーリング抑制に及ぼす黒染処理の影響 (第1報) —実験結果に基づいたき裂の発生に関する考察—	トライボロジスト	63, 8, 551-562	2018/6/30	(一社)日本トライボロジー学会
長谷川直哉, 藤田工, 内館道正, 阿保政義	転がり接触によるピーリングの発生メカニズムとピーリング抑制に及ぼす黒染処理の影響 (第2報) —ピーリングの進展と転動面下の応力との関係—	トライボロジスト	63, 9, 618-662	2018/6/9	(一社)日本トライボロジー学会
Michimasa Uchida	Comparison of contact conditions obtained by direct simulation with statistical analysis	Surface Topography: Metrology and Properties	6, 3, 034003	2018/5/23	
那須秀策, 趙柏榮, 平塚貞人	鑄鉄の熱疲労特性に及ぼす黒鉛形態の影響	鑄造工学	90, 7, 359-366	2018/7/10	日本鑄造工学会
那須秀策, 趙柏榮, 平塚貞人	球状黒鉛鑄鉄の熱疲労特性に及ぼす Si, Cr の影響	鑄造工学	90, 9, 501-507	2018/9/10	日本鑄造工学会
西川聡, 古川敬, 柴原正和, 生島一樹, 山田祐介, 秋田貴一, 鈴木裕士, 諸岡聡	ショットピーニングで付与した圧縮残留応力の長期持続性を予測するための FEM 解析手法の開発	火力原子力発電	69, 6, 21-28	2018/6	火力原子力発電技術協会
Dexin Chen, Zhixin Kanga, Hidetoshi Hirahara, Sumio Aisawa, Wei Li	Adsorption behaviors of deposition-targeted metallic ions onto thiol-containing silane modified liquid crystal polymer surfaces	Applied Surface Science	479, pp. 368-374	2019/1/28	
DexinChen, ZhixinKang, HidetoshiHirahara, WeiLi	Quasi layer by layer spray deposition of high-quality Ag coatings with excellent micro mechanical properties	Applied Surface Science	481, pp. 1213-1219	2019/3/24	
Toshinobu Korenaga, Ryo Kowata, Tomohiro Kotaki, Yuji Shibasaki, Yoshiyuki Oishi, Kazuaki Shimada	Moderately Flexible Trans-Chelating Diphosphine Ligands Consisting of a Triazine Unit Showing High Ligand Acceleration Effect for Heck Reaction	Bulletin of the Chemical Society of Japan	91(4), pp. 577-584	2018/4	
Sato, H., Nakajo, S., Oishi, Y., Shibasaki, Y.	Synthesis of linear polymer of intrinsic microporosity from 5,5',6,6'-tetrahydroxy-3,3',3'-tetramethylspiroindane and decafluorobiphenyl	Reactive and Functional Polymers	125, pp. 70-76	2018/4/15	
Shibasaki, Y., Kotaki, T., Bito, T., Sasahara, R., Idutsu, N., Fujimori, A., Miura, S., Shidara, Y., Nishimura, N., Oishi, Y.	Synthesis of semicrystalline poly(guanamine)s based on 2-substituted-4,6-dichloro-1,3,5-triazine with α , ω -alkylene diamines, and the formation of cyclic tetramers	Polymer (United Kingdom)	146(20), pp. 12-20	2018/6	
Yuto Nakagawa, Kaede Watahiki, Eiichi Satou, Yuji Shibasaki, Atsuhiko Fujimori	Elucidation of origin of thixotropic-including properties of additive amphiphiles and creation of high-performance triamide amphiphile	Langmuir	34(40), pp. 11913-11924	2018/8/20	
Yuji Shibasaki, Toshiaki Mori, Atsuhiko Fujimori, Mitsutoshi Jikei, Hideo Sawada, Yoshiyuki Oishi	Poly(amide-ether) Thermoplastic Elastomers Based on Monodisperse Aromatic Amide Segments as Shape-Memory and Moisture-Responsive Materials	Macromolecules	51(23), pp. 9430-9441	2018/11/16	
Nagesh B. Kolhe, Hyunjong Lee, Daiki Kuzuhara, Noriyuki Yoshimoto, Tomoyuki Koganezawa, Samson A. Jenekhe	All-Polymer Solar Cells with 9.4% Efficiency from Naphthalene Diimide-Biselenophene Copolymer Acceptor	Chem. Mater.	30, pp. 6540-6548	2018/8/17	
佐藤岳志, 山本和生, 吉本則之, 谷口佳史	高感度電子線ホログラフィーによる有機 EL デバイス内部の電位分布観察	金属	88, pp. 911-918	2018/11/1	
T. Kimura, T. Chiba	Preparation and Optical and Electrochemical Properties of Phthalocyanine with Four Bis(carbomethoxy)tetrathiafulvalene Units	Heterocycles	99(2)	2018/12/17	
T. Kimura, T. Nakahodo, H. Fujihara	Preparation and Reactivity of Benzo-1,2-dichalcogenete Derivatives and Their Bis(triphenylphosphine)platinum Complexes	Heteroatom Chemistry	29(5), pp. e21472-	2018/12/9	
H. Fujishiro, K. Takahashi, T. Naito, Y. Yanagi, Y. Itoh, T. Nakamura	A new proposal of mechanical reinforcement structures to annular REBaCuO bulk magnet for compact and cryogen-free NMR spectrometer	Physica C	550, pp. 52-56	2018/4	
Mamoru Ishizawa, Yuki Yasuzato, Hiroyuki Fujishiro, Tomoyuki Naito, Hirokazu Katsui and Takashi Goto	Oxidation states and thermoelectric properties of BiCuSeO bulks fabricated under Bi or Se deficiencies in the nominal composition	J. Appl. Phys.	123, pp. 245104(1)-245104(9)	2018/6	
K. Takahashi, S. Namba, H. Fujishiro, T. Naito, Y. Yanagi, Y. Itoh, T. Nakamura	Thermal and magnetic strain measurements on REBaCuO ring bulk reinforced by metal ring during field-cooled magnetization	Supercond. Sci. Technol.	32, pp. 015007(1)-015007(9)	2019/1	
H. Fujishiro, K. Takahashi, T. Naito, Y. Yanagi, T. Nakamura, M. D. Ainslie	Influence of Inner Diameter and Height of Ring-shaped REBaCuO Bulks on Electromagnetic and Mechanical Properties during Field-cooled Magnetization	IEEE Trans. Appl. Supercond.	31, pp. 6801206-	2019/1	
Tatsuya Hirano, Keita Takahashi, Fumiya Shimoyashiki, Hiroyuki Fujishiro, Tomoyuki Naito, Mark D. Ainslie	Influence of Jc(B, T) characteristics in REBaCuO disk bulk on trapped field properties by pulsed-field magnetization	IEEE Trans. Appl. Supercond.	29, pp. 8000705(1)-8000705(5)	2019/2	
M. D. Ainslie, K. Y. Huang, H. Fujishiro, J. Chaddock, K. Takahashi, S. Namba, D. A. Cardwell, J. H. Durrell	Numerical modelling of mechanical stresses in bulk superconductor magnets with and without mechanical reinforcement	Supercond. Sci. Technol.	32, pp. 034002-	2019/2	
H. Fujishiro, T. Naito, S. Awaji	Proposal of effective mechanical reinforcement structure for REBaCuO disk bulk pair by full metal encapsulation to achieve higher trapped field over 20 T	Supercond. Sci. Technol.	32, pp. 045005-	2019/2	
S. Namba, H. Fujishiro, M. D. Ainslie, K. Takahashi, T. Naito, Devendra K. Namburi, Difan Zhou	Design optimization of a hybrid trapped field magnet lens (HTFML)	IEEE Trans. Appl. Supercond.	29(5), pp. 6801605(1)-6801605(5)	2019/3	
T. Hirano, H. Fujishiro, T. Naito, M. D. Ainslie, Y-H. Shi	Flux dynamics and thermal behavior of a Gd-Ba-Cu-O bulk magnetized by single- and multi-pulse techniques using split-type coil	IEEE Trans. Appl. Supercond.	29(5), pp. 6801705(1)-6801705(5)	2019/3	
H. Taniguchi, M. Matsukawa, K. Onodera, K. Nishidate, A. Matsushita	Magnetic States and Bandgaps of B-Site Substituted Double-Perovskite Ba ₂ Pr(Bi, Sb)O	IEEE Transactions on Magnetics	99	2018/10/1	
S. Aoyama, J. Kaiwa, P. Chantngarm, S. Tanibayashi, H. Saito, M. Hasegawa, K. Nishidate	Oxygen reduction reaction of FeN4 center embedded in graphene and carbon nanotube: Density functional calculations	AIP Advances	8, pp. 115113-	2018/10/1	
Nobuyuki Shiraki, Zhixiong Chen, Dai Sasakawa, Naoki Honma, Takeshi Nakayama, and Shoichi Iizuka	Method of Estimating Human Orientation Using Array Antenna	MDPI Electronics	7(6), 92	2018/6/1	MDPI
Dai Sasakawa, Naoki Honma, Takeshi Nakayama, and Shoichi Iizuka	Fast Living-Body Localization Algorithm for MIMO Radar in Multi-path Environment	IEEE Trans. Antennas and Propagat.	66(12), pp. 7273-7281	2018/12/1	IEEE

著者名	論文題目	学協会誌の名称	巻, 号, ページ	掲載年月日	発行機関
Y. Kashiwaba, Y. Tanaka, M. Sakuma, T. Abe, Y. Imai, K. Kawasaki, A. Nakagawa, I. Niikura, Y. Kashiwaba, H. Osada	Preparation of a Non-Polar ZnO Film on a Single-Crystal NdGaO3 Substrate by the RF Sputtering Method	Journal of Electronic Materials	47, pp. 4345-4350	2018/8	Springer
山崎慶太, 菅重夫, 高橋直, 森原浩平, 小林宏一郎	ファン付き作業服が建設作業員の生理、心理反応に及ぼす影響と他の要因に関する研究	日本建築学会環境系論文集	83(747), pp. 453-463	2018/5/30	
山崎慶太, 菅重夫, 高橋直, 森原浩平, 小林宏一郎	人工気候室での模擬作業がファン付き作業服を着用した建設作業員の生理、心理反応に及ぼす影響	日本建築学会環境系論文集	83(748), pp. 543-553	2018/6/30	
K. Kobayashi, M. Iwai	Quantitative Independent Component Selection Using Attractor Analysis for Noise Reduction in Magnetocardiogram Signals	IEEE Trans. Magnetics	54(11), pp. 1-4	2018/11/1	
森原浩平, 山崎慶太, 菅重夫, 小林宏一郎, 演田靖弘, 高橋直	ファン付き作業服と作業時間帯が建設作業員の生理、心理反応に及ぼす影響 建設現場における実態調査 その2	日本建築学会環境系論文集	84(756), pp. 151-159	2019/2/1	
Danae Laina, Ioanna Oikonomou, Konstantina Kourtroumpa, Michael Bariotakis, Kiriakos Kotzabasis, Kikukatsu Ito, Roger S. Seymour, Stergios A. Pirintzos	Exogenous induction of thermogenesis in Arum concinatum by salicylic acid	Functional Plant Biology	45(12), pp. 1195-1204	2018/8/9	
Kawasaki S., Ito K.	Data analytic study of the homothermal maintenance mechanism of Skunk Cabbage: Capturing pre-equilibrium characteristics using extended poisson model	Biophysics & Physicobiology	15, pp. 235-250	2018/9/4	
Yui Umekawa, Kikukatsu Ito	Thioredoxin o-mediated reduction of mitochondrial alternative oxidase in the thermogenic skunk cabbage <i>Symplocarpus renifolius</i>	The Journal of Biochemistry	165(1), pp. 57-65	2018/12/20	
青柳悠也, 松井正実, 武田純一, 棚橋拓也, 三浦泰, 福島崇志	乗用トラックの事故調査結果を用いた事故要因分析とリスク評価手法の検討	農業食料工学会誌	81(2), pp. 93-103	2019/3/1	

02 著書

著者名	著書名・掲載誌名	巻, 号, ページ	発行年月日	出版社	発行機関
三陸復興部門					
地域コミュニティ再建支援班					
広田純一外6名編著	震災復興から俯瞰する農村計画学の未来	459 ページ	2019/2/28	農林統計出版	
農林畜産復興総合計画班					
山本清龍 (分担執筆)	実践風景計画学 - 読み取り, 目標像, 実施管理	45-48, 89-92	2019/3/5	朝倉書店	
山本清龍 (分担執筆)	観光の事典	246-247, 250-251	2019/4/15	朝倉書店	
大野真男, 木村直弘, 田中成行, 小島聡子, 山本昭彦	岩手大学宮澤賢治センター編『賢治学』	第5輯, 全206頁	2018/7/31	東海大学出版部	
三陸水産教育研究部門					
後藤友明 (共同執筆)	魚類学の百科事典	3.形態(軟骨魚類の頭骨)・98-99.	2018/10/5	丸善出版	
表春紅 (分担執筆)	工業技術者のための農学概論	257-278	2018/4/20	理工図書株式会社	
平泉文化教育研究部門					
劉海宇	貿易陶磁と東アジアの物流 - 平泉, 博多, 中国 -	181-188	2019/1/15	高志書院	
劉海宇	平泉の考古学 II (『考古学ジャーナル』)	719-3-4	2018/11/30	ニューサイエンス社	
徳留大輔 (編)	『宋磁 - 神祕のやきもの』(展覧会図録)		2018/4/21	出光美術館	
岩手大学平泉文化研究センター監修, 敷敏裕, 森達也, 徳留大輔 編	『貿易陶磁器と東アジアの物流 - 平泉, 博多, 中国』		2019/1/15	高志書院	
八木光則	いわて民衆史叢書	256	2018/10/29	東洋書院	
宇部則保, 八木光則, 船木義勝ほか	北奥羽の古代社会 「北上盆地の古代村落」	全300頁該当分35~66頁	2019/2/15	高志書院	
高田和徳, 小杉康, 小林克, 大島直行, 八木光則	環状列石ってなんだ 「縄文時代にさかのぼるアイヌ語系地名」	全170頁 該当分145~166頁	2019/3/30	新泉社	
菅田慶信	中世奥羽の伝教	1頁から341頁(単著)	2018/5/25	高志書院	
地域防災教育研究部門					
森本晋也	「震災を生き抜いた子どもたちに学ぶ」, 日刊, 岩手建設工業新聞		2018/12/	日刊岩手建設工業新聞社	

03 研究報告・活動報告

著者名	報告題目	学協会誌の名称	巻, 号, ページ	掲載年月日	発行機関
三陸復興部門					
心のケア班					
山口浩	やはり、リラクゼーションを身につけよう	こころのじかん (資料編)	pp.1-7	2019/3	当機構, こころのケア班
織田健男	子どもの可能性を大きくする心理学的な方法	こころのじかん (資料編)	pp.8-12	2019/3	当機構, こころのケア班
奥野雅子	家族が薬を乗り越える物語	こころのじかん (資料編)	pp.13-17	2019/3	当機構, こころのケア班
佐々木誠	悲しみを抱える, 悲しみを支える	こころのじかん (資料編)	pp.17-21	2019/3	当機構, こころのケア班

著者名	報告題目	学協会誌の名称	巻、号、ページ	掲載年月日	発行機関
被災動物支援班					
佐藤 えい子, 山崎 弥生	平成 29 年度の被災動物支援班の活動紹介 キツネ村展示動物の往診や岩手県合同防災訓練での活動を報告	わんにゃんレスキュー通信	Vol.4	2018/5/1	被災動物支援班
地域コミュニティ再建支援班					
Sohei Gomi and Junichi Hirota	Study on the possibility of the Extended Community and the sustainability of the disaster area	Conference Program Book of Global Conference on the International Network of Disaster Studies in Iwate	pp.80-85	2018/7/17	
農地復興班					
山本 清仁	電磁探査調査により測定した津波被害を受けた水田の復旧前後の電気伝導度分布の変化	土地改良の測量と設計	Vol.88, 13-21	2019/3/1	(公社) 土地改良測量設計技術協会
Kiyohito Yamamoto, Akira Kobayashi, Koji Harashina, Yoshiko Muto, Eichi Kurashima	Measurement of electrical conductivity distribution using an electromagnetic survey in paddy fields damaged by Tsunami	Abstract Book International symposium on innovative agriculture and fishery(ISIAF 2018)	25	2018/5/10	岩手大学農学部
Nakamura, K., Kanaizumi, T., and Kanayama, M.	Prediction of ground consolidation settlement based on measurement records and its high accuracy	Abstract Book International symposium on innovative agriculture and fishery(ISIAF 2018)	50	2018/5/10	岩手大学農学部
Kawamura, S., Fukamachi, M. and Kanayama, M.	Study on engineering properties of waste bamboo fiber mixed soil	Abstract Book International symposium on innovative agriculture and fishery(ISIAF 2018)	51	2018/5/10	岩手大学農学部
Kanayama, M.	Prediction of ground consolidation settlement based on measurement records and its high accuracy	Proceedings of the Global Conference on the International Network of Disaster Studies in Iwate, Japan Iwate Conference	Po-G-5, 1-2	2018/7/18	岩手大学地域防災研究センター
K. Yamamoto, A. Kobayashi, K. Harashina, Y. Muto and E. Kurashima	Monitoring of desalinization using an electromagnetic survey in paddy fields damaged by Tsunami	Proceedings of the Global Conference on the International Network of Disaster Studies in Iwate, Japan Iwate Conference	Po-B-5, 1-2	2018/7/18	岩手大学地域防災研究センター
進藤 あきほ, 金山 素平	カキ殻を利用した土の固化処理技術とその応用	平成 30 年度農業農村工学会大会講演会講演要旨集	126-127	2018/9/3	農業農村工学会
八矢 園子, 金山 素平	カキ殻の粒径が固化処理土の強度に与える影響	平成 30 年度農業農村工学会大会講演会講演要旨集	238-239	2018/9/3	農業農村工学会
川村 智子, 金山 素平, 深町 真嗣, 弓削 こずえ	リグニン混合土の工学的性質に関する研究	平成 30 年度農業農村工学会大会講演会講演要旨集	240-241	2018/9/3	農業農村工学会
中村 哉仁, 金山 素平, 佐藤 聖也	地盤の圧密沈下実測データに基づいた予測とその高精度化	平成 30 年度農業農村工学会大会講演会講演要旨集	254-255	2018/9/3	農業農村工学会
川村 智子, 金山 素平, 深町 真嗣, 弓削 こずえ	リグニン混合土の工学的性質に関する研究	農業農村工学会東北支部第 60 回研究発表会	2-3	2018/11/1	農業農村工学会東北支部
中村 哉仁, 金山 素平, 佐藤 聖也	地盤の圧密沈下実測データに基づいた予測とその高精度化	農業農村工学会東北支部第 60 回研究発表会	4-5	2018/11/1	農業農村工学会東北支部
金山 素平, 佐藤 聖也, 金山 友也	実測値に基づいた盛土構造物の圧密沈下予測に関する研究	農業農村工学会東北支部第 60 回研究発表会	6-7	2018/11/1	農業農村工学会東北支部
Nakamura, K., Kanaizumi, T., and Kanayama, M.	Prediction of ground consolidation settlement based on measurement records and its high accuracy	PAWEES & INWEPF International Conference Nara 2018	175	2018/11/20	PAWEES & INWEPF
農林畜産復興総合計画班					
山本 清龍, 深町 加津枝, 柴田 昌三, 渡辺 綱男, 奥 敬一, 小林 広英, 三好 若生, 島田 和久	里山里海のライフスタイルと危機対応能力 (平成 30 年度日本造園学会フォーラム報告)	ランドスケープ研究	82(2), 199	2018/7/31	日本造園学会
佐々木 啓, 山本 清龍, 比屋根 哲	白山山地ビジターセンターの利用実態と環境教育施設としての役割	日本環境教育学会第 29 回大会(東京)研究発表要旨集	128	2018/8/26	日本環境教育学会
佐々木 啓, 山本 清龍, 村田 青葉	富宮、下閉伊地域の流域に関わるステークホルダーの意識と保全活動の方向性の提案	日本環境教育学会東北地区環境教育、研究活動発表会(東北支部大会)(福島大学)		2018/12/15	
Mana CHIMOTO, Kiyotatsu YAMAMOTO	Differences in the Quality of Experience and Viewing Direction of Guided and Non-Guided Walkers toward the Local Community Living in the Town Area	Japan Geoscience Union Meeting 2018 (Chiba, Japan, May 20-24)		2018/5/23	
Satoshi SASAKI, Kiyotatsu YAMAMOTO	Possibility of Utilization and Challenges of Visitor Center for Cultural Value Inheritance in World Heritage Shirakami Sanchi	Japan Geoscience Union Meeting 2018 (Chiba, Japan, May 20-24)		2018/5/23	
地域創生部門					
宮沢賢治センター					
木村 直弘	〈震〉賢治論に向けて：サウンドスケープをめぐるエッセイ	藝術文化雑誌『紫明』	43, 89-90	2018/10/25	紫明の会 (丹波古陶館、篠山能楽資料館友の会)
山本 昭彦	宮沢賢治ビブリオグラフィ 2017 の項目執筆	宮沢賢治研究 Annual	28, 1-91	2018/7/31	宮沢賢治学会イーハトーブセンター
共同研究員					
今井 潤, 金澤 健介	市職員による産学官民連携の実践を通じた地域創生方策の検討ー岩大・盛岡モデルの提案と産学官民コミュニティの重要性ー	NPO 法人産学連携学会 東日本リエゾンカンファレンス 2018in 札幌 研究・事例発表要旨集	pp.16-17	2018/9/10	東日本リエゾンカンファレンス 2018in 札幌 実行委員会
三陸水産教育研究部門					
後藤 友明	岩手県釜石におけるクロマグロ漁獲抑制対策の取り組みについて	日本定置漁業協会	134・11-19	2018/8/31	日本定置漁業協会
古山 通, 後藤 友明, 高梨 愛梨	震災から 6 年を経過した大鰐湾の底生魚類相と摂餌選択性	東北底魚研究	38・100-107	2018/12/10	国立研究開発法人水産研究・教育機構東北水産研究所

著者名	報告題目	学協会誌の名称	巻、号、ページ	掲載年月日	発行機関
後藤 友明, 三浦 太智, 高梨 愛梨, 佐伯 広広, 鈴木 聡, 山崎 幸夫, 宮田 直幸	東北海域におけるマダコ漁獲動向	東北底魚研究	38・11-20	2018/12/10	国立研究開発法人水産研究・教育機構東北水産研究所
塚越 英晴, 後藤 友明	三陸岩手サケの遺伝構造と個体群特性	海洋と生物	40・5・435-440	2018/10/15	生物研究社
塚越 英晴, 後藤 友明	三陸におけるサケの遺伝構造と個体群特性	日本水産学会誌	84・5・925	2018/10/1	日本水産学会
平井 俊朗, 高橋 慎, 森山 俊介, 二階堂 英城, 山本 健	シンポジウム「国内サーモン養殖による地域振興に向けた課題と展望」	月刊養殖ビジネス	2019年4月号・65-69		緑書房
平井 俊朗ほか	国内サーモン養殖の課題と解決策の集約	農研機構技術開発・成果普及等推進事業 (うち技術開発・成果普及等推進事業)・調査報告書	1-110		三陸水産研究センター

平泉文化研究部門					
劉 海宇	中国近代における法曹利権の遺跡調査記	岩手大学平泉文化研究センター年報	7:143-149	2019/3/31	岩手大学平泉文化研究センター
劉 海宇	劉劉教授招聘記	中国出土資料学会会報	66:4-6	2018/7/6	中国出土資料学会
菅野 成寛	講演「初代藤原清衡と中尊寺」	主催：日報カルチャースクール		2018/6/16	
菅野 成寛	講演「慈覚大師開山伝承めぐって」	主催：盛岡市、西部公民館		2018/9/29	
菅野 成寛	研究報告、第 2 回経塚研究会「東アジアの経塚と仏塔信仰の転生」	主催：平泉センター、会場：東北大学		2018/7/22	
菅野 成寛	シンポジウム、中尊寺供養願文の謎を解く、「中尊寺供養願文と藤原教光」	主催：平泉センター、会場：平泉文化遺産センター		2019/3/23	
菅野 成寛	論文「東アジアのなかの日本経塚信仰」	『歴史書通信』	239, 2-5	2018/9/1	

地域防災教育研究部門					
小笠原 敏記ほか	平成 29 年秋田豪雨災害調査報告書		1-48	2018/5/28	
尾 悠介, 羽原 俊祐, 小山田 哲也, 田中館 悠登	コンクリートの最高温度、アルカリ量及び硫酸塩量が長期材齢における DEF 膨張量及び膨張開始時期に及ぼす影響	第 72 回セメント技術大会講演要旨	P216-217	2018/5/17	公益社団法人セメント協会
小山田 哲也, 皆川 翔平, 羽原 俊祐	コンクリートのスケーリング抵抗性に及ぼす表面浸材の影響	土木学会平成 30 年度 全国大会講演概要集	V-321	2018/8/29	公益社団法人土木学会
平戸 謙好, 小山田 哲也, 田中館 悠登	圧送および振動締めがコンクリートのスケーリング抵抗性に及ぼす影響	土木学会平成 30 年度 全国大会講演概要集	V-320	2018/8/29	公益社団法人土木学会
萬谷 良平, 山本 英和, 大西 正純, 渡部 勉, 小池 太郎	千葉県印西市における 2 重リニアアレイで観測された常時微動に対するチェーンアレイ解析と地震波干渉法解析	公益社団法人物理探査学会 第 138 回学術講演会	138, 144-147	2018/5/27	公益社団法人物理探査学会
山本 英和, 荒井 貴紀, 齊藤 剛	浅部 2 次元 S 波速度構造推定を目的としたリニアアレイで観測された 3 成分短周期微動の地震波干渉法解析	公益社団法人物理探査学会 第 138 回学術講演会	138, 152-155	2018/5/27	公益社団法人物理探査学会
佐藤 史佳, 山本 英和, 齊藤 剛	福島県の広帯域リニアアレイによる常時微動の地震波干渉法解析その 5 Hi-net 記録を利用した解析	公益社団法人物理探査学会 第 139 回学術講演会	139, 43-46	2018/10/22	公益社団法人物理探査学会
H. Yamamoto, W. Anupap, T. Saito, R. Many	Evaluation of site amplification factors in central area of Morioka City by microtremor array technique with a portable array-data acquisition system	The 13th SEGJ International Symposium		2018/11/1	公益社団法人物理探査学会
R. Many, H. Yamamoto, M. Onishi, T. Watanabe, T. Koike	Chain array analysis and seismic interferometry analysis on microtremors observed with a double linear seismometer array in Inzai City, Chiba	The 13th SEGJ International Symposium		2018/11/1	公益社団法人物理探査学会
井沢 道也, 小原 孝一, 平岡 由佳子	地区防災計画制度の普及による地域防災力の向上を目指して	東北地域災害科学研究	55, 237-242	2019/3/1	東北地区自然災害資料センター
熊谷 誠, 南 正昭	釜石市唐丹町本郷における昭和津波による家屋流失後の居住地形成過程について	津波工学研究報告	35, 117-126	2018/	東北大学災害科学国際研究所災害リスク研究部門津波工学研究室
川下 亨, 南 正昭, 谷本 真佑, 中村 大樹	東日本大震災後の津波避難行動の再現システム	土木計画学研究、講演集	58	2018/11/23	土木学会
宇都宮 健太, 谷本 真佑, 佐藤 史弥, 南 正昭	復興事業後の標高変化を考慮した津波避難に関する研究～岩手県陸前高田市を例として～	土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集	(CD-ROM)	2019/3/2	土木学会東北支部
菊地 剛, 谷本 真佑, 佐藤 史弥, 南 正昭	歴史的背景を踏まえた岩手県宮古市田老地区の市街地変遷に関する研究	土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集	(CD-ROM)	2019/3/2	土木学会東北支部
今野 祐輔, 谷本 真佑, 佐藤 史弥, 南 正昭	浸水域脱出に着目した宮古市田老地区における津波避難に関する分析	土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集	(CD-ROM)	2019/3/2	土木学会東北支部
笹原 大雅, 谷本 真佑, 佐藤 史弥, 南 正昭	復興道路の開通が岩手県沿岸地域の物流に与える影響について	土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集	(CD-ROM)	2019/3/2	土木学会東北支部
中山 潤太, 谷本 真佑, 佐藤 史弥, 南 正昭	三陸沿岸道路の開通が観光地へのアクセシビリティ向上に与える影響について	土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集	(CD-ROM)	2019/3/2	土木学会東北支部
山口 敬正, 谷本 真佑, 佐藤 史弥, 南 正昭	平成 28 年台風 10 号による岩手県岩手町での道路閉塞からの復旧に関する研究	土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集	(CD-ROM)	2019/3/2	土木学会東北支部
森本 晋也	津波被害者の震災を生き抜いた子どもたちに学ぶ：釜石中学校の元生徒たちへの聞き取り調査から避難行動に必要なこと	歴史地理教育	890・22-27	2019/2/1	歴史教育者協議会
森本 晋也, 越野 修三, 蒔田 仁, 鈴木 智香, 小松山 浩樹	防災教育教材の開発と教員研修の充実に向けて：連携・協働による岩手県防災教育研修会の取組を通して	岩手大学大学院教育学研究科研究年報	3・111-124	2019/3/29	岩手大学大学院教育学研究科
豪倉 哲, 馬場 智子, 森本 晋也, 遠藤 孝夫	「岩手大学学校安全学シンポジウム平成 30 ～教師教育における学校安全の充実～」の報告	岩手大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要	18・1-19	2019/3/29	岩手大学教育学部附属実践総合センター

04 学会発表・各種講演・報告等

講演会等の名称	講演題目	氏名	実施日 (複数回の場合は期間)	実施場所	主催機関	対象	備考 (参加者数など)
三陸復興部門							
心のケア班							
岩手看護協会久慈支部職能研修会	看護に生かす会話の力	佐々木 誠	2018/10/27	岩手県久慈市	岩手看護協会	看護師等	27 名
生きた証を語り継ぐ会	悲しみを抱える、悲しみを支える	佐々木 誠	2018/11/10	岩手県下閉伊郡大槌町	岩手大学教育学部社会科学科講座	被災経験者	15 名

講演会等の名称	講演題目	氏名	実施日 (複数回の場合は期間)	実施場所	主催機関	対象	備考 (参加者数など)
平成30年度傾聴ボランティア養成講座	傾聴について～傾聴の基礎と実践～	佐々木 誠	2019/1/30	岩手県遠野市	遠野市福祉課	傾聴ボランティア	40名
学校法人星生学園 佐賀星生学園特別講義	なりたいたい自分になるヒント～ナレッジ 計画～	佐々木 誠	2019/2/19	佐賀県佐賀市	学校法人星生学園 佐賀星生学園	高校生・職員	70名
市民講座「こころのじかん7」	やはり、リラクゼーションを身につけ ましょう	山口 浩	2019/2/21	岩手県陸前高田市	当機構心のケア班	一般	14名
市民講座「こころのじかん7」	子どもの可能性を大きくする心理学 的方法	織田 信男	2019/2/22	岩手県釜石市	当機構心のケア班	一般	20名
市民講座「こころのじかん7」	悲しみを抱える、悲しみを支える	佐々木 誠	2019/2/25	岩手県大船渡市	当機構心のケア班	一般	20名
市民講座「こころのじかん7」	幸せとは何か？～家族、スピリチュア リティ、美	奥野 雅子	2019/2/28	岩手県宮古市	当機構心のケア班	一般	12名
平成30年度一関地域こころのケアナ ース(相談員)フォローアップ研修並びに 精神保健医療福祉関係者研修	震災後の心のケアと複雑性悲嘆を抱 える人への接し方について	佐々木 誠	2019/3/14	一関地区合同庁舎	一関保健所	対人支援者	60名
被災動物支援班							
「災害時の動物救護活動を語り合う (情報、意見交換会)～災害動物救護の 地域連携とVMATの役割～」を開催	災害時動物救護における地域連携の 構築	佐藤 れえ子、山崎 弥生	2018/7/7	岩手大学北桐ホール	三陸復興・地域創生 機構被災動物支援班	近畿県の行政及び開 業獣医師および動物 愛護ボランティア	約40名
東北みらい創りサマースクール	動物と共に生きる～人と動物の共生 を目指す支援活動～	山崎 弥生	2018/9/29	遠野みらい創りカレ ッジ	東北みらい創りサマ ースクール実行委員会	一般市民	
岩手県動物取扱責任者研修会	災害時の動物救護と犬猫の遺体	佐藤 れえ子	2018/11/28	奥州市	岩手県	岩手県動物取扱 責任者	
岩手大学三陸復興・地域創生推進機構 首都圏報告会	動物と共に生きる～人と動物の共生 を目指す支援活動～	佐藤 れえ子、山崎 弥生	2018/12/2	日比谷図書文化館 日比谷コンベンション ホール	三陸復興・地域創生 推進機構	一般市民	司会：副機構長 八代 仁
第161回日本獣医学会学術大会	「ネコ polycystin-1 遺伝子 (PKD1) の遺伝子多型と腎臓形成の関連 性」	佐藤 れえ子、山崎 弥生、 山崎 真大、小林 沙織	2018/9/12	つくば国際会議場	日本獣医学会	日本獣医師会会 員	
Global Conference on the International Network of Disaster Studies in Iwate	「Supportive Activities Toward Harmonious Coexistence of Humans and Animals」	佐藤 れえ子、山崎 弥生、 岡田 啓司	2018/7/18	いわて県民情報交流セ ンターアイーナ	Global Conference on the International Network of Disaster Studies in Iwate	Global Conference on the International Network of Disaster Studies in Iwate 会員	
第5回福島第一原発事故による周辺生物 への影響に関する勉強会	原発事故帰還困難区域における黒毛 和種牛の健康評価	岡田 啓司	2018/8/3 2018/8/4	東京大学	福島第一原発事故による 周辺生物への影響 に関する勉強会	一般	150名
「生物学者がみる帰還困難区域の現状と そこに生きる牛、東日本大震災、福島原 発事故から7年 長期低レベル放射線の 影響を考える」	AENのこれまでの道のり	岡田 啓司	2019/3/21	福島市コラッセふくし ま	原発事故被災動物と 環境研究会	一般	
「生物学者がみる帰還困難区域の現状と そこに生きる牛、東日本大震災、福島原 発事故から7年 長期低レベル放射線の 影響を考える」	帰還困難区域で長期被曝している牛 の血球数とDNA損傷	岡田 啓司	2019/3/21	福島市コラッセふくし ま	原発事故被災動物と 環境研究会	一般	
「生物学者がみる帰還困難区域の現状と そこに生きる牛、東日本大震災、福島原 発事故から8年 長期低レベル放射線の 影響を考える」	白斑牛の経過	岡田 啓司	2019/3/21	福島市コラッセふくし ま	原発事故被災動物と 環境研究会	一般	
地域コミュニティ再建支援班							
大槌町コミュニティ協議会	地域の課題解決のための 地域運営 組織	広田 純一	2018/6/18	大槌町中央公民館	大槌町	大槌町民	約70名
久慈市山形町ミニ講演会	人口減少にどう立ち向かうか	広田 純一	2018/11/17	山形町オラホール	久慈市	山形町民	約30名
熊本市南区講演会	災害公営住宅のコミュニティ形成支 援	広田 純一	2019/2/28	熊本市南区中央公民 館	熊本市南区	熊本市民	約80名
熊本市シンポジウム	東日本大震災における 地域コミュニティ形成支援	広田 純一	2018/12/3		熊本県立大学外	熊本市民外	約30名
奥州市協働のまちづくり推進員研修会	協働の原則と行政が担う役割と責任	広田 純一	2018/4/25	奥州市役所	奥州市	奥州市職員	約80名
奥州市協働のまちづくりアカデミー講師	地域づくりの手順と方法ほか	広田 純一	2018/5/23 2019/3/20	奥州市水沢市民セン ター	奥州市	受講生	12名
サステイナブルキャンパス推進協議会 「CAS-Net JAPAN」2018 年次大会	東日本大震災からの教訓	広田 純一	2018/11/17	岩手大学	岩手大学	協議会会員外	約60名
Global Conference on the International Nextwork of Disaster Studies in Iwate	Study on the possibility of the Extended Community	五味 壮平	2018/7/17	アイーナ	国際防災、危機管理 研究 岩手会議事務局	学会参加者	
久慈港イメーリアップ、プロジェクト フォーラム	岩手大学における地域連携の取組に ついて	五味 壮平	2018/6/30	土風館	岩手大学三陸復興・地 域創生推進機構		
岩手大学シニアカレッジ 2018	陸前高田グローバルキャンパスの挑 戦	五味 壮平	2018/9/13	岩手大学図書館	岩手大学	シニアカレッジ 参加者	
岩手大学社会教育主事講習	震災復興と地域づくり	五味 壮平	2018/7/25	岩手大学図書館	岩手大学三陸復興・地 域創生推進機構		
高田第一中学 キャリア教育	働くことについて	五味 壮平	2018/6/7	陸前高田市高田第一 中学	陸前高田市高田第一 中学	高田一中生	
Open Doors' to your future Study Tour	陸前高田グローバルキャンパスにつ いて	五味 壮平	2019/2/9	陸前高田グローバル キャンパス	JTB 仙台支店	日本語学校生徒	
富山から考える震災、復興学	岩手の水産業復興	杭田 俊之	2018/12/25	富山大学	富山大学	富山大学学部 生、院生、一般	約60名 講演とワーク ショップ
富山大学政治経済学セミナー	地域の持続可能性 被災地水産業と 地域社会のかかわりあいから	杭田 俊之	2018/12/26	富山大学経済学部	富山大学経済学部	研究者	約10名
連合岩手地域フォーラム「クランソコア」	「復興の「壁」を超えるために」	杭田 俊之	2018/4/21	岩手教育会館	連合岩手	一般	約200人
国際防災、危機管理研究 岩手会議	Community Reconstruction and Development While Confronting Deaths from Disaster	妻倉 哲	2018/7/18	岩手県民情報センタ ーアイーナ	岩手大学地域防災研 究センター 他		

講演会等の名称	講演題目	氏名	実施日 (複数回の場合は期間)	実施場所	主催機関	対象	備考 (参加者数など)
国際防災、危機管理研究 岩手会議	Activities and current issues of ICAT (Infection Control Assistance Team of iwate) in the 2011 Great East Japan Earthquake	妻倉 哲	2018/7/17～ 2018/7/19	岩手県民情報センタ ーアイーナ	岩手大学地域防災研 究センター 他		
国際防災、危機管理研究 岩手会議	Slow Infrastructure and Cooperation Culture Revealed After the Great East Japan Earthquake and Tsunami	妻倉 哲	2018/7/17～ 2018/7/19	岩手県民情報センタ ーアイーナ	岩手大学地域防災研 究センター 他		
国際防災、危機管理研究 岩手会議	Advice for City Planning Disaster Preparation Based Investigations of Each Tsunami Victim: From Tsunami Victim Research in Otsuchi Town, Iwate Prefecture	妻倉 哲	2018/7/17	岩手県民情報センタ ーアイーナ	岩手大学地域防災研 究センター 他		
日本都市学会第65回大会	災害検証の含意 - 何を排除し何を 含めるかの論議	妻倉 哲	2018/10/21	九州産業大学	日本都市学会、九州 都市学会	学会員	
日本科学者会議第22回総合学術研究 集会	犠牲者を忘れ去る国家に本当の復興 はない - 戦災も震災も 岩手県大 槌町と沖縄県渡嘉敷村での調査から	妻倉 哲	2018/12/8	琉球大学	日本科学者会議		
被災地調査、研究発表会		妻倉 哲	2018/10/28	岩手大学北桐ホール	岩手大学教育学部社 会学研究室	一般	
大槌町生活の復興状況調査(仮設住宅入 居者調査)報告会		妻倉 哲	2018/12/15	大槌町文化交流セン ターおしやち	岩手大学教育学部社 会学研究室	大槌町住民	約30名
大震災を語り継ぐ会	今年度の心の復興サロンについて みんなで意見、アイデアを出しあおう!	妻倉 哲	2018/4/21	大槌町マストホール	岩手大学教育学部社 会学研究室ボランティア	震災遺族、町民、 ボランティア	
大震災を語り継ぐ会	亡くなった家族との物語を語り、自 分自身の物語を生きて	妻倉 哲	2018/5/19	大槌町マストホール	岩手大学教育学部社 会学研究室ボランティア	震災遺族、町民、 ボランティア	
大震災を語り継ぐ会	震災前の懐かしい大槌の写真、映像 を皆で見ましょう	妻倉 哲	2018/6/16	大槌町マストホール	岩手大学教育学部社 会学研究室ボランティア	震災遺族、町民、 ボランティア	
大震災を語り継ぐ会	大槌町役場職員のご遺族に寄り添い お互いの気持ちを語り合いましょ	妻倉 哲	2018/7/21	大槌町マストホール	岩手大学教育学部社 会学研究室	震災遺族、町民、 ボランティア	
大震災を語り継ぐ会	笑って開運!健康漫談	妻倉 哲	2018/8/25	大槌町マストホール	岩手大学教育学部社 会学研究室	震災遺族、町民、 ボランティア	
大震災を語り継ぐ会	笑って開運!健康漫談	妻倉 哲	2018/8/31	もりおか復興支援セン ター	岩手大学教育学部社 会学研究室	震災遺族、町民、 ボランティア	
大震災を語り継ぐ会	亡き人を想う、語り継ぐ	妻倉 哲	2018/9/21	もりおか復興支援セン ター	岩手大学教育学部社 会学研究室	震災遺族、町民、 ボランティア	
大震災を語り継ぐ会	想いをメロディにのせて～皆さんの 想いを詩にしてみませんか～	妻倉 哲	2018/9/22	大槌町マストホール	岩手大学教育学部社 会学研究室	震災遺族、町民、 ボランティア	
大震災を語り継ぐ会	鎮魂の演奏、遺族における演奏	妻倉 哲	2018/10/27	岩手大学	岩手大学教育学部社 会学研究室	震災遺族、町民、 ボランティア	
大震災を語り継ぐ会	兄を探して母をみとって、8年目の写 真展を語る	妻倉 哲	2018/10/28	岩手大学	岩手大学教育学部社 会学研究室	震災遺族、町民、 ボランティア	
大震災を語り継ぐ会	悲嘆と語り	妻倉 哲	2018/11/10	大槌町マストホール	岩手大学教育学部社 会学研究室	震災遺族、町民、 ボランティア	
大震災を語り継ぐ会	音楽療法って何?	妻倉 哲	2018/11/30	もりおか復興支援セン ター	岩手大学教育学部社 会学研究室	震災遺族、町民、 ボランティア	
大震災を語り継ぐ会	Xmasパーティー	妻倉 哲	2018/12/15	大槌町マカナアロハフ ラススタジオ	岩手大学教育学部社 会学研究室	震災遺族、町民、 ボランティア	
大震災を語り継ぐ会	大震災を語り継ぐ	妻倉 哲	2018/12/21	もりおか復興支援セン ター	岩手大学教育学部社 会学研究室	震災遺族、町民、 ボランティア	
大震災を語り継ぐ会	お茶っこ新年会	妻倉 哲	2019/1/12	大槌町マストホール	岩手大学教育学部社 会学研究室	震災遺族、町民、 ボランティア	
大震災を語り継ぐ会	心の復興サロン in 東京	妻倉 哲	2019/1/26	東京都新宿区区役所	岩手大学教育学部社 会学研究室	震災遺族、町民、 ボランティア	
大震災を語り継ぐ会	心の復興サロン in 仙台	妻倉 哲	2019/2/16	仙台市福祉プラザ	岩手大学教育学部社 会学研究室	震災遺族、町民、 ボランティア	
大震災を語り継ぐ会	つながって語り継ぐ	妻倉 哲	2019/2/23	大槌町マストホール	岩手大学教育学部社 会学研究室	震災遺族、町民、 ボランティア	
大震災を語り継ぐ会	慰霊のつどい	妻倉 哲	2019/3/23	大槌町マストホール	岩手大学教育学部社 会学研究室	震災遺族、町民、 ボランティア	
岩手県議会東日本大震災津波復興特別 委員会	被災地の地域コミュニティづくり	船戸 義和	2018/1/11	岩手県議会特別委員 会室	岩手県議会事務局	岩手県議会議員	参加50名 (議員45名)
盛岡市平成30年度人材育成講座町内 会、自治会活動支援セミナー	参加者を広げる工夫	船戸 義和	2018/2/16	盛岡市上田公民館	盛岡市	自治会長、民生 委員等	参加11名
ものづくり産業復興推進班							
ISAAT2018	Comparison of machining performance between cutting tap and rolled tap in tapping of Inconel 718 superalloy	水野 雅裕	2018/10/15	トロント(カナダ)	ICAT		研究開発従事者
ISAAT2018	Study on ultrasonic vibration assisted drilling of AISI 316 2nd report effect of ultrasonic vibration on the cutting temperature	水野 雅裕	2018/10/15	トロント(カナダ)	ICAT		研究開発従事者
2018年度精密工学会東北支部講演会	インコネル718の旋削加工における 工具摩耗に関する研究	水野 雅裕	2018/11/24	秋田県立大学	精密工学会東北支部		研究開発従事者
2018年度精密工学会東北支部講演会	ドリル加工時における超音波振動に よるバリ抑制効果に関する研究	水野 雅裕	2018/11/24	秋田県立大学	精密工学会東北支部		研究開発従事者
岩手大学シーズ発表会	難削材加工の研究	水野 雅裕	2019/3/6	釜石、大槌産業育成 センター	岩手大学		製造業従事者
岩手大学シーズ発表会	難削材加工の研究	水野 雅裕	2019/3/26	オフィスアルカディア 北上	岩手大学		製造業従事者

講演会等の名称	講演題目	氏名	実施日 (複数回の場合は期間)	実施場所	主催機関	対象	備考 (参加者数など)
農地復興班							
International symposium on innovative agriculture and fishery(SIAF 2018)	Measurement of electrical conductivity distribution using an electromagnetic survey in paddy fields damaged by Tsunami		2018/5/11	岩手大学農学部	岩手大学農学部	研究者	
The Global Conference on the International Network of Disaster Studies in Iwate, Japan Iwate Conference	Monitoring of desalination using an electromagnetic survey in paddy fields damaged by Tsunami		2018/7/18	アイーナ(いわて県民情報交流センター)	岩手大学地域防災研究センター	研究者	
平成30年度農業土木技術管理士研修会	物理探査技術を利用した津波被災たため池と水田の調査		2018/7/3	秋田県社会福祉会館	(公社)土地改良測量設計技術協会	技術者	
International symposium on innovative agriculture and fishery(SIAF 2018)	Prediction of ground consolidation settlement based on measurement records and its high accuracy		2018/5/11	岩手大学農学部	岩手大学農学部	研究者	
International symposium on innovative agriculture and fishery(SIAF 2018)	Study on engineering properties of waste bamboo fiber mixed soil		2018/5/11	岩手大学農学部	岩手大学農学部	研究者	
The Global Conference on the International Network of Disaster Studies in Iwate, Japan Iwate Conference	Prediction of ground consolidation settlement based on measurement records and its high accuracy		2018/7/18	アイーナ(いわて県民情報交流センター)	岩手大学地域防災研究センター	研究者	
Global Conference on the International Network of Disaster Studies in Iwate, Japan (INDS IWATE)	Estimation of Nutrient Load from Agricultural Drainage in Rikuzentakata Otomo District, Japan		2018/7/18	アイーナ(いわて県民情報交流センター)	岩手大学地域防災研究センター	研究者	
平成30年度農業農村工学会大会講演会	カキ殻を利用した土の固化処理技術とその応用		2018/9/3 2018/9/6	京都大学	農業農村工学会	研究者	
平成30年度農業農村工学会大会講演会	カキ殻の粒径が固化処理土の強度に与える影響		2018/9/3 2018/9/6	京都大学	農業農村工学会	研究者	
平成30年度農業農村工学会大会講演会	リグニン混合土の工学的性質に関する研究		2018/9/3 2018/9/6	京都大学	農業農村工学会	研究者	
平成30年度農業農村工学会大会講演会	地盤の圧密沈下実測データに基づいた予測とその高精度化		2018/9/3 2018/9/6	京都大学	農業農村工学会	研究者	
農業農村工学会東北支部第60回研究発表会	グニン混合土の工学的性質に関する研究		2018/11/1	大手門パルズ	農業農村工学会東北支部	研究者	
農業農村工学会東北支部第60回研究発表会	地盤の圧密沈下実測データに基づいた予測とその高精度化		2018/11/1	大手門パルズ	農業農村工学会東北支部	研究者	
農業農村工学会東北支部第60回研究発表会	実測値に基づいた盛土構造物の圧密沈下予測に関する研究		2018/11/1	大手門パルズ	農業農村工学会東北支部	研究者	
農業農村工学会東北支部第60回研究発表会	陸前高田市小友地区における農業排水の流量および物質負荷量の評価		2018/11/1	大手門パルズ	農業農村工学会東北支部	研究者	
システム農学会2018年度秋季大会	シバ型放牧草地における放射性セシウム循環モデル		2018/11/2	福山市生涯学習プラザ	システム農学会	研究者	
システム農学会2018年度秋季大会	牧草地におけるカリウム循環モデル		2018/11/2	福山市生涯学習プラザ	システム農学会	研究者	
PAWEES & INWEPF International Conference Nara 2018	Prediction of ground consolidation settlement based on measurement records and its high accuracy		2018/11/20	Kasugano International Forum	PAWEES & INWEPF	研究者	
園芸振興班							
日本農業気象学会2019年全国大会	もみ殻培地塩水湛水栽培を用いた高糖度トマト栽培	松嶋 卯月	2019/3/27	静岡県立大学	日本農業気象学会	学会員ほか	約250名
日本農業気象学会2019年全国大会	コマツナの塩水湛水栽培が可能となる培地の水分特性	松嶋 卯月	2019/3/29	静岡県立大学	日本農業気象学会	学会員ほか	約250名
農業環境工学関連学会2018年合同大会	中性子イメージングを用いたもみ殻培地内水分移動の解析	松嶋 卯月	2019/9/10	松山市	農業環境工学関連5学会	学会員ほか	約500名
2018 International Network of Disaster Studies in Iwate landscape-scale disasters, emergency response, and regional recovery	Farmers' attitude toward the introduction of new agricultural technologies in the Iwate coastal area	松嶋 卯月	2018/7/17	Morioka	Research Center for Regional Disaster Management, Iwate University	大学関係者他	約100名
農業環境工学関連5学会2018年合同大会	減圧マイクロ波を用いたトマトビュール濃縮技術の開発-加熱処理が成分と風味に与える影響-	折笠 寛寛	2018/9/12	愛媛大学	農業環境工学関連5学会	農業工学関連研究者等	約600名
日本農業気象学会2019年全国大会	沿岸内陸に比べて夏涼しく冬温かい? -三陸の事例-	岡田 益己	2019/3/29	静岡県立大学	日本農業気象学会	学会員ほか	約250名
農林畜産復興総合計画班							
釜石市の観光振興に関する調査報告会	1) 釜石市における観光調査の経過 2) 釜石市の観光復興に向けて一歩 3) 東日本大震災後の釜石市におけるダークツーリズムが与える消費者意識の変化	佐藤 和憲、山本 清龍	2019/3/4	釜石情報交流センター、チームスマイル釜石PIT	国立大学法人岩手大学三陸復興・地域創生推進機構	釜石市民	約30名
地域創生部門							
銀河オーブンラボ落成式			2018/5/18	銀河オーブンラボ			文部科学省産学連携、地域支援課長西條正明氏他を向かえて開催 参加者約75名
NEXTSTEP工房ワークショップ1			2018/6/3	コロボ MIU	三陸復興・地域創生推進機構	学生	参加者約30名
岩手県工業技術センター成果発表会	ポスター展示		2018/6/14,15	岩手県工業技術センターロビー	岩手県工業技術センター	一般	SIP等のパネル展示

講演会等の名称	講演題目	氏名	実施日 (複数回の場合は期間)	実施場所	主催機関	対象	備考 (参加者数など)
イノベーションセミナーワークショップ		Persistence of Vision Inc. 代表 飯島 隆宏氏	2018/7/1	コロボ MIU	盛岡市産学官連携研究センター	一般	参加者 18名
MIU Cafe 67	多文化社会に向けて-共通言語(リンガフランク)を考える-	教育推進機構松岡洋子	2018/7/8	アイーナ	盛岡市産学官連携研究センター	学生、一般	参加者 27名
いわてまるごと科学館		理工学部山口明他	2018/7/14	アイーナ	岩手県	小学生、一般	参加者約3500名
イーハートブイニングサロン		ふくしま医療機器開発支援センター長滝澤眞己氏	2018/7/31	市政会館5階 第一会議室	盛岡市、岩手大学	協議会メンバー他	参加者 19名
コロボ MIU 地域イノベーションセミナー	入居企業によるプレゼンテーション		2018/8/22	コロボ MIU	盛岡市産学官連携研究センター	一般	参加者 30名
イノベーションジャパン		理工学部平原英俊 農学部 山田美和	2018/8/30,31	東京ビッグサイト	JST,NEDO	一般	参加者 14,061名
INS 研究会合同フォーラム in 大船渡	岩手大学三陸復興・地域創生推進機構の活動報告	山下 晋	2018/9/7	大船渡商工会議所	INS	一般	参加者約80名
東北みらい創りサマースクール			2018/9/29,30	遠野みらい創りカレッジ	東北みらい創りサマースクール実行委員会	一般	参加者約300名
MIU Cafe 68	岩手の日本酒を楽しむ会		2018/10/5	コロボ MIU	岩手県青年醸友会、盛岡市産学官連携研究センター	学生、一般	酔仙、わしの尾、菊の司、岩手、南都美人、廣喜、AKABU、壺の井 参加者 64名
MIU Cafe 69	もりおかの木を使って、また植えるために。Vol.1	農学部 山本 信次	2018/10/14	クロステラス	盛岡市産学官連携研究センター	学生、一般	三田農林(株)取締役藤井貴史氏(有)岩井沢工務所代表取締役社長岩井沢賢一氏 参加者 22名
産学官民コミュニティ全国大会	岩手大学とINSの活動紹介	今井 潤	2018/10/19	オーデピア	土佐まるごと社中(TMS)	全国の産学連携関係者等	約80名
研究室見学会	大学祭研究室公開にあわせた見学ツアー		2018/10/27	岩手大学	三陸復興・地域創生推進機構	一般	参加者 2名
銀河オーブンラボフォーラム		平原 英俊、富田 浩史、三好 扶、高木 浩一	2018/10/30	銀河オーブンラボ	三陸復興・地域創生推進機構	一般	参加者約30名
リエゾン-I マッチングフェア		機構長 菅原 悦子	2018/11/7	銀河ホール	いわて産学連携推進協議会	一般	研究シーズパネル本学より7枚 参加者 88名
NEXTSTEP 工房ワークショップ2			2018/11/13	コロボ MIU	三陸復興・地域創生推進機構	学生	参加者約20名
MIU Cafe 70	もりおかの木を使って、また植えるために。Vol.2	人文社会科学部 田中 隆充	2018/11/19	KITENE (衛ホームセンター内)	盛岡市産学官連携研究センター 衛清水畑建設代表 清水畑貴彦氏	学生、一般	衛ホームセンター代表取締役社長 齊藤 健吾氏 衛清水畑建設代表 清水畑貴彦氏 参加者 49名
MIU Cafe 71	「アクションを起こして始まったボクの仕事」 ～学生×起業×リノベーション～	OF THE BOX inc. 代表取締役 追沼 翼氏	2018/12/7	コロボ MIU	盛岡市産学官連携研究センター	学生、一般	参加者 26名
北いわての地域資源の活用に関するワークショップ	地域課題解決に向けた大学の取組	今井 潤	2018/12/20	東北広域振興局二戸合同庁舎	岩手県	一般	参加者約40名
イーハートブイニングサロン	盛岡市と岩手大学との連携による今後の産学振興策の検討		2019/1/18	市政会館5階 第一会議室	盛岡市、岩手大学	協議会メンバー他	参加者 15名
水産海洋イノベーションコンソーシアムフォーラム		今井 潤、山下 晋	2019/1/25	東京海洋大学品川キャンパス 水産会館	東京海洋大学、岩手大学、北里大学	一般	参加者約50名
第13回企業情報交換会 in いちのせき			2019/2/10	一関市総合体育館	岩手県南技術研究センター	一般	SIP等のパネル展示
リエゾンI 研究開発事業化育成資金贈呈式			2019/2/27	コロボ MIU	いわて産学連携推進協議会	協議会メンバー他	10社に育成資金贈呈 参加者約50名
NEXTSTEP 工房成果報告会	21プロジェクトの成果ポスター展示		2019/2/28,3/4	コロボ MIU	三陸復興・地域創生推進機構	一般	参加者約40名
地域課題解決プログラム成果発表会			2019/3/8	コロボ MIU	三陸復興・地域創生推進機構	一般	29件 参加者約80名
平成30年度スイカセミナー「滝沢スイカのトリクミとコレカラ」	岩手大学三陸復興・地域創生推進機構の活動報告	小山 康文	2019/3/15	ビックルーフ滝沢	滝沢市	生産者、団体、研究者など	約30名
MIU Cafe 72	創業支援・企業支援のキモ Vol.2 -ありがとうせきやん!コロボ MIU卒業トーク-	盛岡市企業支援マネージャー 関 洋一 氏	2019/3/26	コロボ MIU	盛岡市産学官連携研究センター	学生、一般	参加者 54名
アートフォーラム							
いわて美術茶話 09 高校生、中学生版	「2018 岩大オープンキャンパスで自由にデッサンして語る」		2018/8/9	岩手大学芸術棟3階 デッサン室	岩手大学アートフォーラム	中、高校生	13名 10:00～15:00
いわて美術茶話 10 高校生版	「岩手大学で書の臨書をしてみませんか?」		2018/9/22	岩手大学総合教育研究棟(教育系)書道実習室	岩手大学アートフォーラム	高校生	8名 10:00～15:00
いわて美術茶話 11	「出張いわて美術茶話 - 宮古で美術を語る -」		2018/11/17	宮古中央公民館分館	岩手大学アートフォーラム、宮古美術協会	一般(宮古美術協会)	10名 15:00～16:30
いわて美術茶話 12	「出張いわて美術茶話 12 - みやこ DE 美術塾 -」		2019/3/21	宮古市民文化会館	岩手大学アートフォーラム、宮古市民文化会館、宮古美術協会	一般	20名 14:00～16:30
岩手大学アーツスクール室芸コース	たたら作りによる皿および香品、てびねりによる花器、電動輪軸による大皿形成の制作講習		2018/12/20 2019/1/11	岩手大学芸術棟1階 彫刻工房	岩手大学アートフォーラム	制作経験者、指導者	3名 期間中6回
岩手大学アーツスクール版画コース	「期間限定*木版画研究会@岩手大学版画実習室」		2019/1/26 2019/2/9	岩手大学芸術棟3階 版画実習室及びデッサン室	岩手大学アートフォーラム	制作経験者、指導者	9名 期間中3回

講演会等の名称	講演題目	氏名	実施日 (複数回の場合は期間)	実施場所	主催機関	対象	備考 (参加者数など)
岩手大学アートスクール版画コース	「期間限定＊木版画研究会@岩手大 版画実習室」木版画展		2019/2/18 2019/2/23	アートショップ彩画堂 S-SPACE	岩手大学アートフォーラム、S-SPACE	版画コース参加者、講師	9名 来場者約100名
美術指導者研修会	「彫刻制作指導者研修会 2018 (塑像)」		2018/8/11 2018/8/26	岩手大学芸術棟 101, 102, 石彫場	岩手大学アートフォーラム	高校教員、彫刻制作者	6名 期間中6回
宮澤賢治センター							
宮沢賢治学会イーハトーブセンター春季セミナー講師(招待講演)	宮澤賢治と方言	大野 眞男	2019/3/23	宮沢賢治イーハトーブ館	宮沢賢治学会イーハトーブセンター	会員、一般	参加者数:約30名
宮沢賢治学会イーハトーブセンター春季セミナー講師(招待講演)	近代言語資料としての宮沢賢治童話	小島 聡子	2019/3/24	宮沢賢治イーハトーブ館	宮沢賢治学会イーハトーブセンター	会員、一般	参加者数:約30名
岩手大学シニアカレッジ	賢治童話にみる「標準語」と方言	小島 聡子	2018/9/13	岩手大学図書館	岩手大学	一般	参加者数:約30名
市民講座「はなまき賢治セミナー」	賢治童話に散りばめられた標準語と方言	小島 聡子	2018/10/22	花巻市生涯学習都市会館	花巻市	市民一般	
岩手大学教育学部出前講座	あなたはどっち？ いるいるな視点から見る賢治「雨ニモマケズ」の深み	田中 成行	2018/12/17	花巻市生涯学習都市会館	花巻市	市民一般	
岩手大学宮澤賢治センター第99回定例研究会	映画「愁いの王——宮澤賢治——」で描きたかったこと	木村直弘	2018/5/25	岩手大学農学部	岩手大学宮澤賢治センター	一般、学生、教職員	参加者:31名 講演者:吉田重満
岩手大学宮澤賢治センター第100回定例研究会	ベジタリアン宮沢賢治—その背景と作品—	大野 眞男	2018/7/20	岩手大学農学部	岩手大学宮澤賢治センター	一般、学生、教職員	参加者:31名 講演者:佐藤竜一
岩手大学宮澤賢治センター第101回定例研究会	賢治作品にみられる自己犠牲、自己否定および隣人愛の概念について	大野 眞男	2018/9/18	岩手大学農学部	岩手大学宮澤賢治センター	一般、学生、教職員	参加者:44名 講演者:プラット、アブラハム、ジョージ
岩手大学宮澤賢治センター第102回定例研究会	宮澤賢治の得業論文を読む	木村直弘	2018/11/22	岩手大学農学部	岩手大学宮澤賢治センター	一般、学生、教職員	参加者:39名 講演者:伊藤菊一
岩手大学宮澤賢治センター第103回定例研究会	宮沢賢治 表現のコントラスト—西洋と東洋の組み合わせ—	大野 眞男	2019/1/30	岩手大学人文社会科学部	岩手大学宮澤賢治センター	一般、学生、教職員	参加者:160名 講演者:馮海鷹
岩手大学宮澤賢治センター第104回定例研究会	宮沢賢治の国際性を考える	木村直弘	2019/3/20	岩手大学人文社会科学部	岩手大学宮澤賢治センター	一般、学生、教職員	参加者:32名 ラインハルト、ヴェルナー
共同研究員							
日本デザイン学会第65回春季研究発表大会	書店で販売するための減塩醤油の創造	金澤 健介(共著者)	2018/6/24	大阪工業大学	日本デザイン学会	大学・研究機関等	田中隆充教授発表
地域活性化学会第10回研究大会	市職員による産学官民連携活動を通じた地域創生方策の検討	金澤 健介	2018/9/15	拓殖大学	地域活性化学会	大学・研究機関、市民団体等	約30名
地域活性化学会第10回研究大会	岩手大学と岩手県久慈市の産学官連携による地域活性化	大内田 泰之	2018/9/15	拓殖大学	地域活性化学会	大学・研究機関、市民団体等	約30名
地域連携フォーラム in 盛岡	AIoT時代の産業振興を推進する産学官連携	金澤 健介、金天海 他	2018/10/29	北桐ホール	盛岡市、岩手大学	学生、一般	参加者:106名
地域連携フォーラム in 釜石		菅原 悦子、澤口 なつ美、下飯 仁、三浦 晴、田中隆充 他	2018/12/16		本機構、釜石市	一般	参加者140人
地域連携フォーラム in 久慈		菅原 悦子、大内田 泰之、清水 友治、三上 昌也、川尻 博 他	2019/1/28	久慈グランドホテル	久慈市、岩手大学	学生、一般	参加者:約200名
生涯学習部門							
日本比較教育学会	日本の大学における成人学習者をめぐる現状と課題—1大学の事例を中心に—	朴 賢淑	2018/6/24	広島大学	日本比較教育学会	学会参加者	
日本社会教育学会	移住高齢者支援団体における当事者主体の運営の意義と課題	朴 賢淑	2018/10/6	名桜大学	日本社会教育学会	学会参加者	
日本社会教育学会	生涯学習における大学の役割	朴 仙子	2018/10/6	名桜大学	日本社会教育学会	学会参加者	
Global Conference on the International Network of Disaster Studies in Iwate, Japan Iwate Conference	The Present and Issues of Employment Support after the Great East Japan Earthquake: the case of single parent in Iwate Prefecture	朴 賢淑	2018/7/18 2018/7/20	いわて県民情報交流センター「アイーナ」	岩手大学地域防災研究センター、清華大学公共管理学院危機管理研究センター(中国)、ハーバード大学ケネディスクールクライシス、リーダーシップ、プログラム(米国)	学会参加者	
三陸水産教育研究部門							
日本水産学会東北支部大会ミニシンポジウム	サクラマス資源造成の現状と課題—太平洋	後藤 友明	2018/10/6	山形大学農学部	日本水産学会東北支部	漁業者、研究者	41名
水産海洋地域研究会第48回北洋研究シンポジウム	定置網におけるクログマグロ小型魚混獲回避の可能性	後藤 友明	2018/8/31	函館市国際水産・海洋総合研究センター	水産海洋学会	漁業者、研究者	約100名
仙台通学セミナー	海洋環境の変動が三陸の水産資源と漁業に与える影響	後藤 友明	2018/11/9	TKP ガーデンシティ プレミアム仙台北口	日本 NUS	一般	約70名
岩手県漁業士会研修会	海洋環境の変化と漁業資源の変動について	後藤 友明	2018/6/1	グランドホテルアネックス	岩手県漁業士会	漁業者	約30名
第1回加工原料セミナー	海洋環境の変化と漁業資源の変動について	後藤 友明	2018/10/12	岩手県水産技術センター	岩手県沿岸広域振興局水産部	加工業者	約50名
Gastronomie 三陸 テーマ「海藻」	世界三大漁場・三陸の魅力	後藤 友明	2018/6/10	ホテル羅賓荘	Salon de La Gastronomie a SANRIKU 2018	メディア、生産者、行政関係者、シェフ	約30名
水産海洋学会三陸地域研究会「三陸沿岸における定置網漁業と海洋環境」	定置網におけるクログマグロ資源管理の問題点と漁獲抑制技術	後藤 友明	2018/12/7	石巻市水産総合振興センター	水産海洋学会	漁業者、研究者	62名
日本水産学会水産環境保全委員会シンポジウム「東日本大震災復興事業による沿岸域の改変が沿岸生態系に何をもたらすか？」	岩手県における海岸対策事業と環境配慮の取り組み	後藤 友明	2018/3/26	東京海洋大学	日本水産学会水産環境保全委員会	研究者ほか	約50名

講演会等の名称	講演題目	氏名	実施日 (複数回の場合は期間)	実施場所	主催機関	対象	備考 (参加者数など)
日本水産学会漁業懇話会講演会「太平洋クログマグロの資源管理と定置網漁業における漁獲コントロール技術」	岩手県における漁獲抑制対策	後藤 友明	2018/3/26	東京海洋大学	日本水産学会漁業懇話会委員会	研究者ほか	
平成30年度日本水産学会春季大会	津軽石川のシロザケの遡上全期にわたる遺伝特性解析	北村 志乃	2018/3/26-30	東京海洋大学	日本水産学会	学会関係者	
平成30年度東北マリンサイエンス拠点形成事業全体会	岩手県沿岸河川に遡上したシロザケの遡上特性解析	北村 志乃	2018/6/2-3	東北大学青葉山コモンズ	東北マリンサイエンス拠点形成事業	東北マリンサイエンス拠点形成事業関係者	
さーもん・かふゑ 2018 専門部会	シロザケの遡上全期にわたる遺伝特性解析	北村 志乃	2018/6/8	岩手県水産会館	三陸サケ資源協議会	サケ増殖事業関係者	
平成30年度日本水産学会秋季大会	津軽石川シロザケの遡上全期にわたる雌雄別遺伝特性解析	北村 志乃	2018/9/15-18	広島大学東広島キャンパス	日本水産学会	学会関係者	
気仙川漁協報告会	気仙川2017年採捕アユの遺伝的多様性	北村 志乃	2019/2/13	ホテルグリーンベル	気仙川漁協	行政・漁協関係者	
平成30年度日本水産学会春季大会	サケの資源動態と課題-三陸におけるサケの遺伝構造と個体群特性	塚越 英晴	2018/3/26	東京海洋大学	日本水産学会	研究関係者、水産関係者	
平成30年度日本水産学会東北支部大会	DNAからみた東北地方のサクラマス資源	塚越 英晴	2018/10/6	山形大学	日本水産学会東北支部	研究関係者	約50名
平成30年度日本水産学会北海道支部大会	サケ類の遺伝特性解析-三陸岩手のサケ類を中心に-	塚越 英晴	2018/11/24	釧路市生涯学習センター	日本水産学会北海道支部	研究関係者	約100名
第12回サケ学研究会	三陸岩手のサケの遺伝特性-沿岸海域で漁獲された集団を中心に-	塚越 英晴	2018/12/2	函館市国際水産・海洋総合研究センター	サケ学研究会	研究関係者	約80名
国内サーモン養殖による地域振興に向けた課題と展望	三陸岩手サクラマスの遺伝特性-河川遡上集団と沿岸海域漁獲集団-	塚越 英晴	2019/1/27	岩手大学	岩手大学	研究関係者、水産関係者	約100名
平成30年度日本水産学会東北支部会	餌料の異なる養殖サクラマスの肉質評価		2018/10/6	山形大学農学部	日本水産学会東北支部	支部会員他	
第43回日本比較内分分泌学会大会およびシンポジウム	卵黄形成期・卵成熟期・排卵期のメダカ卵細胞における遺伝子発現動態の解析	柴田 安司、平井 俊朗、Graham Young、長濱 嘉孝	2018/11/9 2018/11/11	東北大学青葉山コモンズ	日本比較内分分泌学会	会員他	
第12回サケ学研究会	シロザケの成長に対する光周期の影響	佐藤 琢哉、平井 俊朗	2018/11/30 2018/12/1	函館市国際水産・海洋総合研究センター	サケ学研究会	会員他	
シンポジウム「国内サーモン養殖による地域振興に向けた課題と展望～地域発サーモン養殖を支える研究開発の方向性～」	さけます類の陸上養殖に向けた研究	佐藤 琢哉、平井 俊朗	2019/1/27	岩手大学復興祈念銀河ホール(他3箇所中継)	三陸水産研究センター他	一般	
シンポジウム「国内サーモン養殖による地域振興に向けた課題と展望～地域発サーモン養殖を支える研究開発の方向性～」	陸上サーモン養殖と食品分析の連携による高品質サーモン創出	于 克鋒、袁 春紅、佐藤 琢哉、平井 俊朗	2019/1/27	岩手大学復興祈念銀河ホール(他3箇所中継)	三陸水産研究センター他	一般	
シンポジウム「国内サーモン養殖による地域振興に向けた課題と展望～地域発サーモン養殖を支える研究開発の方向性～」	総合討論「地域密着型サーモン養殖のために研究者は何をすべきか」	平井 俊朗、小堀 彰彦、内田 勝久、新田 義修	2019/1/27	岩手大学復興祈念銀河ホール(他3箇所中継)	三陸水産研究センター他	一般	
宮崎大学サテライトワークショップ「サクラマスの生理・生態学研究の最前線～基礎研究から増養殖事業の展開まで～」	地域発サーモン養殖を支えるために研究者は何をすべきか(盛岡シンポジウムの報告)	平井 俊朗	2019/3/1	宮崎大学農学部	宮崎大学農学部	研究者他	
平成31年度公益社団法人日本水産学会春季大会	シロザケの成長に対する光周期の影響	佐藤 琢哉、平井 俊朗	2019/3/26	東京海洋大学	日本水産学会	研究者他	
日本水産学会春季大会	Effect of different post-harvest handling on the freshness changes in Japanese scallop (Patinopecten yessoensis)(漁獲後異なる処理によるホタテガイの鮮度変化)	袁 春紅	2019/3/28	東京海洋大学	日本水産学会	水産分野研究者	約50名
日本水産学会春季大会	鮮度保持技術と酵素活性制御技術によるイサダの高品質食材の開発	袁 春紅	2019/3/28	東京海洋大学	日本水産学会	水産分野研究者	約50名
日本水産学会春季大会	Comparison of post-mortem ATP degradation in meat and homogenized-minced muscle between Japanese scallop and spotted mackerel during cold storage(冷蔵中ホタテとサバの肉と微細化したミンチのATP関連化合物の変化)	袁 春紅	2019/3/28	東京海洋大学	日本水産学会	水産分野研究者	約50名
日本水産学会春季大会	筋肉タンパク質の変性制御による高鮮度凍結イサダの開発	袁 春紅	2019/3/28	東京海洋大学	日本水産学会	水産分野研究者	約50名
イサダ食用化等研究会	イサダ食用化に向けた取り組み	袁 春紅	2019/1/29	大船渡魚市場	大船渡水産振興センター	漁業関係者	約30名
シンポジウム「国内サーモン養殖による地域振興に向けた課題と展望～地域発サーモン養殖を支える研究開発の方向性～」	陸上サーモン養殖と食品分析の連携による高品質サーモンの創出	袁 春紅	2019/1/27	岩手大学	岩手大学	公開	約200名
科学講話	水産物と食	袁 春紅	2018/11/16	盛岡市立図書館	盛岡市立図書館	一般市民	約30名
岩手大学農学部オープンキャンパスセミナー	水産物の鮮度保持による安全安心刺身食材の開発	袁 春紅	2018/10/22	岩手大学	岩手大学	一般市民	約60名
日本水産学会東北支部大会	餌料の異なる養殖サクラマスの肉質評価	于 克鋒、佐藤 琢哉、袁 春紅、大野 宣和、五十嵐 和昭、高橋 禎、平井 俊朗	2018/10/7	山形大学	日本水産学会東北支部	公開	約50名
東南アジア水産技術者会議	Effect of thawing methods on changes in ATP-related compounds, Free amino acids, and microstructure of scallop adductor muscle	袁 春紅	2018/9/28	浙江大學	東南アジア水産技術者会議	水産分野研究者	約50名
日本水産学会秋季大会	Effect of thawing on structural and biochemical change in scallop adductor muscle	袁 春紅	2018/9/18	広島大学	日本水産学会	水産分野研究者	約50名
いわて海洋研究コンソーシアム研究者交流会	中国沿海におけるグリーンタイトの発生及び海洋環境保全施策の概要	袁 春紅	2018/9/13	東京大学大気海洋研究所附属国際沿岸海洋研究センター	いわて海洋研究コンソーシアム	海洋研究者	約30名

講演会等の名称	講演題目	氏名	実施日 (複数回の場合は期間)	実施場所	主催機関	対象	備考 (参加者数など)
平成30年度第1回魚類産種勉強会	中国水産物の伝統加工技術とその市場現状	袁 春紅	2018/8/1	岩手大学釜石サテライト	岩手大学	岩手水産業者	約50名 2時間講演
岩手大学農学部アグリフォーラム	ゴマサバを刺身で美味しく食べる	袁 春紅	2018/7/18	岩手大学	岩手大学	一般市民	約50名
平泉文化教育研究部門							
シンポジウム『中尊寺供養願文』の謎を解く	中尊寺供養願文と藤原朝隆 - 書の視点から -	劉 海宇	2019/3/23	平泉町世界遺産センター	岩手大学平泉文化研究センター	岩手県民及び研究者	約130名
第19回平泉文化フォーラム	中尊寺金銀字一切経のルーツについて	劉 海宇	2019/2/2	江刺文化体育会館	岩手県教育委員会他	岩手県民及び研究者	約200名
釜石市「鉄の歴史講座」	東アジアにおける鉄の歴史の話	劉 海宇	2018/11/25	釜石市立図書館	釜石市教育委員会	釜石市市民等	約60名
康有為書学国際研討会	清代碑学影響下日本学者対山東漢代碑刻的調査研究	劉 海宇	2018/10/27	中国青島市八大関賓館	青島市書法家協会等	研究者及び青島市民	約100名
中国第二回考古学大会	西周金文「王在周」所涉及建築考述	劉 海宇	2018/10/23	中国成都市金牛賓館	中国社会科学院考古研究所等	研究者	約50名
青銅器、金文與青魯文化學術研討会	西周金文軌跡及『詩經』相關内容考述	劉 海宇	2018/10/19	中国維坊市富華大酒店	山東省文物考古研究院等	研究者	約50名
安徽大学招待講演	岩手縣立博物館蔵古璽印の整理與研究	劉 海宇	2018/9/21	安徽大学漢字發展與應用研究中心	安徽大学漢字發展與應用研究中心	研究者	約30名
復旦大学招待講演	太田夢庵旧蔵古璽印の整理與研究	劉 海宇	2018/9/20	上海復旦大学出土文献与古文字研究中心	上海復旦大学出土文献与古文字研究中心	研究者	約20名
岩手大学社会教育主事講習社会教育特講	平泉文化と古代中国	劉 海宇	2018/7/23	岩手大学一祐会館 2F 大会議室	岩手大学	県内教育従事者	約100名
〈平泉文化研究会〉並びに第2回〈経塚研究会〉	中国唐宋期における法舍利供養について	劉 海宇	2018/7/22	東北大学文学研究棟	岩手大学平泉文化研究センター等	研究者	約40名
平成30年度東北地区国立大学法人等技術職員研修技術発表会	世界遺産「平泉文化」の三次元計測とそのデジタルアーカイブ化	藤崎 聡美	2018.9.19	東北大学金属材料研究所	東北大学	東北地区国立大学法人等に所属する職員	約100名 藤崎 聡美、曾澤 純雄、桑 静、平原 英俊発表者は藤崎 聡美
UURR シンポジウム「東アジアの平泉を考える」	藤原清衡と「平泉思想」	伊藤 博幸	2018/10/13	岩手大学	岩手大学、岩手県、平泉町、中国洛陽市	一般	約30名
産金のはじまり気仙と黄金文化平泉 / 講演会と意見交換会	平泉の黄金文化	伊藤 博幸	2018/11/8	陸前高田 GC	平泉文化研究センター / 陸前高田市教育委員会	一般	約30名
第2回東北歴史文化講座講師	奥州藤原氏に築いた東北の浄土 - 考古学から振り返る平泉文化の姿	相原 康二	2018/8/25	東京ベルサール秋葉原	東北観光推進機構、JR 東日本	東京都民	約700名
シンポジウム「モンゴル帝国期環インド洋、ユーラシア交流の再検討：13-14世紀は海城アジア史の分水嶺か？」	陶磁器から見た13-14世紀における海城アジア	徳留 大輔	2018/6/23	立教大学	立教大学史学会	学会員および一般	約70名
『貿易陶磁と東アジアの物流』刊行に係る記念講演会	平泉から出土した中国陶磁の産地推定に関する国際共同研究成果報告	徳留 大輔	2019/2/9	岩手大学教育学部	岩手大学平泉文化研究センター	一般	約20名
平泉文化セミナー第40回例会	本州における標文土器出土の意味について	八木 光則	2018/4/27	岩手大学	岩手大学平泉文化研究センター	一般市民	
盛岡の歴史入門講座	古代編 - 蝦夷の村の変化	八木 光則	2018/4/28	盛岡市西部公民館	盛岡市西部公民館	一般市民	
盛岡の歴史入門講座	近代編 - 近代化と小繋事件	八木 光則	2018/5/26	盛岡市西部公民館	盛岡市西部公民館	一般市民	
生涯青春講座	鳥海柵跡と金ヶ崎城下	八木 光則	2018/6/13	盛岡市都南公民館	盛岡市都南公民館	一般市民	
第81 蝦夷研究会	盛南地区の村落構造	八木 光則	2018/6/16	岩手大学	蝦夷研究会	古代史研究者	
小川の石碑を語る	小川の石碑調査報告	八木 光則	2018/7/21	岩泉町小川コミュニティセンター	岩泉町教育委員会	地区住民	
みたけ高齢者学級講演会	前九年合戦と安倍氏	八木 光則	2018/8/2	盛岡市みたけ活動センター	みたけ高齢者学級	地区住民	
縄文講座	三陸の自然環境と縄文人の暮らし	八木 光則	2018/11/17	盛岡市西部公民館	盛岡市西部公民館	一般市民	
陸前高田市グローバルキャンパス講演会	気仙の古代	八木 光則	2018/11/18	陸前高田市グローバルキャンパス	岩手大学	一般市民	
釜石市「鉄の歴史講座」	岩手県の古代～中世鉄生産	八木 光則	2018/11/25	釜石市	岩手大学釜石市教育委員会	一般市民	
第83 蝦夷研究会	棚田集落の意義 - 6～7世紀における仙台平野への移民の再検討 -	八木 光則	2018/12/15	岩手大学	蝦夷研究会	古代史研究者	
街づくりわいわい塾	自然と共生し利用した縄文時代	八木 光則	2018/12/18	盛岡市上田公民館	街づくりわいわい塾	一般市民	
北方交流科研 総括シンポジウム	青苗文化の再検討	八木 光則	2018/12/26	法政大学	北方交流科研	科研研究者	
盛岡の歴史を語る会	三閉伊一揆の背景	八木 光則	2019/1/18	盛岡市総合福祉センター	盛岡の歴史を語る会	一般市民	
小本、有芸の石碑を語る	小本、有芸の石碑調査報告	八木 光則	2019/1/19	岩泉町小本コミュニティセンター	岩泉町教育委員会	地区住民	
「山田町の石碑」報告と語る会II	山田町の石碑の現状	八木 光則	2019/3/2	山田町コミュニティセンター	岩手歴史民俗ネットワーク	一般町民	
北上市立鬼の館 鬼学講座「鬼と先人」	鬼と呼ばれた東北の人々	八木 光則	2019/3/21	北上市立鬼の館	北上市立鬼の館	一般市民	
シンポジウム中尊寺供養願文の謎を解く	中尊寺供養願文の作法	菅田 慶信	2019/3/23	平泉文化遺産センター	岩手大学平泉文化研究センター	研究者、一般市民	11時15分から50分

講演会等の名称	講演題目	氏名	実施日 (複数回の場合は期間)	実施場所	主催機関	対象	備考 (参加者数など)
地域防災教育研究部門							
2018 Global Conference on the International Network of Disaster Studies in Iwate, Japan, Iwate Conference	Leader development for local communities or schools' disaster risk reduction in the Research Center for Regional Disaster Management, Iwate University	越谷 信	2018/7/18	Aiina	Research Center for Regional Disaster Management, Iwate University, Center for Crisis Management Research, School of Public Policy and Management, Tsinghua University, and The Program on Crisis Leadership, Ash Center for Democratic Governance and Innovation and Taubman Center for State and Local Government, Harvard Kennedy School	Researchers	
日本地球惑星科学連合2018年大会	高分解能浅層反射法地震探査から明らかになった石狩平野の伏在活断層	越谷 信	2018/5/22	幕張メッセ	日本地球惑星科学連合	研究者	共著
日本地球惑星科学連合2018年大会	石狩低地における高分解能反射法地震探査	越谷 信	2018/5/22	幕張メッセ	日本地球惑星科学連合	研究者	共著
平成30年度東北地域災害科学研究会および講演会	小安地熱地域に発達する断層系に基づく応力場の復元	越谷 信	2018/12/23	秋田大学	自然災害研究協議会東北地区部会、日本自然災害学会東北支部	研究者	学生発表(共著)
平成30年度東北地域災害科学研究会および講演会	雫石盆地西縁断層帯を構成する複数の断層構造	越谷 信	2018/12/23	秋田大学	自然災害研究協議会東北地区部会、日本自然災害学会東北支部	研究者	学生発表(共著)
連合地域フォーラム「クラシノソアゲ」	「自立」に向けた「雇用再生」の現状と課題	杭田 俊之	2018/4/21	岩手教育会館	連合岩手	一般市民	150名、14時1回講演
震災と復興 岩手からの声	富山から考える震災、復興学 岩手の水産業復興	杭田 俊之	2018/12/25	富山大学	富山大学	教職員、一般市民	60名、16:30～18:00、1回講演
国際防災、危機管理研究 岩手会議	Community Reconstruction and Development While Confronting Deaths from Disaster	斎倉 哲	2018/7/18	岩手県民情報センター アイーナ	岩手大学地域防災研究センター 他		
国際防災、危機管理研究 岩手会議	Activities and current issues of ICAT (Infection Control Assistance Team of Iwate) in the 2011 Great East Japan Earthquake	斎倉 哲	2018/7/17～2018/7/19	岩手県民情報センター アイーナ	岩手大学地域防災研究センター 他		
国際防災、危機管理研究 岩手会議	Slow Infrastructure and Cooperation Culture Revealed After the Great East Japan Earthquake and Tsunami	斎倉 哲	2018/7/17～2018/7/19	岩手県民情報センター アイーナ	岩手大学地域防災研究センター 他		
国際防災、危機管理研究 岩手会議	Advice for City Planning Based Disaster Preparation Based Investigations of Each Tsunami Victim: From Tsunami Victim Research in Otsuchi Town, Iwate Prefecture	斎倉 哲	2018/7/17	岩手県民情報センター アイーナ	岩手大学地域防災研究センター 他		
日本都市学会第65回大会	災害検証の含意 - 何を排除し何を含めるかの論議	斎倉 哲	2018/10/21	九州産業大学	日本都市学会、九州都市学会	学会員	
日本科学者会議第22回総合学術研究集会	犠牲者を忘れ去る国家に本当の復興はない - 震災も震災も、岩手県大槌町と沖繩県渡嘉敷村での調査から	斎倉 哲	2018/12/8	琉球大学	日本科学者会議		
被災地調査、研究発表会		斎倉 哲	2018/10/28	岩手大学北桐ホール	岩手大学教育学部社会学研究室	一般	
大槌町生活の復興状況調査(仮設住宅入居者調査)報告会		斎倉 哲	2018/12/15	大槌町文化交流センターおしやっち	岩手大学教育学部社会学研究室	大槌町住民	約30名
大震災を語り継ぐ会	今年度の心の復興サロンについてみんなで意見、アイデアを出しあおう!	斎倉 哲	2018/4/21	大槌町マストホール	岩手大学教育学部社会学研究室ボランティア	震災遺族、町民、ボランティア	
大震災を語り継ぐ会	亡くなった家族との物語を語り、自分自身の物語を生きる	斎倉 哲	2018/5/19	大槌町マストホール	岩手大学教育学部社会学研究室ボランティア	震災遺族、町民、ボランティア	
大震災を語り継ぐ会	震災前の懐かしい大槌の写真、映像を皆で見ましょう	斎倉 哲	2018/6/16	大槌町マストホール	岩手大学教育学部社会学研究室ボランティア	震災遺族、町民、ボランティア	
大震災を語り継ぐ会	大槌町役場職員のご遺族に寄り添いお互いの気持ちを語り合ひましょう	斎倉 哲	2018/7/21	大槌町マストホール	岩手大学教育学部社会学研究室	震災遺族、町民、ボランティア	
大震災を語り継ぐ会	笑って開運!健康漫談	斎倉 哲	2018/8/25	大槌町マストホール	岩手大学教育学部社会学研究室	震災遺族、町民、ボランティア	
大震災を語り継ぐ会	笑って開運!健康漫談	斎倉 哲	2018/8/31	もりおか復興支援センター	岩手大学教育学部社会学研究室	震災遺族、町民、ボランティア	
大震災を語り継ぐ会	亡き人を想う、語り継ぐ	斎倉 哲	2018/9/21	もりおか復興支援センター	岩手大学教育学部社会学研究室	震災遺族、町民、ボランティア	
大震災を語り継ぐ会	想いをメロディにのせて～皆さんの想いを詩にしてみませんか～	斎倉 哲	2018/9/22	大槌町マストホール	岩手大学教育学部社会学研究室	震災遺族、町民、ボランティア	
大震災を語り継ぐ会	鎮魂の演奏、遺族における演奏	斎倉 哲	2018/10/27	岩手大学	岩手大学教育学部社会学研究室	震災遺族、町民、ボランティア	
大震災を語り継ぐ会	兄を探して母をみとって、8年目の写真展を語る	斎倉 哲	2018/10/28	岩手大学	岩手大学教育学部社会学研究室	震災遺族、町民、ボランティア	
大震災を語り継ぐ会	悲嘆と語り	斎倉 哲	2018/11/10	大槌町マストホール	岩手大学教育学部社会学研究室	震災遺族、町民、ボランティア	
大震災を語り継ぐ会	音楽療法って何?	斎倉 哲	2018/11/30	もりおか復興支援センター	岩手大学教育学部社会学研究室	震災遺族、町民、ボランティア	

講演会等の名称	講演題目	氏名	実施日 (複数回の場合は期間)	実施場所	主催機関	対象	備考 (参加者数など)
大震災を語り継ぐ会	Xmasパーティ	妻倉 哲	2018/12/15	大槌町マカナアロハフラススタジオ	岩手大学教育学部社会学研究室	震災遺族、町民、ボランティア	
大震災を語り継ぐ会	大震災を語り継ぐ	妻倉 哲	2018/12/21	もりおか復興支援センター	岩手大学教育学部社会学研究室	震災遺族、町民、ボランティア	
大震災を語り継ぐ会	お茶っご新年会	妻倉 哲	2019/1/12	大槌町マストホール	岩手大学教育学部社会学研究室	震災遺族、町民、ボランティア	
大震災を語り継ぐ会	心の復興サロン in 東京	妻倉 哲	2019/1/26	東京都新宿区役所	岩手大学教育学部社会学研究室	震災遺族、町民、ボランティア	
大震災を語り継ぐ会	心の復興サロン in 仙台	妻倉 哲	2019/2/16	仙台市福祉プラザ	岩手大学教育学部社会学研究室	震災遺族、町民、ボランティア	
大震災を語り継ぐ会	つながって語り継ぐ	妻倉 哲	2019/2/23	大槌町マストホール	岩手大学教育学部社会学研究室	震災遺族、町民、ボランティア	
大震災を語り継ぐ会	慰霊のつどい	妻倉 哲	2019/3/23	大槌町マストホール	岩手大学教育学部社会学研究室	震災遺族、町民、ボランティア	
International Magnetics Conference	Quantitative component selection method using attractor analysis for noise reduction by ICA of magnetocardiogram	Koichiro Kobayashi, Morio Iwai	2018/4/23 ~ 2018/4/27	シンガポール	IEEE	国際研究者	
International Conference of Asian Union of Magnetics Societies	Study of noise reduction using ICA for MCG - Quantitative component selection method using attractor analysis	Koichiro Kobayashi	2018/6/3 2018/6/7	韓国	AUMS	国際研究者	
日本生体磁気学会大会	空間フィルタ法を用いた心磁図の信号源推定における解空間の検討	駒ヶ峯 崇嗣、岩井 守生、小林 宏一郎	2018/6/15 2018/6/16	広島	日本生体磁気学会	国内研究者	
日本生体磁気学会大会	リファレンスセンサを用いない Time-shift PCA によるノイズ除去法の検討	岩井 守生、小林 宏一郎	2018/6/15 2018/6/16	広島	日本生体磁気学会	国内研究者	
Global Conference on the International Network of Disaster Studies in Iwate Japan	EXAMINATION OF EVALUATION METHOD FOR NONDESTRUCTIVE INSPECTION OF CHLORIDE CONCENTRATION IN CONCRETE APPLYING AC IMPEDANCE METHOD	Koichiro Kobayashi Morio Iwai	2018/7/17 2018/7/19	盛岡	岩手大学	国際研究者	
空気調和・衛生工学会大会	ファン付き作業服を用いた熱ストレス低減化に関する研究 (第5報) 建設現場での発汗量を含めた生理指標の分析による作業時間帯の影響評価	山崎 慶太、菅 重夫、桑原 浩平、濱田 靖弘、小林 宏一郎	2018/9/12 2018/9/14	名古屋	空気調和、衛生工学会	国内研究者	
空気調和・衛生工学会大会	ファン付き作業服を用いた熱ストレス低減化に関する研究 (第4報) 建設現場の温熱環境と生理、心理反応の関係	桑原 浩平、山崎 慶太、菅 重夫、濱田 靖弘、小林 宏一郎	2018/9/12 2018/9/14	名古屋	空気調和、衛生工学会	国内研究者	
日本生体医工学会大会	Kinectを用いた姿勢に依存しない呼吸計測法の検討	小林 宏一郎、岩井 守生、女ヶ澤 豪	2018/9/14 2018/9/15	名古屋	日本生体医工学会	国内研究者	
日本非破壊検査協会秋季講演大会	電気特性に基づくコンクリート中の塩化物濃度推定における水分補正式の検討	千葉 祐介、岩井 守生、小林 宏一郎	2018/11/15 2018/11/16	神戸	日本非破壊検査協会	国内研究者	
がんちゃん Jr. 防災リーダー養成講座	雨、台風災害に備える	小笠原 敏記	2018/9/14	岩手大学北桐ホール	岩手大学	生徒	約 120 名
矢巾町高田地区防災勉強会	害を知らず〜高田地区の水害について考える〜	小笠原 敏記	2018/11/17	高田地区コミュニティセンター	矢巾町、岩手県	住民	約 20 名
土木学会東北支部技術研究発表会	ラグランジュ計測による風波表層流に関する基礎実験	小笠原 敏記	2018/3/3	日本大学	土木学会		
土木学会東北支部技術研究発表会	気液温度差を利用した風波発生機構に関する水理実験	小笠原 敏記	2018/3/3	日本大学	土木学会		
土木学会東北支部技術研究発表会	陸上遡上津波下における自動車群の漂流挙動に関する水理実験	小笠原 敏記	2018/3/3	日本大学	土木学会		
土木学会東北支部技術研究発表会	臨時的 MPS による建物に及ぼす陸上遡上津波波圧に関する数値シミュレーション	小笠原 敏記	2018/3/3	日本大学	土木学会		
土木学会東北支部技術研究発表会	臨時的 MPS による建物に及ぼす陸上遡上津波波圧に関する数値シミュレーション	小笠原 敏記	2018/3/3	日本大学	土木学会		
Iwate Conference	Global Conference on the International Network of Disaster Studies in Iwate	小笠原 敏記	2018/7/17 2018/7/19	アイーナ	Global Conference on the International Network of Disaster Studies in Iwate		
Iwate Conference	Hydraulic experiment on drifting automobile group affected by tsunami	小笠原 敏記	2018/7/17 2018/7/19	アイーナ	Global Conference on the International Network of Disaster Studies in Iwate		
岩手ネットワークシステム地盤と防災研究会「近年の内陸地震にみる地震防災上の課題ー平成28年熊本地震を例にー」	講演会の開催、運営	山本 英和	2018/5/19	岩手大学理工学部テクノホール	岩手ネットワークシステム地盤と防災研究会	研究会会員、一般市民、学生	約 150 名
岩手ネットワークシステム地盤と防災研究会	講演会の開催、運営	山本 英和	2018/11/24	岩手大学理工学部テクノホール	岩手ネットワークシステム地盤と防災研究会	研究会会員、一般市民	約 100 名
盛岡市地域防災リーダー養成講座	地震のしくみ	山本 英和	2018/10/12	盛岡中央消防署6階第2会議室	盛岡市	一般市民	約 100 名
岩大 x 上田中 がんちゃん Jr. 防災リーダー養成講座 2018	防災の講義 地震災害に備える	山本 英和	2018/9/3	岩手大学教育学部北桐ホール	岩手大学、上田中学校	上田中学校1年生	約 120 名
平成 30 年度第 1 回東北地方太平洋沖の地震活動に関する研究委員会	福島県の広帯域リニアアレイで観測された常時微動の地震波干渉法解析	山本 英和	2018/9/25	如水会館	(公財) 地震予知総合研究振興会	研究委員	約 30 名
The 13th SEGJ International Symposium	Evaluation of site amplification factors in central area of Morioka City by microtremor array technique with a portable array-data acquisition system	山本 英和	2018/11/12	National Olympics Memorial Youth Center	公益社団法人物理探査学会	研究者	約 200 名

講演会等の名称	講演題目	氏名	実施日 (複数回の場合は期間)	実施場所	主催機関	対象	備考 (参加者数など)
The 13th SEGJ International Symposium	Chain array analysis and seismic interferometry analysis on microtremors -11:30 observed with a double linear seismometer array in Inzai City, Chiba Prefecture	山本 英和	2018/11/13	National Olympics Memorial Youth Center	公益社団法人物理探査学会	研究者	約 200 名
東北地域災害科学研究集会	福島県の広帯域リニアアレイで観測された常時微動の地震波干渉法解析ー南北測線における解析ー	山本 英和	2018/12/23	秋田大学理工学部	自然災害研究協議会東北地区部会、日本自然災害学会東北支部	研究者	約 100 名
東北地域災害科学研究集会	岩手大学で観測された短周期微動の地震波干渉法解析による群速度の推定	山本 英和	2018/12/23	秋田大学理工学部	自然災害研究協議会東北地区部会、日本自然災害学会東北支部	研究者	約 100 名
東北地域災害科学研究集会	微動アレイ探索による盛岡市域における S 波速度構造の推定ー稠密極小アレイ観測と大規模アレイ観測ー	山本 英和	2018/12/23	秋田大学理工学部	自然災害研究協議会東北地区部会、日本自然災害学会東北支部	研究者	約 100 名
防災リーダー育成講座	テーマ別講習「地震」	山本 英和	2018/8/25	岩手大学	岩手大学	受講生	約 15 名
地域を支える「エコリーダー」、「防災リーダー」育成プログラム	地学、火山、視察研修、危機管理講座実習ほか	鴨志田 直人	2018/5/26 2018/12/15	岩手大学ほか	岩手大学	一般市民	リーダー育成コース 15 名
がんちゃん Jr. 防災リーダー養成講座	そのとき、どうする?(1年生)、大雨、洪水ワークショップ(2年生)、DIG(3年生)	鴨志田 直人	2018/9/3 2018/9/14	岩手大学	岩手大学地域防災研究センター、岩手大学教育学部、教職大学院、盛岡市立上田中学校	盛岡市立上田中学校	約 400 名
東北支部技術研究発表会	北上川上流の河川内に堆積する流木の特徴	松林 由里子	2019/3/2	東北大学(川内北キャンパス)	土木学会東北支部	研究者、学生	
東北支部技術研究発表会	北上川水系高下川の流木堆積分布の特徴	松林 由里子	2019/3/2	東北大学(川内北キャンパス)	土木学会東北支部	研究者、学生	
東北支部技術研究発表会	水中浸漬による流木の比重変化	松林 由里子	2019/3/2	東北大学(川内北キャンパス)	土木学会東北支部	研究者、学生	
科学談話会	西日本豪雨災害による洪水被害について	松林 由里子	2018/12/21	市立図書館	盛岡市	一般市民	約 10 名
(公社) 砂防学会研究発表会	2008 年岩手、宮城内陸地震後に発生した斜面変動の分析	井良沢 道也	2018/5/16		(公社) 砂防学会		
同 上	歴史的砂防施設の利活用の現状と課題について	井良沢 道也	同 上		同 上		
(公社) 日本地すべり学会研究発表会	鎌倉沢川歴史的砂防施設の建設経緯と保存、活用の現状について	井良沢 道也	2018/8/21		(公社) 日本地すべり学会		
同 上	地区防災計画制度の普及による地域防災力の向上を目指して	井良沢 道也	同 上		同 上		
日本雷水学会北信越支部研究発表会	秋田県湯沢市泥湯温泉で 2018 年 2 月 13 日に発生した雷崩の調査(速報)	井良沢 道也	2018/6/2		日本雷水学会北信越支部		
岩手県平成 30 年度土砂災害防止研修会	岩手県における土砂災害の減災に向けて	井良沢 道也	2018/6/6	盛岡市	岩手県	教職員、一般市民	
砂防学会 土砂災害に備える地区防災計画研究会	地区防災計画制度の課題	井良沢 道也	2018/7/26	東京都千代田区名古屋大学東京分室	砂防学会	一般市民	
仙台市講演会	住民と共に歩む減災の取り組み	井良沢 道也	2018/10/19	仙台市		建設関係技術者	
横浜市講演会	住民と共に歩む減災の取り組み	井良沢 道也	2018/11/29	横浜市		建設関係技術者	
盛岡市講演会	住民と共に歩む減災の取り組み	井良沢 道也	2018/12/21	盛岡市		建設関係技術者	
岩手県民協働成果報告会	地区防災計画制度の課題	井良沢 道也	2018/2/8	盛岡市	岩手県	一般市民	
地域防災リーダー育成	斜面災害	井良沢 道也	2018/7/7	岩手大学	岩手大学地域防災研究センター	受講生	
防災の集い	最近の岩手県内外で発生した土砂災害から学ぶこと	井良沢 道也	2019/3/17	遠野市	遠野市	一般市民	
東北地理学会	釜石市唐丹町本郷における昭和津波による家屋流失後の居住地形成過程について	熊谷 誠	2018/5/19	東北大学	東北地理学会	教職員、院生	
東北水工会	釜石市唐丹町における津波後の集落変遷についてー居住地形成となりわいの移り変わりー	熊谷 誠	2018/6/9	岩手大学理工学部総合教育研究棟(環境系)	岩手大学	教職員、院生、一般	15 名
国際防災、危機管理研究会議 岩手会議	Resettlement process of households after the Showa Sanriku Tsunami at Hongo, Touni-cho, Kamaishi City	熊谷 誠	2018/7/17 2018/7/18	岩手県民情報交流センターアイーナ	INDS	教職員、院生	
北日本漁業経済学会	東日本大震災後の漁業者数の推移に関する考察ー岩手県沿岸部の漁港地域を事例としてー	熊谷 誠	2018/10/10	札幌市かでの	北日本漁業経済学会	教職員、院生	約 30 名
東北地域災害科学研究集会	災害伝承碑のデジタルアーカイブ化に関する取り組みと活用手法の提案ー伊豆半島における取り組みを通じてー	熊谷 誠	2018/12/22	秋田大学	自然災害研究協議会東北地区部会	教職員、院生	
第 4 回災害文化研究会	伊豆半島における災害伝承碑のデジタルアーカイブ化に関する研究	熊谷 誠	2019/2/14 2019/2/15	岩手大学一祐会館	災害文化研究会	教職員、院生、一般	約 30 名
国際防災、危機管理研究会 岩手会議	ATTITUDE AND BEHAVIOR FOR EVACUATION IN A TSUNAMI PRONE AREA -THE CASE OF TAROU AREA, JAPAN -	谷本 真佑	2018/7/17 2018/7/19	岩手県未妊情報交流センター、アイーナ	岩手大学ほか	研究者、一般市民	ポスター発表
釜石市立鶴住居小学校、釜石東中学校職員研修会	児童生徒が主体的に学び行動する防災学習のあり方ー小中学校と地域が連携した防災教育を通してー	森本 晋也	2018/4/4	釜石市立鶴住居小学校、釜石東中学校	釜石市立鶴住居小学校、釜石東中学校	教職員	
福岡県立学校等安全指導法研修会	震災を生き抜いた子どもたちに学ぶ防災教育	森本 晋也	2018/4/24	福岡県立スポーツ科学情報センター	福岡県教育委員会	教職員	
全国都市教育長協議会一関大会、防災教育特別研修	震災を生き抜いた子どもたちに学ぶ防災教育	森本 晋也	2018/5/19	キャピタルホテル 1000	全国都市教育長協議会	教育長	
大分県「防災教育コーディネーター研修会」	震災を生き抜いた生徒たちに学ぶこれからの防災教育	森本 晋也	2018/5/25	大分県庁本館2階正庁ホール	大分県教育委員会	県立学校教職員	

講演会等の名称	講演題目	氏名	実施日 (複数回の場合は期間)	実施場所	主催機関	対象	備考 (参加者数など)
岩手県教育行政連絡会	これからの岩手を担う人づくりー「いわたの復興教育」・防災教育の推進ー	森本 晋也	2018/6/2	サンセール盛岡	岩手県教育行政連絡会	教育委員会事務局職員他	
岩手県防災教育研修会	台風第10号の教訓を踏まえた学校版タイムラインの作成について	森本 晋也	2018/6/12	サンセール盛岡	岩手県教育委員会	教職員、市町村防災担当職員、教育委員会事務局職員	盛岡地方気象台職員と講義
茨城県防災教育指導者研修会	これからの防災教育の在り方ー災害を生き抜いた子供たちに学ぶー	森本 晋也	2018/6/27	茨城県立県民文化センター	茨城県教育委員会	教職員	
学校安全指導者養成研修		森本 晋也	2018/7/9 2018/7/14	つくば中央教員研修センター	教職員支援機構	教職員、指導主事	講義、演習、助言等
東京都合同防災キャンプ	被害想定とハザードマップー震災を生き抜いた子どもたちに学ぶー	森本 晋也	2018/7/16 8/23	東京都庁	東京都教育委員会	高校生、教員	8月23日は、釜石市鶴住居地区での現地での研修
綾瀬市教育委員会防災研修会	次期学習指導要領と防災教育についてー震災を生き抜いた子どもたちに学ぶー	森本 晋也	2018/7/26	綾瀬市庁	綾瀬市教育委員会	教職員	
鹿児島県学校安全教室(防災教室)	東日本大震災を振り返ってーそこから学ぶ防災教育の在り方ー	森本 晋也	2018/8/9	屋久島町屋久島開港総合センター	鹿児島県教育委員会	教職員	
岡山県防災教育講習会	講演「震災を生き抜いた子どもたちに学ぶこれからの防災教育」、演習「大型台風、大雨そのとき、どうする?」	森本 晋也	2018/8/27	岡山県分庁舎	岡山県教育委員会	教職員	
秋田県災害安全指導者研修会	震災を生き抜いた子どもたちに学ぶこれからの防災教育	森本 晋也	2018/9/6	秋田県生涯学習センター	秋田県教育委員会	教職員	
日本安全教育学会横浜大会一般口演	台風災害への学校対応と「学校版タイムライン」作成についてー2016年台風10号災害を教訓としてー	森本 晋也	2018/9/8	國學院大学横浜たまプラーザキャンパス	日本安全教育学会	学会員他	森本 晋也、菊池 義浩、舘田 仁にて発表
釜石市立釜石東中学校防災学習会	当時の中学生に話を聞き、自分たちの防災の学習や活動に生かそう	森本 晋也	2018/9/12	釜石市立釜石東中学校	釜石市立釜石東中学校	全校生徒	
第42回岩手県中学校進路指導研究大会	郷土の復興、発展を支える人づくりを目指して	森本 晋也	2018/10/26	盛岡市立大宮中学校	岩手県進路指導研究会	教職員	
岩手県小学校校長会、東日本大震災対策特別委員会	震災を生き抜いた子どもたちに学ぶ	森本 晋也	2018/11/12	盛岡市勤労福祉会館	岩手県小学校校長会	管理職	
本宮小学校「本宮の教育を語る会」	災害からみんなの命を守るために	森本 晋也	2018/11/12	盛岡市立本宮小学校	盛岡市立本宮小学校	児童、保護者、地域住民	講話及び助言
嘸鳴協議会、研修	震災を生き抜いた子どもたちに学ぶこれからの教育	森本 晋也	2018/11/17	釜石市民会館	嘸鳴協議会	首長、教育長	
岩手大学三陸復興・地域創生推進機構 首都圏向け報告会	災害を教訓とした防災教育教材の開発と学校版タイムラインづくり	森本 晋也	2018/12/2	日比谷図書文化会館 日比谷コンベンションホール	岩手大学三陸復興・地域創生推進機構	一般	
平成30年度都立高校防災サミット、合同防災キャンプ報告会	避難所運営について考える	森本 晋也	2018/12/22	御茶ノ水ソラシティ	東京都教育委員会	高校生、教職員	
滋賀県学校(園)防災教育コーディネーター講習会	カリキュラムマネジメントによる防災教育の推進ー岩手県、釜石東中の事例を通してー	森本 晋也	2019/1/22	栗東文化芸術会館さきら	滋賀県教育委員会	教職員	
大阪府学校安全総合支援事業「防災教育関連事業」成果発表会	震災を生き抜いた子どもたちに学ぶこれからの防災教育	森本 晋也	2019/1/23	ホテルプリムローズ大阪	大阪府教育委員会	教職員	
いわたの復興教育・防災教育実践研修講座	復興教育・防災教育 カリキュラム検討の視点	田代 高章	2018/6/4	岩手県立総合センター(花巻市)	岩手県	岩手県小中学校教員	参加人数:約80名

ものづくり技術教育研究部門▼

トライボロジー会議 2018	合成潤滑油のトライボケミカル分解に対する表面粗さの影響		2018/11/9	伊勢市観光文化会館	日本トライボロジー学会	学会参加者	
トライボロジー会議 2018	ピアンシステムを用いたスキューネスとトルシスの算出法に関する研究		2018/11/8	伊勢市観光文化会館	日本トライボロジー学会	学会参加者	
トライボロジー会議 2018	黒染め層の機械的特性評価		2018/11/7	伊勢市観光文化会館	日本トライボロジー学会	学会参加者	
日本鑄造工学会第171回全国講演大会	片状黒鉛鑄鉄の材質に及ぼすMn,S添加の影響		2018/5/19	神戸国際会議場	日本鑄造工学会	学会参加者	約450名
日本鑄造工学会第171回全国講演大会	高Mn片状黒鉛鑄鉄の組織と機械的性質に及ぼすCu添加の影響		2018/5/19	神戸国際会議場	日本鑄造工学会	学会参加者	約450名
日本鑄造工学会第171回全国講演大会	球状黒鉛鑄鉄の熱疲労特性に及ぼすSi,Crの影響		2018/5/19	神戸国際会議場	日本鑄造工学会	学会参加者	約450名
日本鑄造工学会第171回全国講演大会	球状黒鉛鑄鉄の固溶強化に及ぼすMnとSi含有量の影響		2018/5/20	神戸国際会議場	日本鑄造工学会	学会参加者	約450名
日本鑄造工学会第172回全国講演大会	球状黒鉛鑄鉄の高温酸化特性に及ぼすCr,Ni添加の影響		2018/10/13	石川県地場産業振興センター	日本鑄造工学会	学会参加者	約450名
日本鑄造工学会第172回全国講演大会	球状黒鉛鑄鉄の材質に及ぼす各種剤の種類と添加時期の影響		2018/10/13	石川県地場産業振興センター	日本鑄造工学会	学会参加者	約450名
日本鑄造工学会第172回全国講演大会	ブリケットを用いたキュボラ溶解における窒素の影響		2018/10/14	石川県地場産業振興センター	日本鑄造工学会	学会参加者	約450名
第30回溶接、接合研究会	純CuとFe合金の拡散接合に及ぼすFe合		2018/7/20	酒田産業会館	溶接学会東北支部	溶接学会会員	約40名
溶接学会平成30年度秋季全国大会	純CuとFe合金の拡散接合に及ぼすFe合金の結晶構造の影響		2018/9/12	愛媛大学	溶接学会	溶接学会会員	約570名
第98回鑄造技術部会	過共晶Al-Si系合金の初晶Siの形態に及ぼすSiC添加の影響		2019/2/22	ホテル辰巳屋	日本鑄造工学会東北支部	鑄造工学会会員	29名
溶接学会春季全国大会	多点ショットピーニングシミュレーションの定量化に関する検討		2018/4/24 2018/4/26	学術総合センター	溶接学会	学会参加者	約50名
材料学会X線シンポジウム	原子炉冷却配管における溶接、ピーニングから実働状態までの全工程残留応力挙動評価ー中性子応力測定と理想化解析法 FEM 解析ー		2018/7	エル、おおさか	材料学会	学会参加者	約30名
溶接学会東北支部溶接、接合研究会	改良9Cr-1Mo鋼溶接継手のクリープ破断強度に及ぼすPWHT条件の影響		2018/7/20	酒田産業会館	溶接学会東北支部	学会参加者	約50名

講演会等の名称	講演題目	氏名	実施日 (複数回の場合は期間)	実施場所	主催機関	対象	備考 (参加者数など)
次世代溶接、接合技術セミナー	特殊鋼溶接部の損傷とその予防ー発電用機器における研究開発事例ー		2018/9/21	岩手県工業技術センター	岩手県工業技術センター	一般	約40名
4th International Conference on Maintenance Science and Technology	Development of FEM analysis method for prediction of the long-term sustainability of compressive residual stress by shot peening		2018/10/23 2018/10/25	東北大学	日本保全学会	学会参加者	約100名
4th International Conference on Maintenance Science and Technology	Numerical Investigation on Persistence of Modified Residual Stresses Due to Shot Peening		2018/10/23 2018/10/25	東北大学	日本保全学会	学会参加者	約100名
日本鑄造工学会東北支部鑄造技術部会	過共晶Al-Si系合金の初晶Siの形態に及ぼすSiC添加の影響		2019/2/22	ホテル辰巳屋	日本鑄造工学会東北支部	学会参加者	約30名
第162回破壊力学部門委員会	磁気計測による鉄系機器構造材料の材質評価の試み		2018/9/5	岩手大学	日本材料学会	学会会員	20名
第27回MAGDAコンファレンス	磁気ヒステリシス特性に着目した自動車用ダイクエッチ製品の曲面部の材質評価法の検討		2018/10/21	東京理科大	日本AEM学会	学会会員	約200名
2018年日本ゴム協会年次大会	天然ゴムとCuSn合金の加硫接着に及ぼす表面処理の影響		2018/5/30 2018/6/1	埼玉会館	日本ゴム協会	会員、一般	
2018年日本ゴム協会年次大会	AFM-nanoIRによる樹脂とエラストマーの架橋 接着界面の局所分析		2018/5/30 2018/6/1	埼玉会館	日本ゴム協会	会員、一般	
プラスチック成形加工学会第29回(平成30年度)年次大会講演	射出成形による熱可塑性樹脂と金属の接着に関する研究		2018/6/21 2018/6/22	タワーホール船橋 東京	プラスチック成形加工学会	会員、一般	
第62回粘土科学討論会	天然ゴム/シランカップリング剤修飾層状複水酸化物複合体の合成とその特性		2018/9/10 2018/9/11	早稲田大学 西早稲田(理工)キャンパス	日本粘土学会	会員、一般	
日本化学会東北支部平成30年度化学系学協会	天然ゴムとCuSn合金の直接加硫接着に関する研究		2018/9/15 2018/9/16	秋田大学	日本化学会東北支部	会員、一般	
日本化学会東北支部平成30年度化学系学協会	Intercalation behavior of methotrexate into Mg-Al layered double hydroxide		2018/9/15 2018/9/16	秋田大学	日本化学会東北支部	会員、一般	
日本化学会東北支部平成30年度化学系学協会	Study on adhesion between polyamide resin and different materials using injection molding		2018/9/15 2018/9/16	秋田大学	日本化学会東北支部	会員、一般	
日本化学会東北支部平成30年度化学系学協会	Study on synthesis and characterization of silane coupling modifiedMg-Al layered double hydroxide / natural rubber composite		2018/9/15 2018/9/16	秋田大学	日本化学会東北支部	会員、一般	
2018高分子学会東北支部研究発表会	射出成形によるポリアミド樹脂と異種材料の接着に関する研究		2018/11/15 2018/11/16	岩手大学理工学部復興祈念銀河ホール	高分子学会東北支部	会員、一般	
2018高分子学会東北支部研究発表会	アクリル樹脂の表面改質とその表面解析		2018/11/15 2018/11/16	岩手大学理工学部復興祈念銀河ホール	高分子学会東北支部	会員、一般	
2018高分子学会東北支部研究発表会	天然ゴム/シランカップリング剤修飾層状複水酸化物複合体の合成		2018/11/15 2018/11/16	岩手大学理工学部復興祈念銀河ホール	高分子学会東北支部	会員、一般	
2018高分子学会東北支部研究発表会	天然ゴムと銅スズ合金の複合化に関する研究		2018/11/15 2018/11/16	岩手大学理工学部復興祈念銀河ホール	高分子学会東北支部	会員、一般	
第67回高分子学会年次大会	トリアジン系活性エステルを用いる含フッ素芳香族ポリベンゾイミダゾールの合成		2018/5/23 2018/5/25	名古屋国際会議場	高分子学会	会員、一般	
第67回高分子学会年次大会	高溶解性熱硬化型トリアジン含有イミドオリゴマーからの熱硬化ポリイミドの合成と特性		2018/5/23 2018/5/25	名古屋国際会議場	高分子学会	会員、一般	
第67回高分子学会年次大会	環状グアナム含有ポリグアナムの合成と特性		2018/5/23 2018/5/25	名古屋国際会議場	高分子学会	会員、一般	
第35回国際フォトポリマーコンファレンス	高屈折率を有する熱可塑性ポリチオシアレート合成と特性		2018/6/25 2018/6/28	幕張メッセ国際会議場	フォトポリマー学会	会員、一般	
第35回国際フォトポリマーコンファレンス	含フッ素芳香族ポリベンゾオキサゾールフィルムの作製と特性		2018/6/25 2018/6/28	幕張メッセ国際会議場	フォトポリマー学会	会員、一般	
平成30年度化学系学協会東北大会	Synthesis and properties of aromatic polybenzimidazole using triazine-based active diesters		2018/9/15 2018/9/16	秋田大学	日本化学会東北支部	会員、一般	
平成30年度化学系学協会東北大会	Preparation and properties of cured polyimides from highly-soluble triazine-based thermosetting imide oligomers		2018/9/15 2018/9/16	秋田大学	日本化学会東北支部	会員、一般	
第26回日本ポリイミド、芳香族系高分子会議	高溶解性熱硬化型トリアジン含有イミドオリゴマーからの熱硬化ポリイミドの合成と特性		2018/10/13	東邦大学習志野キャンパス		会員、一般	
第26回日本ポリイミド、芳香族系高分子会議	可溶性前駆体を經由する芳香族ポリベンゾイミダゾールの合成		2018/10/13	東邦大学習志野キャンパス		会員、一般	
2018高分子学会東北支部研究発表会	ポリグアナムの合成と熱伝導性複合材料への応用		2018/11/15- 2018/11/16	岩手大学理工学部	高分子学会東北支部	会員、一般	
2018高分子学会東北支部研究発表会	高屈折率を有する熱可塑性ポリチオシアレート合成と特性		2018/11/15- 2018/11/16	岩手大学理工学部	高分子学会東北支部	会員、一般	
化学系学協会東北大会	液晶性 Ph-BTBT-10 薄膜の構造評価		2018/9/15- 2018/9/16	秋田大学	日本化学会東北支部	会員、一般	
化学系学協会東北大会	ポルフィリン(2.1.2.1)ナノペルトの合成と物性		2018/9/15- 2018/9/16	秋田大学	日本化学会東北支部	会員、一般	
化学系学協会東北大会	PDI二量体の合成と有機薄膜太陽電池への応用		2018/9/15- 2018/9/16	秋田大学	日本化学会東北支部	会員、一般	
化学系学協会東北大会	mica 基板上のPTCDA 薄膜の構造解析		2018/9/15 2018/9/16	秋田大学	日本化学会東北支部	会員、一般	
第79回応用物理学会秋季学術講演会	mica 基板上のPTCDA 薄膜の構造解析		2018/9/18 2018/9/21	名古屋国際会議場	応用物理学会	会員、一般	

講演会等の名称	講演題目	氏名	実施日 (複数回の場合は期間)	実施場所	主催機関	対象	備考 (参加者数など)
第47回結晶成長国内会議 (JCCG-47)	エピタキシャル成長によるPTCDAの配向制御		2018/10/31 2018/11/2	仙台市戦災復興記念館	日本結晶成長学会	会員、一般	
第47回結晶成長国内会議 (JCCG-47)	液晶性 Ph-BTBT-10 薄膜構造の温度依存性		2018/10/31 2018/11/2	仙台市戦災復興記念館	日本結晶成長学会	会員、一般	
第17回日本金属学会東北支部研究発表大会	液晶性 Ph-BTBT-10 薄膜構造の温度依存性		2018/11/12	岩手大学復興祈念銀河ホール	日本金属学会東北支部	会員、一般	
第17回日本金属学会東北支部研究発表大会	チョコレート用油脂の材料組織の研究		2018/11/12	岩手大学復興祈念銀河ホール	日本金属学会東北支部	会員、一般	
第17回日本金属学会東北支部研究発表大会	非フラーレン n 型材料の合成と有機薄膜太陽電池への応用		2018/11/12	岩手大学復興祈念銀河ホール	日本金属学会東北支部	会員、一般	
第17回日本金属学会東北支部研究発表大会	テトラアルコキシケレンの合成		2018/11/12	岩手大学復興祈念銀河ホール	日本金属学会東北支部	会員、一般	
第17回日本金属学会東北支部研究発表大会	PTCDA エピタキシャル膜の構造解析		2018/11/12	岩手大学復興祈念銀河ホール	日本金属学会東北支部	会員、一般	
第17回日本金属学会東北支部研究発表大会	放射光 X 線回折による有機半導体薄膜形成過程の構造評価		2018/11/12	岩手大学復興祈念銀河ホール	日本金属学会東北支部	会員、一般	
第一回次世代放射光が拓くイノベーション	有機半導体薄膜材料開発からの期待		2018/12/26	東北大学 青葉山新キャンパス 災害科学国際研究所	東北大学次世代放射光施設利用推進委員会	会員、一般	
第66回応用物理学会春季学術講演会	チョコレート用油脂の材料組織の研究		2019/3/9 2019/3/12	東京工業大学	応用物理学会	会員、一般	
第66回応用物理学会春季学術講演会	2D-GIXD によるエピタキシャル薄膜の構造評価		2019/3/9 2019/3/12	東京工業大学	応用物理学会	会員、一般	
第66回応用物理学会春季学術講演会	非対称側鎖を有するオリゴチオフェンの結晶構造		2019/3/9 2019/3/12	東京工業大学	応用物理学会	会員、一般	
日本化学会第99春季年会	分子内環化反応を用いたペンタフェン誘導体の合成		2019/3/16 2019/3/19	甲南大学岡本キャンパス	日本化学会	会員、一般	
日本化学会第99春季年会	光縮環反応を用いたベリレンジミド誘導体薄膜の作製		2019/3/16 2019/3/19	甲南大学岡本キャンパス	日本化学会	会員、一般	
IMBL2018	Characterization of RF-Sputtered LiCoO ₂ Thin Films Deposited on 30 μm SUS304 Foils for Application in Flexible Thin Film Rechargeable Batteries		2018/6/17 2018/6/22	Kyoto International Conference Center		会員、一般	
応用物理学会東北支部第73回学術講演会	窒化した五酸化ニオブ薄膜の製作及び薄膜二次電池への応用		2018/12/6 2018/12/7	東北大学	応用物理学会東北支部	会員、一般	
第24回 関西地区分離技術見学討論会	晶析技術を用いた有機結晶の形態、構造制御		2018/7/30 2018/7/31	塩野義製薬 金ヶ崎工場	分離技術会	会員、一般	
13th International Workshop on Crystal Growth of Organic Materials	Morphology and Structure Control of Organic Cocrystals		2018/8/27 2018/8/30	Korea University, Korea		会員、一般	
平成30年度化学系学会東北大会	Crystal growth behaviors and morphology of L-phenylalanine		2018/9/15 2018/9/16	秋田大学	日本化学会東北支部	会員、一般	
平成30年度化学系学会東北大会	Crystal growth of L-Valine in the presence of quaternary ammonium cations		2018/9/15 2018/9/16	秋田大学	日本化学会東北支部	会員、一般	
平成30年度化学系学会東北大会	Effect of operating conditions on morphology and structure of protein crystal		2018/9/15 2018/9/16	秋田大学	日本化学会東北支部	会員、一般	
第68回日本粉体工業技術協会	結晶の形態、構造、そして、成長		2019/1/30 2019/1/31	同志社大学東京サテライトキャンパス	第68回日本粉体工業技術協会	会員、一般	
平成30年度化学系学会東北大会	Synthesis and Electrochemical and Optical Properties of Porphyrazine Derivatives with Diphenylphosphine Groups		2018/9/15 2018/9/16	秋田大学	日本化学会東北支部	会員、一般	
第45回有機典型元素科学討論会	ビリジリチオ基を有するα-アルコキシフタロシアニンの合成とその性質		2018/12/13 2018/12/15	朱鷺メッセ：新潟コンベンションセンター	第45回有機典型元素科学討論会実行委員会	会員、一般	
日本化学会第99春季年会	ビリジリチオ基を有するα-アルコキシフタロシアニン誘導体の合成とその光学的性質		2019/3/16 2019/3/19	甲南大学岡本キャンパス	日本化学会	会員、一般	
日本化学会第99春季年会	ベンゾジカルコゲネット誘導体の合成とその反応		2019/3/16 2019/3/19	甲南大学岡本キャンパス	日本化学会	会員、一般	
The 15th International Symposium on Inorganic Ring Systems	Synthesis and ICT-based sensing properties of 1,3,5-triazine-coated star-shaped [D-π]3-A molecules with various amino-type donor receptors		2018/6/24 2018/6/29	Uji, Kyoto, Japan		会員、一般	
28th International Symposium on the Organic Chemistry of sulfur	Synthesis and Characterization of Tetrathienylethylene Derivatives Functionalized with Aryl Groups		2018/6/26 2018/6/31	Tokyo Institute of Technology		会員、一般	
28th International Symposium on the Organic Chemistry of sulfur	Systematic Synthesis of Star-shaped D-π-A Molecules with a Different Nitrogen-containing Heteroaromatic Core and Comparative Studies of Their Optical and ICT-based Sensing Properties		2018/6/26 2018/6/31	Tokyo Institute of Technology		会員、一般	
第29回基礎有機化学討論会	ピラジンをコアに有するD-π-A分子の合成及び物性		2018/9/6 2018/9/8	東京工業大学 大岡山キャンパス	基礎有機化学会	会員、一般	
第29回基礎有機化学討論会	光反応性窒素官能基を有するシラン末端トリアジン誘導体の合成と分子接合剤としての応用		2018/9/6 2018/9/8	東京工業大学 大岡山キャンパス	基礎有機化学会	会員、一般	

講演会等の名称	講演題目	氏名	実施日 (複数回の場合は期間)	実施場所	主催機関	対象	備考 (参加者数など)
平成30年度化学系学会東北大会	Synthesis and Characterization of Star-shaped Molecules with a Silole Core and Aryl-functionalized Thiophene Side Chains		2018/9/15 2018/9/16	秋田大学	日本化学会東北支部	会員、一般	
平成30年度化学系学会東北大会	Synthesis and polymer properties of poly(arylene sulfide) containing biphenyl units		2018/9/15 2018/9/16	秋田大学	日本化学会東北支部	会員、一般	
平成30年度化学系学会東北大会	Synthesis and characterization of aryl-functionalized 2,4-bis(dimethylamino)-6-(3-hydroxy-2-thienyl)-1,3,5-triazines and their methoxy analogues		2018/9/15 2018/9/16	秋田大学	日本化学会東北支部	会員、一般	
第35回有機合成化学セミナー	アミノ基含有イオン認識部位を有する星型トリアジン誘導体の合成と蛍光センシング特性		2018/9/18 2018/9/20	ほほえみの宿 滝の湯 (山形)	有機合成化学協会	会員、一般	
第33回有機合成化学若手研究者の仙台セミナー	凝集誘起発光を示す1,1,2,2-テトラキス(5-アリール-2-チエニル)エチレン誘導体の合成		2018/11/10	東北大学	有機合成化学協会東北支部	会員、一般	
第45回有機典型元素科学討論会	アリール基で機能化したテトラチエニルエチレン誘導体の合成、構造及び物性		2018/12/13 2018/12/15	朱鷺メッセ：新潟コンベンションセンター	第45回有機典型元素科学討論会実行委員会	会員、一般	
日本化学会第99春季年会	アリール基で機能化したフェンを側鎖に有するシロール中心星型分子の合成と物性		2019/3/16 2019/3/19	甲南大学岡本キャンパス	日本化学会	会員、一般	
日本化学会第99春季年会	アリール基で機能化した2,4-ビス(ジメチルアミノ)-6-(3-ヒドロキシ-2-チエニル)-1,3,5-トリアジンとそのメトキシ誘導体の合成と物性		2019/3/16 2019/3/19	甲南大学岡本キャンパス	日本化学会	会員、一般	
日本化学会第99春季年会	アリール基で機能化したテトラチエニルエチレン誘導体の合成、構造及び物性		2019/3/16 2019/3/19	甲南大学岡本キャンパス	日本化学会	会員、一般	
第115回有機合成シンポジウム	ピラジンをコアに有するD-π-A分子の合成と物性		2019/6/3 2019/6/4	東北大学 青葉山コモンズ	有機合成化学協会	会員、一般	
2018年度春季(第96回)低温工学、超電導学会	スプリットコイルを用いたパルス着磁における異なる径のGdBaCuOバルクの捕捉磁場特性		2018/5/28 2018/5/30	タワーホール船堀	低温工学、超電導学会	会員、一般	
2018年度春季(第96回)低温工学、超電導学会	浸透法におけるMgB2生成に対するB粉末の微細化効果		2018/5/28 2018/5/30	タワーホール船堀	低温工学、超電導学会	会員、一般	
2018年度春季(第96回)低温工学、超電導学会	着磁磁場より大きな磁場を持続的に発生できるハイブリッド型超電導バルク磁石		2018/5/28 2018/5/30	タワーホール船堀	低温工学、超電導学会	会員、一般	
東北、北海道支部研究会 / 第3回材料研究会シンポジウム	超電導バルクの強磁場着磁における応力解析と補強の最適化		2018/8/7 2018/8/8	繁温泉ホテル大観	低温工学、超電導学会	会員、一般	
2018 Applied Superconductivity Conference	Flux dynamics and thermal behavior of a Gd-Ba-Cu-O bulk magnetized by single- and multi-pulse techniques using split-type coil		2018/10/28 2018/11/2	Seattle, WA, USA		会員、一般	
2018 Applied Superconductivity Conference	Influence of interface tribology of REBaCuO bulk and metal ring reinforcement on mechanical stresses during field-cooled magnetization		2018/10/28 2018/11/2	Seattle, WA, USA		会員、一般	
2018 Applied Superconductivity Conference	Trapped field properties of GdBaCuO superconducting bulk with various diameters magnetized by pulsed field using identical split coil		2018/10/28 2018/11/2	Seattle, WA, USA		会員、一般	
2018 Applied Superconductivity Conference	A new concept of a Hybrid Trapped Field Magnet Lens (HTFML)		2018/10/28 2018/11/2	Seattle, WA, USA		会員、一般	
2018 Applied Superconductivity Conference	Design optimization of a hybrid trapped field magnet lens (HTFML)		2018/10/28 2018/11/2	Seattle, WA, USA		会員、一般	
2018 Applied Superconductivity Conference	Field cooled magnetization process in RE-Ba-Cu-O superconducting bulks under high magnetic field up to 21 Tesla		2018/10/28 2018/11/2	Seattle, WA, USA		会員、一般	
第13回磁気科学会、第23回磁場発生分科会	超電導バルク磁石の強磁場発生と補強の重要性		2018/11/14	東北大金研	日本磁気科学会	会員、一般	
2018年度秋季(第97回)低温工学、超電導学会	超電導バルクのパルス着磁における応力解析シミュレーション		2018/11/19 2018/11/21	山形テルサ	低温工学、超電導学会	会員、一般	
2018年度秋季(第97回)低温工学、超電導学会	磁場中冷却着磁におけるREBaCuOディスク及びリングバルクのひずみ測定		2018/11/19 2018/11/21	山形テルサ	低温工学、超電導学会	会員、一般	
2018年度秋季(第97回)低温工学、超電導学会	スプリット型コイルを用いた2段階パルス着磁におけるREBaCuOバルクの捕捉磁場特性		2018/11/19 2018/11/21	山形テルサ	低温工学、超電導学会	会員、一般	
2018年度秋季(第97回)低温工学、超電導学会	カプセル法により作製したFeSe多結晶バルクの超伝導特性		2018/11/19 2018/11/21	山形テルサ	低温工学、超電導学会	会員、一般	
2018年度秋季(第97回)低温工学、超電導学会	浸透法で作製したMgB2バルクの磁束ピン止め特性に対する原料B粉末の微細化効果		2018/11/19 2018/11/21	山形テルサ	低温工学、超電導学会	会員、一般	
International Symposium on Superconductivity 2018 (ISS2018)	Mechanical reinforcement of REBaCuO bulk during magnetizing process to achieve higher trapped field without any fracture		2018/12/12 2018/12/14	Ibaraki, Japan		会員、一般	

講演会等の名称	講演題目	氏名	実施日 (複数回の場合は期間)	実施場所	主催機関	対象	備考 (参加者数など)
International Symposium on Superconductivity 2018 (ISS2018)	A Hybrid Trapped Field Magnet Lens (HTFML): concept and realization		2018/12/12 2018/12/14	Ibaraki, Japan		会員、一般	
International Symposium on Superconductivity 2018 (ISS2018)	Refining effects of B powder on MgB2 formation and vortex pinning properties in infiltration-reaction processed MgB2 bulks		2018/12/12 2018/12/14	Ibaraki, Japan		会員、一般	
第2回 Co 研究会	PrCaCoO3系の金属絶縁体転移の起源に関する XAFS と単結晶薄膜を用いた実験的検討		2019/3/29	東北大学理学部		会員、一般	
計測自動制御学会東北支部第315回研究会	FPGAを用いたアフィン射影型適応デジタルフィルタの高性能アーキテクチャ		2018/5/21	岩手大学	計測自動制御学会東北支部	会員、一般	
情報処理学会東北支部研究会	アフィン射影型デジタルフィルタの高性能実現		2018/12/15	岩手大学	情報処理学会東北支部	会員、一般	
情報処理学会東北支部研究会	混合基数を用いたCORDIC アルゴリズムの高性能実現		2018/12/15	岩手大学	情報処理学会東北支部	会員、一般	
2018 European Conference on Antennas and Propagation	Experimental Evaluation of Localization Accuracy of Multiple Subjects using Multiple Receiving Stations		2018/4/9 2018/4/13	ExCel London ICC Capital Suite and Hall		会員、一般	
信学技報	RSSI Ranging と端末センサ情報を用いた屋内位置推定法の実験的評価		2018/6/21	機械振興会館	電子情報通信学会	会員、一般	
2018 IEEE Symposium on Antennas and Propagation and USNC-URSI Radio Science Meeting	Indoor Localization Method Using Pathloss-Distance Relationship with Handset Sensor Information		2018/7/8 2018/7/13	The Westin Boston Waterfront	IEEE	会員、一般	
信学技報	MIMO アレーを用いた個人識別法		2018/7/18 2018/7/20	北海道大学	電子情報通信学会	会員、一般	
信学技報	複数局協調型 MIMO レーダを用いた生体位置推定精度の評価		2018/7/18 2018/7/20	北海道大学	電子情報通信学会	会員、一般	
信学技報	近接配置した3素子モノポールアンテナの結合低減検討		2018/8/23 2018/8/24	日本工業大学	電子情報通信学会	会員、一般	
2018 IEEE International Workshop on Electromagnetics: Applications and Student Innovation Competition	Human Monitoring Using MIMO Radar		2018/8/29 2018/8/31	Nagoya Institute of Technology	IEEE	会員、一般	
電気関係学会東北支部連合大会	MIMO アレーを用いた生体状態推定法と精度評価		2018/9/6 2018/9/7	岩手大学	電気学会、電子情報通信学会、照明学会、日本音響学会、映像情報メディア学会、情報処理学会、電気設備学会(各東北支部)、IEEE (Sendai Section)	会員、一般	
電気関係学会東北支部連合大会	RSSI 測距法と PDR を組み合わせた屋内位置推定法		2018/9/6 2018/9/7	岩手大学	電気学会、電子情報通信学会、照明学会、日本音響学会、映像情報メディア学会、情報処理学会、電気設備学会(各東北支部)、IEEE (Sendai Section)	会員、一般	
電気関係学会東北支部連合大会	RSSI に基づく DOD と端末センサ情報を用いた屋内位置推定法の実験的評価		2018/9/6 2018/9/7	岩手大学	電気学会、電子情報通信学会、照明学会、日本音響学会、映像情報メディア学会、情報処理学会、電気設備学会(各東北支部)、IEEE (Sendai Section)	会員、一般	
電気関係学会東北支部連合大会	マイクロ波を用いた生体向き推定法の性能評価		2018/9/6 2018/9/7	岩手大学	電気学会、電子情報通信学会、照明学会、日本音響学会、映像情報メディア学会、情報処理学会、電気設備学会(各東北支部)、IEEE (Sendai Section)	会員、一般	
電気関係学会東北支部連合大会	マイクロ波を用いた非接触血圧推定の評価		2018/9/6 2018/9/7	岩手大学	電気学会、電子情報通信学会、照明学会、日本音響学会、映像情報メディア学会、情報処理学会、電気設備学会(各東北支部)、IEEE (Sendai Section)	会員、一般	
電気関係学会東北支部連合大会	両円偏波アナログ OAM 伝送法の回転特性に関する評価		2018/9/6 2018/9/7	岩手大学	電気学会、電子情報通信学会、照明学会、日本音響学会、映像情報メディア学会、情報処理学会、電気設備学会(各東北支部)、IEEE (Sendai Section)	会員、一般	
電気関係学会東北支部連合大会	2素子ダイポールアンテナ等方形励振による相関特性に関する考察		2018/9/6 2018/9/7	岩手大学	電気学会、電子情報通信学会、照明学会、日本音響学会、映像情報メディア学会、情報処理学会、電気設備学会(各東北支部)、IEEE (Sendai Section)	会員、一般	

講演会等の名称	講演題目	氏名	実施日 (複数回の場合は期間)	実施場所	主催機関	対象	備考 (参加者数など)
電子情報通信学会ソサイエティ大会	Multi-User Full-Duplex 通信システムに向けた非線形処理による端末間干渉抑圧法の BER 特性評価		2018/9/11 2018/9/14	金沢大学	電子情報通信学会	会員、一般	
電子情報通信学会ソサイエティ大会	両円偏波アナログ OAM 伝送モード選択による伝送レート改善法		2018/9/11 2018/9/14	金沢大学	電子情報通信学会	会員、一般	
電子情報通信学会ソサイエティ大会	拡張 Wheeler Cap 法による S パラメータを用いた有損失 MIMO アンテナ相関係数の評価法		2018/9/11 2018/9/14	金沢大学	電子情報通信学会	会員、一般	
電子情報通信学会ソサイエティ大会	DOD と端末センサ情報を用いた位置推定法のトラッキング性能評価		2018/9/11 2018/9/14	金沢大学	電子情報通信学会	会員、一般	
電子情報通信学会ソサイエティ大会	前後状態を考慮した MIMO アレーによる生体行動識別法の高精度化		2018/9/11 2018/9/14	金沢大学	電子情報通信学会	会員、一般	
電子情報通信学会ソサイエティ大会	マイクロ波受信電力と収縮期血圧の相関性の評価		2018/9/11 2018/9/14	金沢大学	電子情報通信学会	会員、一般	
電子情報通信学会ソサイエティ大会	OFDM 信号を用いた MIMO レーダによる屋内生体方向推定法		2018/9/11 2018/9/14	金沢大学	電子情報通信学会	会員、一般	
電子情報通信学会ソサイエティ大会	MIMO Full-Duplex エンドファイアアレー用アナログ干渉抑圧回路の評価		2018/9/11 2018/9/14	金沢大学	電子情報通信学会	会員、一般	
信学技報	アレーアンテナを用いた生体向き推定法の評価		2018/9/20 2018/9/21	東京工業大学	電子情報通信学会	会員、一般	
Ninth International Conference on Indoor Positioning and Indoor Navigation	RSS-based DOA / DOD Estimation Using Bluetooth Signal and Its Application for Indoor Tracking		2018/9/24 2018/9/27	Nantes Convention Center		会員、一般	
Ninth International Conference on Indoor Positioning and Indoor Navigation	Evaluating Performance of Human Identification using MIMO Array		2018/9/24 2018/9/27	Nantes Convention Center		会員、一般	
信学技報	MIMO アンテナの相関特性の評価		2018/10/18 2018/10/19	岡山大学	電子情報通信学会	会員、一般	
信学技報	RSSI に基づく DOD 履歴と PDR を用いた端末位置推定法		2018/10/18 2018/10/19	岡山大学	電子情報通信学会	会員、一般	
信学技報	状態遷移を考慮したマイクロ波ヒト行動推定法		2018/10/18 2018/10/19	岡山大学	電子情報通信学会	会員、一般	
2018 International Symposium on Antennas and Propagation	Enabling full-duplex MIMO communication exploiting array antenna arrangement		2018/10/23 2018/10/26	Paradise Hotel Busan		会員、一般	
2018 International Symposium on Antennas and Propagation	Correlation between Microwave and Blood Pressure Response Waveforms		2018/10/23 2018/10/26	Paradise Hotel Busan		会員、一般	
2018 International Symposium on Antennas and Propagation	Compact massive MIMO antenna using cubic arrangement suitable for indoor base station		2018/10/23 2018/10/26	Paradise Hotel Busan		会員、一般	
2018 International Symposium on Antennas and Propagation	Simultaneous Detection of Multiple Targets' Vital Signs Using MIMO Radar		2018/10/23 2018/10/26	Paradise Hotel Busan		会員、一般	
信学技報	Multiuser Full-Duplex MIMO 通信における非線形信号処理を用いた端末間干渉除去法の実験的評価		2018/11/20 2018/11/22	沖縄産業支援センター	電子情報通信学会	会員、一般	
信学技報	立方体配置小形 Massive MIMO アンテナのレイトレース解析		2018/11/20 2018/11/22	沖縄産業支援センター	電子情報通信学会	会員、一般	
信学技報	両円偏波アナログ OAM 伝送法のモード選択による伝送レート向上法の実験的評価		2018/12/6 2018/12/7	奄美市 AiAi ひろば	電子情報通信学会	会員、一般	
AMT 研究会チュートリアル講演	MIMO アンテナの測定		2018/12/6 2018/12/7	奄美市 AiAi ひろば	電子情報通信学会	会員、一般	
電子情報通信学会総大会	Human-Body Localization Using Unsynchronized MIMO Radar		2019/3/19 2019/3/22	早稲田大学	電子情報通信学会	会員、一般	
電子情報通信学会総大会	MIMO-OFDM レーダを用いた生体位置推定精度の評価		2019/3/19 2019/3/22	早稲田大学	電子情報通信学会	会員、一般	
電子情報通信学会総大会	電力伝送における Power Inversion Adaptive Array を用いたヒト照射回避法		2019/3/19 2019/3/22	早稲田大学	電子情報通信学会	会員、一般	
電子情報通信学会総大会	自己干渉除去に適した近距離 Full-Duplex MIMO 用アンテナ配置		2019/3/19 2019/3/22	早稲田大学	電子情報通信学会	会員、一般	
電子情報通信学会総大会	両円偏波アナログ OAM 伝送におけるモード選択効果の測定		2019/3/19 2019/3/22	早稲田大学	電子情報通信学会	会員、一般	
電子情報通信学会総大会	DOD と RSSI Ranging の組み合わせによる屋内位置推定精度向上法		2019/3/19 2019/3/22	早稲田大学	電子情報通信学会	会員、一般	
電子情報通信学会総大会	フレネルゾーンを考慮した圧縮センシングによる対象位置推定		2019/3/19 2019/3/22	早稲田大学	電子情報通信学会	会員、一般	
電子情報通信学会総大会	MIMO アレーを用いた個人識別法の住空間における一検討		2019/3/19 2019/3/22	早稲田大学	電子情報通信学会	会員、一般	
電子情報通信学会総大会	圧縮センシングを用いた複数人数位置推定法		2019/3/19 2019/3/22	早稲田大学	電子情報通信学会	会員、一般	
電子情報通信学会総大会	生体行動識別法の性能評価		2019/3/19 2019/3/22	早稲田大学	電子情報通信学会	会員、一般	
電子情報通信学会総大会	TOF と DOA を組み合わせた屋内位置推定法		2019/3/19 2019/3/22	早稲田大学	電子情報通信学会	会員、一般	
電子情報通信学会総大会	ドローンによる 3次元メッシュネットワークにおける指向性ビーム間干渉の理論解析		2019/3/19 2019/3/22	早稲田大学	電子情報通信学会	会員、一般	

講演会等の名称	講演題目	氏名	実施日 (複数回の場合は期間)	実施場所	主催機関	対象	備考 (参加者数など)
電気関係学会東北支部連合大会	水熱合成法で育成したNドーパZnO単結晶に関する研究		2018/9/6 2018/9/7	岩手大学	電気学会、電子情報通信学会、照明学会、日本音響学会、映像情報メディア学会、情報処理学会、電気設備学会(各東北支部)、IEEE(Sendai Section)	会員、一般	
電気関係学会東北支部連合大会	アセチルアセトン亜鉛を用いた大気圧有機金属化学気相成長法で作製した酸化亜鉛薄膜の紫外光応答特性の改善		2018/9/6 2018/9/7	岩手大学	電気学会、電子情報通信学会、照明学会、日本音響学会、映像情報メディア学会、情報処理学会、電気設備学会(各東北支部)、IEEE(Sendai Section)	会員、一般	
電気関係学会東北支部連合大会	アセチルアセトン亜鉛を用いた大気圧有機金属化学気相成長法で作製した非極性酸化亜鉛薄膜の結晶性評価		2018/9/6 2018/9/7	岩手大学	電気学会、電子情報通信学会、照明学会、日本音響学会、映像情報メディア学会、情報処理学会、電気設備学会(各東北支部)、IEEE(Sendai Section)	会員、一般	
電気関係学会東北支部連合大会	二層構造物質のマイクロ波帯比誘電率、比透磁率評価に関する検討		2018/9/6 2018/9/7	岩手大学	電気学会、電子情報通信学会、照明学会、日本音響学会、映像情報メディア学会、情報処理学会、電気設備学会(各東北支部)、IEEE(Sendai Section)	会員、一般	
電気関係学会東北支部連合大会	光導電型 ZnO-UV センサの応答特性改善		2018/9/6 2018/9/7	岩手大学	電気学会、電子情報通信学会、照明学会、日本音響学会、映像情報メディア学会、情報処理学会、電気設備学会(各東北支部)、IEEE(Sendai Section)	会員、一般	
電気関係学会東北支部連合大会	ソル-ゲル法による YAP:Ce シンチレータの作製		2018/9/6 2018/9/7	岩手大学	電気学会、電子情報通信学会、照明学会、日本音響学会、映像情報メディア学会、情報処理学会、電気設備学会(各東北支部)、IEEE(Sendai Section)	会員、一般	
電気関係学会東北支部連合大会	蔵本モデルを用いた同期温度制御システム		2018/9/6 2018/9/7	岩手大学	電気学会、電子情報通信学会、照明学会、日本音響学会、映像情報メディア学会、情報処理学会、電気設備学会(各東北支部)、IEEE(Sendai Section)	会員、一般	
電気関係学会東北支部連合大会	恒温植物の温度制御モデルに関する研究		2018/9/6 2018/9/7	岩手大学	電気学会、電子情報通信学会、照明学会、日本音響学会、映像情報メディア学会、情報処理学会、電気設備学会(各東北支部)、IEEE(Sendai Section)	会員、一般	
Intermag 2018	Quantitative component selection method using attractor analysis for noise reduction by ICA of magnetocardiogram		2018/4/23 2018/4/27	Singapore	IEEE	会員、一般	
Intermag 2018	Noise Reduction in Magnetocardiograph Based on Time-Shift Principal Component Analysis Using Measurement Data		2018/4/23 2018/4/27	Singapore	IEEE	会員、一般	
ICAUMS:International conference of Asian Union of Magnetics Societies	Study of noise reduction using ICA for MCG - Quantitative component selection method using attractor analysis-		2018/6/3 2018/6/7	Jeju, Korea		会員、一般	
日本生体磁気学会大会	空間フィルタ法を用いた心磁図の信号源推定における解空間の検討		2018/6/15 2018/6/16	広島医師会館	日本生体磁気学会	会員、一般	
日本生体磁気学会大会	リアレンスセンサを用いない Time-shift PCA によるノイズ除去法の検討		2018/6/15 2018/6/16	広島医師会館	日本生体磁気学会	会員、一般	
国際防災、危機管理研究岩手会議	EXAMINATION OF EVALUATION METHOD FOR NONDESTRUCTIVE INSPECTION OF CHLORIDE CONCENTRATION IN CONCRETE APPLYING AC IMPEDANCE METHOD		2018/7/17 2018/7/19	岩手県民情報交流センター	岩手大学	会員、一般	
日本磁気学会学術講演会	心磁図のためのリアレンスセンサを用いない Time-shift PCA によるノイズ除去法		2018/9/11 2018/9/14	日本大学理工学部	日本磁気学会	会員、一般	
空気調和、衛生学会大会	ファン付き作業服を用いた熱ストレス低減化に関する研究(第4報)建設現場の温熱環境と生理、心理反応の関係		2018/9/12 2018/9/14	大同大学	空気調和、衛生学会	会員、一般	
空気調和、衛生学会大会	ファン付き作業服を用いた熱ストレス低減化に関する研究(第5報)建設現場での発汗量を含めた生理指標の分析による作業時間帯の影響評価		2018/9/12 2018/9/14	大同大学	空気調和、衛生学会	会員、一般	

講演会等の名称	講演題目	氏名	実施日 (複数回の場合は期間)	実施場所	主催機関	対象	備考 (参加者数など)
生体医工学シンポジウム	Kinectを用いた姿勢に依存しない呼吸計測方法の検討		2018/9/14 2018/9/15	名古屋工業大学	日本生体医工学学会	会員、一般	
日本非破壊検査協会秋季講演大会	電気特性に基づくコンクリート中の塩化物濃度推定における水分補正式の検討		2018/11/15 2018/11/16	神戸商工会議所	日本非破壊検査協会	会員、一般	
人間-生活環境系シンポジウム	ファン付き作業服が建設作業員の生理、心理反応に及ぼす影響に関する研究(第7報)建設現場における水分損失と皮膚温の関係		2018/12/8 2018/12/9	摂南大学寝屋川キャンパス	人間-生活環境系学会	会員、一般	
人間-生活環境系シンポジウム	ファン付き作業服が建設作業員の生理、心理反応に及ぼす影響に関する研究(第8報)人工気候室内における水分損失と皮膚温の関係		2018/12/8 2018/12/9	摂南大学寝屋川キャンパス	人間-生活環境系学会	会員、一般	
人間-生活環境系シンポジウム	ファン付き作業服が建設作業員の生理、心理反応に及ぼす影響に関する研究(第9報)建設現場の屋内における実測		2018/12/8 2018/12/9	摂南大学寝屋川キャンパス	人間-生活環境系学会	会員、一般	
日本生化学会東北支部 第84 回例会、シンポジウム	発熱植物ゼンソウの肉穂花序におけるトランスクリプトーム解析		2018/5/19	岩手医科大学矢巾キャンパス	日本生化学会	会員、一般	
日本生化学会東北支部 第84 回例会、シンポジウム	ゼンソウ発熱組織をターゲットとしたメタボローム解析		2018/5/19	岩手医科大学矢巾キャンパス	日本生化学会	会員、一般	
Cell Symposia: Multifaced Mitochondria	Negative activation energies in homeothermic control in thermogenic plants		2018/6/4 2018/6/6	San Diego, USA	Cell Press	会員、一般	
2018 年度 温熱研究会	恒温植物の呼吸調節機構に関する研究		2018/8/23 2018/8/24	自然科学研究機構 岡崎コンファレンスセンター	生理学研究所	会員、一般	
第41 回日本分子生物学会年会	ゼンソウの熱産生組織で発現する複数のチオレドキシシンレダクターゼ遺伝子		2018/11/28 2018/11/30	パシフィコ横浜	日本分子生物学会	会員、一般	
第41 回日本分子生物学会年会	ゼンソウの熱産生組織における遺伝子発現プロファイル		2018/11/28 2018/11/30	パシフィコ横浜	日本分子生物学会	会員、一般	
9th International Symposium on Machinery and Mechatronics for Agriculture and Biosystems Engineering	果樹園用自律走行刈草機の開発		2018/5/28 2018/5/30	韓国、済州島	農業食料工学会	会員、一般	
9th International Symposium on Machinery and Mechatronics for Agriculture and Biosystems Engineering	3次元レーザスキャナによる車両誘導システムの開発		2018/5/28 2018/5/30	韓国、済州島	農業食料工学会	会員、一般	
9th International Symposium on Machinery and Mechatronics for Agriculture and Biosystems Engineering	アップカット欵立でマルチ播種機を用いた播種深と播種精度の違いが早生エダマメの生長と収量に及ぼす影響		2018/5/28 2018/5/30	韓国、済州島	農業食料工学会	会員、一般	
農業食料工学会東北支部平成30 年度支部大会	エダマメの機械播種技術の向上に関する研究(第3報)-アップカット欵立マルチ播種機の兼用化-		2018/8/27 2018/8/28	宮城大学食産業学群	農業食料工学会東北支部	会員、一般	
農業食料工学会東北支部平成30 年度支部大会	果樹園用除草ロボットの開発-複数樹列間の除草作業について-		2018/8/27 2018/8/28	宮城大学食産業学群	農業食料工学会東北支部	会員、一般	
農業環境工学関連学会2018 年合同大会	農作業事故対面調査結果の分析-畜産および用具の事故他について-		2018/9/10 2018/9/14	愛媛大学梅味キャンパス	農業食料工学会、日本農業気象学会、農業施設学会、生態工学会、農業情報学会	会員、一般	
農業環境工学関連学会2018 年合同大会	コンバインの事故調査結果を用いた事故要因分析とリスク低減効果の検討		2018/9/10 2018/9/14	愛媛大学梅味キャンパス	農業食料工学会、日本農業気象学会、農業施設学会、生態工学会、農業情報学会	会員、一般	
農業環境工学関連学会2018 年合同大会	機械作業体系による早生エダマメのマルチ栽培技術の開発と実証(第2報)-マルチ同時播種技術の作業効率と生育、収量-		2018/9/10 2018/9/14	愛媛大学梅味キャンパス	農業食料工学会、日本農業気象学会、農業施設学会、生態工学会、農業情報学会	会員、一般	
農業環境工学関連学会2018 年合同大会	安価な温度センサを用いた低コスト型水ストレス検知システムの実現可能性		2018/9/10 2018/9/14	愛媛大学梅味キャンパス	農業食料工学会、日本農業気象学会、農業施設学会、生態工学会、農業情報学会	会員、一般	
2018 年度日本農業気象学会東北支部大会	分光および偏光特性の同時測定による植物内組織の状態変化の非破壊測定		2018/9/18	東北大学大学院環境科学研究科エコロラボ	日本農業気象学会東北支部		

05 委員会

委員会等名	依頼機関	氏名	委嘱期間	備考
三陸復興部門▼				
いわて高等教育コンソーシアム連携班				
いわて高等教育コンソーシアム：運営委員会	いわて高等教育コンソーシアム	後藤 尚人	2018/4/1 2019/3/31	委員
いわて高等教育コンソーシアム：単位互換、高大連携推進委員会	いわて高等教育コンソーシアム	後藤 尚人	2018/4/1 2019/3/31	委員長
いわて高等教育コンソーシアム：地域人材育成推進委員会	いわて高等教育コンソーシアム	後藤 尚人	2018/4/1 2019/3/31	副委員長
いわて高等教育コンソーシアム：FD、SD 連携推進委員会	いわて高等教育コンソーシアム	江本 理恵	2018/4/1 2019/3/31	委員
いわて高等教育コンソーシアム：地域人材育成推進委員会	いわて高等教育コンソーシアム	藤本 幸二	2018/4/1 2019/3/31	委員
いわて高等教育コンソーシアム：地域人材育成推進委員会	いわて高等教育コンソーシアム	脇野 博	2018/4/1 2019/3/31	委員

委員会等名	依頼機関	氏名	委嘱期間	備考
地域コミュニティ再建支援班				
岩手県東日本大震災津波復興委員会 総合企画専門委員会	岩手県	広田 純一	2018/4/1 2019/3/31	
高田松原津波復興祈念公園有識者会議	岩手県	広田 純一	2018/4/1 2019/3/31	
地方創生評価委員会	大槌町	広田 純一	2018/4/1 2019/3/31	委員長
東日本大震災盛岡市復興推進アドバイザーボード	盛岡市	広田 純一	2018/4/1 2019/3/31	座長
震災遺構等サインに関する検討委員会	国土交通省	五味 社平	2018/3/1 2019/3/31	
地方創生評価委員会	大槌町	五味 社平	2018/4/1 2019/3/31	
県央広域振興圏経営懇談会	岩手県	五味 社平	2018/4/1	座長
岩手県社会貢献活動支援審議会	岩手県	五味 社平	2016/6/1 2020/3/31	
まち、ひと、しごと総合戦略策定会議	陸前高田市	五味 社平	2015/8/1 2019/7/31	
釜石市水産審議会	釜石市	杭田 俊之	2017/2/1 2019/2/22	委員
盛岡市建築紛争調整委員会委員	盛岡市	妻倉 哲	2014/7/1	
盛岡市図書館利用者協議会委員	盛岡市教育委員会	妻倉 哲	2014/7/1	
日本社会病理学会理事	日本社会病理学会	妻倉 哲	2016/10/1	
NPO ふるさとの会理事	NPO ふるさとの会	妻倉 哲	1999/10/1	
日本社会学会 社会学評論編集委員会専門委員	日本社会学会	妻倉 哲	2018/10/1	
農地復興班				
農地、農業用施設災害等におけるドローン活用に係る研究会	岩手県		2018/7/15 2019/3/31	技術アドバイザー
兼業農家チャレンジ支援事業、アイデア募集事業	北上市		2018/4/1 2019/3/31	審査員
農林畜産復興総合計画班				
科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基礎研究（C）（一般））	地域制公園の自然保護制度を活かした文化資源の保護と協働に関する研究	佐藤 和憲	2016/4/1-2019/3/31	
受託研究	温泉入浴無料券配布による鳴子温泉郷への誘客実証実験	佐藤 和憲	2018/7/1-2019/3/31	
地域創生部門				
いわて希望応援ファンド審査委員	いわて産業振興センター	今井 潤	2017/5/9 2019/3/31	委員
宮古市産業支援アドバイザー	宮古市	今井 潤	2016/4/1 2019/3/31	委員
ものづくり中小企業、小規模事業者試作開発等支援事業地域探採仲審査委員	岩手県中小企業団体中央会	今井 潤	2018/5/16 2019/2/28	委員
アドバイザー	宮古港フェリー利用促進協議会	今井 潤	2016/4/1 2019/3/31	委員
評価、検証委員会委員	盛岡商工会議所	今井 潤	2019/1/24 2019/2/28	委員長
産業育成特別委員会	盛岡商工会議所	今井 潤	2016/12/26 2019/10/31	委員
盛岡市産学共同研究事業等審査委員会	盛岡市	今井 潤	2017/3/24 2019/3/23	委員長
滝沢市産学共同研究事業費補助金審査会	滝沢市	今井 潤	2016/6/17 2019/3/31	委員
クロスアポイントメントの実施、促進に関わる連絡協議会	みずほ情報総研	今井 潤	2019/2/14 2019/2/14	講師
ビジネスプランコンテスト審査委員	地域人材育成ネットワーク事業実行委員会	今井 潤	2019/3/9 2019/3/9	審査委員
盛岡市産業支援センター入居審査委員	盛岡市産業支援センター	今井 潤	2018/4/15 2019/3/31	審査委員
盛岡市産業支援センター入居運営委員	盛岡市産業支援センター	今井 潤	2018/4/15 2019/3/31	委員
盛岡市工場等設置奨励委員会	盛岡市	小川 薫	2017/10/1 2019/9/30	委員
盛岡ブランド市民推進委員会	盛岡市	小川 薫	2018/4/1 2020/3/31	委員
北上市工業振興審議会	北上市	小川 薫	2019/2/13 2021/2/12	委員
岩手県イノベーション創出推進会議	岩手県	小川 薫	2019/5/9 2021/3/31	ワーキンググループ員
『知』の集積による産学連携推進事業	公益社団法人農林水産、食品産業技術振興協会	小川 薫	2019/6/24 2020/3/31	
戦略的基盤技術高度化支援事業「小型薬剤投与装置及び薬剤管理システムにおける低消費電力化の研究開発」研究推進委員会	公益財団法人いわて産業振興センター	小山 康文	2018/12/11 2021/3/31	委員
奥州市商工業振興審議会	奥州市	小山 康文	2018/7/27 2020/7/26	委員
平成30年度調査研究事業審査委員	公益財団法人さんりく基金	小山 康文	2018/5/16 2019/3/31	委員
岩手県立大学研究倫理審査委員会	公立大学法人岩手県立大学研究、地域連携本部	小山 康文	2018/4/1 2019/3/31	委員
岩手県立大学看護学研究科研究倫理審査会	公立大学法人岩手県立大学看護学研究科	小山 康文	2017/6/1 2019/3/31	委員

委員会等名	依頼機関	氏名	委嘱期間	備考
盛岡市新事業創出支援センター運営委員会	協同組合産業社会研究会経営者革新会議(IMS)	小山 康文	2018/4/1 2021/3/31	委員長
盛岡市新事業創出支援センター入居審査委員会	協同組合産業社会研究会経営者革新会議(IMS)	小山 康文	2018/4/1 2021/3/31	委員長
盛岡ヘルスケア産業協議会	盛岡市ヘルスケア産業協議会事務局(盛岡市立地創業支援室)	小山 康文	2018/1/18	委員
ものづくり中小企業・小規模事業者連携支援事業連携コーディネーター	協同組合産業社会研究会経営者革新会議(IMS)	小山 康文	2018/4/26 2019/2/15	連携コーディネーター
東経連ビジネスセンター事業化コーディネーター	東経連ビジネスセンター	小山 康文	2018/4/1 2019/3/31	事業化コーディネーター
宮澤賢治センター				
日本現代詩歌文学館企画委員会	北上市	木村 直弘	2018/4/1 2021/3/31	副委員長
第一回盛岡国際俳句大会実行委員会	盛岡市		2018/4/1 2020/3/31	副会長
三陸水産教育研究部門				
日本水産学会東北支部幹事	日本水産学会	塚越 英晴	2018/3/1 2019/3/31	会計
水産海洋学会性化学委員会	水産海洋学会	後藤 友明	2018/2/1 2020/1/31	委員長
水産海洋学会評議委員会	水産海洋学会	後藤 友明	2018/2/1 2020/1/31	
水産海洋学会理事会	水産海洋学会	後藤 友明	2018/2/1 2020/1/31	
日本水産学会水産政策委員会	日本水産学会	後藤 友明	2018/3/1 2020/2/28	
日本水産学会水産環境保全委員会	日本水産学会	後藤 友明	2018/3/1 2020/2/28	
日本水産学会水産教育推進委員会	日本水産学会	後藤 友明	2018/3/1 2020/2/28	
久慈港環境評価検討ワーキンググループ	いであ株式会社	後藤 友明	2018/8/10 2019/2/22	
大船渡市漁業就業担い手協議会	大船渡市	後藤 友明	2018/4/1 2019/3/31	
定置網漁業技術研究会	水産研究・教育機構開発調査センター	後藤 友明	2018/10/1 2020/3/31	会長
釜石魚河岸にぎわい館運営委員会	釜石市	北村 志乃	2018/10/30 2019/10/29	
大槌町新事業創出研究センター技術運営検討会	大槌町	平井 俊朗	2018/5/1 2019/3/31	委員
平泉文化教育研究部門				
平成30年度えさし郷土文化館運営協議会	奥州市えさし郷土文化館	伊藤 博幸	2018/4/1 2020/3/31	
第33回志波城跡史跡整備委員会	盛岡市	伊藤 博幸	2018/12/1 2019/3/29	
平成30年度胆沢城跡整備活用指導委員会	奥州市	伊藤 博幸	2017/4/1 2019/7/31	
後三年合戦調査検討委員会	横手市教育委員会	八木 光則	2018/4/1 2020/3/31	
陸前高田市文化財調査委員会	陸前高田市教育委員会	八木 光則	2018/4/1 2020/3/31	
地域防災教育研究部門				
日本地質学会地質災害委員会専門委員	日本地質学会	越谷 信	2002/9/21 現在に至る	委員
大槌町防災会議および国民保護協議会	大槌町	越谷 信	2019/2/19 2020/3/31	委員
岩手県政策評価委員会（大規模事業評価専門委員会）	岩手県	越谷 信	2018/2/7 2020/1/31	委員
三陸ジオパーク推進協議会	三陸ジオパーク推進協議会	越谷 信	2018/8/16 2019/3/31	学術アドバイザー
岩手県の火山活動に関する検討会	岩手県	越谷 信	2017/4/28 2019/3/31	委員
花巻市防災会議	花巻市	越谷 信	2017/4/1 2019/3/31	委員
滝沢市文化財調査委員	滝沢市	越谷 信	2017/4/18 2019/3/31	委員
八幡平市地熱開発理解促進に係る有識者会議	八幡平市	越谷 信	2018/8/26 2020/8/25	委員
釜石市水産審議会	釜石市	杭田 俊之	2017/2/22 2019/2/21	委員
釜石市水産審議会	釜石市	杭田 俊之	2019/2/22 2021/2/21	委員
盛岡市建築紛争調整委員会委員	盛岡市	妻倉 哲	2014/7/1	
盛岡市図書館利用者協議会委員	盛岡市教育委員会	妻倉 哲	2014/7/1	
日本社会病理学会理事	日本社会病理学会	妻倉 哲	2016/10/1	
NPO ふるさとの会理事	NPO ふるさとの会	妻倉 哲	1999/10/1	
日本社会学会 社会学評論編集委員会専門委員	日本社会学会	妻倉 哲	2018/10/1	
いわて組込みシステムコンソーシアム	岩手県	小林 宏一郎	2018/6/1 2020/5/31	委員
かわまちづくり委員	国土交通省東北地方整備局	小笠原 敏記	2009/4/1	
北上リバーカウンセラー	国土交通省東北地方整備局	小笠原 敏記	2010/4/1	
米代川水系河川整備学識者懇談会	国土交通省東北地方整備局	小笠原 敏記	2014/4/1	

委員会等名	依頼機関	氏名	委嘱期間	備考
北上川水系河川整備学識者懇談会	国土交通省東北地方整備局	小笠原 敏記	2014/4/1	
事業評価監視委員会	国土交通省東北地方整備局	小笠原 敏記	2016/4/1	
河川水辺の国勢調査アドバイザー	国土交通省東北地方整備局	小笠原 敏記	2017/4/1	
政策評価委員会	岩手県	小笠原 敏記	2016/4/1	
小本川河川整備連絡協議会	岩手県	小笠原 敏記	2017/4/1	会長
浪板海岸砂浜再生検討業務技術検討委員会	岩手県	小笠原 敏記	2017/5/1	
根浜海岸復興養浜技術検討委員会	岩手県	小笠原 敏記	2017/5/1	副委員長
風水害対策支援チーム	岩手県	小笠原 敏記	2017/6/1	
津波来襲時のマウンド被覆材質算定方法技術検討委員会	岩手県	小笠原 敏記	2018/8/1	
岩手県津波防災技術専門委員会	岩手県	山本 英和	2018/4/1	2019/3/31
東北地方、太平洋沖の地震活動に関する調査研究委員会委員	(公財) 地震予知総合研究振興会	山本 英和	2018/4/1	2019/3/31
下北半島周辺における地震活動等調査検討委員会	(公財) 地震予知総合研究振興会	山本 英和	2018/4/1	2019/3/31
宮古市都市計画審議会	宮古市	鴨志田 直人	2019/10/1	2020/9/30 会長職務代理者
志戸前川地すべり検討委員会	林野庁東北森林管理局	井良沢 道也	2018/4/1	2019/3/31 委員長
秋田県長寿命化検討委員会	秋田県河川砂防課	井良沢 道也	2018/4/1	2019/3/31 委員長
景観資源の保全と再生可能エネルギーの活用との調和に関する審議会	遠野市	井良沢 道也	2018/4/1	2019/3/31 会長
やまがた水害、土砂災害対策中期計画 アドバイザー会議	山形県砂防課	井良沢 道也	2018/4/1	2019/3/31
土木研究所外部評価検討委員会	土木研究所	井良沢 道也	2018/4/1	2019/3/31
岩手県国土利用計画審議会委員会	岩手県	井良沢 道也	2018/4/1	2019/3/31 委員長
岩手ブロック公共工事等総合評価委員会	国土交通省東北地方整備局	井良沢 道也	2018/4/1	2019/3/31
道路防災ドクター	国土交通省東北地方整備局	井良沢 道也	2018/4/1	2019/3/31
土砂災害が発生するおそれがある土地の区域等の設定委員会	砂防学会	井良沢 道也	2018/4/1	2019/3/31
岩手県風水害対策支援チーム連絡会議	岩手県	井良沢 道也	2018/4/1	2019/3/31
岩手山火山防災協議会	岩手県	井良沢 道也	2018/4/1	2019/3/31
岩手県学校安全総合教育支援事業推進委員会	岩手県教育委員会	森本 晋也	2018/7/1	2019/3/31 委員
「学校安全資料作成」委員	日本スポーツ振興センター	森本 晋也		委員
いわての復興教育」プログラム編集委員会	岩手県教育委員会	森本 晋也	2018/	2019/3/1 委員
福岡県学校安全推進委員会	福岡県教育委員会	森本 晋也		推進委員
いわて未来づくり機構「復興教育作業部会」	岩手県	田代 高章	2018/4/1	2019/3/31 座長

06 プロジェクト・外資

プロジェクト名称	課題名	氏名	委託機関	委託期間	備考
三陸復興部門					
地域コミュニティ再建支援班					
文科省科研(萌芽研究)	農山漁村集落の持続的発展における拡大コミュニティの形成に関する計画論的研究	広田 純一	学術振興会	2018/4/1 ~ 2021/3/31	
地域創生部門					
盛岡市産学連携研究センター指定管理		今井 潤	盛岡市	2017/4/1-2018/3/31	
共同研究員受入	産学官連携による内発型産業を軸とした地域産業の活性化及び地域課題の解決、地域連携システムの構築による地域情報交流の実践的調査研究	今井 潤	久慈市	2018/4/1-2019/3/31	
共同研究員受入	産学官連携による東日本大震災津波からの復興に関する実践的調査研究	今井 潤	釜石市	2018/4/1-2019/3/31	
共同研究員受入	盛岡市における産学官連携による持続的な産業振興に関する実践的調査研究	今井 潤	盛岡市	2018/4/1-2019/3/31	
共同研究	地域特性をイノベーションに活かすビジネスプラン作成支援事業	今井 潤	大船渡市	2018/6/1-2018/12/31	
宮澤賢治センター					

プロジェクト名称	課題名	氏名	委託機関	委託期間	備考
科学研究費基金 基礎研究 (C)	宮沢賢治文学の国際的な普遍性と受容可能性に関する包括的研究	大野 真男、木村 直弘、田中 成行、小島 聡子、山本 昭彦	日本学術振興会	2018/4/1 ~ 2021/3/31	研究代表者：山本 昭彦
生涯学習部門					
社会教育主事講習	平成 30 年度社会教育主事講習		文部科学省	2018/5/23 ~ 2019/2/28	
三陸水産教育研究部門					
さんりく基金調査研究助成金	三陸の貝類養殖に大きな被害をもたらす外来種ヨーロッパザラバヤの生態学的研究	後藤 友明	公益財団法人さんりく基金	2018/6/14 ~ 2019/3/15	
海洋再生エネルギー実証フィールド漁業調査調査事業	—	後藤 友明	岩手県	2018/5/1 ~ 2019/3/31	
安家川河川環境調査	—	後藤 友明	岩手県	2018/7/10 ~ 2019/2/28	
さんりく基金調査研究事業	無気泡酸素溶解水を用いた高効率な魚類飼育システムの開発	平井 俊朗	さんりく基金	2018/6/14 ~ 2019/1/31	
農研機構技術開発・成果普及等推進事業(うち技術開発・成果普及等推進事業)	国内サーモン養殖の課題と解決策の集約	平井 俊朗	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 生物系特定産業技術研究支援センター	2018/9/10 ~ 2019/3/31	
平成 30 年度科学技術人材育成費補助金「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」の補助事業	イサダ(ツノナシオキアミ)黒変に関連する酵素の精製と解析およびその活性制御	袁 春紅	文部科学省	2018/04/1 ~ 2019/3/31	150 万
平成 30 年度岩手大学研究人材育成経費	冷蔵と凍結流通中におけるホタテの品質変化と鮮度評価	袁 春紅	岩手大学	2018/04/1 ~ 2019/3/31	50 万
研究人材育成支援経費	三陸岩手サクラマスの分子生態学的研究	塚越 英晴	岩手大学	2018/8/1 ~ 2019/3/31	
信濃川サケの遺伝特性分析		塚越 英晴		2018/11/1 ~ 2019/3/31	共同研究者：東日本旅客鉄道線、信濃川発電所業務改善事務所 1,000,000 (? 接経費 900,000)
平泉文化教育研究部門					
平泉文化の総合的研究基本計画	中尊寺金銀字一切経のルーツについて	劉 海宇	岩手県	2018/6/15 ~ 2019/3/31	250,000 円
地域防災教育研究部門					
平成 30 年度共同研究	立体地形解析図を用いた地形、地質教材の開発	越谷 信	(株) 横山空間情報研究所	2018/4/1 ~ 2019/3/31	
活断層の評価に関する調査研究	断層帯深部形状の評価に関する活断層調査研究	越谷 信	文部科学省	2018/4/1 ~ 2019/3/31	
国際科学技術共同研究推進事業 地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム (SATREPS)	熱発光地熱探査法による地熱探査と地熱貯留の統合評価システム	越谷 信	国立研究開発法人科学技術振興機構	2018/4/1 ~ 2023/3/31	
三陸復興調査活動寄付金	三陸復興に関する調査研究	杭田 俊之	連合岩手	2017/1 ~ 2019/3	
被災者の参画による心の復興事業	大槌町、盛岡市における「サロン活動」による心の復興事業	斎倉 哲	岩手県復興局	2018/7/2 ~ 2018/3/27	
(公財) 明治安田こころの健康財団助成金「2018 年度研究助成」	東日本大震災遺族の生の軌跡と心の復興に関する研究	斎倉 哲	(公財) 明治安田こころの健康財団	2018/8/30 ~ 2019/6/30	
科学研究補助(基礎研究 (C))	氾濫流下におけるヘッドマウントディスプレイ型高精度車道難擬似体験システムの開発	小笠原 敏記	日本学術振興会	2016/4/1 ~ 2019/3/31	
科学研究補助(基礎研究 (C))	強大台風下の海洋観測に基づく温暖化時の高潮、高波、浸水予測	小笠原 敏記	日本学術振興会	2018/4/1 ~ 2021/3/31	
科学研究補助(基礎研究 (C))	流れの阻害率に基づく抵抗力モデルの開発-低負荷で実行可能な市街地の津波氾濫解析-	小笠原 敏記	日本学術振興会	2018/4/1 ~ 2021/3/31	
コンクリートの凍害劣化に対する維持管理手法の開発	積雪寒冷地域のコンクリートの凍害に関する研究事業	小山田 哲也	ネクスコエンジニアリング東北	2018/5/15	
スケーリング抵抗性を考慮したトンネル覆工コンクリートの研究	復興道路のコンクリートの凍害に関する研究事業	小山田 哲也	西松建設	2018/4/1	
[SIP] 東北インフラ、マネジメントプラットフォームの開発と地域実装	岩手県におけるインフラマネジメントの地域実装	小山田 哲也	東北大学	2018/4/1	
「平成 30 年度大規模地震が地盤に与えた影響とこれに起因する土砂災害に関する技術研究開発(代表：北海道大学丸谷知巳教授)」	岩手、宮城内陸地震以降の崩壊地の推移	井良沢 道也	北海道大学	2018/4/1 ~ 2019/2/28	
NPO 土砂災害防止広報センター	防災に関する活動支援	井良沢 道也	NPO 土砂災害防止広報センター	2018/4/1 ~ 2019/3/31	奨学寄付金
日本植生(株)	防災に関する活動支援	井良沢 道也	日本植生(株)	2018/4/1 ~ 2019/3/31	奨学寄付金

07 その他

活動内容	氏名	依頼機関等	実施日	実施場所	備考
三陸復興部門▼					
心のケア班					
大学院生によるリラクゼーション研修 in 陸前高田社会福祉協議会サロン	佐々木 誠	当機構心のケア班	2019/3/26	竹駒定住促進センター	19名
取材対応（こころの痛みと向き合う）	佐々木 誠	毎日新聞	2019/3/6	22面	市民講座（傾聴）研修の紹介とコメント
被災動物支援班					
岩手県合同防災訓練におけるペット同行避難訓練参加「わんにゃん号」派遣、ペット同行避難啓発活動	山崎 真大、山崎 弥生	岩手県	2018/11/10	旧宮古市立愛宕小学校	
野鳥飛来における調査	福井 大祐	岩手県	2018/2/16 他4回	鳥獣保護センターほか	
岩手県小動物臨床研究会（IVC）開催	佐藤 れえ子、内田 直宏		2018/5/7 他4回	付属動物病院	
動物愛護フェスティバルにて「どうぶつ何でも健康相談会、診療」開催	内田 直宏	岩手県獣医師会	2018/9/23	滝沢市	
超音波検査セミナー	山崎 真大	日本獣医師会	2018/12/9 他2回	盛岡市、福島市ほか	
地域コミュニティ再建支援班					
うごく七夕、けんか七夕 ポスター作成	五味 杜平	陸前高田市観光物産協会	2018/8/7		岩大E_codeプロジェクト
しゅあたか	五味 杜平		2018/9～	twitter	岩大E_codeプロジェクト
陸前高田グローバルキャンパス 春呼び祭	五味 杜平		2019/3/15～17	陸前高田グローバルキャンパス	
心の復興へ思い共有 町職員遺族ら語り合う	妻倉 哲	岩手日報	2018/7/22		
仮設4割空室 集約検討	妻倉 哲	読売新聞	2018/10/14		
届ける被災地の今 サロンで活動を披露	妻倉 哲	岩手日報	2018/10/28		
心の復興サロン 鎮魂の尺八披露	妻倉 哲	朝日新聞	2018/10/28		
震災の現実を知って 岩手大学園祭で写真展	妻倉 哲	毎日新聞	2018/10/28		
傾聴 被災者へ寄り添い	妻倉 哲	岩手日報	2018/11/11		
歌って体動かし被災者に癒し 心の復興サロン	妻倉 哲	岩手日報	2018/12/1		
縁 寄り添い続ける 調査と交流、大槌に根	妻倉 哲	岩手日報	2019/1/16		
遺族ら交流東京でも 大槌などの「心の復興サロン」	妻倉 哲	朝日新聞	2019/1/28		
離れていても共に 大槌で「心の復興サロン」	妻倉 哲	毎日新聞	2019/2/25		
第2回大規模災害公営住宅自治会交流会（共催）	船戸 義和		2019/2/11	県営橋ヶ沢アパート	参加100名
園芸振興班					
夏イチゴ2018年作柄検討会（進行、基調報告）	松嶋 卯月、岡田 益己	岩手なつあかり研究会	2019/2/27	岩手大学	
地域創生部門▼					
日本政策金融公庫と産学連携に関する覚書の締結		岩手大学三陸復興・地域創生推進機構	2019/3/20	岩手大学	
岩手日報社との打ち合わせ		岩手日報社、岩手大学	4/26、5/30、6/26、8/7、10/18、11/26、1/21	岩手大学	
産学官連携コーディネートスキル向上セミナー「事業化展開戦略セミナー」		主催）いわて産業振興センター 共催）岩手県、本機構、INSいわてコーディネート研究会	2019/6/19	アイーナ	参加者31名
産学官連携コーディネートスキル向上セミナー「秋田県訪問研修」		主催）いわて産業振興センター 共催）岩手県、本機構、INSいわてコーディネート研究会	2019/7/30	小林工業寮、秋田県立大学本庄キャンパス	参加者13名
産学官連携コーディネートスキル向上セミナー「事業化シナリオ展開研修会」		主催）いわて産業振興センター 共催）岩手県、本機構、INSいわてコーディネート研究会	2019/9/26	アイーナ	参加者17名
宮澤賢治センター					
岩手大学平成30年度新規事業	山本 昭彦、木村 直弘、小島 聡子	人文社会科学部新センター設置に向けた調査	2018/4/1～2019/3/31	熊本大学、島根大学、新潟大学、愛媛大学	

活動内容	氏名	依頼機関等	実施日	実施場所	備考
三陸水産教育研究部門▼					
資源評価内部検討会・外部有識者	後藤 友明	国立研究開発法人水産研究教育機構	2018/8/14	農林水産省	
東北ブロック資源評価会議・外部有識者	後藤 友明	国立研究開発法人水産研究教育機構	2018/8/28	八戸商工会議所	
岩手県資源管理協議会・外部有識者	後藤 友明	岩手県資源管理協議会	2018/9/18	岩手県水産会館	
座長 [The 6th international symposium of East Asia Fisheries Technologists Association (2018年9月)]	袁 春紅	[The 6th international symposium of East Asia Fisheries Technologists Association]	2018/9/28	浙江大学	
座長 [第2回国際シンポジウム農業と水産業の革新2018]	袁 春紅	[The 7th international symposium of East Asia Fisheries Technologists Association]	2018/5/10	岩手大学	
地域防災教育研究部門▼					
心の復興へ思い共有 町職員遺族ら語り合う	妻倉 哲	岩手日報	2018/7/22		
仮設4割空室 集約検討	妻倉 哲	読売新聞	2018/10/14		
届ける被災地の今 サロンで活動を披露	妻倉 哲	岩手日報	2018/10/28		
心の復興サロン 鎮魂の尺八披露	妻倉 哲	朝日新聞	2018/10/28		
震災の現実を知って 岩手大学園祭で写真展	妻倉 哲	毎日新聞	2018/10/28		
傾聴 被災者へ寄り添い	妻倉 哲	岩手日報	2018/11/11		
歌って体動かし被災者に癒し 心の復興サロン	妻倉 哲	岩手日報	2018/12/1		
縁 寄り添い続ける 調査と交流、大槌に根	妻倉 哲	岩手日報	2019/1/16		
遺族ら交流東京でも 大槌などの「心の復興サロン」	妻倉 哲	朝日新聞	2019/1/28		
離れていても共に 大槌で「心の復興サロン」	妻倉 哲	毎日新聞	2019/2/25		
地域を支える「エコリーダー」、「防災リーダー」育成プログラム	小笠原 敏記	岩手大学	2018/5/20 2018/12/15		
ハンパット大学による Hydro Labo. 実験施設見学	小笠原 敏記	研究高度化、グローバル化特別対策室	2018/8/28		
津波に関するアドバイス	小笠原 敏記	NTTdocomo	2018/11/19 2019/2/21		
卒業論文 三軸圧縮下における飽和含水砂岩の動的変形特性	鴨志田 直人	岩手大学理工学部社会環境工学科	2018/2/18		社会環境工学科 堺田迅、藤根正謙（外部での発表無し）
岩手建設工業新聞原稿執筆	松林由里子	岩手建設工業新聞	2018/8/22		
砂防学会岩手大会が2019年5月に盛岡市で開催	井良沢 道也	岩手日報	2018/5/25		2018/5/25 4面掲載
遠野市における景観資源の保全再生可能エネルギーに調和	井良沢 道也	岩手日報	2018/9/14		2018/11/28掲載
磐井川民有林直轄地すべり事業の意義	井良沢 道也	日刊岩手建設工業新聞	2018/12/18		2018/12/20掲載
地区防災計画制度について	井良沢 道也	日刊岩手建設工業新聞			2019/2/13掲載
遠野市防災の集い	井良沢 道也	遠野テレビ	2019/3/17		2019/3/17放映
遠野市防災の集い	井良沢 道也	日刊岩手建設工業新聞	2019/3/17		2019/3/18掲載
遠野市防災の集い	井良沢 道也	岩手日報	2019/3/17		2019/3/16掲載
地域を支える「エコリーダー」、「防災リーダー」育成プログラム	熊谷 誠	岩手大学	2018/5/20 2018/12/15		
盛岡市立本宮小学校防災学習の演習「D I G」実施	森本 晋也	盛岡市立本宮小学校	2018/6/26	盛岡市立本宮小学校	対象は、6年生。
「いわて震災津波アーカイブ～希望～」を活用した授業実践及び授業活用方法のDVD作成協力	森本 晋也	岩手県復興局	2018/8/ 2018/10/	西和賀町立湯田小学校 / 陸前高田市立高田第一中学校	
日本自然災害学会オープンフォーラム「震災の伝承と防災の未来～被災地と向き合う『災害と教育』、パネリスト	森本 晋也	日本自然災害学会	2018/10/8	仙台市中小企業活性化センター多目的ホール	対象は、学会員及び一般
八幡平市立西根第一中学校学校公開、助言者	森本 晋也	八幡平市立西根第一中学校	2018/10/26	八幡平市立西根第一中学校	避難所運営の学習への講評
平成30年度「いわて三陸復興フォーラム」パネルディスカッション、パネラー	森本 晋也	岩手県	2018/12/16	エスポワールいわて大ホール	
盛岡市立仙北小学校校内研修会で演習「大型台風、大雨そのとき、どうする？」実施	森本 晋也	盛岡市立仙北小学校	2018/12/25	盛岡市立仙北小学校	教職員対象に実施
久慈市立山形小学校防災学習会で演習「台風、大雨ワークショップ そのとき、どうする？」実施	森本 晋也	久慈市立山形小学校	2019/2/6	久慈市立山形小学校	児童対象に実施

岩手大学の復興支援に関する主な出来事

●平成23年3月11日(金)午後2時46分 東日本大震災発生(※盛岡市震度5強)

●平成23年

3月11日 **「危機対策本部」を設置**
(1) 学生・児童・教職員の安否確認
(2) 建物・設備の被害状況等確認

【岩手大学の状況】

(1) 学生・児童・教職員の被災状況
犠牲者：1名(学部学生)、被災学生※：377名
※家屋(実家)の損壊、家計支持者が亡くなった又は大幅に収入がなくなった、実家が原発の影響を受けた者など
被災教職員：14名
(2) 建物・設備に関する被害建物：「危険」「要注意」はなかったが、天井の破損、水漏れ等あり
設備：分析機器等、修理・メンテナンスが必要な物品あり

3月12日 **一般入試後期日程試験を中止**

3月23日 **卒業式中止(※代替行事として、課程ごとの学位授与式を実施)**

3月28日 **岩手大学調査団による沿岸被災地の調査を実施**
復興構想の作成に向けて、沿岸被災地にて津波被害の状況を把握するための調査を実施。

4月1日 **「岩手大学東日本大震災復興対策本部」を設置**
①情報・連絡調整、②学生支援、③施設・整備、④地域復興支援、⑤健康管理の5部門からなる復興対策本部を設置し、全学体制による復興支援活動を開始。

移動診療車による被災動物の診療を開始

農学部附属動物病院の産業動物用検診車を移動診療車「わんにゃんレスキュー号」として活用し、被災地での診療を実施。5月までに計5回実施し、延べ131頭の犬、猫等を診療。

4月6日 **学生によるボランティア活動開始**
清掃作業、地域イベント運営支援、学習支援活動、ボランティアセンター運営支援等を実施。「岩手大学三陸復興サポート学生委員会」などが活動中。(平成29年3月までに延べ3,262名が活動)

4月7日 **入学式中止(※代替行事として、5月9日に「新入生歓迎の集い」を実施)**

4月11日 **震災復興に関する委員会等への参画**
政府の復興構想会議(検討部会)に教員1名参画。また、岩手県の津波復興委員会や被災市町村の復興計画策定委員会等に教員延べ25名が参画。

4月29日 **教職員によるボランティア活動開始**
宮古市及び釜石市にて、避難所運営支援や側溝の汚泥除去、家屋清掃、物資配付等を実施(平成23年10月までに延べ298名が活動)。

5月9日 **前期授業開始(※例年より約1ヶ月遅れ。教育学部のみ4月18日に授業開始)**

5月18日 **「岩手県沿岸復興プロジェクト」開始**
「被災者(緊急)支援」、「海洋産業」、「地域防災」、「産業復興」の4つの分野について、学内からプロジェクトを公募。平成23年度中に28事業を実施。

10月1日 **「岩手大学三陸復興推進本部」を設置**
復興対策本部を発展的改組し、長期的に復興支援を行う体制を整備。①教育支援、②生活支援、③水産業復興推進、④ものづくり産業復興推進、⑤農林畜産産業復興推進、⑥地域防災教育研究の各事業を展開。また、三陸沿岸での活動拠点として、釜石市にサテライト施設(釜石サテライト)を設置。
【釜石サテライト】常勤職員2名、コーディネーター1名、事務補佐員1名を配置。



被災直後の図書館
(3月11日)



課程ごとの学位授与式
(3月23日)



移動診療車での診察
(4月1日～)



学生ボランティア活動
(4月6日～)



釜石サテライト設置
(10月1日)

10月30日 **東京海洋大学及び北里大学と「三陸水産業の復興と地域の持続的な発展に向けた3大学連携推進に関する基本合意書」を締結**
三陸水産業の復興に向けた3大学連携推進シンポジウムの開催

東日本大震災により被害を受けた三陸沿岸の水産業について、岩手大学、東京海洋大学及び北里大学の3大学が地域と連携し、復興・発展を推進するため、「3大学連携推進に関する基本合意書」を締結し、シンポジウムを開催。



3大学連携推進基本
合意書締結
(10月30日)

11月7日 **岩手県沿岸市町村復興期成同盟会と「岩手県沿岸市町村の復興と地域の持続的な発展に向けた連携・協力書」を締結**

三陸沿岸の復興と地域の持続的な発展に向けて、岩手大学が取り組む復興支援事業について連携・協力を行うため、岩手県沿岸市町村復興期成同盟会(沿岸13市町村で構成)と連携・協力書を締結。



寄贈されたワンにゃん号
(3月22日)

12月9日 **文部科学省「大学等における地域復興のためのセンター的機能整備事業(平成23年度第3次補正予算)に採択**

○三陸沿岸地域の「なりわい」の再生・復興の推進事業
三陸沿岸地域の「なりわい」の再生・復興として、三陸ものづくり産業復興支援事業、農林畜産産業復興支援事業、生活復興支援事業の3事業の復興を推進。
○いわての教育及びコミュニティ形成復興支援事業
いわて高等教育コンソーシアム構成5大学(岩手県立大学、岩手医科大学、富士大学、盛岡大学、岩手大学)が互いの特徴とこれまでの復興支援の取組を最大限に生かし、「地域を担う中核人材育成事業」を展開。

●平成24年

3月22日 **マースジャパン社から岩手大学にペット専用移動診療車「ワンにゃん号」を寄贈**
マースジャパン社が実施している被災地支援の一環として、岩手大学にペット専用移動診療車を寄贈。沿岸各地で開催される動物支援イベントにて、無料診療や相談会等を実施中。



久慈エクステンション
センター設置
(4月3日)

4月1日 **「岩手大学三陸復興推進機構」を設置**
復興推進本部を発展的改組し、学則に基づく組織に格上げ。復興支援に携わる教職員数を拡充し、復興支援体制をさらに強化。
「岩手大学地域防災研究センター」を設置
工学部附属地域防災研究センターを、文理融合型の全学施設として強化・充実。

4月3日 **「久慈エクステンションセンター」を設置**
三陸沿岸での情報収集・発信や関係機関との連絡調整機能の強化のため、久慈市にエクステンションセンターを設置。大学本部・釜石サテライト・関係自治体等と連携・協力し、復興に向けた各種事業を推進。



大船渡エクステンション
センター設置
(4月3日)

11月1日 **「宮古エクステンションセンター」を設置**
宮古市に宮古エクステンションセンターを設置。既存の釜石サテライト・久慈エクステンションセンターや関係自治体等と連携・協力して、復興支援活動を推進。

11月2日 **第7回マニフェスト大賞にて、震災復興支援・防災対策最優秀賞を受賞**
第7回マニフェスト大賞(マニフェスト大賞実行委員会主催、毎日新聞社・早稲田大学マニフェスト研究所共催)において、自治体や民間企業、市民団体などによる活動を表彰する「震災復興支援・防災対策賞」の最優秀賞を岩手大学が受賞。



第7回マニフェスト大賞
「震災復興支援・防災
対策賞」最優秀賞を受賞
(11月2日)

●平成25年

- 3月18日 **「釜石サテライト」移転**
釜石市平田地区に釜石サテライト竣工。「岩手大学三陸水産研究センター」と「こころの相談ルーム」も開設。
- 4月1日 **「三陸水産研究センター」を設置**
釜石サテライト内に岩手大学三陸水産研究センターを設置、隣接する岩手県水産技術センター等と連携しながら、三陸水産業の復興活動を推進。
- 4月3日 **「大船渡エクステンションセンター」を設置**
大船渡市に大船渡エクステンションセンターを設置。既存の釜石サテライト・久慈・宮古エクステンションセンターや関係自治体等と連携・協力して、復興支援活動を推進。
- 5月11日 **「釜石サテライト竣工及び三陸水産研究センター設置記念式典」を実施**
釜石サテライトの竣工と三陸水産研究センターの設置を記念し、式典を実施。
- 7月10日 **下村博文文部科学大臣が釜石サテライトを訪問**
被災地でボランティアを行っている岩手大学、岩手県立大学の学生らと意見交換。
- 10月3日～ **後期全学共通教育科目として「岩手の研究『三陸の復興を考える』」を開設**
震災からの復興について学術的観点から検討し、復興への関心を高めるとともに、復興を担う次代の人材を養成することを目的として、東日本大震災の概要、本県における被災状況及び復興に向けての課題・方向性などを総合的に学習し、その上で、復興への岩手大学の取組みを事例的に学習。
- 11月9日 **第3回全国水産系研究者フォーラムを開催**
「震災後の三陸地域における水産業の現状と復興」をテーマに、全国水産系研究者のより一層の横断的ネットワークの構築と三陸復興を目指して開催し、100名以上が参加。
- 12月7日 **岩手大学三陸復興推進機構シンポジウム2013「つながって岩手～東京で広げる被災地コミュニティ～」を開催**
東京都板橋区において、岩手大学で行われている震災復興活動について紹介するとともに、東京でも広がりつつある被災地コミュニティについて、参加者の方々との対話も交えながら考えるシンポジウムを開催し、約230名が参加。



下村文部科学大臣が釜石サテライトを訪問(7月10日)



「つながって岩手～東京で広げる被災地コミュニティ～」を開催(12月7日)



旧大槌町役場の前で説明を受ける学生(1月18日)

●平成26年

- 1月17日・18日 **被災地の現状と復興の取り組みを学ぶ現地研修を実施**
岩手の研究を履修している学生と実際に被災地でボランティア活動を行っている学生を対象に、1泊2日の現地研修を実施し、16名が参加。
- 3月22日 **SANRIKU(三陸)水産研究教育拠点形成事業報告会を開催**
岩手大学・東京海洋大学・北里大学の3大学が取り組んできた研究成果について三陸地域の漁業関係者の方々を知っていただくと共に、公設試験機関や全国の水産研究者との連携を強化していくことを目的に開催し、約90名が参加。
- 4月26日 **地域と創る「いわて協創人材育成+地元定着」プロジェクトによる被災地学修がスタート**
地域の歴史・文化・特色を理解し、異分野の専門家との協働で自らの専門性を地域の課題解決へ実践することができる人材の育成を目指す地域と創る「いわて協創人材育成+地元定着」プロジェクトの一環として、今年度から全学部1年生の必修科目として「被災地学修」を実施。
- 6月27日 **低温低湿乾燥法による魚介乾製品「潮騒の一夜干し」販売記者会見開催**
岩手大学と久慈市の加工販売会社との共同研究で誕生した魚介乾製品「潮騒の一夜干し」販売記者会見を開催。岩手大学の「低温低湿乾燥法」の技術を商品化に応用。設備導入の段階で、公益財団法人さんりく基金などの助成を受けるとともに、パッケージデザインは県内のプロデュース会社が担当し、産学官が協力したオール岩手の製品となった。
- 8月3日 **地域防災フォーラム「未来への復興まちづくり」を開催**
神戸大学都市安全研究センターと連携し、阪神淡路大震災からの復興の経験を踏まえ、未来志向の復興まちづくりについて討議。



潮騒の一夜干し販売記者会見(6月27日)



地域防災フォーラム(8月3日)

●平成27年

- 1月31日 **平成26年度岩手大学三陸復興推進機構シンポジウムを開催**
6部門の活動報告を行うとともに、「震災復興・地域創生と大学の役割」をテーマにパネルディスカッションを開催し、約100名が参加。
- 3月4日 **岩手大学三陸復興シンポジウム2014「つながって岩手～東京で広げる被災地コミュニティ～」を開催**
25年度に引き続き、東京都板橋区において、「つながって岩手 Part2～春が来た、さあ三陸に出かけよう!～」をテーマに首都圏向けのシンポジウムを開催し、約120名が参加。
観光をテーマに首都圏向けに具体的な被災地への関わり方を提案し、被災地の交流人口増加を目指した。
- 3月14日～18日 **国連防災世界会議に参加**
岩手大学主催フォーラム「地域社会のレジリエンスとキャパシティ・ビルディング～被災地での岩手大学の実践と検証～」を開催
仙台で開催された第3回国連防災世界会議に参加するとともに、岩手大学主催のフォーラムでは、岩手大学がこれまで取り組んできた緊急対応、地域コミュニティの再生、防災教育などに関する実践活動の報告を行った。
- 5月31日 **小泉進次郎復興大臣政務官が岩手大学を訪問**
本学の震災復興に向けた取組を紹介するとともに、復興支援活動を行っている学生や卒業生と意見交換。
- 9月16日 **公開シンポジウム「東日本大震災からの地域と農業の復興」を開催**
農業環境工学関連5学会 2015年合同大会実行委員会との共催。本学の教員などが被災地の農業やコミュニティの復興支援について説明した。
- 10月21日～11月4日 **岩手大学三陸復興推進機構企画展「東日本大震災における岩手大学の復興推進活動～被災地とともに希望の創出～」を開催**
岩手大学三陸復興推進機構の取組についての展示のほか、土日祝日に三陸沿岸企業との産学官連携商品を中心とした物販を行った。また、サイドイベントとして10月24日に「岩手学長と復興推進活動を行っている学生たちとのミーティング」を開催。
- 12月11日 **岩手大学東日本大震災復興支援活動報告会「東京都北区・板橋区を中心とする首都圏の皆様へ感謝を込めて～」を開催**
東日本大震災後に、東京都北区・板橋区の企業・一般市民の方々から「岩手大学被災学生支援の会」を設立し、被災学生へご支援をいただいたことに対して、支援活動の報告を行うとともに感謝の気持ちをお伝えした。



国連世界防災会議に参加(3月14日～18日)



小泉復興大臣政務官とのミーティング(5月31日)



三陸復興推進活動の企画展示(10月21日～11月4日)



支援の会から被災学生の代表者に記念品を贈呈(12月11日)



いわて南部地粉そば記者会見(3月2日)



スターダスト☆レビューへ感謝状贈呈(6月6日)



久慈市街地での泥上げ作業(9月3日)

●平成28年

- 3月2日 **「いわて南部地粉そば」農林水産大臣賞受賞記者会見を開催**
岩手大学と釜石市の企業との共同研究で誕生した「いわて南部地粉そば」が平成27年度優良ふるさと食品中央コンクール・新技術開発部門にて農林水産大臣賞を受賞したことを受け記者会見を開催。「低酸素気流を利用した粉体用連続式殺菌装置」を開発し、そばの生種の風味を保ったまま賞味期限を延ばすことに成功。
- 4月1日 **「三陸復興・地域創生推進機構」を設置**
「三陸復興推進機構」と「地域連携推進機構」を統合し新設。再建途上の三陸復興と人口減少化にある岩手県のまち・ひと・しごと創生を目的に県内自治体と連携し岩手発の新たな地方創生モデルを構築する。
- 5月10日～9月30日 **熊本地震の被災動物支援のためワンにゃん号を貸出**
4月に発生した熊本地震の被害を受け、宮崎大学の要請によりペット専用移動診療車ワンにゃん号を貸出。宮崎大学農学部獣医学科が被災動物支援にあたった。
- 6月6日 **スターダスト☆レビューからの寄附を受け感謝状贈呈**
音楽グループ「スターダスト☆レビュー」が本学の復興推進活動に10,000,000円を寄附。陸前高田市においてフリーライブを開催し、感謝状を贈呈。
- 9月3日～ **台風10号被災地へのボランティア活動**
8月31日に発生した台風10号の被害を受け、学生、教職員が9月3日から久慈市、宮古市、岩泉町に流木撤去や泥上げ作業の支援に入った。(延べ411名が活動)

11月25日 **「三陸復興・地域創生推進機構発足記念シンポジウム」を開催**
「三陸復興・地域創生推進機構」の発足を記念して本田敏明遠野市長、坂本修一文部科学省産業連携・地域支援課長を招いてシンポジウムを開催。

12月 1日 **「ものづくり技術研究センター看板除幕式・特別講演会」を開催**
「ものづくり技術教育研究部門」を担う「ものづくり技術研究センター」の看板除幕式と特別講演会を開催。発足を記念して本田敏明遠野市長、坂本修一文部科学省産業連携・地域支援課長を招いてシンポジウムを開催。

12月11日 **「平成 28 年度三陸復興・地域創生推進機構首都圏報告会」を開催**
東京海洋大学を会場に首都圏に住む方を対象とした報告会を開催。被災地で活動している教員・学生からの活動紹介とともにパネル展示やビデオ上映を通して取組を紹介。

●平成29年

2月11日 **「子どもの心とあゆみを支えるシンポジウム」を開催**
心のケア班において福島・宮城・岩手で行われている子どもへの支援活動を通して、東日本大震災のこれまでとこれからの心の支援を考えるシンポジウムを開催。

6月11日 **「釜石キャンパス看板除幕式及び開設記念フォーラム」を開催**
農学部食料生産環境学科水産システム学コースと大学院総合科学研究科地域創生専攻地域産業コース水産革新プログラムが新設されたことに伴い釜石キャンパスを開設した。それを記念して釜石キャンパス看板除幕式及び開設記念フォーラムを開催。

7月27日 **「アドバイザーボード会議」を開催**
三陸復興・地域創生推進機構の運営に関して、評価・助言をいただく、アドバイザーボード会議を開催。

12月 3日 **「平成 29 年度三陸復興・地域創生推進機構首都圏報告会」を開催**
日比谷図書館コンベンションホールを会場に首都圏に住む方を対象とした報告会を開催。被災地で活動している教員・学生からの活動紹介とともにパネル展示やビデオ上映を通して取組を紹介。

●平成30年

4月 1日 **「NEXTSTEP 工房」を開設**
地域が抱える課題や学生自身が課題と考えている事象について、その解決を図り、地域とともに成長することを目的として NEXTSTEP 工房を創設。

5月18日 **「銀河オープンラボ」の設置及び開所式を開催**
事業化可能性の高い研究シーズを軸に、参画企業と研究開発から実証までを行う拠点として、銀河オープンラボを設置し、それを記念して開所式を開催。

12月 1日 **「岩手大学管弦楽団第 58 回定期演奏会釜石講演」を開催**
釜石市民ホール TETTO を会場に、沿岸部で初となる管弦楽団の定期演奏会を開催。

12月 2日 **「平成 30 年度三陸復興・地域創生推進機構 首都圏報告会」を開催**
日比谷図書館コンベンションホールを会場に首都圏に住む方を対象とした報告会を開催。

12月23日 **「岩手大学吹奏楽部ウインターコンサート in 陸前高田」を開催**
陸前高田市コミュニティホールのシンガポールホールを会場にウインターコンサートを開催。



三陸復興・地域創生推進機構発足記念シンポジウムでのパネルディスカッション (11月 25日)



平成 28 年度三陸復興・地域創生推進機構首都圏報告会 (12月 11日)



第 1 回アドバイザーボード会議の様子 (7月 27日)



NEXT STEP 工房ワークショップの様子 (6月 3日)



岩手大学管弦楽団第 58 回定期演奏会釜石講演 (12月 1日)



岩手大学吹奏楽部ウインターコンサート in 陸前高田 (12月 23日)

① 岩手大学三陸復興・地域創生推進機構規則

(平成 28 年 3 月 24 日制定)

(趣旨)

第 1 条 この規則は、国立大学法人岩手大学学則第 7 条の 3 の規定に基づき、岩手大学三陸復興・地域創生推進機構 (以下「機構」という。) の組織及び運営に関し、必要な事項を定める。

(目的)

第 2 条 機構は、岩手大学の社会貢献目標に基づき、東日本大震災により被災した三陸沿岸地域等の復興を支援し推進するとともに、岩手大学の教育研究成果及び知的資産の地域への普及・還元を図り、地域創生における大学戦略を各部門と連携の上、推進することを目的とする。

(業務)

第 3 条 機構は、前条の目的を遂行するため、次に掲げる業務を行う。

- 一 三陸沿岸地域等の復興支援・推進に関すること。
 - 二 地域創生の企画、推進に関すること。
 - 三 生涯学習機会の提供及び支援に関すること。
 - 四 大学発ベンチャーの創出・育成に関すること。
 - 五 盛岡市産学官連携研究センターに関すること。
 - 六 三陸水産研究を通じた教育研究領域に関すること。
 - 七 平泉文化教育研究領域に関すること。
 - 八 地域防災研究を通じた教育研究領域に関すること。
 - 九 ものづくり技術研究を通じた教育研究領域に関すること。
 - 十 その他第 2 条の目的を達成するために必要な業務に関すること。
- 2 機構の業務を行う際には、他部門と連携・協力を図るものとする。

(部門等)

第 4 条 機構に前条の業務を遂行するため、次に掲げる部門を置く。

- 一 三陸復興部門
 - 二 地域創生部門
 - 三 生涯学習部門
 - 四 三陸水産教育研究部門
 - 五 平泉文化教育研究部門
 - 六 地域防災教育研究部門
 - 七 ものづくり技術教育研究部門
- 2 部門の業務を円滑に遂行するため、部門に班又はそれに相当する組織を置くことができる。
- 3 三陸水産教育研究部門の業務は、三陸水産研究センターが担うものとする。
- 4 平泉文化教育研究部門の業務は、平泉文化研究センターが担うものとする。
- 5 地域防災教育研究部門の業務は、地域防災研究センターが担うものとする。
- 6 ものづくり技術教育研究部門の業務は、ものづくり技術研究センターが担うものとする。

(組織)

第 5 条 機構に、次の職員を置く。

- 一 機構長
- 二 副機構長
- 三 部門長
- 四 専任教員
- 五 特任教員、特任研究員、特任専門職員
- 六 兼務教員
- 七 兼務職員
- 八 その他の職員 (以下「機構職員」という。)

(機構長)

第 6 条 機構長は、機構全般の業務及び運営を統括する。

2 機構長は、復興・地域創生を担当する理事又は副学長をもって充てる。

(副機構長)

第 7 条 機構長が必要と認めるときは、副機構長を置くことができる。

2 副機構長は、機構長の職を補佐する。

3 副機構長は、岩手大学の専任教員のうちから当該教員の所属する学部等の長の同意を得て機構長が推薦し、学長が任命する。

4 副機構長の任期は 2 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の任期は、前任者の残任期間とする。

(部門長等)

第 8 条 部門長は、当該部門の業務を総括整理するとともに、機構長の職務を補佐する。

2 部門長は、岩手大学の専任教員のうちから当該教員の所属する学部等の長の同意を得て機構長が推薦し、学長が任命する。

3 部門長の任期は 2 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の任期は、前任者の残任期間とする。

(副部門長)

第 9 条 機構長が必要と認めるときは、副部門長を置くことができる。

2 副部門長は、部門長の職を補佐する。

3 副部門長は、部門所属の専任教員及び兼務教員のうちから、当該教員の所属する学部等の長の同意を得て機構長が推薦し、学長が任命する。

4 副部門長の任期は 2 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の任期は、前任者の残任期間とする。

(専任教員)

第 10 条 専任教員は、機構の当該部門の業務を処理する。

2 専任教員は、第 19 条に規定する岩手大学三陸復興・地域創生推進機構会議 (以下「機構会議」という。) が候補者を推薦し、機構長の申請に基づき学長が任命する。

(特任教員、特任研究員、特任専門職員)

第 11 条 特任教員、特任研究員、特任専門職員 (以下「特任教員等」という。) は、所属する部門の業務を処理するとともに、他部門の業務について協力し分担する。

- ↑ 特任教員等は、機構会議が候補者を推薦し、学長が任命する。

（兼務教員）

- 第12条 兼務教員は、専任教員と協力し所属する部門の業務を処理するとともに所属学部等との連絡調整に当たるものとする。
- 兼務教員は、機構会議が候補者を推薦し、機構長の申請に基づき学長が任命する。
- 機構長は、前項の申請に当たっては、当該教員の所属する学部等の長の同意を得るものとする。
- 兼務教員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の任期は、前任者の残任期間とする。

（兼務職員）

- 第13条 兼務職員は、所属する部門の業務を処理する。
- 兼務職員は、部門長が候補者を推薦し、学長が任命する。

（客員教授等）

- 第14条 機構に客員教授及び客員准教授（以下「客員教授等」という。）を置くことができる。
- 客員教授等の任期は、1年とする。ただし、再任を妨げない。
- 客員教授等の選考に関し必要な事項は、別に定める。

（客員研究員）

- 第15条 機構に、客員研究員を置くことができる。
- 客員研究員の任期は、1年以内とする。ただし、再任を妨げない。
- 客員研究員の選考に関し必要な事項は、別に定める。

（地域創生推進協力員）

- 第16条 機構に、地域創生等の推進を図るための調査及び企画・調整等の業務に従事する地域創生推進協力員を置くことができる。
- 地域創生推進協力員に関し必要な事項は、別に定める。

（機構職員）

- 第17条 機構職員は、機構の業務に従事する。

（サテライト等）

- 第18条 機構は、第3条に掲げる業務を行うため、現地における活動拠点として各市町村にサテライトを置くことができる。
- 機構は、各市町村等との連絡調整を行うため、各市町村にエクステンションセンターを置くことができる。

（機構会議）

- 第19条 機構に、第3条に掲げる業務に関する事項及び機構の運営に関する事項を審議するため、三陸復興・地域創生推進機構会議を置く。
- 機構会議に関する規則は、別に定める。

（企画マネジメント会議）

- 第20条 機構に、各部門の連絡調整等を行うため、企画マネジメント会議を置く。
- 企画マネジメント会議に関する規則は、別に定める。

（部門会議）

- 第21条 機構の各部門の運営に関する事項を審議するため、部門会議を置く。
- 部門会議に関する規則は、別に定める。

（庶務）

- 第22条 機構の庶務は、関係部局等の協力を得て、地域連携推進部地域創生推進課において処理する。

（雑則）

- 第23条 この規則に定めるもののほか、機構の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- この規則は、平成28年4月1日から施行する。

② 岩手大学三陸復興・地域創生推進機構会議規則

（平成 28 年 3 月 24 日制定）

（趣旨）

- 第1条 この規則は、岩手大学三陸復興・地域創生推進機構規則（以下「規則」という。） 第19条第2項の規定に基づき、岩手大学三陸復興・地域創生推進機構会議（以下「機構会議」という。）に関し、必要な事項を定める。

（審議事項）

- 第2条 機構会議は、規則第3条に規定する岩手大学三陸復興・地域創生推進機構（以下「機構会議」という。）の業務に関する事項を審議するほか、次の各号に掲げる事項を 審議する。
 - 機構の中期目標・中期計画及び年度計画に関すること。
 - 機構の管理・運営の基本方針に関すること。
 - 機構の予算及び決算に関すること。
 - 機構の評価に関すること。
 - 機構の専任教員の人事（懲戒を除く。）に関すること。
 - 機構の特任教員、特任研究員、特任専門職員及び兼務教員候補者の推薦に関すること。
 - 機構の客員教授等に関すること。
 - 機構の専任教員の兼業兼職審査に関すること。
 - 機構の外部資金受入審査に関すること。
 - その他機構の運営に関する重要事項

（組織）

- 第3条 機構会議は、次に掲げる者をもって組織する。
 - 機構長
 - 副機構長（副機構長が置かれている場合に限る。)

- 三 部門長
- 四 専任教員
- 五 各学部の副学部長又は評議員各1名
- 六 地域連携推進部長
- 七 その他機構長が必要と認めた者

（議長）

- 第4条 機構会議に議長を置き、機構長をもって充てる。
- 議長は、機構会議を招集し、議長となる。
- 議長に事故があるときは、議長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

（会議）

- 第5条 機構会議は、委員の3分の2以上の出席をもって成立する。
- 機構会議の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 前項の規定にかかわらず、第2条第5号に掲げる事項については、出席した委員の3分の2以上の賛成をもって決する。

（委員以外の者の出席）

- 第6条 機構会議が必要と認めたときは、委員以外の者を機構会議に出席させ、その意見を聴くことができる。

（専門委員会）

- 第7条 機構会議に、必要に応じて専門委員会を置くことができる。

（庶務）

- 第8条 機構会議の庶務は、地域連携推進部地域創生推進課において処理する。

（雑則）

- 第9条 この規則に定めるもののほか、機構会議に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- この規則は、平成28年4月1日から施行する。
- この規則は、平成28年7月15日から施行し、平成28年4月1日から適用する。

③ 岩手大学三陸復興・地域創生推進機構企画マネジメント会議規則

（平成28年7月15日制定）

（趣旨）

- 第1条 この規則は、岩手大学三陸復興・地域創生推進機構規則（以下 「規則」という。）第20条第2項の規定に基づき、岩手大学三陸復興・地域創生推進機構企画マネジメント会議（以下「マネジメント会議」という。）に関し、必要な事項を定める。

（任務）

- 第2条 マネジメント会議は、三陸復興・地域創生推進機構各部門の連絡調整並びに三陸復興・地域創生推進機構会議の審議事項の原案作成及び議題整理を行う。

（組織）

- 第3条 マネジメント会議は、次に掲げる者をもって組織する。

- 一 機構長
- 二 副機構長
- 三 部門長
- 四 専任教員
- 五 地域連携推進部長
- 六 地域創生推進課長
- 七 地域連携・COC 推進課長
- 八 三陸復興支援課長
- 九 その他機構長が必要と認めた者

（議長）

- 第4条 マネジメント会議に議長を置き、機構長をもって充てる。
- 議長は、機構会議を招集し、議長となる。
- 議長に事故があるときは、議長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

（会議）

- 第5条 マネジメント会議は、委員の3分の2以上の出席をもって成立する。ただし、委員の代理出席を認めるものとする。
- マネジメント会議の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（委員以外の者の出席）

- 第6条 マネジメント会議が必要と認めたときは、委員以外の者をマネジメント会議に出席させ、その意見を聴くことができる。

（庶務）

- 第7条 マネジメント会議の庶務は、地域連携推進部地域創生推進課において処理する。

（雑則）

- 第8条 この規則に定めるもののほか、マネジメント会議に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- この規則は、平成28年7月15日から施行し、平成28年4月1日から適用する。

④ 岩手大学三陸復興・地域創生推進機構地域創生部門会議規則

（平成28年7月15日制定）

（趣旨）

第1条 この規則は、岩手大学三陸復興・地域創生推進機構規則（以下「規則」という。）第21条第2項の規定に基づき、岩手大学三陸復興・地域創生推進機構地域創生部門会議（以下「部門会議」という。）に関し、必要な事項を定める。

（目的）

第2条 部門会議は、岩手大学三陸復興・地域創生推進機構地域創生部門（以下「部門」という。）の業務を円滑に行うため、部門長が必要と認める事項に関する意見交換を行う。

（組織）

第3条 部門会議は、次に掲げる者をもって組織する。

- 部門長
 - 兼務教員
 - 共同研究員
 - その他部門長が必要と認めた者
- 2 部門に規則第9条に定める副部門長を置いた場合は、前項の部門会議の組織構成員とする。

（議長）

第4条 部門会議に議長を置き、部門長をもって充てる。

2 議長は、部門会議を招集し、主宰する。

（組織構成員以外の者の出席）

第5条 部門長が必要と認めたときは、組織構成員以外の者を部門会議に出席させ、その意見を聴くことができる。

（庶務）

第6条 部門会議の庶務は、地域連携推進部地域連携・COC推進課において処理する。

（雑則）

第7条 この規則に定めるもののほか、部門会議に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成28年7月15日から施行し、平成28年4月1日から適用する。

⑤ 岩手大学三陸復興・地域創生推進機構生涯学習部門会議規則

（平成28年7月15日制定）

（趣旨）

第1条 この規則は、岩手大学三陸復興・地域創生推進機構規則（以下「規則」という。）第21条第2項の規定に基づき、岩手大学三陸復興・地域創生推進機構生涯学習部門会議（以下「部門会議」という。）に関し、必要な事項を定める。

（審議事項等）

第2条 部門会議は、次に掲げる事項を審議するとともに、必要に応じて岩手大学三陸復興・地域創生推進機構会議への提言を行う。

- 生涯学習部門に係る中期目標・中期計画及び年度計画に関すること。
- 生涯学習に係る事業計画の策定及び実施に関すること。
- その他生涯学習に関すること。

（組織）

第3条 部門会議は、次に掲げる者をもって組織する。

- 生涯学習部門長
 - 専任教員
 - 特任教員、特任研究員、特任専門職員
 - 本学の教職員のうち、岩手大学三陸復興・地域創生推進機構長（以下「機構長」という。）が指名する者若干名
 - その他生涯学習部門長が必要と認めた者
- 2 前項の機構長が指名する教職員については、当該教職員が所属する部局等の長の同意を得るものとする。
- 3 岩手大学三陸復興・地域創生推進機構生涯学習部門に規則第9条に定める副部門長を置いた場合は、第1項の部門会議の組織構成員とする。

（議長）

第4条 部門会議に議長を置き、生涯学習部門長をもって充てる。

2 議長は、部門会議を招集し、主宰する

3 議長に事故があるときは、議長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。。

（組織構成員以外の者の出席）

第5条 生涯学習部門長が必要と認めたときは、組織構成員以外の者を部門会議に出席させ、その意見を聴くことができる。

（会議）

第6条 部門会議は、委員の過半数の出席をもって成立する。

2 部門会議の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（庶務）

第7条 部門会議の庶務は、地域連携推進部地域連携・COC推進課において処理する。

（雑則）

第8条 この規則に定めるもののほか、部門会議に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成28年7月15日から施行し、平成28年4月1日から適用する。

附 則

この規則は、平成29年10月20日から施行し、平成29年10月1日から適用する。

⑥ 岩手大学三陸復興・地域創生推進機構三陸復興部門会議規則

（平成28年7月15日制定）

（趣旨）

第1条 この規則は、岩手大学三陸復興・地域創生推進機構規則（以下「規則」という。）第21条第2項の規定に基づき、岩手大学三陸復興・地域創生推進機構三陸復興部門会議（以下「部門会議」という。）に関し、必要な事項を定める。

（目的）

第2条 部門会議は、岩手大学三陸復興・地域創生推進機構三陸復興部門（以下「部門」という。）の業務を円滑に行うため、部門長が必要と認める事項に関する意見交換を行う。

（組織）

第3条 部門会議は、次に掲げる者をもって組織する。

- 部門長
 - 規則第4条第2項に定める班の長
 - その他部門長が必要と認めた者
- 2 部門に規則第9条に定める副部門長を置いた場合は、前項の部門会議の組織構成員とする。

（議長）

第4条 部門会議に議長を置き、部門長をもって充てる。

2 議長は、部門会議を招集し、主宰する。

（組織構成員以外の者の出席）

第5条 部門長が必要と認めたときは、組織構成員以外の者を部門会議に出席させ、その意見を聴くことができる。

（庶務）

第6条 部門会議の庶務は、地域連携推進部地域創生推進課において処理する。

（雑則）

第7条 この規則に定めるもののほか、部門会議に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成28年7月15日から施行し、平成28年4月1日から適用する。

⑦ 岩手大学三陸復興・地域創生推進機構企画マネジメント会議ミーティング内規

（平成28年7月15日制定）

（趣旨）

第1条 この内規は、岩手大学三陸復興・地域創生推進機構企画マネジメント会議規則（以下「規則」という。）第8条の規定に基づき、岩手大学三陸復興・地域創生推進機構企画マネジメント会議ミーティング（以下「マネジメント会議ミーティング」という。）に関し、必要な事項を定める。

（任務）

第2条 マネジメント会議ミーティングは、岩手大学三陸復興・地域創生推進機構の各部門の活動を円滑に進めるため、次に掲げる事項の意見交換、情報共有及び部門間調整等を行う。

- 機構の中期目標・中期計画及び年度計画に関すること。
- 機構の管理・運営の基本方針に関すること。
- 機構の予算及び決算に関すること。
- 機構の評価に関すること。
- 機構の専任教員の人事（懲戒を除く。）に関すること。
- 機構の特任教員、特任研究員、特任専門職員及び兼務教員候補者の推薦に関すること。
- 機構の客員教授等に関すること。
- 機構の専任教員の兼業兼職審査に関すること。
- 機構の外部資金受入審査に関すること。
- その他機構の運営に関する重要事項

（組織）

第3条 マネジメント会議ミーティングは、次に掲げる者をもって組織する。

- 機構長
- 副機構長
- 専任教員
- 地域連携推進部長
- 地域創生推進課長
- 地域連携・COC推進課長
- 三陸復興支援課長
- 地域創生推進課員
- 地域連携・COC推進課員
- 三陸復興支援課員
- エクステンションセンターコーディネーター
- その他機構長が必要と認めた者

（議長）

第4条 マネジメント会議ミーティングに議長を置き、機構長をもって充てる。

2 議長は、マネジメント会議ミーティングを招集し、議長となる。

3 議長に事故があるときは、議長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

（会議）

第5条 マネジメント会議ミーティングは、第2条の任務に関し必要な委員の出席をもって成立する。

（庶務）

第6条 マネジメント会議ミーティングの庶務は、地域連携推進部地域創生推進課において処理する。

（雑則）

第7条 この規則に定めるもののほか、マネジメント会議ミーティングに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成28年7月15日から施行し、平成28年4月1日から適用する。

⑧ 平成 30 年度三陸復興・地域創生推進機構構成員

平成 30 年度 岩手大学三陸復興・地域創生推進機構会議構成員名簿

(平成 30 年 7 月)

摘要条項		氏 名	部 局	備 考
第 3 条一	機構長	菅 原 悦 子	理事 (復興・地域創生・男女共同参画担当)・副学長	
第 3 条二	副機構長 (実践領域)	八 代 仁	副学長 (総合科学研究科・COC 担当)	
	副機構長 (教育研究領域)	宇佐美 公 生	教育学部副学部長 / 教授	
第 3 条三	三陸復興部門長	後 藤 尚 人	人文社会科学部教授	
	地域創生部門長	今 井 潤	三陸復興・地域創生推進機構教授	第 3 条四・専任教員
	生涯学習部門長	朴 賢 淑	三陸復興・地域創生推進機構准教授	第 3 条四・専任教員
	ものづくり技術教育研究部門長	長 田 洋	理工学部教授	
	三陸水産教育研究部門長	田 中 教 幸	農学部教授	
	地域防災教育研究部門長	越 谷 信	理工学部教授	
	平泉文化教育研究部門長	宇佐美 公 生	教育学部副学部長 / 教授	
第 3 条四	専任教員	今 井 潤	三陸復興・地域創生推進機構教授	
		朴 賢 淑	三陸復興・地域創生推進機構准教授	
		山 下 晋	三陸復興・地域創生推進機構准教授	
		小 川 薫	三陸復興・地域創生推進機構准教授	
		伊 藤 ひろみ	三陸復興・地域創生推進機構准教授	
第 3 条五	各学部の副学部長又は評議員	宮 本 ともみ	人文社会科学部副学部長 / 教授	
		田 代 高 章	教育学部評議員 / 教授	
		藤 代 博 之	理工学部評議員 / 教授	
		関 野 登	農学部評議員 / 教授	
第 3 条六	地域連携推進部長	早 川 浩 之	地域連携推進部長	
第 3 条七	特任教員	小 山 康 文	三陸復興・地域創生推進機構特任教授	